

2026 年度

ゼミナール案内

問題分析ゼミナール I・II (3 年次)

問題解決ゼミナール I・II (4 年次)

School of Information and Communication



明 治 大 学

情報コミュニケーション学部

ゼミナール紹介

情報コミュニケーション学部のゼミナール教育について

21世紀の人間を取り巻く社会に関わる諸問題は、既存の知識の枠組みだけでは認識も解決も困難です。これからの時代は、問題の所在を認識し、情報を収集・分析し、問題の背景や及ぼす影響を考察し、いくつかのシナリオを想定しながら解決策を立案することが特に重要となります。

情報コミュニケーション学部では、社会科学的な知見を中心としながらも、これまでの学問分野にこだわらず、各分野からの多面的・総合的アプローチによる問題発見・問題解決型の教育を重視しています。このことから、1年次から4年次まで段階的に履修する「ゼミナール科目」を設置しました。

ゼミナール科目は、「基礎ゼミナール」（1年次）、「問題発見テーマ演習A・B」（2年次）、「問題分析ゼミナールI・II」（3年次）、「問題解決ゼミナールI・II」（4年次）があります。認識、立案、実行、評価のプロセスを繰り返しながら、具体的、個別的問題に対する解決能力を養成することや各ゼミナールを通しての少人数双方向授業による人間的触れ合いのある教育を行うことを目標とします。

問題分析ゼミナールI・IIについて

3年次に配当される問題分析ゼミナールI・IIでは、問題発見テーマ演習A・Bにおいて身につけた問題発見力を発揮して、各担当教員の主要担当科目から設定したテーマを学習する中で、現代社会における情報コミュニケーションの意義と機能を踏まえて、問題点のさらに深い理解と洞察力を養うことを目的とします。このゼミナールでは、2年次までに培われた、論文・レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方、ディベートの仕方等に加え、ケーススタディーやフィールドワークなども取り入れ、情報コミュニケーション力を一層磨きつつ、課題解決に向けて有効な問題分析力を養っていきます。

問題解決ゼミナールI・IIについて

4年次に配当される問題解決ゼミナールI・IIでは、問題発見テーマ演習A・B、問題分析ゼミナールI・IIで培われた、現代社会における情報コミュニケーションの意義と機能やその問題点の発見・分析力を基礎にして、各担当教員の主要担当科目から設定したテーマを学習する中で、より学際的・総合的な見地から、社会に対して実際に有効な形で政策提言を行い、また社会に主体的・能動的に参加するための能力を養うことを目的とします。

卒業論文・卒業制作について

4年次に配当される卒業論文・卒業制作では、4年間の学びの成果をアウトプットする機会として、卒業論文や卒業制作を完成させます。どのような成果物を作成するかについては、後述の『「卒業論文・卒業制作に求めること」(学部版)』及び『卒業論文・卒業制作の単位付与基準(ゼミナール別)』をよく確認してください。

情報コミュニケーション学部

2026 年度 問題分析ゼミナール I・II

(3 年次配当科目)

2027 年度 問題解決ゼミナール I・II

(4 年次配当科目)

○問題分析ゼミナール I・II と問題解決ゼミナール I・II は、
3・4 年生の 2 年間継続履修科目 です。

- ・ 問題分析ゼミナール I・II 入室決定までの流れ
- ・ 目次 (担当教員と研究テーマ)
- ・ シラバス (授業内容等)
- ・ 卒業論文・卒業制作単位付与基準

2026年度 問題分析ゼミナール I・II 入室試験について

※ゼミナール試験に関わる案内は、Oh-o! Meijiグループ「2026年度ゼミナール試験」へ公開
またはOh-o! Meijiからお知らせを配信しますので、必ず確認してください
なお、Oh-o! Meijiグループ「2026年度ゼミナール試験」は、秋学期以降確認できます。

1. マイカリキュラムの提出【必須】

日時: 10月10日(金)12:45 ~ 11月6日(木)18:00

提出先: Oh-o! Meijiアンケート機能

2. 総合ガイダンス(教員挨拶、事務説明)〈動画配信〉 ※要確認※

日時: 10月10日(金) 9:00 ~

3. 教員個別ガイダンス

対面ガイダンスやオープンゼミの実施教室は秋学期以降お知らせします。

〈動画配信〉 ※全ゼミ実施

日時: 10月10日(金) 9:00 ~

〈対面ガイダンス/オンラインガイダンス〉 ※実施しないゼミもあります

日時: 10月13日(月) ~ 10月24日(金) いずれも12:35 ~ 13:25

教室等の詳細は、総合ガイダンス公開時にお知らせします。

〈オープンゼミ〉(実際のゼミ活動を公開) ※実施しないゼミもあります

詳細は総合ガイダンス公開時にお知らせします。

4. 受験申込(一次募集)

希望のゼミを決め、Oh-o!Meijiから申込を行います(1人につき1つのゼミ)。

入室希望ゼミ申込期間: 11月1日(土) 9:00 ~ 11月4日(火) 13:30 ※申込期間中は変更可能です。

5. 課題提出

受験申込を行ったゼミへ、Oh-o! Meijiから課題の提出を行います。期間後の提出は一切受け付けません。

提出期間: 11月1日(土) 9:00 ~ 11月6日(木) 18:00

6. 各ゼミ申込者数の発表および試験実施方法の確定

日時: 11月4日(火) 16:00

7. 入室試験(一次募集)

入室試験を実施する場合は、オンライン(Zoom等)または対面にて面接を実施します。

日時: 11月15日(土) 9:00 ~ 16:00

※面接時間等は、11月11日(火)16:00(予定)に発表します。

8. 結果発表

日時: 11月18日(火) 13:00

※一度入室が決定したゼミは変更できません。

ゼミナールが決まらなかった場合(二次募集日程)

二次募集を行うゼミを確認し、Oh-o!Meijiから申込を行います(1人につき1つのゼミ)。

対象のゼミ等詳細は、一次募集の結果発表と同時に公開します。

1. 入室希望ゼミ申込期間 11月21日(金) 9:00 ~ 11月24日(月) 13:30 ※申込期間中は変更可能です。
2. 申込者数発表日 11月24日(月) 16:00
3. 入室試験実施 11月29日(土) 9:00 ~ 16:00
4. 結果発表日 12月2日(火) 13:00

2026年度 問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱ 担当予定教員一覧

教員名	テーマ	シラバス	卒業論文 卒業制作
阿部力也	①論理的にものごとを考え、論理的にそれを説明する力（法的思考力）を身につけること。②犯罪という現象を法律からだけではなく、多角的な視点からとらえ、犯罪がなぜ発生するのか、そして犯罪を予防するにはどのような方策があるのかについて考えること。	7	—
石川幹人	マイノリティの生きやすい社会を考える	9	—
今村哲也	知的財産に関する法的問題の研究	11	98
岩淵輝	生命の探究 一いのちや生き方の問題と日本のあり方について倫理的観点から考える一	13	—
江下雅之	メディアを〈データサイエンスする〉	15	98
小田光康	海外大学のジャーナリズム・メディア教育に関する研究	17	98
川島高峰	地域課題から学ぶ第3期日本と地球規模課題（メガトレンド）	19	99
清原聖子	現代アメリカ研究—多角的な視点から現代アメリカ政治と社会について考える—	21	99
熊田聖	意見の対立している分野を取り上げ、調査し、自分の考えを明確にし、それを他人に説明できるようになりましょう。	23	—
高馬京子	越境するファッション・スタディーズ：メディアにおいて構築/伝達されるファッションとジェンダー表象をめぐる諸問題を考える	25	99
後藤晶	行動経済学・実験経済学から行動社会科学・実験社会科学へ：人間の行動と社会制度を考える	27	100
小林秀行	災害と社会	29	100
齋藤航	現代の法律トラブルと模擬法律相談	31	—
坂本祐太	「ことば」に関する研究：身近な不思議を発見・分析・解決する	33	—
島田剛	コーヒー・チョコレートから見る国際経済とSDGsのあり方 ～グローバルの実践としての神保町コーヒー・プロジェクト	35	—
清水晶紀	各アクターの視点で環境行政の課題を分析し、法政策を提言してみよう	37	100
鈴木健	カルチュラル・スタディーズ入門—現代思想との関連でメディア批評の方法論を学ぶ	39	100
鈴木健人	米国の覇権が揺らぎを見せる中で進んでいる国際秩序の変動を理解し、日本の進むべき方向を考える。 また日本の強みであるソフトパワーについて考え、将来に活かす視点を探る。	41	101
鈴木雅博	学校の社会学	43	101
須田努	異文化コミュニケーション史・社会文化史の研究	45	101
関口裕昭	春学期：メルヒェン研究／秋学期：映画と文学の比較研究	47	101
大黒岳彦	情報社会の〈現在(いま)〉を多角的に掘り下げる	49	101
高橋華生子	「ソフトパワー」と都市再生：カルチャーを用いた開発の理念と実践	51	101
竹崎一真	スポーツ社会学、カルチュラル・スタディーズ	53	—
竹中克久	組織社会学—現代社会を読み解く	55	102
田中洋美	Shifting Boundaries —差異と境界の社会学	57	102
田村理	映像作品の分析を通じて「格差社会」の現実を知り、映像作品の制作・発表を通じて「格差社会」への対策を提案する。	59	—
塚原康博	現代社会と情報コミュニケーション—問題分析編—	61	—
ドウティモシー	英語の語用論、第二言語習得	63	—

教員名	テーマ	シラバス	卒業論文 卒業制作
内藤まりこ	言語表現を読み解く技法：理論と実践	65	102
中川雄大	都市と空間の社会学	67	102
中里裕美	社会ネットワーク〈つながり〉の研究	69	102
根橋玲子	異文化間コミュニケーションと多文化共生	71	102
波照間永子	身体表現とコミュニケーション－社会におけるアートの役割・問題を検討する－	73	103
日置貴之	芸術・文化を考える	75	103
蛭川立	人類学と意識研究	77	—
増野亜子	音楽コミュニケーション研究－音・人・社会のかかわりを考える	79	103
宮田泰	紛争解決システム論	81	—
宮本真也	現代社会と社会理論	83	104
山内勇	イノベーションの経済学	85	104
山口生史	組織コミュニケーションと組織行動学の調査・研究	87	—
山崎浩二	ソフトウェア開発とアルゴリズム	89	—
横田貴之	比較政治学と国際関係論から世界を読む	91	104
脇本竜太郎	社会心理学：数量的アプローチ	93	104
和田悟	アジアに目を向け情報社会と情報技術について考える	95	—

問題分析ゼミナールⅠ		阿部 力也
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
<p>◆ 研究テーマ</p> <p>①論理的にものごとを考え、論理的にそれを説明する力(法的思考力)を身につけること。②犯罪という現象を法律からだけではなく、多角的な視点からとらえ、犯罪がなぜ発生するのか、そして犯罪を予防するにはどのような方策があるのかについて考えること。</p>		
<p>1. 授業の概要・到達目標</p> <p>情報コミュニケーション学部には、いくつかの法律科目が設置されています。学際系(学域横断型)学部の特徴の1つといえるでしょう。この問題分析ゼミナールでは、まず学際系学部で「法律」を学ぶ意義を確認したいと思います。古い格言のなかに「おおよそ社会あるところに法あり」というのがあります。この格言が正しいとすれば、反射的に「無人島に一人流された人には法は不要である」という考え方ができます。この格言(古人の知恵)に盛り込まれた意味をまず考えたいと思います(社会の定義、法の役割の確認)。そのうえで、①なぜ人は犯罪を行うのでしょうか(犯罪心理学的アプローチ)、②なぜ人は犯罪を行うと処罰されるのでしょうか(刑罰の意義)、③なぜ特定の行為(殺す行為、盗む行為、騙す行為など)を法律で許されない行為として指摘できるのでしょうか(その種類について、善悪・モラルの問題と関係するものか)、④人には犯罪を行う自由もあると仮定した場合(自由の範囲と限界を考えよう)、なぜそれを規制できるのでしょうか。4つの「なぜ」にテーマを絞って考えてみたいと思います。殺人罪であれば、「人を殺した者は、死刑、無期または5年以上の有期の懲役刑に処せら」れます。この規定がすべてです。これは「刑法」という法律で規定されています(第199条)。いいかえると、この規定を根拠に人を殺すことが禁止されているといえます。ではなぜ禁止されているのでしょうか。どのような行為が「殺人」とされるのでしょうか(殴り殺す場合と刃物で人を刺す場合に違いはあるのでしょうか)。なぜ「死刑」という「刑罰」を科すことが許されるのでしょうか(殺人は禁止されているのに死刑は禁止されないのでしょうか)。ざっくりとしていますが、上記のように設定されたテーマを考えてみてください(もっともどの1つをとっても大きなテーマです)。まさに刑法という法律を勉強するということは、現代における「犯罪と法」のあり方について考えることにほかならないと思うのです。現代(いま)の目線で犯罪と法を考えるということは、法学部のように法律を学ぶのと違い、さまざまな事象の捉え方を学ぶことができる「情コミ」ならではのフレームだと思っています(情コミ学の意義)。いろいろな視点(切り口)に基づき社会事象の1つとしての犯罪を考えることから(情コミ学の重要性)、法律に関心をもってもらうことがこのゼミナールの到達目標ということになります。</p>		
<p>2. 授業内容</p> <p>第1回 イントロダクション(1)「おおよそ社会あるところに法あり」について 第2回 イントロダクション(2)「本当に無人島だと法は不要なのか」について 第3回 「人はなぜ犯罪を行うのだろうか」(1)～犯罪人類学的アプローチ 第4回 「人はなぜ犯罪を行うのだろうか」(2)～犯罪社会学的アプローチ 第5回 「人はなぜ犯罪を行うのだろうか」(3)～犯罪心理学的アプローチ 第6回 「人はなぜ犯罪を行うのだろうか」(4)～犯罪の動機(故意と過失)① 第7回 「人はなぜ犯罪を行うのだろうか」(5)～犯罪の動機(故意と過失)② 第8回 「刑罰はなぜ正当化されるのだろうか」(1)～死刑について① 第9回 「刑罰はなぜ正当化されるのだろうか」(2)～死刑について② 第10回 「刑罰はなぜ正当化されるのだろうか」(3)～無期・有期懲役刑について 第11回 「刑罰はなぜ正当化されるのだろうか」(4)～刑務所システムについて 第12回 「刑罰はなぜ正当化されるのだろうか」(5)～その他の犯罪者処遇について 第13回 関心領域を広げよう！～映像作品から刑事裁判を考える 第14回 春学期のまとめ～ふたたび「おおよそ社会あるところに法あり」について</p>		
<p>3. 履修上の注意</p> <p>講義科目である「犯罪と法」および「現代型犯罪と刑法」を履修することを希望します。</p>		
<p>4. 準備学習(予習・復習等)の内容</p> <p>受講生のみなさんには各課題を分担してもらい(人数によってはチーム編成にします)、毎回のテーマについて報告してもらう予定です。もちろんその回に当たらなかったみなさんも、簡単な予習はしてください。各回、一回は発言すること！を目標にしてください。</p>		
<p>5. 教科書</p> <p>阿部力也『刑法総論講義案』『刑法各論講義案』(ともに成文堂)、その他、必要に応じて判例・資料等はわたくしが用意し配布する予定です。</p>		
<p>6. 参考書</p> <p>イントロダクションの回に必要な参考書を指示します。また毎回の授業に際しても必要に応じて必要な参考書・文献を指示する予定です。</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法</p> <p>毎回ではありませんがレポートを課した場合には、そのレポートにはかならず目をとおりコメントを付けて返却する予定です。対面授業が基本となりますからフィードバックは毎回の授業において行うこととなります。</p>		
<p>8. 成績評価の方法</p> <p>基本的には、出席を含む授業への貢献度70%、レポート30%(レポートは毎回の提出ではありません)とします。</p>		
<p>9. その他</p>		

問題分析ゼミナールⅡ		阿部 力也
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
<p>◆ 研究テーマ</p> <p>①論理的にものごとを考え、論理的にそれを説明する力(法的思考力)を身につけること。②犯罪という現象を法律からだけではなく、多角的な視点からとらえ、犯罪がなぜ発生するのか、そして犯罪を予防するにはどのような方策があるのかについて考えること。</p>		
<p>1. 授業の概要・到達目標</p> <p>問題分析ゼミナールⅡはⅠが前提となっていますので、到達目標はⅠに記載したとおりですが、Ⅱ(秋学期)で実際に検討することをまとめておきましょう。まずは情報コミュニケーション学部において、「法律」を学ぶ意義を確認しましょう。そのことを前提として、学際系・学域横断型の学部における「学び」の意義、方法論をあらためて確認したいと思います。そして、このゼミナールでは「犯罪と法」について考えること。とくに「情コミ目録」から犯罪とそれを規制する法律に横たわるさまざまな問題を考えることがテーマということになります。Ⅱではとくに、Ⅰに続いて③なぜ一定の行為が法律で許されない行為として指摘されるのでしょうか(その種類について、善悪・モラルの問題と関係するものか)、④人には犯罪を行う自由もあると仮定した場合(自由の範囲と限界を考えよう)、なぜそれを規制できるのでしょうか。これらにテーマを絞って考えてみたいと思います。善悪の問題ははたして明瞭に線を引き出すことはできるのでしょうか。モラルに反することは法律に違反すること。これは正しい理解といえますか。あるいは「悪法もまた法である」という格言があります。法であるかぎり悪法であってもそれに従う義務が存在するのでしょうか。それとも悪法には従わなくてもよいのでしょうか。悪法に対する抵抗は国民・市民として可能なのでしょうか。そもそも何をもって悪法と定めることができるのでしょうか。Ⅱのテーマもどれも大きくて重いテーマです。しかし、わたくしたちがどこかで考えなければならないテーマだと思うのです。社会は複雑化しています。複雑化する社会を「法というルール」で調整し、場合により規制していくというシステムの存在に対して無関心ではいられないし、またいるべきでないと思うのです。現代(いま)の目線で法律を考えるということは、さまざまな事象の捉え方を学ぶことができる「情コミ」ならではのフレームだと思っています。いろいろな切り口から社会事象(犯罪もその1つ)を考えることが「情報コミュニケーション学」の意義であり、その重要性に注目していくきっかけをつかむことが、Ⅰとつながるこのゼミナールの到達目標です。</p>		
<p>2. 授業内容</p> <p>第1回 イントロダクション(1)～ゼミナールⅠで学んだこと 第2回 イントロダクション(2)～ゼミナールⅡのテーマの確認 第3回 「許されない行為とは何か」(1)～法律に違反すること 第4回 「許されない行為とは何か」(2)～善悪の区別はどこまで明確か 第5回 「許されない行為とは何か」(3)～モラルに反する=法律違反なのか? 第6回 「現代社会における自由とは何か」(1)～人には犯罪を行う自由はあるのか? 第7回 「現代社会における自由とは何か」(2)～自由はどこまで規制できるのか? 第8回 「悪法もまた法」という格言について(1)～この言葉の意義について 第9回 「悪法もまた法」という格言について(2)～この言葉は正しいのか? 第10回 「悪法もまた法」という格言について(3)～悪法に対して抵抗は可能か? 第11回 「悪法もまた法」という格言について(4)～死刑の存在は悪なのか? 第12回 「法治国家」のあり方～放置国家ではなぜいけないのか? 第13回 関心領域を広げよう！～死刑に関する映像作品について 第14回 秋学期のまとめ～法治国家VS放置国家、自由と不自由、規制と抑圧について</p>		
<p>3. 履修上の注意</p> <p>講義科目である「犯罪と法」および「現代型犯罪と刑法」を履修することを希望します。</p>		
<p>4. 準備学習(予習・復習等)の内容</p> <p>受講生のみなさんには各課題を分担してもらい(人数によってはチーム編成にします)、毎回のテーマについて報告してもらう予定です。もちろんその回に当たらなかったみなさんも、簡単な予習はしてください。各回、一回は発言すること！を目標にしてください。</p>		
<p>5. 教科書</p> <p>阿部力也『刑法総論講義案』『刑法各論講義案』(ともに成文堂)、その他、必要に応じて判例・資料等はわたくしが用意し配布する予定です。</p>		
<p>6. 参考書</p> <p>イントロダクションの回に必要な参考書を指示します。また毎回の授業に際しても必要に応じて必要な参考書・文献を指示する予定です。</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法</p> <p>毎回ではありませんがレポートを課した場合には、そのレポートにはかならず目をとおりコメントを付けて返却する予定です。対面授業が基本となりますからフィードバックは毎回の授業において行うこととなります。</p>		
<p>8. 成績評価の方法</p> <p>基本的には、出席を含む授業への貢献度70%、レポート30%(レポートは毎回の提出ではありません)とします。</p>		
<p>9. その他</p>		

問題解決ゼミナールⅠ		阿部 力也
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ ①論理的にものごとを考え、論理的にそれを説明する力(法的思考力)を身につけること。②犯罪という現象を法律からだけでなく、多角的な視点からとらえ、犯罪がなぜ発生するのか、そして犯罪を予防するにはどのような方策があるのかについて考えること。		
1. 授業の概要・到達目標 問題解決ゼミナールでは、問題分析ゼミナールで扱った(なぜを中心に設定した)テーマをさらには発展させ、①現代社会における法(規制)のあり方について考える(規制しすぎると不自由、規制しないと治安の悪化)、②わたくしたちはほんとうに法治国家で生活しているといえるのかを考える(その実感はありますか)、③裁判所の役割について考える(判決はつねに正しいのか)、④裁判への国民・市民の参加という形態は民主主義に合っているのか考える(そもそも民主主義の意義について考える、法治国家=民主主義国家なのか考える)、以上の4つのテーマに絞って、とくに問題解決ゼミナールでは「考える」ことを主眼に置くテーマを選び、「なぜ」のままにするのではなく、それに回答を与え、そこからさらに主体的に考え、回答から提言(一歩先を見すえた議論を展開)する形式にこだわりたいと思います。もちろん「一歩前、その先」を考えるためには、いろいろ調べてもらい(自習の範囲の拡大)、ゼミナールに参加されるみなさんの一人一人の考え方を大事にしなが、4つのテーマを深化させることが重要となります。それは、たんに法律の学習にとどまりません。ある種の思考の枠組みを身につけ、実践的な課題が与えられたとき、つねに(焦らず)一定の(状況に応じた適切な)回答を導くことを可能にする能力を身につけることとなります。それがこの学部で学ぶ意義であり、このゼミナールにおける到達目標でもあります。情報コミュニケーション学という学問体系が存在するとなれば、そのような主体的な学びをつうじてのみ、それを実感できるのではないのでしょうか。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション(1)～問題分析ゼミナールと問題解決ゼミナールの架橋 第2回 イントロダクション(2)～「なぜ」から「考える」テーマへの変容 第3回 「治安は悪化しているのか」(1)～犯罪発生率、検挙率から考える 第4回 「治安は悪化しているのか」(2)～治安の維持は法規制で十分なのか考える 第5回 「治安は悪化しているのか」(3)～法規制と自由・不自由について考える 第6回 「治安は悪化しているのか」(4)～現代型犯罪とその規制について考える① 第7回 「治安は悪化しているのか」(5)～現代型犯罪とその規制について考える② 第8回 「法治国家で生活するということ」(1)～その実例について考える 第9回 「法治国家で生活するということ」(2)～法治国家の是非について考える 第10回 「法治国家で生活するということ」(3)～社会契約説について考える 第11回 「法治国家で生活するということ」(4)～国家不要論は成り立つか考える 第12回 「法治国家で生活するということ」(5)～自殺をする自由について考える 第13回 関心領域を広げよう!～ルソー、ホブズ、カント、ヘーゲル、って何者? 第14回 春学期のまとめ～ふたたび放置国家が自由のあり方なのか議論してみよう。		
3. 履修上の注意 講義科目である「犯罪と法」および「現代型犯罪と刑法」を履修することを希望します。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 受講生のみなさんには各課題を分担してもらい(人数によってはチーム編成にします)、毎回のテーマについて報告してもらおう予定です。もちろんその回に当たらなかったみなさんも、簡単な予習はしてください。各回、一回は発言すること!を目標にしてください。		
5. 教科書 阿部力也『刑法総論講義案』『刑法各論講義案』(ともに成文堂)、その他、必要に応じて判例・資料等はわたくしが用意し配布する予定です。		
6. 参考書 イントロダクションの回に必要な参考書を指示します。また毎回の授業に際しても必要に応じて必要な参考書・文献を指示する予定です。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回ではありませんがレポートを課した場合には、そのレポートにはかならず目とおしコメントを付けて返却する予定です。対面授業が基本となりますからフィードバックは毎回の授業において行うこととなります。		
8. 成績評価の方法 基本的には、出席を含む授業への貢献度70%、レポート30%(レポートは毎回の提出ではありません)とします。		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅡ		阿部 力也
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ ①論理的にものごとを考え、論理的にそれを説明する力(法的思考力)を身につけること。②犯罪という現象を法律からだけでなく、多角的な視点からとらえ、犯罪がなぜ発生するのか、そして犯罪を予防するにはどのような方策があるのかについて考えること。		
1. 授業の概要・到達目標 問題解決ゼミナールⅡでは、ゼミナールⅠからの継続として積み残したテーマについて考えていきます。とくに③裁判所の役割について考える(判決はつねに正しいのか)、④裁判への国民・市民の参加という形態は民主主義に合っているのか考える(そもそも民主主義の意義について考える、法治国家=民主主義国家なのか考える)、以上の2つのテーマに絞って、とくに「考えること」に主眼を置きたいと考えます。主体的に考えることから提言へ(一歩先を見すえた議論を展開)、この形式にこだわりたいと思います。「一歩前、その先」を考えるためには、ゼミナールⅠと同様にいろいろ調べて、テーマを深掘りし、ゼミナールに参加してください。そこで示されたみなさんの一人一人の考え方を大事にしなが、テーマを深化させていくことが重要です。ふたたびⅡにおいても繰り返します。このゼミナールでの学びはたんなる法律の学習ではありません。ある種の思考の枠組みを身につけ、実践的な課題が与えられたとき、つねに(焦らず)一定の(状況に応じた適切な)回答を導くことを可能にする能力を身につけることに主眼が置かれます。それがこの学部で学ぶ意義ではないかと考えることから、問題分析から問題発見へ、ゼミナールにおける段階的な学びをつうじて「情報コミュニケーション学」という学問体系が存在を確信していただくこと。それがこのゼミナールの究極の目標ということになると考えます。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション(1)～問題解決ゼミナールのⅠからⅡへの架橋 第2回 イントロダクション(2)～Ⅱにおけるテーマ設定の意義 第3回 「刑事裁判の流れ」(1)～刑事裁判と民事裁判の違いについて考える 第4回 「刑事裁判の流れ」(2)～捜査と逮捕について考える① 第5回 「刑事裁判の流れ」(3)～捜査と逮捕について考える② 第6回 「刑事裁判の流れ」(4)～犯罪報道について考える 第7回 「刑事裁判の流れ」(5)～検察と警察の違いについて①～起訴すること 第8回 「刑事裁判の流れ」(6)～検察と警察の違いについて②～起訴しないこと 第9回 「刑事裁判の流れ」(7)～判決の重みについて考える①～第1審について 第10回 「刑事裁判の流れ」(8)～判決の重みについて考える②～控訴・上告について 第11回 「裁判員裁判という制度」(1)～裁判員制度と陪審員制度について考える 第12回 「裁判員裁判という制度」(2)～裁判員制度の是非について考える 第13回 関心領域を広げよう!～映像作品に描かれた刑事裁判 第14回 秋学期のまとめ～問題を分析すること、問題を解決すること、架橋とその先へ!		
3. 履修上の注意 講義科目である「犯罪と法」および「現代型犯罪と刑法」を履修することを希望します。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 受講生のみなさんには各課題を分担してもらい(人数によってはチーム編成にします)、毎回のテーマについて報告してもらおう予定です。もちろんその回に当たらなかったみなさんも、簡単な予習はしてください。各回、一回は発言すること!を目標にしてください。		
5. 教科書 阿部力也『刑法総論講義案』『刑法各論講義案』(ともに成文堂)、その他、必要に応じて判例・資料等はわたくしが用意し配布する予定です。		
6. 参考書 イントロダクションの回に必要な参考書を指示します。また毎回の授業に際しても必要に応じて必要な参考書・文献を指示する予定です。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回ではありませんがレポートを課した場合には、そのレポートにはかならず目とおしコメントを付けて返却する予定です。対面授業が基本となりますからフィードバックは毎回の授業において行うこととなります。		
8. 成績評価の方法 基本的には、出席を含む授業への貢献度70%、レポート30%(レポートは毎回の提出ではありません)とします。		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅠ		石川 幹人
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ マイノリティの生きにくさ問題を考える		
1. 授業の概要・到達目標 【授業概要】誰しもが、平均的な多数の人々と異なるマイノリティの側面をいくつか持っている。本ゼミナールでは、そうしたマイノリティの側面に“生きにくさ”を感じている学生に対して、個々に問題分析の方法を指導する。マイノリティの側面の具体例には、HSP、ADHD、自閉スペクトラム、サイコパス、うつ傾向などの心理的側面、外見的差異、吃音、色覚異常、アレルギーなどの身体的側面があげられるが、これらに限らず問題を抱えている学生を広く歓迎する。3年次では、学生同士で問題の相互認識を図り、先行研究をもとにしながら、問題の背景分析を深めていく。 【到達目標】3年次では、問題の背景分析を手がかりに“生きにくさ”の構造を解明する。そして、問題への個人的な対処法をいくつか見出ししていく。それを通じて、学術的な研究が、個人的な問題の実用的な解決へと至る重要な手段になることを身をもって体験する。		
2. 授業内容 第1回 インTRODクシヨシ 第2回 マイノリティの側面の議論 (1) 第3回 マイノリティの側面の議論 (2) 第4回 マイノリティの側面の議論 (3) 第5回 マイノリティの側面の議論 (4) 第6回 関連先行研究の調査発表 (1) 第7回 関連先行研究の調査発表 (2) 第8回 関連先行研究の調査発表 (3) 第9回 関連先行研究の調査発表 (4) 第10回 調査にもとづく報告執筆 (1) 第11回 調査にもとづく報告執筆 (2) 第12回 調査にもとづく報告執筆 (3) 第13回 調査にもとづく報告執筆 (4) 第14回 夏休みの研究計画		
3. 履修上の注意 本ゼミナールでは、学生が抱える「マイノリティの側面」を研究の対象にして、相互に議論したり意見交換したりするので、秘密にしておきたい「マイノリティの側面」は、研究テーマにならない。オープンにしてもよい「マイノリティの側面」であることが必要なので、この点に注意すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 研究テーマに関する資料収集、調査分析などはゼミ時間以外に取り組む必要がある。		
5. 教科書 研究テーマに応じて授業中に指定する。		
6. 参考書 平野啓一郎『私とは何か～「個人」から「分人」へ』講談社現代新書 (2012) 石川幹人『だからフェイクにだまされる～進化心理学から読み解く』ちくま書房 (2022)		
7. 課題に対するフィードバックの方法 全般的なフィードバックは授業時間中に、個別のフィードバックはクラスウェブを使って行う。		
8. 成績評価の方法 ゼミへの参加度合いや発表内容50%、提出されたレポート内容50%		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅡ		石川 幹人
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ マイノリティの生きにくさ問題を考える		
1. 授業の概要・到達目標 【授業概要】誰しもが、平均的な多数の人々と異なるマイノリティの側面をいくつか持っている。本ゼミナールでは、そうしたマイノリティの側面に“生きにくさ”を感じている学生に対して、個々に問題分析の方法を指導する。マイノリティの側面の具体例には、HSP、ADHD、自閉スペクトラム、サイコパス、うつ傾向などの心理的側面、外見的差異、吃音、色覚異常、アレルギーなどの身体的側面があげられるが、これらに限らず問題を抱えている学生を広く歓迎する。3年次では、学生同士で問題の相互認識を図り、先行研究をもとにしながら、問題の背景分析を深めていく。 【到達目標】3年次では、問題の背景分析を手がかりに“生きにくさ”の構造を解明する。そして、問題への個人的な対処法をいくつか見出ししていく。それを通じて、学術的な研究が、個人的な問題の実用的な解決へと至る重要な手段になることを身をもって体験する。		
2. 授業内容 第1回 研究成果発表および討論 (1) 第2回 研究成果発表および討論 (2) 第3回 研究成果発表および討論 (3) 第4回 研究成果発表および討論 (4) 第5回 心理学的観点からの分析 (1) 第6回 心理学的観点からの分析 (2) 第7回 心理学的観点からの分析 (3) 第8回 心理学的観点からの分析 (4) 第9回 心理学的観点からの分析 (5) 第10回 分析にもとづく報告執筆 (1) 第11回 分析にもとづく報告執筆 (2) 第12回 分析にもとづく報告執筆 (3) 第13回 分析にもとづく報告執筆 (4) 第14回 春休みの研究計画		
3. 履修上の注意 本ゼミナールでは、学生が抱える「マイノリティの側面」を研究の対象にして、相互に議論したり意見交換したりするので、秘密にしておきたい「マイノリティの側面」は、研究テーマにならない。オープンにしてもよい「マイノリティの側面」であることが必要なので、この点に注意すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 研究テーマに関する資料収集、調査分析などはゼミ時間以外に取り組む必要がある。		
5. 教科書 研究テーマに応じて授業中に指定する。		
6. 参考書 平野啓一郎『私とは何か～「個人」から「分人」へ』講談社現代新書 (2012) 石川幹人『だからフェイクにだまされる～進化心理学から読み解く』ちくま書房 (2022)		
7. 課題に対するフィードバックの方法 全般的なフィードバックは授業時間中に、個別のフィードバックはクラスウェブを使って行う。		
8. 成績評価の方法 ゼミへの参加度合いや発表内容50%、提出されたレポート内容50%		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅠ		石川 幹人
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ マイノリティの生きやすい社会を考える		
1. 授業の概要・到達目標 【授業概要】誰しもが、平均的な多数の人々と異なるマイノリティの側面をいくつか持っている。本ゼミナールでは、そうしたマイノリティの側面に“生きにくさ”を感じている学生に対して、社会的な問題解決の考察方法を指導する。4年次では、それまで明らかになった問題背景をもとにしながら、問題が発生しない社会はどのようにあるべきかを考える。また、多様性をはぐくむ理想的な社会を形成する手段についても展望する。 【到達目標】4年次では、問題にまつわる社会や文化の現状を再認識したうえで、“生きにくさ”問題への社会的な対処法を、とくに高度情報社会の特徴をふまえながらいくつか見出していく。それを通じて、学際的な研究が、社会福祉の向上や文明の発展へと至る重要な手段になることを身をもって体験する。結果として、学問の意義や面白さを自覚し、様々な分野の研究をみずから多角的に志す意欲をもった学生として卒業を迎える、そうしたことを目標としている。		
2. 授業内容 第1回 研究成果発表および討論 (1) 第2回 研究成果発表および討論 (2) 第3回 研究成果発表および討論 (3) 第4回 研究成果発表および討論 (4) 第5回 社会科学的観点からの分析 (1) 第6回 社会科学的観点からの分析 (2) 第7回 社会科学的観点からの分析 (3) 第8回 社会科学的観点からの分析 (4) 第9回 社会科学的観点からの分析 (5) 第10回 分析にもとづく報告執筆 (1) 第11回 分析にもとづく報告執筆 (2) 第12回 分析にもとづく報告執筆 (3) 第13回 分析にもとづく報告執筆 (4) 第14回 夏休みの研究計画		
3. 履修上の注意 卒業論文単位化の対象ゼミナールではない。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 研究テーマに関する分析や考察は、ゼミ時間以外に鋭意取り組む必要がある。		
5. 教科書 研究テーマに応じて授業中に指定する。		
6. 参考書 シナン・アラル（夏目大訳）『デマの影響力～なぜデマは真実より速く、広く、力強く伝わるのか？』ダイヤモンド社（2022）〔原著Hype Machine 2020〕		
7. 課題に対するフィードバックの方法 全般的なフィードバックは授業時間中に、個別のフィードバックはクラスウェブを使って行う。		
8. 成績評価の方法 ゼミへの参加度合いや発表内容50%、提出されたレポート内容50%		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅡ		石川 幹人
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ マイノリティの生きやすい社会を考える		
1. 授業の概要・到達目標 【授業概要】誰しもが、平均的な多数の人々と異なるマイノリティの側面をいくつか持っている。本ゼミナールでは、そうしたマイノリティの側面に“生きにくさ”を感じている学生に対して、社会的な問題解決の考察方法を指導する。4年次では、それまで明らかになった問題背景をもとにしながら、問題が発生しない社会はどのようにあるべきかを考える。また、多様性をはぐくむ理想的な社会を形成する手段についても展望する。 【到達目標】4年次では、問題にまつわる社会や文化の現状を再認識したうえで、“生きにくさ”問題への社会的な対処法を、とくに高度情報社会の特徴をふまえながらいくつか見出していく。それを通じて、学際的な研究が、社会福祉の向上や文明の発展へと至る重要な手段になることを身をもって体験する。結果として、学問の意義や面白さを自覚し、様々な分野の研究をみずから多角的に志す意欲をもった学生として卒業を迎える、そうしたことを目標としている。		
2. 授業内容 第1回 研究成果発表および討論 (1) 第2回 研究成果発表および討論 (2) 第3回 研究成果発表および討論 (3) 第4回 研究成果発表および討論 (4) 第5回 情報メディアの視点からの統合化 (1) 第6回 情報メディアの視点からの統合化 (2) 第7回 情報メディアの視点からの統合化 (3) 第8回 情報メディアの視点からの統合化 (4) 第9回 情報メディアの視点からの統合化 (5) 第10回 考察にもとづく報告執筆 (1) 第11回 考察にもとづく報告執筆 (2) 第12回 考察にもとづく報告執筆 (3) 第13回 考察にもとづく報告執筆 (4) 第14回 卒業に向けて		
3. 履修上の注意 卒業論文単位化の対象ゼミナールではない。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 研究テーマに関する分析や考察は、ゼミ時間以外に鋭意取り組む必要がある。		
5. 教科書 研究テーマに応じて授業中に指定する。		
6. 参考書 シナン・アラル（夏目大訳）『デマの影響力～なぜデマは真実より速く、広く、力強く伝わるのか？』ダイヤモンド社（2022）〔原著Hype Machine 2020〕		
7. 課題に対するフィードバックの方法 全般的なフィードバックは授業時間中に、個別のフィードバックはクラスウェブを使って行う。		
8. 成績評価の方法 ゼミへの参加度合いや発表内容50%、提出されたレポート内容50%		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅠ		今村 哲也
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 知的財産に関する法的問題の研究		
1. 授業の概要・到達目標 (1) 授業の概要： 本ゼミでは、知的財産に関する問題点と魅力を、皆さんと一緒に考え、学びます。演習形式で進められるこの授業では、①学生が自ら選んだトピックについて、深く調査し、報告した上で、②その内容について一般人にもわかりやすく伝える作品を制作し、発表しています。発表に対しては、教員と他の受講生からのフィードバックも活発に行われ、互いの学びを深めていきます。 (2) 到達目標： 知的財産法の専門知識を身につけるだけでなく、それに関わる複雑な問題を自らの言葉で分析・表現する能力を養います。さらに、多様な意見の中から新しい視点や考え方を発見し、それを自らのものとする力も身につけることができます。単に学ぶだけでなく、自分の作品として、これまでの学びを結集し、あなたの考えをしっかりと形にしてみましょう。		
2. 授業内容 第1回 イン트로ダクション 授業の進め方について 第2回 報告・ディスカッション1 第3回 報告・ディスカッション2 第4回 報告・ディスカッション3 第5回 報告・ディスカッション4 第6回 報告・ディスカッション5 第7回 報告・ディスカッション6 第8回 報告・ディスカッション7 第9回 報告・ディスカッション8 第10回 報告・ディスカッション9 第11回 報告・ディスカッション10 第12回 報告・ディスカッション11 第13回 報告・ディスカッション12 第14回 振り返り		
3. 履修上の注意 調査・報告に必要な学外でのフィールドワークを行うことがあります。授業の欠席は自分の学びの機会を失うだけでなく、クラス全体の進行にも影響を与えます。合理的な理由がなく3回を超えて欠席した場合、単位を付与することができないだけでなく、以後の授業の出席を認めません。やむを得ず欠席する場合、必ず事前または事後にご相談ください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 報告準備と、他者の報告に対して、constructive なコメントやフィードバックを用意しておいてください。ゼミの人数や進行に応じて、報告の機会が増える場合があります。		
5. 教科書 特に指定しない。		
6. 参考書 特に指定しない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出された作品に対して、具体的なフィードバックを提供します。受け取った添削内容を参考に、さらなる改善を目指してください。		
8. 成績評価の方法 授業への参加度40点、報告点（報告資料、プレゼン内容）30点、作品30点の合計100点で評価。ただし、理由なく3回欠席した場合、単位を付与しない。		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅡ		今村 哲也
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 知的財産に関する法的問題の研究		
1. 授業の概要・到達目標 (1) 授業の概要： 本ゼミでは、知的財産に関する問題点と魅力を、皆さんと一緒に考え、学びます。演習形式で進められるこの授業では、①学生が自ら選んだトピックについて、深く調査し、報告した上で、②その内容について一般人にもわかりやすく伝える作品を制作し、発表しています。発表に対しては、教員と他の受講生からのフィードバックも活発に行われ、互いの学びを深めていきます。 (2) 到達目標： 知的財産法の専門知識を身につけるだけでなく、それに関わる複雑な問題を自らの言葉で分析・表現する能力を養います。さらに、多様な意見の中から新しい視点や考え方を発見し、それを自らのものとする力も身につけることができます。単に学ぶだけでなく、自分の作品として、これまでの学びを結集し、あなたの考えをしっかりと形にしてみましょう。		
2. 授業内容 第1回 イン트로ダクション 授業の進め方について 第2回 報告・ディスカッション1 第3回 報告・ディスカッション2 第4回 報告・ディスカッション3 第5回 報告・ディスカッション4 第6回 報告・ディスカッション5 第7回 報告・ディスカッション6 第8回 報告・ディスカッション7 第9回 報告・ディスカッション8 第10回 報告・ディスカッション9 第11回 報告・ディスカッション10 第12回 報告・ディスカッション11 第13回 報告・ディスカッション12 第14回 振り返り		
3. 履修上の注意 調査・報告に必要な学外でのフィールドワークを行うことがあります。授業の欠席は自分の学びの機会を失うだけでなく、クラス全体の進行にも影響を与えます。合理的な理由がなく3回を超えて欠席した場合、単位を付与することができないだけでなく、以後の授業の出席を認めません。やむを得ず欠席する場合、必ず事前または事後にご相談ください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 報告準備と、他者の報告に対して、constructive なコメントやフィードバックを用意しておいてください。ゼミの人数や進行に応じて、報告の機会が増える場合があります。		
5. 教科書 特に指定しない。		
6. 参考書 特に指定しない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出された作品に対して、具体的なフィードバックを提供します。受け取った添削内容を参考に、さらなる改善を目指してください。		
8. 成績評価の方法 授業への参加度40点、報告点（報告資料、プレゼン内容）30点、作品30点の合計100点で評価。ただし、理由なく3回欠席した場合、単位を付与しない。		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅠ		今村 哲也
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 知的財産に関する法的問題の研究		
1. 授業の概要・到達目標 (1) 授業の概要 このゼミでは、ディスカッションと実践的な学びの場として2つの主要な活動を展開します。 【社会での課題解決】現代社会が直面する知的財産の諸課題を深く掘り下げ、ディスカッションを通じて多角的な視点を探求します。 【個人の研究成果】受講生の皆さんが関心をもつ研究テーマに関する卒業研究を、一緒にブラッシュアップしていきます。 (2) 授業の到達目標 知的財産の深い理解を基に、ご自身の主張を明確に表現し、議論を通じて新しい視点や考え方を磨き上げる力を身につけることを目指します。このゼミを通じて、卒業研究の高品質な完成を目指しましょう。		
2. 授業内容 第1回 インTRODAGクシヨN 授業の進め方について 第2回 報告・ディスカッション1 第3回 報告・ディスカッション2 第4回 報告・ディスカッション3 第5回 報告・ディスカッション4 第6回 報告・ディスカッション5 第7回 報告・ディスカッション6 第8回 報告・ディスカッション7 第9回 報告・ディスカッション8 第10回 報告・ディスカッション9 第11回 報告・ディスカッション10 第12回 報告・ディスカッション11 第13回 報告・ディスカッション12 第14回 振り返り		
3. 履修上の注意 調査・報告に必要な学外でのフィールドワークを行うことがあります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 次回の授業の報告準備と、報告に対するコメントの作成を行うこと。		
5. 教科書 特に指定しない。		
6. 参考書 特に指定しない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出された作品に対して、添削を行い、具体的なフィードバックを提供します。受け取った添削内容を参考に、さらなる改善や深化を目指してください。		
8. 成績評価の方法 授業への参加度40点、卒業研究60点の合計100点で評価。		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅡ		今村 哲也
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 知的財産に関する法的問題の研究		
1. 授業の概要・到達目標 (1) 授業の概要 このゼミでは、ディスカッションと実践的な学びの場として2つの主要な活動を展開します。 【社会での課題解決】現代社会が直面する知的財産の諸課題を深く掘り下げ、ディスカッションを通じて多角的な視点を探求します。 【個人の研究成果】受講生の皆さんが関心をもつ研究テーマに関する卒業研究を、一緒にブラッシュアップしていきます。 (2) 授業の到達目標 知的財産の深い理解を基に、ご自身の主張を明確に表現し、議論を通じて新しい視点や考え方を磨き上げる力を身につけることを目指します。このゼミを通じて、卒業研究の高品質な完成を目指しましょう。		
2. 授業内容 第1回 インTRODAGクシヨN 授業の進め方について 第2回 報告・ディスカッション1 第3回 報告・ディスカッション2 第4回 報告・ディスカッション3 第5回 報告・ディスカッション4 第6回 報告・ディスカッション5 第7回 報告・ディスカッション6 第8回 報告・ディスカッション7 第9回 報告・ディスカッション8 第10回 報告・ディスカッション9 第11回 報告・ディスカッション10 第12回 報告・ディスカッション11 第13回 報告・ディスカッション12 第14回 振り返り		
3. 履修上の注意 調査・報告に必要な学外でのフィールドワークを行うことがあります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 次回の授業の報告準備と、報告に対するコメントの作成を行うこと。		
5. 教科書 特に指定しない。		
6. 参考書 特に指定しない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 提出された作品に対して、添削を行い、具体的なフィードバックを提供します。受け取った添削内容を参考に、さらなる改善や深化を目指してください。		
8. 成績評価の方法 授業への参加度40点、卒業研究60点の合計100点で評価。		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅠ		岩 淵 輝
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 生命の探究 ーいのちや生き方の問題と日本のあり方について倫理的観点から考えるー		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 諸外国では近年、いのちや健康について高い意識をもつ市民が増え、リスクのある物質や食品に対して従来よりも規制を厳しく強化する国が増えていきます。ところがわが国では、そうした流れに逆行するかのようになり、安全性に懸念がある一部の農産物の基準が緩められたことが知られています。同様のことは一部の食品や医薬品に関しても起こっており、その結果、海外では売れなくなった高リスク製品を日本が買われるといったニュースを耳にする機会が増えていきます。このように、現在のわが国では、いのちや健康が十分に守られているとは言い難い状況にあります。 そうした状況に陥った原因として、自社製品が健康を害する可能性があることを知りながら利益優先で高リスク製品を売りつける外資系巨大企業の台頭を挙げる識者がいます。また、巨大企業の利権関係者が大手メディアやYouTuberを買収するなどして市民がリスクに気づくのを妨害するメディアコントロールを行なっていることを挙げる公衆衛生学者もいます。 問題をいっそう複雑にしているのは、自身の利益のためなら他人の健康はどうなってもよいという「いまだけ金だけ自分だけ」の利益至上主義者の中に、他人を支配したがる優生思想の持主が混ざっていることだと思われます。巨大企業の中には、私たちが気づかないうちにプライバシー情報を吸い上げ、吸い上げた巨大データを横流しして莫大な収益を上げるところが出現していることが知られています。社会学者S.ズボフによれば、現代では、まるでSF映画のような監視・管理システムが着々と築かれつつあり、人々に気づかれないよう特定の店に誘導する実験までもが進行中だとのこと。巨大企業や優生思想家が市民を監視し、特定の製品を買わせるように仕向けたり、行動をコントロールしたりすることが不可能ではない時代が近づいています。 このゼミでは、私たちのいのちが管理・支配されるモラル無き時代において、いのちや生き方を守るためにはどうすればよいのか、また、日本の衰退を食い止めるためには日本はどうあるべきか、といった問題について倫理的観点から議論します。各自の興味や関心に応じて、たとえば「新優生思想と監視・管理社会」「食の安全と有害物の規制基準について」「薬害の歴史」「人体実験の歴史」のようなテーマを決めて調査・発表していただき、ゼミ生全体で議論します。輪読の時間もとの予定です。 【到達目標】 当ゼミでは、(1) 自分のテーマを設定し何が問題なのかを明確化する能力、(2) 自分のテーマについて絶えず考え自分なりの答を探る能力、(3) 他のゼミ生と議論する能力、を身につけることを主な到達目標とします。		
2. 授業内容 第1回 はじめに 第2回 テーマの選び方 第3回 文献の調査法 第4回 いのちや生き方に関する諸問題について 第5回 各自のテーマ案の紹介 第6回 輪読と議論：A班 第7回 輪読と議論：B班 第8回 輪読と議論：C班 第9回 輪読と議論：D班 第10回 テーマ発表と議論：A班 第11回 テーマ発表と議論：B班 第12回 テーマ発表と議論：C班 第13回 テーマ発表と議論：D班 第14回 まとめ		
3. 履修上の注意 いのちや生き方に関する諸問題に関心があり、知的好奇心と意欲のある人の参加を歓迎します。ゼミの時間に薬やワクチンなど生命科学の話題を扱うことがあります。理系のゼミではありませんので、高校理科や生命科学の予備知識は不要です。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ゼミの内容を日頃から十分予習・復習し、輪読の際は発表当番以外の人もテキストを熟読してゼミに臨んでください。		
5. 教科書 とくに使用しません。		
6. 参考書 S.ズボフ『監視資本主義 ー人類の未来を賭けた闘いー』（東洋経済新報社、2021年）。 堤未果『デジタル・ファシズム ー日本の資産と主権が消えるー』（NHK出版新書、2021年）。 N.A.ファラハニー『ニューロテクノロジー ー脳の監視・操作と人類の未来ー』（河出書房新社、2024年）。 D.ライオン『パンデミック監視社会』（ちくま新書、2022年）。 村上康文・山路徹『今だから分かる、コロナワクチンの真実』（花伝社、2024年）。 深田萌絵・鈴木宣弘『日本の食糧安全保障とはなにか？』（かや書房、2025年）。 山田正彦『歪められる食の安全』（角川新書、2025年）。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 原則としてゼミの時間に行ないます。何らかの理由でゼミの時間中のフィードバックが困難だった場合は、電子メール等で個別に行ないます。		
8. 成績評価の方法 発表当番時の発表内容と議論の内容：50%。課題と平常点：50%。		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅡ		岩 淵 輝
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 生命の探究 ーいのちや生き方の問題と日本のあり方について倫理的観点から考えるー		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 諸外国では近年、いのちや健康について高い意識をもつ市民が増え、リスクのある物質や食品に対して従来よりも規制を厳しく強化する国が増えていきます。ところがわが国では、そうした流れに逆行するかのようになり、安全性に懸念がある一部の農産物の基準が緩められたことが知られています。同様のことは一部の食品や医薬品に関しても起こっており、その結果、海外では売れなくなった高リスク製品を日本が買われるといったニュースを耳にする機会が増えていきます。このように、現在のわが国では、いのちや健康が十分に守られているとは言い難い状況にあります。 そうした状況に陥った原因として、自社製品が健康を害する可能性があることを知りながら利益優先で高リスク製品を売りつける外資系巨大企業の台頭を挙げる識者がいます。また、巨大企業の利権関係者が大手メディアやYouTuberを買収するなどして市民がリスクに気づくのを妨害するメディアコントロールを行なっていることを挙げる公衆衛生学者もいます。 問題をいっそう複雑にしているのは、自身の利益のためなら他人の健康はどうなってもよいという「いまだけ金だけ自分だけ」の利益至上主義者の中に、他人を支配したがる優生思想の持主が混ざっていることだと思われます。巨大企業の中には、私たちが気づかないうちにプライバシー情報を吸い上げ、吸い上げた巨大データを横流しして莫大な収益を上げるところが出現していることが知られています。社会学者S.ズボフによれば、現代では、まるでSF映画のような監視・管理システムが着々と築かれつつあり、人々に気づかれないよう特定の店に誘導する実験までもが進行中だとのこと。巨大企業や優生思想家が市民を監視し、特定の製品を買わせるように仕向けたり、行動をコントロールしたりすることが不可能ではない時代が近づいています。 このゼミでは、私たちのいのちが管理・支配されるモラル無き時代において、いのちや生き方を守るためにはどうすればよいのか、また、日本の衰退を食い止めるためには日本はどうあるべきか、といった問題について倫理的観点から議論します。各自の興味や関心に応じて、たとえば「新優生思想と監視・管理社会」「食の安全と有害物の規制基準について」「薬害の歴史」「人体実験の歴史」のようなテーマを決めて調査・発表していただき、ゼミ生全体で議論します。輪読の時間もとの予定です。 【到達目標】 当ゼミでは、(1) 自分のテーマを設定し何が問題なのかを明確化する能力、(2) 自分のテーマについて絶えず考え自分なりの答を探る能力、(3) 他のゼミ生と議論する能力、を身につけることを主な到達目標とします。		
2. 授業内容 第1回 はじめに 第2回 テーマ発表と議論 (1)：A班 第3回 テーマ発表と議論 (1)：B班 第4回 テーマ発表と議論 (1)：C班 第5回 テーマ発表と議論 (1)：D班 第6回 輪読と議論：A班 第7回 輪読と議論：B班 第8回 輪読と議論：C班 第9回 輪読と議論：D班 第10回 テーマ発表と議論 (2)：A班 第11回 テーマ発表と議論 (2)：B班 第12回 テーマ発表と議論 (2)：C班 第13回 テーマ発表と議論 (2)：D班 第14回 まとめ		
3. 履修上の注意 いのちや生き方に関する諸問題に関心があり、知的好奇心と意欲のある人の参加を歓迎します。ゼミの時間に薬やワクチンなど生命科学の話題を扱うことがあります。理系のゼミではありませんので、高校理科や生命科学の予備知識は不要です。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ゼミの内容を日頃から十分予習・復習し、輪読の際は発表当番以外の人もテキストを熟読してゼミに臨んでください。		
5. 教科書 とくに使用しません。		
6. 参考書 S.ズボフ『監視資本主義 ー人類の未来を賭けた闘いー』（東洋経済新報社、2021年）。 堤未果『デジタル・ファシズム ー日本の資産と主権が消えるー』（NHK出版新書、2021年）。 N.A.ファラハニー『ニューロテクノロジー ー脳の監視・操作と人類の未来ー』（河出書房新社、2024年）。 D.ライオン『パンデミック監視社会』（ちくま新書、2022年）。 村上康文・山路徹『今だから分かる、コロナワクチンの真実』（花伝社、2024年）。 深田萌絵・鈴木宣弘『日本の食糧安全保障とはなにか？』（かや書房、2025年）。 山田正彦『歪められる食の安全』（角川新書、2025年）。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 原則としてゼミの時間に行ないます。何らかの理由でゼミの時間中のフィードバックが困難だった場合は、電子メール等で個別に行ないます。		
8. 成績評価の方法 発表当番時の発表内容と議論の内容：50%。課題と平常点：50%。		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅠ		岩瀬 輝
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 生命の探究 —いのちや生き方の問題と日本のあり方について倫理的観点から考える—		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 問題分析ゼミナールに引き続き、いのちや生き方、および、日本のあり方に関連する問題について、各自のテーマを倫理的観点から掘り下げていただきます。 ゼミの時間は、発表当番を決めて各自が取り組んでいるテーマについて紹介していただき、ゼミ生全員で議論することが中心になります。他のゼミ生からの質問に答えたり、様々なコメントをもらったりする中で、自分の考えを深めてください。また、必要に応じて輪読も行ないます。 【到達目標】 当ゼミでは、(1) 自分のテーマを設定し何が問題なのかを明確化する能力、(2) 自分のテーマについて絶えず考え自分なりの答を探る能力、(3) 他のゼミ生と議論する能力、を身につけることを主な到達目標とします。		
2. 授業内容 第1回 はじめに 第2回 いのちと生き方の諸問題再考 第3回 問題の明確化 第4回 テーマの再検討 第5回 課題について 第6回 輪読と議論：A班 第7回 輪読と議論：B班 第8回 輪読と議論：C班 第9回 輪読と議論：D班 第10回 テーマ発表と議論：A班 第11回 テーマ発表と議論：B班 第12回 テーマ発表と議論：C班 第13回 テーマ発表と議論：D班 第14回 まとめ		
3. 履修上の注意 いのちや生き方に関する諸問題に関心があり、知的好奇心と意欲のある人の参加を歓迎します。ゼミの時間に葉やワクチンなど生命科学の話題を扱うことがあります。理系のゼミではありませんので、高校理科や生命科学の予備知識は不要です。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ゼミの内容を日頃から十分予習・復習し、輪読の際は発表当番以外の人でもテキストを熟読してゼミに臨んでください。		
5. 教科書 とくに使用しません。		
6. 参考書 S.ズボフ『監視資本主義 —人類の未来を賭けた闘い—』（東洋経済新報社、2021年）。 堤未果『デジタル・ファシズム —日本の資産と主権が消える—』（NHK出版新書、2021年）。 N.A.ファラハニー『ニューロテクノロジー —脳の監視・操作と人類の未来—』（河出書房新社、2024年）。 D.ライアン『パンデミック監視社会』（ちくま新書、2022年）。 村上康文・山路徹『今だから分かる、コロナワクチンの真実』（花伝社、2024年）。 深田萌絵・鈴木宣弘『日本の食糧安全保障とはなにか?』（かや書房、2025年）。 山田正彦『歪められる食の安全』（角川新書、2025年）。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 原則としてゼミの時間に行ないます。何らかの理由でゼミの時間中のフィードバックが困難だった場合は、電子メール等で個別に行ないます。		
8. 成績評価の方法 発表当番時の発表内容と議論の内容：50%。課題と平常点：50%。		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅡ		岩瀬 輝
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 生命の探究 —いのちや生き方の問題と日本のあり方について倫理的観点から考える—		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 問題分析ゼミナールに引き続き、いのちや生き方、および、日本のあり方に関連する問題について、各自のテーマを倫理的観点から掘り下げていただきます。 ゼミの時間は、発表当番を決めて各自が取り組んでいるテーマについて紹介していただき、ゼミ生全員で議論することが中心になります。他のゼミ生からの質問に答えたり、様々なコメントをもらったりする中で、自分の考えを深めてください。また、必要に応じて輪読も行ないます。 【到達目標】 当ゼミでは、(1) 自分のテーマを設定し何が問題なのかを明確化する能力、(2) 自分のテーマについて絶えず考え自分なりの答を探る能力、(3) 他のゼミ生と議論する能力、を身につけることを主な到達目標とします。		
2. 授業内容 第1回 はじめに 第2回 テーマ発表と議論 (1)：A班 第3回 テーマ発表と議論 (1)：B班 第4回 テーマ発表と議論 (1)：C班 第5回 テーマ発表と議論 (1)：D班 第6回 輪読と議論：A班 第7回 輪読と議論：B班 第8回 輪読と議論：C班 第9回 輪読と議論：D班 第10回 テーマ発表と議論 (2)：A班 第11回 テーマ発表と議論 (2)：B班 第12回 テーマ発表と議論 (2)：C班 第13回 テーマ発表と議論 (2)：D班 第14回 まとめ		
3. 履修上の注意 いのちや生き方に関する諸問題に関心があり、知的好奇心と意欲のある人の参加を歓迎します。ゼミの時間に葉やワクチンなど生命科学の話題を扱うことがあります。理系のゼミではありませんので、高校理科や生命科学の予備知識は不要です。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ゼミの内容を日頃から十分予習・復習し、輪読の際は発表当番以外の人でもテキストを熟読してゼミに臨んでください。		
5. 教科書 とくに使用しません。		
6. 参考書 S.ズボフ『監視資本主義 —人類の未来を賭けた闘い—』（東洋経済新報社、2021年）。 堤未果『デジタル・ファシズム —日本の資産と主権が消える—』（NHK出版新書、2021年）。 N.A.ファラハニー『ニューロテクノロジー —脳の監視・操作と人類の未来—』（河出書房新社、2024年）。 D.ライアン『パンデミック監視社会』（ちくま新書、2022年）。 村上康文・山路徹『今だから分かる、コロナワクチンの真実』（花伝社、2024年）。 深田萌絵・鈴木宣弘『日本の食糧安全保障とはなにか?』（かや書房、2025年）。 山田正彦『歪められる食の安全』（角川新書、2025年）。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 原則としてゼミの時間に行ないます。何らかの理由でゼミの時間中のフィードバックが困難だった場合は、電子メール等で個別に行ないます。		
8. 成績評価の方法 発表当番時の発表内容と議論の内容：50%。課題と平常点：50%。		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅠ		江下 雅之
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ メディアを〈データサイエンスする〉		
1. 授業の概要・到達目標 ゼミでは、流行、ヒット、影響など、メディアにおけるさまざまな現象を、データ分析を通じて理解できるスキルおよび知識の習得を目指したい。我々はメディアを通じてさまざまな情報を収集して現実社会を認識する。また、音楽や映像などのコンテンツの消費を楽しんでいる。インターネットの普及以前はマスメディアがメディア産業の主役であり、マスメディアの活動を調べれば、メディアの効果や影響をある程度は把握できた。人気のドラマや音楽はテレビの視聴率やヒットチャート、CDの販売金額から認識でき、ジャーナリズムの影響力は新聞や雑誌の発行部数にリンクしていた。 スマホがあらゆるメディアのプラットフォームとなったことで、こうした「常識」は崩壊した。視聴率やCD販売金額はコンテンツの人気一端を示すのみであり、人びとはすでに新聞紙ではなくスマホ上のツールで世界中のニュースを知ることになった。一方、人びとが日常的にスマホを利用することで、消費動向、嗜好、友人関係などの電子的な痕跡がビッグデータ化した。音楽やミュージシャンに関する消費者の好みは、YouTubeの再生回数、Spotifyでのプレイス登録数、SNSでの「いいね」の数が示す時代なのだ。しかもこれらのデータの多くが比較的簡単な方法で収集し、分析できる。それこそがデータサイエンスの役割であり、今後のリサーチ実務で最も必要となるスキルとなることは間違いない。 当ゼミの活動では、メディアにおけるさまざまな現象を分析するために、データサイエンスの実践的な活用スキルを習得するとともに、分析データを考察するための知識の獲得を図るものとする。春学期はリサーチ演習を複数テーマ実施し、 1) 統計データの分析と、トレンドを解釈するためのSNS投稿の分析を踏まえたリサーチ演習 2) SNS投稿、レビュー、セリフなどを対象とする非構造化データ分析を踏まえたリサーチ演習 3) 2テーマの演習で習得した分析手法を元に、グループごとに設定したリサーチ演習を通じ、PythonやKH Coder等の分析ツールの習得を目指す。 この演習を通じ、リサーチの段取りの策定、分析に用いる定量的な資料と分析手法、徴候となる現象の発見方法、考察の視点を理解することを第一の到達目標とする。そして数多くのリサーチに取り組むことで、データサイエンスにもとづくリサーチ実務に習熟することを第二の到達目標とする。演習はすべてグループワークで行う。その際、Zoom、Googleドキュメント、slackなど、オンラインによるグループワークを進めるためのツールに使い慣れることも併せて目標とする。		
2. 授業内容 第1回 リサーチに使用するツールの紹介、演習1・2の背景説明 第2回 リサーチ演習 (1) インバウンド需要のデータとSNSでのトレンドを踏まえた分析 (1) 第3回 リサーチ演習 (1) インバウンド需要のデータとSNSでのトレンドを踏まえた分析 (2) 第4回 リサーチ演習 (1) インバウンド需要のデータとSNSでのトレンドを踏まえた分析 (3) 第5回 リサーチ演習 (1) インバウンド需要のデータとSNSでのトレンドを踏まえた分析 (4) 第6回 リサーチ演習 (2) ドラマまたは音楽の消費動向に関するSNS投稿やレビュー投稿の分析 (1) 第7回 リサーチ演習 (2) ドラマまたは音楽の消費動向に関するSNS投稿やレビュー投稿の分析 (2) 第8回 リサーチ演習 (2) ドラマまたは音楽の消費動向に関するSNS投稿やレビュー投稿の分析 (3) 第9回 リサーチ演習 (2) ドラマまたは音楽の消費動向に関するSNS投稿やレビュー投稿の分析 (4) 第10回 リサーチ演習 (2) ドラマまたは音楽の消費動向に関するSNS投稿やレビュー投稿の分析 (5) 第11回 リサーチ演習 (3) テーマ設定のためのディスカッション 第12回 リサーチ演習 (3) 設定したテーマ候補 (複数) の予備的な調査 第13回 リサーチ演習 (3) リサーチテーマの絞り込み 第14回 リサーチ演習 (3) リサーチの全体像と先行研究の検討 ※リサーチの経過報告・最終報告はグループ単位で行う。		
3. 履修上の注意 8月末～9月初の期間に他大学と合同の「メディア研究インカレ原村」が実施可能となった場合、参加を必須とする。 ゼミではSlackでファイルをシェアしながら進めるので、各自でパソコンまたはタブレットを持参すること。 データサイエンスの実務ではプログラム言語Pythonの利用が効果的だが、当ゼミはプログラミング能力の習得を目的とはしない。希望者には勉強会を別途実施する。ただし、卒業後にデータサイエンスを活用した仕事に就きたい者にとり、Pythonは遅かれ早かれ必要なスキルとなる。また、近年は生成AIでPythonのプログラムを作成できる割合が増えているため、「AIを使ったプログラミングのスキル」の習得は比較的容易である。		
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 各人毎回かならずなんらかの発表が当たるので、そのための準備は事前にすべて終わらせておくことを求める。		
5. 教科書 使用しない		
6. 参考書 Python勉強会では次の2冊を使用する。希望者には配付する。 下山輝昌ほか『Python実践データ分析100本ノック 第2版』秀和システムズ 下山輝昌ほか『Python実践データ加工/可視化100本ノック』秀和システムズ		
7. 課題に対するフィードバックの方法 1) リサーチ演習においては毎回全グループに対して詳細な講評を実施する。 2) ゼミの時間外においてもSlackを通じて具体的な助言および講評を実施する。		
8. 成績評価の方法 各自が実施するプレゼンテーションの内容が80%、個人およびグループ単位で作成する研究成果が20%の比率で評価する。		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅡ		江下 雅之
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ メディアを〈データサイエンスする〉		
1. 授業の概要・到達目標 ゼミのテーマは「メディアを〈データサイエンスする〉」である。流行、ヒット、影響など、メディアにおけるさまざまな現象を、データ分析を通じて理解できるスキルおよび知識の習得を目指したい。 問題分析ゼミナールの「授業の概要・到達目標」に書いたとおり、メディア環境の中心がマスメディアからスマートフォンに移行した現在、人びとの消費動向、嗜好、友人関係などの電子的な痕跡がインターネットでビッグデータ化しており、データサイエンスによってデータを収集して分析することにより、かつては把握できなかった影響や流行の伝搬メカニズムを明らかにできるようになった。 当ゼミの活動では、メディアにおけるさまざまな現象を分析するために、データサイエンスの実践的な活用スキルを習得するとともに、分析データを考察するための知識の獲得を図るものとする。春学期は主としてリサーチ実務の習得を目指すのに対し、秋学期ではリサーチ演習の総仕上げをするとともに、最新の解析手法の理解を深め、そしてデータ分析結果を考察するうえで理解しておくべきメディア史の基礎的な知見を習得することを目指す。 秋学期の最初の4回は、研究交流祭参加を前提に3テーマ目のリサーチの完成を目指す。そして5回目以降は論文読解を通じ、最新のデータ解析の理解、メディア史研究における知見の習得を進める。 この演習を通じ、メディアにおける流行や影響の伝搬などに関連した問題を分析するための基本的な型 (リサーチの段取り) の策定、分析に用いる定量的な資料と分析手法、徴候となる現象の発見方法、考察の視点を理解することを第一の到達目標とする。そして理論的な理解を深めることで、最新の手法による分析と理論的な知見にもとづく考案を実践することを第二の到達目標とする。 演習はすべてグループワークで行う。その際、Zoom、Googleドキュメント、slackなど、オンラインによるグループワークを進めるためのツールに使い慣れることも併せて目標とする。		
2. 授業内容 第1回 リサーチ演習 (3) 夏合宿で得たフィードバックにもとづく反省点の検討 第2回 リサーチ演習 (3) データ分析の検討とディスカッション 第3回 リサーチ演習 (3) 分析結果の考察とディスカッション 第4回 リサーチ演習 (3) リサーチ全体の再検討とディスカッション 第5回 最新のデータ解析に関する研究 (1) 形態素解析による歌詞分析 第6回 最新のデータ解析に関する研究 (2) 形態素解析によるドラマのセリフ分析 第7回 最新のデータ解析に関する研究 (3) 形態素解析による雑誌記事分析 第8回 最新のデータ解析に関する研究 (4) SNS利用者に関するネットワーク分析 第9回 最新のデータ解析に関する研究 (5) インスタグラム投稿に関する画像分析 第10回 メディア史に関する研究 (1) ラジオ放送を中心に 第11回 メディア史に関する研究 (2) 音楽媒体を中心に 第12回 メディア史に関する研究 (3) 画像・映像を中心に 第13回 メディア史に関する研究 (4) サブカルチャとの関連を中心に 第14回 メディア史に関する研究 (5) ユースカルチャとの関連を中心に		
3. 履修上の注意 ゼミではSlackでファイルをシェアしながら進めるので、各自でパソコンまたはタブレットを持参すること。 データサイエンスの実務ではプログラム言語Pythonの利用が効果的だが、当ゼミはプログラミング能力の習得を目的とはしない。希望者には勉強会を別途実施する。ただし、卒業後にデータサイエンスを活用した仕事に就きたい者にとり、Pythonは遅かれ早かれ必要なスキルとなる。また、近年は生成AIでPythonのプログラムを作成できる割合が増えているため、「AIを使ったプログラミングのスキル」の習得は比較的容易である。		
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 各人毎回かならずなんらかの発表が当たるので、そのための準備は事前にすべて終わらせておくことを求める。		
5. 教科書 使用しない		
6. 参考書 論文講読では一人につき2つの論文を割り当てる。 Python勉強会では引き続き次の2冊を使用する。 下山輝昌ほか『Python実践データ分析100本ノック 第2版』秀和システムズ 下山輝昌ほか『Python実践データ加工/可視化100本ノック』秀和システムズ		
7. 課題に対するフィードバックの方法 1) リサーチ演習においては毎回全グループに対して詳細な講評を実施する。 2) ゼミの時間外においてもSlackを通じて具体的な助言および講評を実施する。		
8. 成績評価の方法 各自が実施するプレゼンテーションの内容が80%、個人およびグループ単位で作成する研究成果が20%の比率で評価する。		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅠ		江下 雅之
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ メディアの〈いま・ここ〉：情報環境の転換を考察する		
1. 授業の概要・到達目標 問題分析ゼミナールで経験したリサーチ演習および論文読解をもとに、より先進的なリサーチに取り組む。前年度に学んだ基礎理論およびリサーチ実務能力を実践的に活用し、身近な現象からの〈徴候〉の発見、先行研究の批判的読解、仮説の設定、検証に必要な論理構成の検討、検証に必要な情報の収集・整理・分析などに取り組み、ひとまとまりの研究調査報告書を執筆することを旨とする。その活動を通じ、実務で要求されるリサーチ・スキルを修得することを到達目標とする。 なお、ゼミナール活動の成果として、卒業制作の実施を必須とはしないが強く推奨する。成果物は個人単位の研究調査報告書とし、12月末までの提出を求める。		
2. 授業内容 第1回 復習のためのリサーチ演習 第2回 官公庁資料を用いたリサーチ演習〈1〉 第3回 官公庁資料を用いたリサーチ演習〈2〉 第4回 官公庁資料を用いたリサーチ演習〈3〉 第5回 雑誌記事を用いたリサーチ演習〈1〉 第6回 雑誌記事を用いたリサーチ演習〈2〉 第7回 雑誌記事を用いたリサーチ演習〈3〉 第8回 映像コンテンツを用いたリサーチ演習〈1〉 第9回 映像コンテンツを用いたリサーチ演習〈2〉 第10回 映像コンテンツを用いたリサーチ演習〈3〉 第11回 画像を用いたリサーチ演習〈1〉 第12回 画像を用いたリサーチ演習〈2〉 第13回 画像を用いたリサーチ演習〈3〉 第14回 演習の総括		
3. 履修上の注意 発表が中心となるので、グループ・メンバーとの連絡を密に取ること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 発表用の資料は事前に作成して提出することを求める。		
5. 教科書 特に使用しない。		
6. 参考書 戸田山和久『新版 論文の教室』（NHKブックス）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 個々の提出課題に対して講評をおこなうとともに、必要に応じて添削を実施する。 Slackを通じて経過に応じて個別に助言を実施する。		
8. 成績評価の方法 報告書で100%評価する。		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅡ		江下 雅之
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ メディアの〈いま・ここ〉：情報環境の転換を考察する		
1. 授業の概要・到達目標 問題分析ゼミナールで経験したリサーチ演習・論文読解および問題解決ゼミナールⅠで積み重ねたリサーチ演習をもとに、企業の研究開発現場などで要求されるレベルのリサーチに取り組む。これまでに学んだ理論およびリサーチ実務能力を実践的に活用し、身近な現象からの〈徴候〉の発見から検証に必要な情報の収集・整理・分析などに取り組み、ひとまとまりの研究調査報告書を作成することを旨とする。また、専門家を交えた研究会を通じ、実社会で実践されているデータサイエンスの応用の実際を学ぶ。これらの活動を通じ、企業実務等で要求されるリサーチ・スキルを修得することを到達目標とする。 なお、ゼミナール活動の成果として、卒業制作の実施を必須とはしないが強く推奨する。成果物は個人単位の研究調査報告書とし、12月末までの提出を求める。		
2. 授業内容 第1回 リサーチテーマの検討 第2回 総合的なリサーチ演習（1）データ収集 第3回 総合的なリサーチ演習（1）データ解析 第4回 総合的なリサーチ演習（1）考察 第5回 リサーチ結果の報告と専門家を交えたディスカッション 第6回 総合的なリサーチ演習（2）データ収集 第7回 総合的なリサーチ演習（2）データ解析 第8回 総合的なリサーチ演習（2）考察 第9回 リサーチ結果の報告と専門家を交えたディスカッション 第10回 総合的なリサーチ演習（3）データ収集 第11回 総合的なリサーチ演習（3）データ解析 第12回 総合的なリサーチ演習（3）考察 第13回 リサーチ結果の報告と専門家を交えたディスカッション 第14回 演習の総括		
3. 履修上の注意 発表が中心となるので、関係各位との連絡を密に取ること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 発表用の資料は事前に作成して提出することを求める。		
5. 教科書 特に使用しない。		
6. 参考書 戸田山和久『新版 論文の教室』（NHKブックス）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 個々の提出課題に対して講評をおこなうとともに、必要に応じて添削を実施する。 Slackを通じて経過に応じて個別に助言を実施する。		
8. 成績評価の方法 報告書で100%評価する。		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅠ		小田 光康
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 海外大学のジャーナリズム・メディア教育に関する研究		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】本ゼミでは海外の大学におけるジャーナリズムおよびメディア教育の制度・理念・実践を多角的に調査・分析する。特に欧米、アジア、グローバルサウス諸国におけるカリキュラム、教育哲学、実務訓練、倫理教育、ICT活用、ジャーナリズムと民主主義の関係などを比較研究の対象とし、国際的な視野からメディア教育のあり方を探究する。 ゼミの3年次では、基礎文献の読解、ケーススタディ分析、調査設計、仮説構築、比較研究の方法論を学び、中間報告を行う。4年次では各自の問題関心に基づき調査対象国や大学を選定し、個別研究を進め、最終的に卒業論文として完成させることを目指す。 【到達目標】1) 国際的視野の獲得:海外の大学におけるジャーナリズム教育制度・理念を理解し、日本のメディア教育と比較する視点を習得する。2) 論点・戦略的思考の獲得:教育制度やメディア文化に内在する争点(社会的・政治的背景、制度的課題、倫理的葛藤等)を発見し、分析的に議論を構築する技法を修得する。3) 調査・分析・表現能力の向上:文献調査、インタビュー、ケーススタディ、比較分析などの社会調査技法を活用し、他国の実践に基づいた実証的研究を行う。4) 論文構成員力と批判的思考の涵養:ゼミ内での相互批評、発表・討議を通じて、論理的かつ説得力のある文章構成員力を養い、自立的な学術的思考を確立する。5) 卒業論文の完成:4年次末までに、争点構造を明確にしたうえで、調査・分析・考察を経た研究成果を卒業論文として完成させる。		
2. 授業内容 第1回 オリエンテーション 第2回 研究テーマ設定の方法 第3回 学術論文の様式 第4回 文献検索の方法 第5回 テーマ設定演習(1) 第6回 テーマ設定演習(2) 第7回 テーマ設定演習(3) 第8回 テーマ設定演習(4) 第9回 テーマ設定演習(5) 第10回 テーマ設定中間発表 第11回 テーマ設定演習(6) 第12回 テーマ設定演習(7) 第13回 テーマ設定演習(8) 第14回 テーマ設定最終発表		
3. 履修上の注意 卒業論文制作には海外大学での英語でのインタビュー調査が必須となります。ゼミの調査研究湯を大学生生活で最優先する学生のみ入室を認めます。入室はエントリースートの内容と面接で決めます。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 【予習】 1) 指定された文献・資料・学術論文を事前に読解し、要点を整理したうえで授業に臨むこと。 2) 各国の大学の教育制度・メディア環境・社会背景等に関する基礎情報の事前調査を行い、比較視点を養うこと。 3) ゼミ授業でのディスカッションや発表に備え、自身の意見や疑問点をメモにまとめておくこと。 【復習】 1) ゼミ授業での議論・教員からのフィードバックを踏まえ、ノート整理や関連文献の追加読解を行うこと。 2) 次回以降の研究に活かすため、プレゼンやレポートに対するコメントを精査し、自己評価を行うこと。		
5. 教科書 1) UNESCO. (2007). Model curricula for journalism education. United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization. https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000157971 2) UNESCO. (2015). Teaching journalism for sustainable development: New syllabi. United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization. https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000234432		
6. 参考書 1) UNESCO. (2018). Journalism, 'Fake News' & Disinformation: Handbook for journalism education and training. United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization. https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000265552 2) UNESCO. (2023). Teaching journalism online: A handbook for journalism educators. United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization. https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000386033 3) UNESCO. (2024). Criteria for excellence in journalism education in Africa. United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization. https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000388070 4) UNESCO. (n.d.). UNESCO Series on Journalism Education [Multiple volumes]. United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization. https://www.unesco.org/en/ipdc/journalism-education-series		
7. 課題に対するフィードバックの方法 各ゼミ授業内、中間発表、そして最終発表時に各学生に対して教員から個別に伝えます。また、他のゼミの学生からの質疑も参考にしてください。		
8. 成績評価の方法 研究テーマ設定で参考にした先行研究文献の内容の理解度と最終発表の内容で成績評価します。		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅡ		小田 光康
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 海外大学のジャーナリズム・メディア教育に関する研究		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】本ゼミでは海外の大学におけるジャーナリズムおよびメディア教育の制度・理念・実践を多角的に調査・分析する。特に欧米、アジア、グローバルサウス諸国におけるカリキュラム、教育哲学、実務訓練、倫理教育、ICT活用、ジャーナリズムと民主主義の関係などを比較研究の対象とし、国際的な視野からメディア教育のあり方を探究する。 ゼミの3年次では、基礎文献の読解、ケーススタディ分析、調査設計、仮説構築、比較研究の方法論を学び、中間報告を行う。4年次では各自の問題関心に基づき調査対象国や大学を選定し、個別研究を進め、最終的に卒業論文として完成させることを目指す。 【到達目標】1) 国際的視野の獲得:海外の大学におけるジャーナリズム教育制度・理念を理解し、日本のメディア教育と比較する視点を習得する。2) 論点・戦略的思考の獲得:教育制度やメディア文化に内在する争点(社会的・政治的背景、制度的課題、倫理的葛藤等)を発見し、分析的に議論を構築する技法を修得する。3) 調査・分析・表現能力の向上:文献調査、インタビュー、ケーススタディ、比較分析などの社会調査技法を活用し、他国の実践に基づいた実証的研究を行う。4) 論文構成員力と批判的思考の涵養:ゼミ内での相互批評、発表・討議を通じて、論理的かつ説得力のある文章構成員力を養い、自立的な学術的思考を確立する。5) 卒業論文の完成:4年次末までに、争点構造を明確にしたうえで、調査・分析・考察を経た研究成果を卒業論文として完成させる。		
2. 授業内容 第1回 オリエンテーション 第2回 アブストラクト執筆の方法 第3回 図表作成の方法 第4回 引用文献表記の方法 第5回 卒業論文執筆演習(1) 第6回 卒業論文執筆演習(2) 第7回 卒業論文執筆演習(3) 第8回 卒業論文執筆演習(4) 第9回 卒業論文執筆演習(5) 第10回 卒業論文内容中間発表第1回 第11回 卒業論文執筆演習(6) 第12回 卒業論文執筆演習(7) 第13回 卒業論文執筆演習(8) 第14回 卒業論文内容中間発表第2回		
3. 履修上の注意 卒業論文制作には海外大学での英語でのインタビュー調査が必須となります。ゼミの調査研究湯を大学生生活で最優先する学生のみ入室を認めます。入室はエントリースートの内容と面接で決めます。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 【予習】 1) 指定された文献・資料・学術論文を事前に読解し、要点を整理したうえで授業に臨むこと。 2) 各国の大学の教育制度・メディア環境・社会背景等に関する基礎情報の事前調査を行い、比較視点を養うこと。 3) ゼミ授業でのディスカッションや発表に備え、自身の意見や疑問点をメモにまとめておくこと。 【復習】 1) ゼミ授業での議論・教員からのフィードバックを踏まえ、ノート整理や関連文献の追加読解を行うこと。 2) 次回以降の研究に活かすため、プレゼンやレポートに対するコメントを精査し、自己評価を行うこと。		
5. 教科書 1) UNESCO. (2007). Model curricula for journalism education. United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization. https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000157971 2) UNESCO. (2015). Teaching journalism for sustainable development: New syllabi. United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization. https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000234432		
6. 参考書 1) UNESCO. (2018). Journalism, 'Fake News' & Disinformation: Handbook for journalism education and training. United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization. https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000265552 2) UNESCO. (2023). Teaching journalism online: A handbook for journalism educators. United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization. https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000386033 3) UNESCO. (2024). Criteria for excellence in journalism education in Africa. United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization. https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000388070 4) UNESCO. (n.d.). UNESCO Series on Journalism Education [Multiple volumes]. United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization. https://www.unesco.org/en/ipdc/journalism-education-series		
7. 課題に対するフィードバックの方法 各演習授業内と中間発表時に各学生に対して教員から個別に伝えます。また、他のゼミの学生からの質疑も参考にしてください。		
8. 成績評価の方法 研究テーマの内容の理解度と中間発表の内容で成績評価します。		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅠ		小田 光康
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 海外大学のジャーナリズム・メディア教育に関する研究		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本ゼミでは海外の大学におけるジャーナリズムおよびメディア教育の制度・理念・実践を多角的に調査・分析する。特に欧米、アジア、グローバルサウス諸国におけるカリキュラム、教育哲学、実務訓練、倫理教育、ICT活用、ジャーナリズムと民主主義の関係などを比較研究の対象とし、国際的な視野からメディア教育のあり方を探究する。 ゼミの3年次では、基礎文献の読解、ケーススタディ分析、調査設計、仮説構築、比較研究の方法論を学び、中間報告を行う。4年次では各自の問題関心に基づき調査対象国や大学を選定し、個別研究を進め、最終的に卒業論文として完成させることを目指す。 【到達目標】 1) 国際的視野の獲得:海外の大学におけるジャーナリズム教育制度・理念を理解し、日本のメディア教育と比較する視点を習得する。2) 論点・戦略論的思考の獲得:教育制度やメディア文化に内在する争点(社会的・政治的背景、制度的課題、倫理的葛藤等)を発見し、分析的に議論を構築する技法を修得する。3) 調査・分析・表現能力の向上:文献調査、インタビュー、ケーススタディ、比較分析などの社会調査技法を活用し、他国の実践に基づいた実証的研究を行う。4) 論文構力と批判的思考の涵養:ゼミ内での相互批評、発表・討議を通じて、論理的かつ説得力のある文章構力力を養い、自立的な学術的思考を確立する。5) 卒業論文の完成:4年次末までに、争点構造を明確にしたうえで、調査・分析・考察を経た研究成果を卒業論文として完成させる。		
2. 授業内容 第1回 オリエンテーション 第2回 卒業論文執筆演習(1) 第3回 卒業論文執筆演習(2) 第4回 卒業論文執筆演習(3) 第5回 卒業論文執筆演習(4) 第6回 卒業論文内容中間発表第3回 第7回 卒業論文執筆演習(5) 第8回 卒業論文執筆演習(6) 第9回 卒業論文執筆演習(7) 第10回 卒業論文内容中間発表第4回 第11回 卒業論文執筆演習(8) 第12回 卒業論文執筆演習(9) 第13回 卒業論文執筆演習(10) 第14回 卒業論文内容中間発表第5回		
3. 履修上の注意 卒業論文制作には海外大学での英語でのインタビュー調査が必須となります。ゼミの調査研究湯を大学生生活で最優先する学生のみ入室を認めます。入室はエントリーシートの内容と面接で決めます。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 【予習】 1) 指定された文献・資料・学術論文を事前に読解し、要点を整理したうえで授業に臨むこと。 2) 各国の大学の教育制度・メディア環境・社会背景等に関する基礎情報の事前調査を行い、比較視点を養うこと。 3) ゼミ授業でのディスカッションや発表に備え、自身の意見や疑問点をメモにまとめておくこと。 【復習】 1) ゼミ授業での議論・教員からのフィードバックを踏まえ、ノート整理や関連文献の追加読解を行うこと。 2) 次回以降の研究に活かすため、プレゼンやレポートに対するコメントを精査し、自己評価を行うこと。		
5. 教科書 1) UNESCO. (2007). Model curricula for journalism education. United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization. https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000157971 2) UNESCO. (2015). Teaching journalism for sustainable development: New syllabi. United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization. https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000234432		
6. 参考書 1) UNESCO. (2018). Journalism, 'Fake News' & Disinformation: Handbook for journalism education and training. United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization. https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000265552 2) UNESCO. (2023). Teaching journalism online: A handbook for journalism educators. United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization. https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000386033 3) UNESCO. (2024). Criteria for excellence in journalism education in Africa. United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization. https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000388070 4) UNESCO. (n.d.). UNESCO Series on Journalism Education [Multiple volumes]. United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization. https://www.unesco.org/en/ipdc/journalism-education-series		
7. 課題に対するフィードバックの方法 各演習授業内と中間発表時に各学生に対して教員から個別に伝えます。また、他のゼミの学生からの質疑も参考にしてください。		
8. 成績評価の方法 研究テーマの内容の理解度と中間発表の内容で成績評価します。		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅡ		小田 光康
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 海外大学のジャーナリズム・メディア教育に関する研究		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本ゼミでは海外の大学におけるジャーナリズムおよびメディア教育の制度・理念・実践を多角的に調査・分析する。特に欧米、アジア、グローバルサウス諸国におけるカリキュラム、教育哲学、実務訓練、倫理教育、ICT活用、ジャーナリズムと民主主義の関係などを比較研究の対象とし、国際的な視野からメディア教育のあり方を探究する。 ゼミの3年次では、基礎文献の読解、ケーススタディ分析、調査設計、仮説構築、比較研究の方法論を学び、中間報告を行う。4年次では各自の問題関心に基づき調査対象国や大学を選定し、個別研究を進め、最終的に卒業論文として完成させることを目指す。 【到達目標】 1) 国際的視野の獲得:海外の大学におけるジャーナリズム教育制度・理念を理解し、日本のメディア教育と比較する視点を習得する。2) 論点・戦略論的思考の獲得:教育制度やメディア文化に内在する争点(社会的・政治的背景、制度的課題、倫理的葛藤等)を発見し、分析的に議論を構築する技法を修得する。3) 調査・分析・表現能力の向上:文献調査、インタビュー、ケーススタディ、比較分析などの社会調査技法を活用し、他国の実践に基づいた実証的研究を行う。4) 論文構力と批判的思考の涵養:ゼミ内での相互批評、発表・討議を通じて、論理的かつ説得力のある文章構力力を養い、自立的な学術的思考を確立する。5) 卒業論文の完成:4年次末までに、争点構造を明確にしたうえで、調査・分析・考察を経た研究成果を卒業論文として完成させる。		
2. 授業内容 第1回 オリエンテーション 第2回 卒業論文執筆演習(1) 第3回 卒業論文執筆演習(2) 第4回 卒業論文執筆演習(3) 第5回 卒業論文執筆演習(4) 第6回 卒業論文内容中間発表第6回 第7回 卒業論文執筆演習(5) 第8回 卒業論文執筆演習(6) 第9回 卒業論文執筆演習(7) 第10回 卒業論文内容最終発表会(第1回)、ゼミ学生全員卒業論文提出締め切り日 第11回 卒業論文内容最終発表会(第2回) 第12回 卒業論文内容最終発表会(第3回) 第13回 卒業論文内容最終発表会(第4回) 第14回 まとめ		
3. 履修上の注意 卒業論文制作には海外大学での英語でのインタビュー調査が必須となります。ゼミの調査研究湯を大学生生活で最優先する学生のみ入室を認めます。入室はエントリーシートの内容と面接で決めます。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 【予習】 1) 指定された文献・資料・学術論文を事前に読解し、要点を整理したうえで授業に臨むこと。 2) 各国の大学の教育制度・メディア環境・社会背景等に関する基礎情報の事前調査を行い、比較視点を養うこと。 3) ゼミ授業でのディスカッションや発表に備え、自身の意見や疑問点をメモにまとめておくこと。 【復習】 1) ゼミ授業での議論・教員からのフィードバックを踏まえ、ノート整理や関連文献の追加読解を行うこと。 2) 次回以降の研究に活かすため、プレゼンやレポートに対するコメントを精査し、自己評価を行うこと。		
5. 教科書 1) UNESCO. (2007). Model curricula for journalism education. United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization. https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000157971 2) UNESCO. (2015). Teaching journalism for sustainable development: New syllabi. United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization. https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000234432		
6. 参考書 1) UNESCO. (2018). Journalism, 'Fake News' & Disinformation: Handbook for journalism education and training. United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization. https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000265552 2) UNESCO. (2023). Teaching journalism online: A handbook for journalism educators. United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization. https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000386033 3) UNESCO. (2024). Criteria for excellence in journalism education in Africa. United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization. https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000388070 4) UNESCO. (n.d.). UNESCO Series on Journalism Education [Multiple volumes]. United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization. https://www.unesco.org/en/ipdc/journalism-education-series		
7. 課題に対するフィードバックの方法 各演習授業内と中間発表時に各学生に対して教員から個別に伝えます。また、他のゼミの学生からの質疑も参考にしてください。		
8. 成績評価の方法 研究テーマの内容の理解度と中間発表と提出した卒業論文の内容で成績評価します。		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅠ		川島 高峰
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 地域課題から学ぶ第3期日本と地球規模課題（メガトレンド）		
1. 授業の概要・到達目標 一体、この日本の将来はどうなるのでしょうか？ 人口減少社会と少子超高齢化、震災・気候変動等の自然災害の激甚化・多発化、東京一極集中と地方消滅、生涯非婚者と単身世帯の増大等々、日本の前途は多難です。日本は課題先進国と呼ばれたり、衰退途上国と言われたりしています。資源・エネルギー小国の日本にとって国際協調や国際分業、世界貿易は繁栄の要でした。しかし、パンデミックによる国際人流／交流の停滞は過渡なグローバリズムの見直しの契機となり、ウクライナ戦争や中国の超大国化により世界の安全保障と国際協調の環境は不安定化しています。この他方、平成の30年間で日本人も激変しました。在留外国人は358.9万人(2024年末・法務所)、海外在留日本人は129.4万人(2023年末・外務省)と内外雑居人口は488.3万人の時代となりました。 この激変が連続する時代の中で守るべき日本／日本人とは何か、新しい時代の日本／日本人とは何かについて学びの場として新潟県南魚沼市、津南町、佐渡市での活動をしてきました。首都圏とは異なるそれぞれの地域に固有な歴史文化・産業経済・地域課題の学びを通じて、日本の「新しい教養」や「ライフスタイル」を模索に取り組んでいます。 達成目標はこれらの学習を通じた成果物を作成するだけでなく、これを様々な形で報告することです。成果物の形式は映像、写真、図画、音楽等でもよく、報告の機会の組織化もあってよいでしょう。特定の形式を指定するものではありません。また希望する者はこれを4年時の卒業制作もしくは卒業論文とします。		
2. 授業内容 第1回 地域課題と地球規模課題、そして、個別地域の課題 第2回 Cool JapanとLocal Cool Japan、ツーリズム産業の新動向 第3回 個別地域の課題1 第4回 食料自給率と新農業基本法、Dx農業、気候変動と農業 第5回 個別地域の課題2 第6回 コメと日本人、主食の多様化、所謂「6次産業」の限界 第7回 個別地域の課題3 第8回 スマート・シティの必要性・可能性・逆機能／逆効果 第9回 循環型社会形成基本計画 Ver5と資源エネルギー問題 第10回 内外雑居時代の新日本 第11回 第2次日本列島改造と新しい地域間ハブの形成 第12回 リスクカントリー日本のレジリエンス 第13回 夏季休暇、研究計画指導1 第14回 夏季休暇、研究計画指導2		
3. 履修上の注意 担当教員の春学期（S1）開講の「現代政治学Ⅰ」〔戦後政治史+平成の政治30年史〕、秋学期（F1）開講「現代政治学Ⅱ」〔現代国際政治経済学、要するに時事問題〕、「政治とメディア」〔世論の歴史、冷戦型報道（保革対立報道）、SNSと政治〕の履修を義務とします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 2年次のゼミ履修が確定した段階で事前学習を開始します。		
5. 教科書 その都度、指定する。		
6. 参考書 その都度、ゼミで提示。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時、もしくは、Oh-ol Meiji等のオンラインで行う。		
8. 成績評価の方法 ゼミでの積極性・責任感・協調性等50%、成果物50%で評価。		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅡ		川島 高峰
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 地域課題から学ぶ第3期日本と地球規模課題（メガトレンド）		
1. 授業の概要・到達目標 一体、この日本の将来はどうなるのでしょうか？ 人口減少社会と少子超高齢化、震災・気候変動等の自然災害の激甚化・多発化、東京一極集中と地方消滅、生涯非婚者と単身世帯の増大等々、日本の前途は多難です。日本は課題先進国と呼ばれたり、衰退途上国と言われたりしています。資源・エネルギー小国の日本にとって国際協調や国際分業、世界貿易は繁栄の要でした。しかし、パンデミックによる国際人流／交流の停滞は過渡なグローバリズムの見直しの契機となり、ウクライナ戦争や中国の超大国化により世界の安全保障と国際協調の環境は不安定化しています。この他方、平成の30年間で日本人も激変しました。在留外国人は358.9万人(2024年末・法務所)、海外在留日本人は129.4万人(2023年末・外務省)と内外雑居人口は488.3万人の時代となりました。 この激変が連続する時代の中で守るべき日本／日本人とは何か、新しい時代の日本／日本人とは何かについて学びの場として新潟県南魚沼市、津南町、佐渡市での活動をしてきました。首都圏とは異なるそれぞれの地域に固有な歴史文化・産業経済・地域課題の学びを通じて、日本の「新しい教養」や「ライフスタイル」を模索に取り組んでいます。 達成目標はこれらの学習を通じた成果物を作成するだけでなく、これを様々な形で報告することです。成果物の形式は映像、写真、図画、音楽等でもよく、報告の機会の組織化もあってよいでしょう。特定の形式を指定するものではありません。また希望する者はこれを4年時の卒業制作もしくは卒業論文とします。		
2. 授業内容 第1回 夏季休暇の報告 第2回 重要主題解説1と学生報告1 第3回 重要主題解説2と学生意見交換 第4回 重要主題解説3と学生報告2 第5回 学生報告3と学生意見交換 第6回 重要主題解説4と学生報告3 第7回 学生報告4と学生意見交換 第8回 関連主題解説1と学生研究主題指導 第9回 関連主題解説2と学生研究主題指導 第10回 関連主題解説3と学生研究主題指導 第11回 関連主題解説4と学生研究主題指導 第12回 最終成果物報告1 第13回 最終成果物報告2 第14回 最終成果物報告3 関連主題とは学生の研究に関連する重要な主題		
3. 履修上の注意 担当教員の春学期（S1）開講の「現代政治学Ⅰ」〔平成の政治30年史〕、秋学期（F1）開講「現代政治学Ⅱ」〔現代国際政治経済学、要するに時事問題〕、「政治とメディア」〔世論の歴史、冷戦型報道（保革対立報道）、冷戦後報道からポスト・マスメディア〕の履修を義務とします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 2年次のゼミ履修が確定した段階で事前学習を開始します。		
5. 教科書 その都度、指定する。		
6. 参考書 その都度、ゼミで提示。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時、もしくは、Oh-ol Meiji等のオンラインで行う。		
8. 成績評価の方法 ゼミでの積極性・責任感・協調性等50%、成果物50%で評価。		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅠ		川島 高峰
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 地域課題から学ぶ第3期日本と地球規模課題（メガトレンド）		
1. 授業の概要・到達目標 日本は近代都市文明として国際的にも世界的にも最先端・最先進の空間を形成している。その最先端性ゆえに負の問題においても世界で最も矛盾を抱えた社会である。世界第二位の経済大国にまで駆け上がった日本は、今後、その地位を下げていくと予想されている。もはや日本に高度成長時代の再来はない。 我が国を覆うのは、少子高齢化と地方消滅・東京一極集中、地方と中央の格差拡大、文化の多様化と世代間・同世代間における文化の格差や文化の隔絶、国民文化や国民概念の稀薄化とそれへの反動による極端で低劣な自民族中心主義の台頭、止むことなき経済格差の拡大、国際化や多文化共生の進行に伴う異民族・異文化排撃、高学歴化に伴う学歴格差やエリートの上昇、超高齢化社会によるシルバー・デモクラシーと若年世代のマイノリティー化や負担増、貧困女子・貧困老人・子供の貧困etc。2020年、世界はパンデミックに直面し、New Normalなどライフスタイルという根底から政治社会文化や国際社会の在り方を再考することを迫られている。このような問いは、従来の冷戦時代のような「大理論や大思想によりかかりたいという甘え」は通用せず、「凡夫にありがちな学問の神聖化や学問という名の慢心・傲慢」も通用しない。このゼミでは知に甘えず、驕らず、さりとしてベシミズムに屈することなく、楽しく！「現代日本の思想と行動」を問い続け、希望者は単位認定としての卒業制作（論文等）を完成させることが目標である。		
2. 授業内容 第1回 前年度活動の報告・説明 第2回 前年度活動の下級生への引継ぎ 第3回 エントリーシートの書き方 第4回 日本の進路と未来 第5回 卒業制作指針と作業行程の提示 第6回 学生の卒業制作指針の説明と指導1 第7回 学生の卒業制作指針の説明と指導2 第8回 学生の卒業制作指針の説明と指導3 第9回 学生の卒業制作指針の説明と指導4 第10回 学生の作業工程の説明と指導1 第11回 学生の作業工程の説明と指導2 第12回 学生の作業工程の説明と指導3 第13回 学生の作業工程の説明と指導4 第14回 夏期の進捗計画報告		
3. 履修上の注意 担当教員の秋学期開講「現代政治学Ⅱ」〔ミレニアム時代の政治課題 その国際・政治経済・社会学〕の履修を義務とします。なお、〔 〕で記したのが講義の大主題ですが、いずれの講座も講義内容を大改訂しました。2025年のシラバスを確認してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 4年次の指導は進路指導が5割、卒業制作の指導が5割です。		
5. 教科書 その都度、指定する。		
6. 参考書 その都度、ゼミで提示。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時、もしくは、Oh-ol Meiji等のオンラインで行う。		
8. 成績評価の方法 卒業制作の未提出者はB以下の評価になります。内容の質は高い方がよいですが、未提出になるくらいならとにかく作成を間に合わせましょう。		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅡ		川島 高峰
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 地域課題から学ぶ第3期日本と地球規模課題（メガトレンド）		
1. 授業の概要・到達目標 日本は近代都市文明として国際的にも世界的にも最先端・最先進の空間を形成している。その最先端性ゆえに負の問題においても世界で最も矛盾を抱えた社会である。世界第二位の経済大国にまで駆け上がった日本は、今後、その地位を下げていくと予想されている。もはや日本に高度成長時代の再来はない。 我が国を覆うのは、少子高齢化と地方消滅・東京一極集中、地方と中央の格差拡大、文化の多様化と世代間・同世代間における文化の格差や文化の隔絶、国民文化や国民概念の稀薄化とそれへの反動による極端で低劣な自民族中心主義の台頭、止むことなき経済格差の拡大、国際化や多文化共生の進行に伴う異民族・異文化排撃、高学歴化に伴う学歴格差やエリートの上昇、超高齢化社会によるシルバー・デモクラシーと若年世代のマイノリティー化や負担増、貧困女子・貧困老人・子供の貧困etc。2020年、世界はパンデミックに直面し、New Normalなどライフスタイルという根底から政治社会文化や国際社会の在り方を再考することを迫られている。このような問いは、従来の冷戦時代のような「大理論や大思想によりかかりたいという甘え」は通用せず、「凡夫にありがちな学問の神聖化や学問という名の慢心・傲慢」も通用しない。このゼミでは知に甘えず、驕らず、さりとしてベシミズムに屈することなく、楽しく！「現代日本の思想と行動」を問い続け、希望者は単位認定としての卒業制作（論文等）を完成させることが目標である。		
2. 授業内容 第1回 夏期活動の報告1 第2回 夏期活動の報告2 第3回 卒業制作経過報告と指導1 第4回 卒業制作経過報告と指導2 第5回 卒業制作経過報告と指導3 第6回 卒業制作最終案作成1 第7回 卒業制作最終案作成2 第8回 卒業制作最終案作成3 第9回 卒業制作最終案作成4 第10回 進路活動報告会1 第11回 進路活動報告会2 第12回 卒業制作報告会1 第13回 卒業制作報告会2 第14回 総括		
3. 履修上の注意 担当教員の秋学期開講「現代政治学Ⅱ」〔ミレニアム時代の政治課題 その国際・政治経済・社会学〕の履修を義務とします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 4年次の指導は進路指導が3割、卒業制作の指導が7割です。		
5. 教科書 その都度、指定する。		
6. 参考書 その都度、ゼミで提示。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時、もしくは、Oh-ol Meiji等のオンラインで行う。		
8. 成績評価の方法 卒業制作は1月10日が締め切りで、未提出者はB以下の評価になります。内容の質は高い方がよいですが、未提出になるくらいならとにかく作成を間に合わせましょう。		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅠ		清原 聖子
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 現代アメリカ研究—多角的な視点から現代アメリカ政治と社会について考える—		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 アメリカについてはメディアでの報道も多いので、何となく「知っている」という人も少なくないだろう。皆さんはアメリカに対してどういう印象を持っているだろうか。本ゼミナールではアメリカ政治・社会に関する研究を2年間行う。3年次の問題分析ゼミナールでは、文献購読だけではなく、映画やドキュメンタリー作品の分析を通じて、メディア、ジェンダー、人種問題、経済、移民など様々な角度から現代アメリカ政治・社会に対する理解を深めることを目指す。社会人となっても役立つように、現代アメリカ政治・社会を見る確かな知識を蓄え、判断する目を養ってもらいたい。 【到達目標】 3年次は基礎的知識を習得し、ディベートやグループワークを行う過程で、コミュニケーション力と思考力を養うことが目標である。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 文献購読(アメリカ研究を行う上での基本的な文献を輪読する)(1) 第2回 文献購読(アメリカ研究を行う上での基本的な文献を輪読する)(2) 第4回 文献購読(アメリカ研究を行う上での基本的な文献を輪読する)(3)、映像を通じたディスカッション(1) 第5回 文献購読(アメリカ研究を行う上での基本的な文献を輪読する)(4)、映像を通じたディスカッション(2) 第6回 文献購読(アメリカ研究を行う上での基本的な文献を輪読する)(5)、映像を通じたディスカッション(3) 第7回 文献購読(アメリカ研究を行う上での基本的な文献を輪読する)(6)、映像を通じたディスカッション(4) 第8回 文献購読(アメリカ研究を行う上での基本的な文献を輪読する)(7)、映像を通じたディスカッション(5) 第9回 ゲストスピーカー 第10回 文献購読(アメリカ研究を行う上での基本的な文献を輪読する)(8)、ディベート準備(1) 第11回 文献購読(アメリカ研究を行う上での基本的な文献を輪読する)(9)、ディベート準備(2) 第12回 文献購読(アメリカ研究を行う上での基本的な文献を輪読する)(10)、ディベート準備(3) 第13回 ディベート 第14回 まとめ *ゲストスピーカーの都合により、授業内容の順番などに変更が生じる可能性がある。		
3. 履修上の注意 各自ノートPC又はタブレット端末を教室に持参すること。グループワークを重視しているため、グループワークに積極的に参加する姿勢が求められる。欠席する場合は必ず当日の朝までに担当教員に連絡すること。欠席が続く場合には、単位を付与しない。ゼミの担当教員がコーディネーターを務める「情報コミュニケーション学」(春学期)、およびゼミの担当教員による講義科目「現代アメリカ政治論」(秋学期)の履修を必修とする。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 発表に当たっている日には、発表用資料を準備し、それを発表日の前日までに担当教員及び履修者が見られるように、クラスウェブの「ディスカッション機能」を使って提出すること。発表にあたっていない履修者は他の発表者の資料を前もって読んでコメントを付ける準備をしておくこと。		
5. 教科書 清原聖子(編者)『教養としてのアメリカ研究』(大学教育出版、2021年)		
6. 参考書 清原聖子、鈴木健、兼子歩、下斗米秀之(編著)『アメリカの〈分断〉とは何か』(大学教育出版、2025年) 岡山裕、前嶋和弘『アメリカ政治』(有斐閣、2023年) 前嶋和弘『キャンセルカルチャー』(小学館、2022年) 久保文明、金成隆一『アメリカ大統領選』(岩波新書、2020年) 矢口祐人(編著)『東大塾 現代アメリカ講義：トランプのアメリカを読む』(東京大学出版会、2020年) 横江公美『隠れトランプのアメリカ』(扶桑社、2020年) その他授業時間内に紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時間内に行う。		
8. 成績評価の方法 レポート(40%)、ゼミへの出席、報告・発表、共同作業への参加など平常点(60%)		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅡ		清原 聖子
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 現代アメリカ研究—多角的な視点から現代アメリカ政治と社会について考える—		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 アメリカについてはメディアでの報道も多いので、何となく「知っている」という人も少なくないだろう。皆さんはアメリカに対してどういう印象を持っているだろうか。本ゼミナールではアメリカ政治・社会に関する研究を2年間行う。3年次の問題分析ゼミナールでは、文献購読だけではなく、映画やドキュメンタリー作品の分析を通じて、メディア、ジェンダー、人種問題、経済、移民など様々な角度から現代アメリカ政治・社会に対する理解を深めることを目指す。社会人となっても役立つように、現代アメリカ政治・社会を見る確かな知識を蓄え、判断する目を養ってもらいたい。 【到達目標】 3年次は基礎的知識を習得し、ディベートやグループワークを行う過程で、コミュニケーション力と思考力を養うことが目標である。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション、グループワーク(1) 第2回 文献購読(アメリカ研究を行う上での基本的な文献を輪読する)(1)、グループワーク(2) 第3回 文献購読(アメリカ研究を行う上での基本的な文献を輪読する)(2)、グループワーク(3) 第4回 文献購読(アメリカ研究を行う上での基本的な文献を輪読する)(3)、グループワーク(4) 第5回 文献購読(アメリカ研究を行う上での基本的な文献を輪読する)(4)、グループワーク(5) 第6回 ゲストスピーカー 第7回 文献購読(アメリカ研究を行う上での基本的な文献を輪読する)(5)、グループワーク(6) 第8回 文献購読(アメリカ研究を行う上での基本的な文献を輪読する)(6)、グループワーク(7) 第9回 文献購読(アメリカ研究を行う上での基本的な文献を輪読する)(7)、グループワーク(8) 第10回 文献購読(アメリカ研究を行う上での基本的な文献を輪読する)(8)、グループワーク(9) 第11回 ゲストスピーカー 第12回 合同研究発表会準備 第13回 合同研究発表会 第14回 まとめ *ゲストスピーカーの都合により、授業内容の順番などに変更が生じる可能性がある。		
3. 履修上の注意 各自ノートPC又はタブレット端末を教室に持参すること。グループワークを重視しているため、グループワークに積極的に参加する姿勢が求められる。欠席する場合は必ず当日の朝までに担当教員に連絡すること。欠席が続く場合には、単位を付与しない。ゼミの担当教員がコーディネーターを務める「情報コミュニケーション学」(春学期)、およびゼミの担当教員による講義科目「現代アメリカ政治論」(秋学期)の履修を必修とする。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 発表に当たっている日には、発表用資料を準備し、それを発表日の前日までに担当教員及び履修者が見られるように、クラスウェブの「ディスカッション機能」を使って提出すること。発表にあたっていない履修者は他の発表者の資料を前もって読んでコメントを付ける準備をしておくこと。		
5. 教科書 山岸敬和、岩田伸弘(編著)『激動期のアメリカ 理論と現場から見たトランプ時代とその後』(大学教育出版、2022年)		
6. 参考書 浅川紀『現代アメリカ大統領』(武蔵野大学出版会、2024年) 中山俊宏『理念の国がきしむとき オバマ・トランプ・バイデンとアメリカ』(千倉書房、2023年) 園田耕司『トランプ大統領のクーデター 米連邦議会襲撃事件の深層』(筑摩書房、2022年) 久保文明、中山俊宏、山岸敬和、梅川健(編)『アメリカ政治の地殻変動』(東京大学出版会、2021年) 岡山裕『アメリカの政党政治』(中公新書、2020年) 西山隆行『格差と分断のアメリカ』(東京堂出版、2020年) その他授業時間内に紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時間内に行う。		
8. 成績評価の方法 レポート(40%)、ゼミへの出席、報告・発表、共同作業への参加など平常点(60%)		
9. その他 履修生の希望により、学部が例年秋に行う研究交流祭に参加する予定です。		

問題解決ゼミナールⅠ		清原 聖子
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 現代アメリカ研究—多角的な視点から現代アメリカ政治と社会について考える—		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 現代アメリカ政治の特徴は「分極化」や政治の「分断」という言葉で説明されることが多い。4年次には、アメリカ政治の「分断」の諸相に焦点を当て、政治の分極化、メディアの分極化という切り口から、現代アメリカ政治・社会の諸課題について深く掘り下げて分析する。 【到達目標】 3年次のゼミナールで学んだ内容を基盤として、現代アメリカ政治に関する卒業論文を完成させ、2年間の研究成果を他者に論理的に説明できる力を身につけることを目標とする。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション、卒論研究テーマの構想について 第2回 文献講読（アメリカ政治研究に必要な文献の輪読）(1)、研究方法について (1) 第3回 文献講読（アメリカ政治研究に必要な文献の輪読）(2)、研究方法について (2) 第4回 文献講読（アメリカ政治研究に必要な文献の輪読）(3) 第5回 卒論研究テーマの構想発表 第6回 文献講読（アメリカ政治研究に必要な文献の輪読）(4) 第7回 文献講読（アメリカ政治研究に必要な文献の輪読）(5) 第8回 卒論研究の進捗発表 (1) 第9回 文献講読（アメリカ政治研究に必要な文献の輪読）(6) 第10回 文献講読（アメリカ政治研究に必要な文献の輪読）(7) 第11回 文献講読（アメリカ政治研究に必要な文献の輪読）(8) 第12回 卒論研究の進捗発表 (2) 第13回 卒論研究の進捗発表 (3) 第14回 まとめ		
3. 履修上の注意 各自ノートPC又はタブレット端末を教室に持参すること。4年次のゼミナールでは、春学期、秋学期を通じて卒業論文を完成させる。春学期はそのため卒論（またはゼミ論文）の進捗発表を段階的に行う。卒論の2単位を求めない場合も、小規模な「卒論」としてゼミ論文を執筆する。出席を重視するが、やむを得ぬ事情があり、欠席する場合は必ず当日の朝までに担当教員に連絡すること。欠席が続く場合には、単位を付与しない。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 発表に当たっている日には、発表用資料を準備し、それを発表日の前日までに担当教員及び履修者が見られるように、クラスウェブの「ディスカッション機能」を使って提出すること。発表にあたっていない履修者は他の発表者の資料を前もって読んでコメントを付ける準備をしておくこと。		
5. 教科書 履修者の卒論研究テーマを検討し、初回に相談の上決める。		
6. 参考書 清原聖子、鈴木健、兼子歩、下斗米秀之（編著）『アメリカの〈分断〉とは何か』（大学教育出版、2025年） 西山隆行、前嶋和弘、渡辺将人『混迷のアメリカを読み解く10の論点』（慶応義塾大学出版会、2024年） 久保文明・21世紀政策研究所（編著）『50州が動かすアメリカ政治』（勁草書房、2021年） 岡山裕『アメリカの政党政治—建国から250年の軌跡』（中公新書、2020年） サミュエル・ハンチントン（著）、鈴木主税（訳）『分断されるアメリカ』（集英社文庫、2017年） など、履修者の卒論研究テーマに応じて授業時間内に紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時間内に行う。		
8. 成績評価の方法 卒論研究進捗発表（3回）(30%)、書評レポート（40%）、ゼミへの出席、報告・発表への参加など平常点（30%）		
9. その他 大学院進学を希望する場合は、卒論に積極的に取り組んでください。		

問題解決ゼミナールⅡ		清原 聖子
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 現代アメリカ研究—多角的な視点から現代アメリカ政治と社会について考える—		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 現代アメリカ政治の特徴は「分極化」や政治の「分断」という言葉で説明されることが多い。4年次には、アメリカ政治の「分断」の諸相に焦点を当て、政治の分極化、メディアの分極化という切り口から、現代アメリカ政治・社会の諸課題について深く掘り下げて分析する。 【到達目標】 3年次のゼミナールで学んだ内容を基盤として、現代アメリカ政治に関する卒業論文を完成させ、2年間の研究成果を他者に論理的に説明できる力を身につけることを目標とする。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 卒論研究の進捗発表 (1) 第3回 卒論研究の進捗発表 (2) 第4回 文献講読（卒論研究テーマについて、必要な文献を紹介する）(1) 第5回 文献講読（卒論研究テーマについて、必要な文献を紹介する）(2) 第6回 卒論研究の進捗発表 (3) 第7回 卒論研究の進捗発表 (4) 第8回 文献講読（卒論研究テーマについて、必要な文献を紹介する）(3) 第9回 卒論研究の進捗発表 (5) 第10回 卒論研究の進捗発表 (6) 第11回 ゲストスピーカー 第12回 合同研究発表会準備 第13回 合同研究発表会 第14回 まとめ *ゲストスピーカーの都合により順番は前後する可能性があります。		
3. 履修上の注意 各自ノートPC又はタブレット端末を教室に持参すること。4年次のゼミナールでは、春学期、秋学期を通じて卒業論文を完成させる。秋学期は卒論（またはゼミ論文）の作成が主な内容となる。卒論の2単位を求めない場合も、小規模な「卒論」としてゼミ論文を執筆する。ゼミ論文は卒論の分量のおよそ半分（1万字程度）を目安とする。出席を重視するが、やむを得ぬ事情があり、欠席する場合は必ず当日の朝までに担当教員に連絡すること。欠席が続く場合には、単位を付与しない。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 発表に当たっている日には、発表用資料を準備し、それを発表日の前日までに担当教員及び履修者が見られるように、クラスウェブの「ディスカッション機能」を使って提出すること。発表にあたっていない履修者は他の発表者の資料を前もって読んでコメントを付ける準備をしておくこと。		
5. 教科書 履修者の卒論研究テーマを検討し、初回に相談の上決める。		
6. 参考書 履修者の卒論研究テーマに応じて、随時授業時間内に紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時間内に行う。		
8. 成績評価の方法 卒業論文（ゼミ論文）(60%)、ゼミへの出席、報告・発表への参加など平常点（40%）		
9. その他 大学院進学を希望する場合は、卒論に積極的に取り組んでください。		

問題分析ゼミナールⅠ		熊田 聖
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
<p>◆ 研究テーマ 意見の対立している分野を取り上げ、調査し、自分の考えを明確にし、それを他人に説明できるように取り上げよう。</p>		
<p>1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 このゼミのねらいは、プレゼンテーションで「魅せる」技術、失敗したときに臨機応変に対応する技術の習得です。 つまり、理系のテーマで手品や工作を交えたプレゼンテーションを通して、相手を軸として準備を行うことにより、あらゆる情報を参考にして相手を分析し、どうしたら興味を持ってもらえるのかを深く考えます。 対人的well-beingともいえます その結果、プレゼンテーションの姿勢が能動的な見られるから積極的な「見せる」へ変化し、 さらに、相手の反応を見て対応を変更することにより、発表者と聞き手という対立構造ではなく、ともに発表を作り上げていくというLive型の進行方法を習得できます。 また、プレゼンテーションはグループで準備をするため、新たな人と円滑にコミュニケーションをとるための技術も習得できます。 これらに加え、仲間の意見も知ってもらうよう、ディベートも行う予定です。また「思索トレーニング」では、学生の提案したテーマについて自分の考えをとめて提出します。 なお、クラスではニックネームを使用することにより、従来の自分に囚われることなく意見を発信・共有する中で、新たな自分に出会う経験ができ、自身の成長を実感し自信を持つことにつながります。 思索トレーニングでは、その週の担当者が自分の考えてきた発表をします。その後、各自で関心のある問題を選択し、ディベートを行います。すなわち1回1回のゼミは皆さんが作りあげていく、比較的自由度の高いゼミです。また、与えられたテーマに関してレポートも提出してください。その後の授業でレポートのテーマに関する映像をお見せする場合があります。 【到達目標】 自分の意見を、自分流に主張することとは別に、相手が理解できる形で提示する工夫をすることができるようになること。</p>		
<p>2. 授業内容 第1回 SHOWスケジュール決定、名札作成 第2回 SHOW（学生が各自で決定するため、毎回異なる）、思索トレーニングテーマ発表（学生が各自で決定するため、毎回異なる）、ディベートテーマ決定 第3回 SHOW、思索トレーニングレポート提出、思索トレーニングテーマ発表、ディベート準備（1） 第4回 SHOW、思索トレーニングレポート提出、思索トレーニングテーマ発表、ディベート準備（2） 第5回 ディベート（3） 第6回 質疑応答形式SHOW発表、ディベートのテーマに関するレポート提出、思索トレーニングテーマ発表 第7回 質疑応答形式SHOW発表、思索トレーニングレポート提出、思索トレーニングテーマ発表（1） 第8回 質疑応答形式SHOW発表、思索トレーニングレポート提出、思索トレーニングテーマ発表（2） 第9回 SHOW、思索トレーニングレポート提出、思索トレーニングテーマ発表（1） 第10回 SHOW、思索トレーニングレポート提出、思索トレーニングテーマ発表（2） 第11回 SHOW、思索トレーニングレポート提出、思索トレーニングテーマ発表（3） 第12回 商品開発ゲーム（1） 第13回 商品開発ゲーム（2） 第14回 自由発表</p>		
<p>3. 履修上の注意 このゼミは、現代社会の問題に対して関心を持ち、調査、分析に関心があり、またグループでの活動、他者との人間関係を築ける学生に適しています。また、調査は各自で行ってもらうので自由度は高いですが、詳細に分析し、工夫して発表する必要があるため、熱意のある学生が望ましい。 使用する教科書の実践編がゼミであり、理論編が意思決定論（前期と後期）となります。そのため、4年生では意思決定論を前期・後期共に履修してください。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容 あえて理想的なShowを紹介することはせず、Showの準備については具体的な指示を出しません。聞き手にはどのような工夫が必要とされるのかを、自分で判断して準備して欲しいと考えるためです。Showの当日は、自分が有意義だと感じた準備だが、聞き手はあまりそれを必要と感じなかったものは何か、あるいは反対に、自分が必要と感じなかったが、聞き手はそれを重要だと感じていたものは何かという二点に注目しましょう。このような一連のプロセス、具体的には、初めてのShowを準備する際の試行錯誤、失敗から自分は何を学ぶのかを復習</p>		
<p>5. 教科書 【意思決定論 思考するということ—会計ルールの逆転と共感】熊田聖（泉文堂）</p>		
<p>6. 参考書 授業内で紹介します。</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法 提出課題は授業内で発表し、それに対するコメントを学生から受けることにより、さらに深く考察していきます。</p>		
<p>8. 成績評価の方法 調査、分析内容の緻密さ 30% 発表の工夫 30% レポートの論理展開 40%</p>		
<p>9. その他</p>		

問題分析ゼミナールⅡ		熊田 聖
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
<p>◆ 研究テーマ 意見の対立している分野を取り上げ、調査し、自分の考えを明確にし、それを他人に説明できるように取り上げよう。</p>		
<p>1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 このゼミのねらいは、プレゼンテーションで「魅せる」技術、失敗したときに臨機応変に対応する技術の習得です。 つまり、理系のテーマで手品や工作を交えたプレゼンテーションを通して、相手を軸として準備を行うことにより、あらゆる情報を参考にして相手を分析し、どうしたら興味を持ってもらえるのかを深く考えます。 対人的well-beingともいえます その結果、プレゼンテーションの姿勢が能動的な見られるから積極的な「見せる」へ変化し、 さらに、相手の反応を見て対応を変更することにより、発表者と聞き手という対立構造ではなく、ともに発表を作り上げていくというLive型の進行方法を習得できます。 また、プレゼンテーションはグループで準備をするため、新たな人と円滑にコミュニケーションをとるための技術も習得できます。 これらに加え、仲間の意見も知ってもらうよう、ディベートも行う予定です。また「思索トレーニング」では、学生の提案したテーマについて自分の考えをとめて提出します。 なお、クラスではニックネームを使用することにより、従来の自分に囚われることなく意見を発信・共有する中で、新たな自分に出会う経験ができ、自身の成長を実感し自信を持つことにつながります。 思索トレーニングでは、その週の担当者が自分の考えてきた発表をします。その後、各自で関心のある問題を選択し、ディベートを行います。すなわち1回1回のゼミは皆さんが作りあげていく、比較的自由度の高いゼミです。また、与えられたテーマに関してレポートも提出してください。その後の授業でレポートのテーマに関する映像をお見せする場合があります。 【到達目標】 自分の意見を、自分流に主張することとは別に、相手が理解できる形で提示する工夫をすることができるようになること。</p>		
<p>2. 授業内容 第1回 発表スケジュール決定、名札作成 第2回 SHOW・思索トレーニングテーマ発表・ディベートテーマ決定 第3回 SHOW、思索トレーニングレポート提出、思索トレーニングテーマ発表、ディベート準備（1） 第4回 SHOW、思索トレーニングレポート提出、思索トレーニングテーマ発表、ディベート準備（2） 第5回 ディベート（3） 第6回 質疑応答形式SHOW発表、ディベートのテーマに関するレポート提出、思索トレーニングテーマ発表 第7回 質疑応答形式SHOW発表、思索トレーニングレポート提出、思索トレーニングテーマ発表（1） 第8回 質疑応答形式SHOW発表、思索トレーニングレポート提出、思索トレーニングテーマ発表（2） 第9回 SHOW、思索トレーニングレポート提出、思索トレーニングテーマ発表（1） 第10回 SHOW、思索トレーニングレポート提出、思索トレーニングテーマ発表（2） 第11回 SHOW、思索トレーニングレポート提出、思索トレーニングテーマ発表（3） 第12回 社会起業家を演じる（1） 第13回 社会起業家を演じる（2） 第14回 社会起業家を演じる（3）</p>		
<p>3. 履修上の注意 このゼミは、現代社会の問題に対して関心を持ち、調査、分析に関心があり、またグループでの活動、他者との人間関係を築ける学生に適しています。また、調査は各自で行ってもらうので自由度は高いですが、詳細に分析し、工夫して発表する必要があるため、熱意のある学生が望ましい。 使用する教科書の実践編がゼミであり、理論編が意思決定論（前期と後期）となります。そのため、4年生では意思決定論を前期・後期共に履修してください。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容 あえて理想的なShowを紹介することはせず、Showの準備については具体的な指示を出しません。聞き手にはどのような工夫が必要とされるのかを、自分で判断して準備して欲しいと考えるためです。Showの当日は、自分が有意義だと感じた準備だが、聞き手はあまりそれを必要と感じなかったものは何か、あるいは反対に、自分が必要と感じなかったが、聞き手はそれを重要だと感じていたものは何かという二点に注目しましょう。このような一連のプロセス、具体的には、初めてのShowを準備する際の試行錯誤、失敗から自分は何を学ぶのかを復習</p>		
<p>5. 教科書 【意思決定論 思考するということ—会計ルールの逆転と共感】熊田聖（泉文堂）</p>		
<p>6. 参考書 授業内で紹介します。</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法 提出課題は授業内で発表し、それに対するコメントを学生から受けることにより、さらに深く考察していきます。</p>		
<p>8. 成績評価の方法 調査、分析内容の緻密さ 30% 発表の工夫 30% レポートの論理展開 40%</p>		
<p>9. その他</p>		

問題解決ゼミナールⅠ		熊田 聖
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
<p>◆ 研究テーマ 自分が今までに得た知識・これから得る知識、その貴重な知識を人が理解してもらえるように表現できるようになる。 このゼミは「表現力」を伸ばすゼミです。</p>		
<p>1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 発表では聞き手が理解してくれる、あるいは賛成してくれるように心がけてください。 また、与えられたテーマに関してレポートも提出してください。その後の授業でレポートのテーマに関する映像をお見せする場合があります。 発表、レポートともに、「他人が理解できるためには、どのような工夫が必要か」という視点を常に念頭に置いてください。論文作成はゴールではありません。他者の視点を考慮し、作成した論文は、カラーの小冊子の形に書き直します。 【到達目標】 自分の意見を、自分流に主張することとは別に、相手が理解できる形で提示する工夫をすることができるようになること。</p>		
<p>2. 授業内容 第1回 仕掛け学グループディスカッション (1) 第2回 プレゼンテーション 1回目・思索テーマに基づくディスカッション (1) 第3回 仕掛け学グループディスカッション (2) 第4回 プレゼンテーション 2回目・思索テーマに基づくディスカッション (2) 第5回 特権ゲーム 第6回 プレゼンテーション 3回目・思索テーマに基づくディスカッション (3) 第7回 商品開発ディスカッション (1) 第8回 商品開発ディスカッション (2) 第9回 商品開発ディスカッション (3) 第10回 プレゼンテーション 4回目・思索テーマに基づくディスカッション (4) 第11回 映像作成 (1) 1回目テーマ決定 第12回 映像作成 (2) 2回目テーマ決定 第13回 映像作成 (3) 3回目テーマ決定 第14回 自由発表</p>		
<p>3. 履修上の注意 このゼミは、現代社会の問題に対して関心を持ち、調査、分析に関心があり、またグループでの活動、他者との人間関係を築ける学生に適しています。また、調査は各自で行ってもらうので自由度は高いですが、詳細に分析し、工夫して発表する必要があるため、熱意のある学生が望ましい。 使用する教科書の実践編がゼミであり、理論編が意思決定論（前期と後期）となります。そのため、4年生では意思決定論を前期・後期共に履修してください。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容 あえて理想的なShowを紹介することはせず、Showの準備については具体的な指示を出しません。聞き手にはどのような工夫が必要とされるのかを、自分で判断して準備して欲しいと考えるためです。Showの当日は、自分が有意義だと感じた準備だが、聞き手はあまりそれを必要と感じなかったものは何か、あるいは反対に、自分は必要と感じなかったが、聞き手はそれを重要だと感じていたものは何かという二点に注目しましょう。このような一連のプロセス、具体的には、初めてのShowを準備する際の試行錯誤、失敗から自分は何を学ぶのかを復習</p>		
<p>5. 教科書 『意思決定論 思考すること—会計ルールの逆転と共感』熊田聖（泉文堂）</p>		
<p>6. 参考書 授業内で紹介します。</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法 提出課題は授業内で発表し、それに対するコメントを学生から受けることにより、さらに深く考察していきます。</p>		
<p>8. 成績評価の方法 調査、分析内容の緻密さ 30% 発表の工夫 30% レポートの論理展開 40%</p>		
<p>9. その他</p>		

問題解決ゼミナールⅡ		熊田 聖
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
<p>◆ 研究テーマ 自分が今までに得た知識・これから得る知識、その貴重な知識を人が理解してもらえるように表現できるようになる。 このゼミは「表現力」を伸ばすゼミです。</p>		
<p>1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 発表では聞き手が理解してくれる、あるいは賛成してくれるように心がけてください。 また、与えられたテーマに関してレポートも提出してください。その後の授業でレポートのテーマに関する映像をお見せする場合があります。 発表、レポートともに、「他人が理解できるためには、どのような工夫が必要か」という視点を常に念頭に置いてください。論文作成はゴールではありません。他者の視点を考慮し、作成した論文は、カラーの小冊子の形に書き直します。 【到達目標】 自分の意見を、自分流に主張することとは別に、相手が理解できる形で提示する工夫をすることができるようになること。</p>		
<p>2. 授業内容 第1回 論文のアウトライン作成 (1)・思索テーマに基づくディスカッション (1) 第2回 論文のアウトライン作成 (2)・思索テーマに基づくディスカッション (2) 第3回 論文のアウトライン作成 (3)・思索テーマに基づくディスカッション (3) 第4回 論文作成・発表 (1) 第5回 論文作成・発表 (2) 第6回 論文作成・発表 (3) 第7回 論文に基づく図解作成 (1)・社会起業家を演じる (1) 第8回 論文に基づく図解作成 (2)・社会起業家を演じる (2) 第9回 論文に基づく図解作成 (3)・社会起業家を演じる (3) 第10回 論文に基づく図解作成 (4)・社会起業家を演じる (4) 第11回 論文に基づく図解作成・発表 (1) 第12回 論文に基づく図解作成・発表 (2) 第13回 論文に基づく図解作成・発表 (3) 第14回 自由発表</p>		
<p>3. 履修上の注意 このゼミは、現代社会の問題に対して関心を持ち、調査、分析に関心があり、またグループでの活動、他者との人間関係を築ける学生に適しています。また、調査は各自で行ってもらうので自由度は高いですが、詳細に分析し、工夫して発表する必要があるため、熱意のある学生が望ましい。 使用する教科書の実践編がゼミであり、理論編が意思決定論（前期と後期）となります。そのため、4年生では意思決定論を前期・後期共に履修してください。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容 あえて理想的なShowを紹介することはせず、Showの準備については具体的な指示を出しません。聞き手にはどのような工夫が必要とされるのかを、自分で判断して準備して欲しいと考えるためです。Showの当日は、自分が有意義だと感じた準備だが、聞き手はあまりそれを必要と感じなかったものは何か、あるいは反対に、自分は必要と感じなかったが、聞き手はそれを重要だと感じていたものは何かという二点に注目しましょう。このような一連のプロセス、具体的には、初めてのShowを準備する際の試行錯誤、失敗から自分は何を学ぶのかを復習</p>		
<p>5. 教科書 『意思決定論 思考すること—会計ルールの逆転と共感』熊田聖（泉文堂）</p>		
<p>6. 参考書 授業内で紹介します。</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法 提出課題は授業内で発表し、それに対するコメントを学生から受けることにより、さらに深く考察していきます。</p>		
<p>8. 成績評価の方法 調査、分析内容の緻密さ 30% 発表の工夫 30% レポートの論理展開 40%</p>		
<p>9. その他</p>		

問題分析ゼミナールⅠ		高馬 京子
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
<p>◆ 研究テーマ 越境するファッション・スタディーズ：メディアにおいて構築/伝達されるファッションとジェンダー表象をめぐる諸問題をフランスとの比較で考える</p>		
<p>1. 授業の概要・到達目標 本ゼミは4年次のファッション、ジェンダー、メディアに関する卒業論文完成を目標に研究をすすめるゼミである。 ファッション（服飾流行）とはその時代毎の社会の問題、課題を顕著に映し出すと同時に、社会を変容させようとする装置ともなりうることがある。本ゼミナールでは、そのようなトランスボーダーに形成、伝達、再編され続ける表象文化としての現代ファッションとそれらを装置としてメディアで形成される規範としてのジェンダー表象について考察する。「流行現象」「マス/デジタルメディア」「オウンド・メディア、アード・メディア、ペイド・メディア」「言説」「表象」「超域（トランスボーダー）」「デジタル/アイデンティティ」「規範としてのジェンダー像」を主要キーワードに、人文科学の視点からファッション、ジェンダーに関する事例調査、事例研究、関連方法論に関する先行研究の批判的講読を通して、 ① [現代の複雑なメディア環境におけるファッション形成と伝達の仕組み] ② [ファッションとジェンダー] ③ [海外ファッションの異文化表象] ④ フランスにおける/フランスとの比較でみるファッションとジェンダー⑤多様性、包摂性、公平性からみるファッション⑥ファッションとルッキズム⑦ファッションとアプロプリエーション⑧ファッションとジャポニスム等、ファッションについて関する具体的な研究計画（現状、問、仮説、分析）をたてて研究を実践する。3年次は4年次の卒業論文完成を目指して、調査・研究を中心に、現代ファッション、ジェンダーとメディアの関係を多角的に分析し口頭発表、論文執筆準備を行うことを目標とする。</p>		
<p>2. 授業内容 第1回 イントロダクション、グループ分け、年間計画の紹介 第2回 関連先行研究の発表 (1) 第3回 関連先行研究の発表 (2) 第4回 関連先行研究の発表 (3) 第5回 関連先行研究の発表 (4) 第6回 関連先行研究の発表、研究計画案の立案 (1) 第7回 関連先行研究の発表、研究計画案の立案 (2) 第8回 関連先行研究の発表、研究計画案の立案 (3) 第9回 関連先行研究の発表、研究計画案の立案 (4) 第10回 春学期（研究計画案中間報告）発表準備 (1) 第11回 春学期（研究計画案中間報告）発表準備 (2) 第12回 春学期（研究計画案中間報告）発表準備 (3) 第13回 春学期（研究計画案中間報告）発表 第14回 フィールドワーク</p>		
<p>3. 履修上の注意 本ゼミはファッションとジェンダーの批判的研究で卒業論文執筆提出を目指すゼミである。 研究課題に関する資料の調査、調査、また先行研究の批判的分析などゼミ時間以外にも研究を進めること。 原則遅刻しない、無断で欠席をしない、自分の発表時には万が一休まないといけなときは他の人にかわってもらうなど皆に迷惑がかからないように対応し、ゼミで決めた約束を守ること。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業中に指定する。</p>		
<p>5. 教科書 授業中に指定する。</p>		
<p>6. 参考書 『日本とフランスのカワイイ文化論—なぜ私たちは「かわいい」くなければならなかったのか』高馬京子、明石書店 2025年 『越境するファッションスタディーズ』高木陽子・高馬京子編ナカニシヤ出版2021、 叢書セミオトポス第14巻『転生するモード：デジタルメディア時代のファッション』新曜社（日本記号学会編）2019年 『越境する文化・コンテンツ・想像力』松本健太郎・高馬京子共編、ナカニシヤ出版2018年、 「クリティカル・ワード：ファッションスタディーズ 私と社会と衣服の関係」 蘆田裕史、藤嶋陽子、宮脇千絵編著（高馬京子共著）、フィルム・アート社 2021</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法 都度ゼミ内でフィードバック及び指導を行う。</p>		
<p>8. 成績評価の方法 平常点（ゼミへの参加）50%、口頭発表25%、レポート提出25%</p>		
<p>9. その他 英語、フランス語の論文を読むこともあるので語学力があることが望ましい。</p>		

問題分析ゼミナールⅡ		高馬 京子
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
<p>◆ 研究テーマ 越境するファッション・スタディーズ：メディアにおいて構築/伝達されるファッションとジェンダー表象をめぐる諸問題をフランスとの比較で考える</p>		
<p>1. 授業の概要・到達目標 本ゼミは4年次のファッション、ジェンダー、メディアに関する卒業論文完成を目標に研究をすすめるゼミである。 ファッション（服飾流行）とはその時代毎の社会の問題、課題を顕著に映し出すと同時に、社会を変容させようとする装置ともなりうることがある。本ゼミナールでは、そのようなトランスボーダーに形成、伝達、再編され続ける表象文化としての現代ファッションとそれらを装置としてメディアで形成される規範としてのジェンダー表象について考察する。「流行現象」「マス/デジタルメディア」「オウンド・メディア、アード・メディア、ペイド・メディア」「言説」「表象」「超域（トランスボーダー）」「デジタル/アイデンティティ」「規範としてのジェンダー像」を主要キーワードに、人文科学の視点からファッション、ジェンダーに関する事例調査、事例研究、関連方法論に関する先行研究の批判的講読を通して、 ① [現代の複雑なメディア環境におけるファッション形成と伝達の仕組み] ② [ファッションとジェンダー] ③ [海外ファッションの異文化表象] ④ フランスにおける/フランスとの比較でみるファッションとジェンダー⑤多様性、包摂性、公平性からみるファッション⑥ファッションとルッキズム⑦ファッションとアプロプリエーション⑧ファッションとジャポニスム等、ファッションについて関する具体的な研究計画（現状、問、仮説、分析）をたて、研究を実践する。3年次は調査・研究を中心に、現代ファッション、ジェンダーとメディアの関係を多角的に分析し口頭発表、論文をまとめる準備を行うことを目標とする。特に秋学期は、先行研究の批判的講読を前提に、問い・仮説をたて、事例調査を行いその分析結果をまとめ、卒論、執筆準備を行う。</p>		
<p>2. 授業内容 第1回（夏休みの準備の後）研究計画発表、調整 第2回 研究計画に基づく調査、分析 (1) 第3回 研究計画に基づく調査、分析 (2) 第4回 研究計画に基づく調査、分析 (3) 第5回 研究計画に基づく調査、分析 (4) 第6回 研究計画に基づく調査、分析 (5) 第7回 中間発表 第8回 研究計画に基づく調査、分析 (6) 第9回 研究計画に基づく調査、分析 (7) 第10回 研究計画に基づく調査、分析 (8) 第11回 口頭発表準備、論文執筆 (1) 第12回 口頭発表準備、論文執筆 (2) 第13回 口頭発表準備、論文執筆 (3) 第14回 口頭発表、論文提出</p>		
<p>3. 履修上の注意 本ゼミはファッションとジェンダーの批判的研究で卒業論文執筆提出を目指すゼミである。 研究課題に関する資料の調査、調査、また先行研究の批判的分析などゼミ時間以外にも研究を進めること。 原則遅刻しない、無断で欠席をしない、自分の発表時には万が一休まないといけなときは他の人にかわってもらうなど皆に迷惑がかからないように対応し、ゼミで決めた約束を守ること。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業中に指定する。</p>		
<p>5. 教科書 授業中に指定する。</p>		
<p>6. 参考書 『日本とフランスのカワイイ文化論—なぜ私たちは「かわいい」くなければならなかったのか』高馬京子、明石書店 2025年 『越境するファッションスタディーズ』高木陽子・高馬京子編ナカニシヤ出版2021、 叢書セミオトポス第14巻『転生するモード：デジタルメディア時代のファッション』新曜社（日本記号学会編）2019年 『越境する文化・コンテンツ・想像力』松本健太郎・高馬京子共編、ナカニシヤ出版2018</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法 都度ゼミ内でフィードバック及び指導を行う。</p>		
<p>8. 成績評価の方法 平常点（ゼミへの参加）50%、口頭発表25%、レポート提出25%</p>		
<p>9. その他 英語、フランス語の論文を読むこともあるので語学力があることが望ましい。</p>		

問題解決ゼミナールⅠ		高馬 京子
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
<p>◆ 研究テーマ 越境するファッション・スタディーズ：メディアにおいて構築/伝達されるファッション・ジェンダー表象をめぐる諸問題をフランスとの比較で考える</p>		
<p>1. 授業の概要・到達目標 ファッション（服飾流行）とはその時代毎の社会の問題、課題を顕著に映し出すと同時に、社会を変容させようとする装置ともなりうる可能性がある。本ゼミナールでは、フランスとの比較でそのようなトランスボーダーに形成、伝達、再編され続ける表象文化としての現代ファッションとそれらを装置としてメディアで形成される規範としてのジェンダー表象について考察する。「流行現象」「マス/デジタルメディア」「オウンド・メディア、アード・メディア、ペイド・メディア」「言説」「表象」「超域（トランスボーダー）」「デジタル/アイデンティティ」「規範としてのジェンダー像」を主要キーワードに、人文科学の視点からファッション、ジェンダーに関する事例調査、事例研究、関連方法論に関する先行研究の批判的講読を通して、 ① [現代の複雑なメディア環境におけるファッション形成と伝達の仕組み] ② [ファッションとジェンダー] ③ [海外ファッションの異文化表象] ④ フランスにおける/フランスとの比較でみるファッションとジェンダー⑤多様性、包摂性、公平性からみるファッション⑥ファッションとルッキズム⑦ファッションとアプロプリエーション⑧ファッションとジャポニスム等、ファッションについて関する具体的な研究計画（現状、問、仮説、分析）をたて、研究を実践する。3年次の調査・研究を中心に、現代ファッション、ジェンダーとメディアの関係を多角的に分析し、単独で卒論を完成させることを目標とする。</p>		
<p>2. 授業内容 第1回 インタロダクション、グループ分け、年間計画の紹介 第2回 関連先行研究の発表 (1) 第3回 関連先行研究の発表 (2) 第4回 関連先行研究の発表 (3) 第5回 関連先行研究の発表 (4) 第6回 関連先行研究の発表、研究計画案の立案 (1) 第7回 関連先行研究の発表、研究計画案の立案 (2) 第8回 関連先行研究の発表、研究計画案の立案 (3) 第9回 関連先行研究の発表、研究計画案の立案 (4) 第10回 春学期（研究計画案中間報告）発表準備 (1) 第11回 春学期（研究計画案中間報告）発表準備 (2) 第12回 春学期（研究計画案中間報告）発表準備 (3) 第13回 春学期（研究計画案中間報告）発表 第14回 フィールドワーク</p>		
<p>3. 履修上の注意 このゼミはファッション、ジェンダー、メディアを批判的に考え、卒業論文を執筆、完成されることを目標とするゼミである。メディアにおける現代ファッション及びジェンダー表象に関して研究し、発表、論文を執筆、完成させることを単位取得の前提とする。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容 研究課題に関する資料の調査、調査、また先行研究の批判的分析などゼミ時間以外にも研究を進めること。</p>		
<p>5. 教科書 授業中に指定する。</p>		
<p>6. 参考書 『ファッションと哲学』 アニエス・ロカモラ&アネケ・スメリク編（蘆田裕史監訳）フィルム・アート社（2018） 『Rethinking Fashion Globalization』 ed.S.CHEANGE, E.DEGREEF and TKAGI Y., Bloomsbury: 2021 『Fashion and Cultural Studies』 S.Kaiser and D.Green, Bloomsbury: 2022</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法 都度ゼミ内でフィードバック及び指導を行う。</p>		
<p>8. 成績評価の方法 平常点（ゼミへの参加）50%、口頭発表25%、レポート提出25%</p>		
<p>9. その他 英語、フランス語の論文を読むこともあるので語学力があることが望ましい。</p>		

問題解決ゼミナールⅡ		高馬 京子
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
<p>◆ 研究テーマ 越境するファッション・スタディーズ：メディアにおいて構築/伝達されるファッション・ジェンダー表象をめぐる諸問題をフランスとの比較で考える</p>		
<p>1. 授業の概要・到達目標 ファッション（服飾流行）とはその時代毎の社会の問題、課題を顕著に映し出すと同時に、社会を変容させようとする装置ともなりうる可能性がある。本ゼミナールでは、フランスとの比較でそのようなトランスボーダーに形成、伝達、再編され続ける表象文化としての現代ファッションとそれらを装置としてメディアで形成される規範としてのジェンダー表象について考察する。「流行現象」「マス/デジタルメディア」「オウンド・メディア、アード・メディア、ペイド・メディア」「言説」「表象」「超域（トランスボーダー）」「デジタル/アイデンティティ」「規範としてのジェンダー像」を主要キーワードに、人文科学の視点からファッション、ジェンダーに関する事例調査、事例研究、関連方法論に関する先行研究の批判的講読を通して、 ① [現代の複雑なメディア環境におけるファッション形成と伝達の仕組み] ② [ファッションとジェンダー] ③ [海外ファッションの異文化表象] ④ フランスにおける/フランスとの比較でみるファッションとジェンダー⑤多様性、包摂性、公平性からみるファッション⑥ファッションとルッキズム⑦ファッションとアプロプリエーション⑧ファッションとジャポニスム等、ファッションについて関する具体的な研究計画（現状、問、仮説、分析）をたて、研究を実践する。3年次の調査・研究を中心に、現代ファッション、ジェンダーとメディアの関係を多角的に分析し、単独で卒論を完成させることを目標とする。</p>		
<p>2. 授業内容 第1回（夏休みの準備の後）研究計画発表、調整 第2回 研究計画に基づく調査、分析 (1) 第3回 研究計画に基づく調査、分析 (2) 第4回 研究計画に基づく調査、分析 (3) 第5回 研究計画に基づく調査、分析 (4) 第6回 研究計画に基づく調査、分析 (5) 第7回 中間発表 第8回 研究計画に基づく調査、分析 (6) 第9回 研究計画に基づく調査、分析 (7) 第10回 研究計画に基づく調査、分析 (8) 第11回 口頭発表準備、論文執筆 (1) 第12回 口頭発表準備、論文執筆 (2) 第13回 口頭発表準備、論文執筆 (3) 第14回 口頭発表、論文提出</p>		
<p>3. 履修上の注意 このゼミはファッション、ジェンダー、メディアを批判的に考え、卒業論文を執筆、完成されることを目標とするゼミである。メディアにおける現代ファッション及びジェンダー表象に関して研究し、発表、論文を執筆、完成させることを単位取得の前提とする。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容 研究課題に関する資料の調査、調査、また先行研究の批判的分析などゼミ時間以外にも研究を進めること。</p>		
<p>5. 教科書 授業中に指定する。</p>		
<p>6. 参考書 『越境するファッションスタディーズ』 高木陽子・高馬京子編ナカニシヤ出版（2021） 『ファッションと哲学』 アニエス・ロカモラ&アネケ・スメリク編（蘆田裕史監訳）フィルム・アート社（2018） 『Rethinking Fashion Globalization』 ed.S.CHEANGE, E.DEGREEF and TKAGI Y., Bloomsbury: 2021 『Fashion and Cultural Studies』 S.Kaiser and D.Green, Bloomsbury: 2022</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法 都度ゼミ内でフィードバック及び指導を行う。</p>		
<p>8. 成績評価の方法 平常点（ゼミへの参加）50%、口頭発表25%、レポート提出25%</p>		
<p>9. その他 英語、フランス語の論文を読むこともあるので語学力があることが望ましい。</p>		

問題分析ゼミナールⅠ		後藤 晶
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
<p>◆ 研究テーマ 行動経済学・実験経済学から行動社会科学・実験社会科学へ：人間の行動と社会制度を考える</p>		
<p>1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 人間は必ずしも経済的に合理的な行動を行うとは限らない。従来の経済学は極端な経済的合理性に基づいた行動を仮定してきた。しかし、そのような合理性への反証として調査・実験による研究が積み重なりつつある。行動経済学はこれらの実証研究から現実の人間行動を元に新たな理論構築を試みる学問であり、社会問題へのアプローチを試みるものである。そして、行動経済学の知見は我々の日常生活のさまざまなところで活用されているし、経済学の範疇に留まらず、様々な社会科学領域に物議を呼んでいる。 本研究室では、行動経済学や実験経済学の観点を踏まえて、科学技術・情報社会の将来を見据えながら人間行動・社会問題を分析し、新たな時代の社会のあり方について検討する。人間の行動と社会をテーマに、自身が考える課題に対してさまざまな学問分野の知見を踏まえた学際的な研究を期待する。 この分野の研究においては、「実験」が有力な手法の1つである。ゼミの中では、実際に調査・実験を行い、定量的な観察を行って研究を積み重ねていく。必要に応じて統計的手法についてもフォローする。これからの時代には適切にデータと向き合う能力が必要不可欠であると考えており、ゼミ活動の中で涵養していきたい。 本研究室に関連するキーワードの例は以下の通りである。もちろん、以下に記載がないテーマも大歓迎である。 経済・政策・消費・行動・実験・調査・制度・フレーミング効果・ヒューリスティック・プロスペクト理論・モラル・感情・協力・利他・信頼・平等・公平・進化・ビッグデータ・機械学習・人工知能・ゲーム理論・メカニズムデザイン・ゲーム実験・幸福・ナッジ・スラッジ・仕掛け・モチベーション・ゲーミフィケーション・実験社会科学・計算社会科学・社会神経科学・フィールド実験・ランダム化比較試験・R・Python・クラウドソーシング・ダークパターンetc...</p> <p>問題分析ゼミナールⅠでは主に知識の定着を目的として、複数の教科書の輪読を行い、基本的な調査・実験に関わる一連のプロセスを学ぶ。また、場合によっては自治体や企業との共同研究プロジェクトに参画してもらうこともあり得る。 【到達目標】</p>		
<p>1. 行動経済学・実験経済学に関する基礎知識を習得する 2. 自身の研究テーマについて、口頭・文章等で他者にわかりやすく説明できる 3. グループワークを通じて、円滑にコミュニケーションできるようになる</p>		
<p>2. 授業内容 第1回 春学期 インTRODクシオン 第2回 文献発表(1) 第3回 文献発表(2) 第4回 文献発表(3) 第5回 文献発表(4) 第6回 文献発表(5) 第7回 グループワーク(1) 第8回 グループワーク(2) 第9回 グループワーク(3) 第10回 グループワーク(4) 第11回 グループワーク(5) 第12回 グループワーク(6) 第13回 グループワーク(7) 第14回 春学期 総括</p>		
<p>3. 履修上の注意 ・履修者との相談により、様々なアクティビティ(合宿、他大学との合同ゼミetc.)等を視野に入れている。学びの機会には積極的に参加して欲しい。 ・入ゼミまでに『クリエイティブ・コミュニケーション(行動経済学)』を履修済みであることが望ましいが、必要条件ではない。 ・『不確実性下の人間行動』『情報と経済行動』ならびに『データ解析論I/II』を3年次に履修することが望ましい。</p>		
<p>4. 準備学習(予習・復習等)の内容 ・発表担当者は、発表準備を欠かさないこと。文献発表時には発表担当者ではなくとも該当部分の予習をしてもらうこと。</p>		
<p>5. 教科書 ・『行動経済学入門』、筒井義郎、佐々木俊一郎、山根承子、グレッグ・マルデワ(東洋経済新報社)</p>		
<p>6. 参考書 ・『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』、伊藤公一朗(光文社) ・『原因と結果』の経済学——データから真実を見抜く思考法』、中室牧子、津川友介(ダイヤモンド社) ・『モラルの起源——実験社会科学からの問い』、亀田達也(岩波新書) その他、ゼミ内で紹介する。</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法 講義内では全体に対するフィードバックを行う。 また、レポート等の課題については個別のフィードバックを行う。</p>		
<p>8. 成績評価の方法 平常点(発表・ディスカッションへの参画状況):50%、アウトプット(グループ発表・論文等):50%</p>		
<p>9. その他</p>		

問題分析ゼミナールⅡ		後藤 晶
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
<p>◆ 研究テーマ 行動経済学・実験経済学から行動社会科学・実験社会科学へ：人間の行動と社会制度を考える</p>		
<p>1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 人間は必ずしも経済的に合理的な行動を行うとは限らない。従来の経済学は極端な経済的合理性に基づいた行動を仮定してきた。しかし、そのような合理性への反証として調査・実験による研究が積み重なりつつある。行動経済学はこれらの実証研究から現実の人間行動を元に新たな理論構築を試みる学問であり、社会問題へのアプローチを試みるものである。そして、行動経済学の知見は我々の日常生活のさまざまなところで活用されているし、経済学の範疇に留まらず、様々な社会科学領域に物議を呼んでいる。 本研究室では、行動経済学や実験経済学の観点を踏まえて、科学技術・情報社会の将来を見据えながら人間行動・社会問題を分析し、新たな時代の社会のあり方について検討する。人間の行動と社会をテーマに、自身が考える課題に対してさまざまな学問分野の知見を踏まえた学際的な研究を期待する。 この分野の研究においては、「実験」が有力な手法の1つである。ゼミの中では、実際に調査・実験を行い、定量的な観察を行って研究を積み重ねていく。必要に応じて統計的手法についてもフォローする。これからの時代には適切にデータと向き合う能力が必要不可欠であると考えており、ゼミ活動の中で涵養していきたい。 本研究室に関連するキーワードの例は以下の通りである。もちろん、以下に記載がないテーマも大歓迎である。 経済・政策・消費・行動・実験・調査・制度・フレーミング効果・ヒューリスティック・プロスペクト理論・モラル・感情・協力・利他・信頼・平等・公平・進化・ビッグデータ・機械学習・人工知能・ゲーム理論・メカニズムデザイン・ゲーム実験・幸福・ナッジ・スラッジ・仕掛け・モチベーション・ゲーミフィケーション・実験社会科学・計算社会科学・社会神経科学・フィールド実験・ランダム化比較試験・R・Python・クラウドソーシング・ダークパターンetc...</p> <p>問題分析ゼミナールⅡでは春学期に獲得した知識をもとに、さらなる調査・実験プロジェクトを中心として展開し、各自の主体的な問題意識に基づいた社会現象の解明、社会問題の解決を試みる。また、場合によっては自治体や企業との共同研究プロジェクトに参画してもらうこともあり得る。 【到達目標】</p>		
<p>1. 行動経済学・実験経済学に関する実践的な基礎知識を習得する 2. 自身の研究テーマについて、口頭・文章等で他者にわかりやすく説明できる 3. グループワークを通じて、円滑にコミュニケーションできるようになる</p>		
<p>2. 授業内容 第1回 秋学期 インTRODクシオン 第2回 グループワーク(1) 第3回 グループワーク(2) 第4回 グループワーク(3) 第5回 グループワーク(4) 第6回 グループワーク(5) 第7回 中間発表 第8回 グループワーク(6) 第9回 グループワーク(7) 第10回 グループワーク(8) 第11回 グループワーク(9) 第12回 グループワーク(10) 第13回 最終発表 第14回 年間 総括</p>		
<p>3. 履修上の注意 ・履修者との相談により、様々なアクティビティ(合宿、他大学との合同ゼミetc.)等を視野に入れている。学びの機会には積極的に参加して欲しい。 ・入ゼミまでに『クリエイティブ・コミュニケーション(行動経済学)』を履修済みであることが望ましいが、必要条件ではない。 ・『不確実性下の人間行動』『情報と経済行動』ならびに『データ解析論I/II』を3年次に履修することが望ましい。</p>		
<p>4. 準備学習(予習・復習等)の内容 ・発表担当者は、発表準備を欠かさないこと。文献発表時には発表担当者ではなくとも該当部分の予習をしてもらうこと。</p>		
<p>5. 教科書 ・『行動経済学入門』、筒井義郎、佐々木俊一郎、山根承子、グレッグ・マルデワ(東洋経済新報社)</p>		
<p>6. 参考書 ・『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』、伊藤公一朗(光文社) ・『原因と結果』の経済学——データから真実を見抜く思考法』、中室牧子、津川友介(ダイヤモンド社) ・『モラルの起源——実験社会科学からの問い』、亀田達也(岩波新書) その他、ゼミ内で紹介する。</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法 講義内では全体に対するフィードバックを行う。 また、レポート等の課題については個別のフィードバックを行う。</p>		
<p>8. 成績評価の方法 平常点(発表・ディスカッションへの参画状況):50%、アウトプット(グループ発表・論文等):50%</p>		
<p>9. その他</p>		

問題解決ゼミナールⅠ		後藤 晶
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
<p>◆ 研究テーマ 行動経済学・実験経済学から行動社会科学・実験社会科学へ：人間の行動と社会制度を考える</p>		
<p>1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 人間は必ずしも経済的に合理的な行動を行うとは限らない。従来の経済学は極端な経済的合理性に基づいた行動を仮定してきた。しかし、そのような合理性への反証として調査・実験による研究が積み重なりつつある。行動経済学はこれらの実証研究から現実の人間行動を元に新たな理論構築を試みる学問であり、社会問題へのアプローチを試みるものである。そして、行動経済学の知見は我々の日常生活のさまざまなところで活用されているし、経済学の範疇に留まらず、様々な社会科学領域に物議を呼んでいる。 本研究室では、行動経済学や実験経済学の観点を踏まえて、科学技術・情報社会の将来を見据えながら人間行動・社会問題を分析し、新たな時代の社会のあり方について検討する。人間の行動と社会をテーマに、自身が考える課題に対してさまざまな学問分野の知見を踏まえた学際的な研究を期待する。 この分野の研究においては、「実験」が有力な手法の1つである。ゼミの中では、実際に調査・実験を行い、定量的な観察を行って研究を積み重ねていく。必要に応じて統計的手法についてもフォローする。これからの時代には適切にデータと向き合う能力が必要不可欠であると考えており、ゼミ活動の中で涵養していきたい。 本研究室に関連するキーワードの例は以下の通りである。もちろん、以下に記載がないテーマも大歓迎である。 経済・政策・消費・行動・実験・調査・制度・フレーミング効果・ヒューリスティック・プロスペクト理論・モラル・感情・協力・利他・信頼・平等・公平・進化・ビッグデータ・機械学習・人工知能・ゲーム理論・メカニズムデザイン・ゲーム実験・幸福・ナッジ・スラッジ・仕掛け・モチベーション・ゲーミフィケーション・実験社会科学・計算社会科学・社会神経科学・フィールド実験・ランダム化比較試験・R・Python・クラウドソーシング・ダークパターンetc...</p> <p>問題解決ゼミナールⅠは各個人での研究と各学生からの研究に対するフィードバックを中心として進める。履修者は自身の問題意識に基づいて研究計画を立案し、遂行していくことになる。履修する学生にはしっかりとした発表準備と同時に、自身の研究について考えるつもりで真剣に他者へのフィードバックを望む。また、場合によっては自治体や企業との共同研究プロジェクトに参画してもらうこともあり得る。</p> <p>【到達目標】 1. 行動経済学・実験経済学に関する実践的な応用知識を習得する 2. 他者の発表について、行動経済学・実験経済学の観点から適切なフィードバックをすることができる 3. 行動経済学会等、諸学会・研究会へのアウトプットを行う</p>		
<p>2. 授業内容 第1回 春学期 イントロダクション 第2回 個人研究計画発表(1) 第3回 個人研究計画発表(2) 第4回 中間発表(1) 第5回 中間発表(2) 第6回 中間発表(3) 第7回 中間発表(4) 第8回 中間発表(5) 第9回 中間発表(6) 第10回 中間発表(7) 第11回 中間発表(8) 第12回 中間発表(9) 第13回 中間発表(10) 第14回 春学期 総括</p>		
<p>3. 履修上の注意 ・単位取得には、卒業論文やそれに代替する論文、ないしは外部への発表などの研究成果を求める。 ・履修者との相談により、長期休暇中のアクティビティ(合宿、他大学との合同ゼミ等)等を視野に入れている。学びの機会には積極的に参加して欲しい。 ・3年次に『不確実性下の人間行動』『情報と経済行動』ならびに『データ解析論I/II』を履修していることが望ましい。</p>		
<p>4. 準備学習(予習・復習等)の内容 ・発表担当者は、発表準備を欠かさないこと。また、研究は日々の積み重ねが重要である。発表の担当がない時であっても、各自で研究を積み重ねること。</p>		
<p>5. 教科書 ・『行動経済学の現在と未来』、依田高典、岡田克彦[編著](日本評論社)</p>		
<p>6. 参考書 ・『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』、伊藤公一朗(光文社) ・『「原因と結果」の経済学——データから真実を見抜く思考法』、中室牧子、津川友介(ダイヤモンド社) ・『モラルの起源——実験社会科学からの問い』、亀田達也(岩波新書) その他、ゼミ内で紹介する。</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法 講義内では全体に対するフィードバックを行う。 また、レポート等の課題については個別のフィードバックを行う。</p>		
<p>8. 成績評価の方法 平常点(発表・ディスカッションへの参画状況など):50%、アウトプット(卒業論文、もしくはそれに代替する論文等):50%</p>		
<p>9. その他</p>		

問題解決ゼミナールⅡ		後藤 晶
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
<p>◆ 研究テーマ 行動経済学・実験経済学から行動社会科学・実験社会科学へ：人間の行動と社会制度を考える</p>		
<p>1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 人間は必ずしも経済的に合理的な行動を行うとは限らない。従来の経済学は極端な経済的合理性に基づいた行動を仮定してきた。しかし、そのような合理性への反証として調査・実験による研究が積み重なりつつある。行動経済学はこれらの実証研究から現実の人間行動を元に新たな理論構築を試みる学問であり、社会問題へのアプローチを試みるものである。そして、行動経済学の知見は我々の日常生活のさまざまなところで活用されているし、経済学の範疇に留まらず、様々な社会科学領域に物議を呼んでいる。 本研究室では、行動経済学や実験経済学の観点を踏まえて、科学技術・情報社会の将来を見据えながら人間行動・社会問題を分析し、新たな時代の社会のあり方について検討する。人間の行動と社会をテーマに、自身が考える課題に対してさまざまな学問分野の知見を踏まえた学際的な研究を期待する。 この分野の研究においては、「実験」が有力な手法の1つである。ゼミの中では、実際に調査・実験を行い、定量的な観察を行って研究を積み重ねていく。必要に応じて統計的手法についてもフォローする。これからの時代には適切にデータと向き合う能力が必要不可欠であると考えており、ゼミ活動の中で涵養していきたい。 本研究室に関連するキーワードの例は以下の通りである。もちろん、以下に記載がないテーマも大歓迎である。 経済・政策・消費・行動・実験・調査・制度・フレーミング効果・ヒューリスティック・プロスペクト理論・モラル・感情・協力・利他・信頼・平等・公平・進化・ビッグデータ・機械学習・人工知能・ゲーム理論・メカニズムデザイン・ゲーム実験・幸福・ナッジ・スラッジ・仕掛け・モチベーション・ゲーミフィケーション・実験社会科学・計算社会科学・社会神経科学・フィールド実験・ランダム化比較試験・R・Python・クラウドソーシング・ダークパターンetc...</p> <p>問題解決ゼミナールⅡにおいても、問題解決ゼミナールⅠと同様に各個人での研究と各学生からの研究に対するフィードバックを中心として進める。履修者は自身の問題意識に基づいて研究計画を立案し、遂行していくことになる。履修する学生にはしっかりとした発表準備と同時に、自身の研究について考えるつもりで真剣に他者へのフィードバックを望む。また、場合によっては自治体や企業との共同研究プロジェクトに参画してもらうこともあり得る。</p> <p>【到達目標】 1. 行動経済学・実験経済学に関する実践的な応用知識を習得する 2. 他者の発表について、行動経済学・実験経済学の観点から適切なフィードバックをすることができる 3. 行動経済学会等、諸学会・研究会へのアウトプットを行う 特に行動経済学会学生論文コンテストへの挑戦をはじめとして、積極的に外部での発表を期待する。</p>		
<p>2. 授業内容 第1回 秋学期 イントロダクション 第2回 中間発表(1) 第3回 中間発表(2) 第4回 中間発表(3) 第5回 中間発表(4) 第6回 中間発表(5) 第7回 中間発表(6) 第8回 中間発表(7) 第9回 中間発表(8) 第10回 最終発表(1) 第11回 最終発表(2) 第12回 最終発表(3) 第13回 最終発表(4) 第14回 年間 総括</p>		
<p>3. 履修上の注意 ・単位取得には、卒業論文やそれに代替する論文、ないしは外部への発表などの研究成果を求める。 ・履修者との相談により、長期休暇中のアクティビティ(合宿、他大学との合同ゼミ等)等を視野に入れている。学びの機会には積極的に参加して欲しい。 ・3年次に『不確実性下の人間行動』『情報と経済行動』ならびに『データ解析論I/II』を履修していることが望ましい。</p>		
<p>4. 準備学習(予習・復習等)の内容 ・発表担当者は、発表準備を欠かさないこと。また、研究は日々の積み重ねが重要である。発表の担当がない時であっても、各自で研究を積み重ねること。</p>		
<p>5. 教科書 ・『行動経済学の現在と未来』、依田高典、岡田克彦[編著](日本評論社)</p>		
<p>6. 参考書 ・『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』、伊藤公一朗(光文社) ・『「原因と結果」の経済学——データから真実を見抜く思考法』、中室牧子、津川友介(ダイヤモンド社) ・『モラルの起源——実験社会科学からの問い』、亀田達也(岩波新書) その他、ゼミ内で紹介する。</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法 講義内では全体に対するフィードバックを行う。 また、レポート等の課題については個別のフィードバックを行う。</p>		
<p>8. 成績評価の方法 平常点(発表・ディスカッションへの参画状況など):50%、アウトプット(卒業論文、もしくはそれに代替する論文等):50%</p>		
<p>9. その他</p>		

問題分析ゼミナールⅠ		小林 秀行
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 災害と社会		
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要 地震、津波、噴火、暴風、竜巻、豪雨、洪水、豪雪、地滑り、さらには早魃や蝗害、感染症にいたるまで、われわれの社会は自然の脅威と向き合い続けてきました。災害を学ぶというとき、多くの場合はこのような自然現象がもたらす被害やその発生メカニズムに目を向けることになるとは思いますが、災害はそれらの自然現象に襲われた社会のあり方にも大きな影響を受けるということはあまり意識されません。しかし、改めて考えてみれば、災害に関連して言われる、(事前の)防災、避難、救助・救命、避難生活、復旧、復興、といった活動は人々や社会によって行われるものです。ですから当然、社会のあり方が変われば、このような活動もまた変わり、それによって災害の姿というのにも影響を受けることになります。本ゼミナールでは、このような「災害」と呼ばれる現象を中心としながら、われわれの社会はどのような特徴をもっているのかということを中心にすることを目的とします。災害に関連するものであれば(もしくは、関連させられるのであれば)、テーマについては受講生の皆さんが自由に設定して構いません。 到達目標 学習の到達目標は、「問いを自ら立てられるようになること」「資料に基づいた論理的思考および記述ができるようになること」「自身の考えを他者に明確に伝えられる資料作成および説明ができるようになること」「集団での議論を調整しながら課題への理解を深めていく会議運営ができるようになること」の4点とします。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 課題動画に関する議論① 第3回 課題動画に関する議論② 第4回 課題動画に関する議論③ 第5回 課題動画に関する議論④ 第6回 課題動画に関する議論⑤ 第7回 課題動画に関する議論⑥ 第8回 課題動画に関する議論⑦ 第9回 課題動画に関する議論⑧ 第10回 課題動画に関する議論⑨ 第11回 課題動画に関する議論⑩ 第12回 課題動画に関する議論⑪ 第13回 課題動画に関する議論⑫ 第14回 春学期のまとめ		
3. 履修上の注意 入室者は、3年次「リスク社会論」「情報コミュニケーション学(コーディネーター:小林)」を受講してください。研究テーマは学生各自の関心にそって3年秋学期に決定します。ゼミナール形式の講義であるため、学生の自発的な参加・学習を前提としています。態度不良・遅刻・欠席・課題の未提出等には厳格に対応するので注意すること。課題文献以外の文献購読、夏合宿やフィールドワークを課すことがありますので、休日や課外の時間を多少、割いていただく必要があります。また、当ゼミナールは一定程度の読書量を求めますので、本を読むのがあまり得意ではないという方にはお勧めできません。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 【予習】学期内に複数回の報告が課されるため、講義外の時間も活用しながら、計画的に準備を進めておくこと。春学期については課題動画を視聴していることを前提として議論を行うので、あらかじめ視聴したうえで、十分に内容を把握し、自らの主張を整理をしたうえで講義にのぞむこと。 【復習】各週で行われた議論を振り返り、自身の発見・疑問・着眼点を整理したうえで、有益な発見があれば、積極的な導入を図ること。		
5. 教科書 特になし。教員作成の講義動画を用いる。		
6. 参考書 『シリーズ災害と社会1 災害社会学入門』大矢根淳・浦野正樹・田中淳・吉井博明編、弘文堂		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 ゼミナールへの出席および貢献(70%)、学期末課題の提出(30%)		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅡ		小林 秀行
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 災害と社会		
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要 地震、津波、噴火、暴風、竜巻、豪雨、洪水、豪雪、地滑り、さらには早魃や蝗害、感染症にいたるまで、われわれの社会は自然の脅威と向き合い続けてきました。災害を学ぶというとき、多くの場合はこのような自然現象がもたらす被害やその発生メカニズムに目を向けることになるとは思いますが、災害はそれらの自然現象に襲われた社会のあり方にも大きな影響を受けるということはあまり意識されません。しかし、改めて考えてみれば、災害に関連して言われる、(事前の)防災、避難、救助・救命、避難生活、復旧、復興、といった活動は人々や社会によって行われるものです。ですから当然、社会のあり方が変われば、このような活動もまた変わり、それによって災害の姿というのにも影響を受けることになります。本ゼミナールでは、このような「災害」と呼ばれる現象を中心としながら、われわれの社会はどのような特徴をもっているのかということを中心にすることを目的とします。災害に関連するものであれば(もしくは、関連させられるのであれば)、テーマについては受講生の皆さんが自由に設定して構いません。 到達目標 学習の到達目標は、「問いを自ら立てられるようになること」「資料に基づいた論理的思考および記述ができるようになること」「自身の考えを他者に明確に伝えられる資料作成および説明ができるようになること」「集団での議論を調整しながら課題への理解を深めていく会議運営ができるようになること」の4点とします。		
2. 授業内容 第1回 研究課題の検討① 第2回 研究課題の検討② 第3回 卒業論文の中間報告① 第4回 卒業論文の中間報告② 第5回 卒業論文の中間報告③ 第6回 卒業論文の中間報告④ 第7回 卒業論文の中間報告⑤ 第8回 卒業論文の中間報告⑥ 第9回 卒業論文の中間報告⑦ 第10回 卒業論文の中間報告⑧ 第11回 卒業論文の中間報告⑨ 第12回 卒業論文の中間報告⑩ 第13回 卒業論文の中間報告⑪ 第14回 学年末合同報告会		
3. 履修上の注意 入室者は、3年次「リスク社会論」「情報コミュニケーション学(コーディネーター:小林)」を受講してください。研究テーマは学生各自の関心にそって3年秋学期に決定します。ゼミナール形式の講義であるため、学生の自発的な参加・学習を前提としています。態度不良・遅刻・欠席・課題の未提出等には厳格に対応するので注意すること。課題文献以外の文献購読、夏合宿やフィールドワークを課すことがありますので、休日や課外の時間を多少、割いていただく必要があります。また、当ゼミナールは一定程度の読書量を求めますので、本を読むのがあまり得意ではないという方にはお勧めできません。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 【予習】学期内に複数回の報告が課されるため、講義外の時間も活用しながら、計画的に準備を進めておくこと。春学期については課題動画を視聴していることを前提として議論を行うので、あらかじめ視聴したうえで、十分に内容を把握し、自らの主張を整理をしたうえで講義にのぞむこと。 【復習】各週で行われた議論を振り返り、自身の発見・疑問・着眼点を整理したうえで、有益な発見があれば、積極的な導入を図ること。		
5. 教科書 特になし。教員作成の講義動画を用いる。		
6. 参考書 『シリーズ災害と社会1 災害社会学入門』大矢根淳・浦野正樹・田中淳・吉井博明編、弘文堂		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 ゼミナールへの出席および貢献(70%)、学期末課題の提出(30%)		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅠ		小林 秀行
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 災害と社会		
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要 地震、津波、噴火、暴風、竜巻、豪雨、洪水、豪雪、地滑り、さらには早魃や蝗害、感染症にいたるまで、われわれの社会は自然の脅威と向き合い続けてきました。災害を学ぶというとき、多くの場合はこのような自然現象がもたらす被害やその発生メカニズムに目を向けることになると思いますが、災害はそれらの自然現象に襲われた社会のあり方にも大きな影響を受けるということはあまり意識されません。しかし、改めて考えてみれば、災害に関連していわれる、(事前の)防災、避難、救助・救命、避難生活、復旧、復興、慰霊、伝承といった活動は人々や社会によって行われるものです。ですから当然、社会のあり方が変われば、このような活動もまた変わり、それによって災害の姿というのにも影響を受けることになります。本ゼミナールでは、このような「災害」と呼ばれる現象を中心としながら、われわれの社会はどのような特徴をもっているのかということを中心にすることを目的とします。本ゼミナールはそのための方法として、2年間をかけて卒業論文の執筆に取り組んでいただくこととしています。卒業論文のテーマは「災害と社会」に関連するものについて、指導教員と相談のうえで決定できればと思います。開講後、受講生は自身の研究テーマについて、およそ3週間に1回程度の中間報告を繰り返し、指導教員や他の受講生からのコメントを受けながら研究を進めていくことになります。したがって、活動としてはその大部分が講義時間外での個人作業となり、講義時間はその作業内容を全体で共有するための時間となります。ゼミナール単位でのグループワークなどは行いません。 到達目標 学習の到達目標は、「問いを自ら立てられるようになること」「資料に基づいた論理的思考および記述ができるようになること」「自身の考えを他者に明確に伝えられる資料作成および説明ができるようになること」「他者の主張に対して議論の助けとなるような質問を行えるようになること」の4点とします。		
2. 授業内容 第1回 研究計画書の検討① 第2回 研究計画書の検討② 第3回 中間報告<第1回目>① 第4回 中間報告<第1回目>② 第5回 中間報告<第1回目>③ 第6回 中間報告<第2回目>① 第7回 中間報告<第2回目>② 第8回 中間報告<第2回目>③ 第9回 中間報告<第3回目>① 第10回 中間報告<第3回目>② 第11回 中間報告<第3回目>③ 第12回 中間報告<第4回目>① 第13回 中間報告<第4回目>② 第14回 中間報告<第4回目>③		
3. 履修上の注意 4年生の皆さんは、卒業後の進路選択を含め様々なことに時間を必要とするものと思います。本ゼミナールでは、卒業論文執筆について自らスケジュールを立て、活動を着実に進めて頂くという前提のもとで、1年間のなかでどのような時間配分を行うかについて柔軟に対応しますので、何かある場合は速やかに担当教員へ相談をしてください。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 【予習】就職活動などで作業を中断せざるを得ない可能性も含めて、1年間のスケジュールを具体的な形で立て、定期的に自身の作業の進み具合と照らし合わせながら作業を進めること。 【復習】各週の中間発表で行われた議論を振り返り、自身の発見・疑問・着眼点を整理したうえで、自身の研究に有益な発見があれば、積極的な導入を図ること。		
5. 教科書 特になし。		
6. 参考書 『シリーズ災害と社会 1 災害社会学入門』大矢根淳・浦野正樹・田中淳・吉井博明編、弘文堂		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 ゼミナールへの出席および貢献(30%)、学期末課題(春学期)／卒業論文(秋学期)の提出(70%)		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅡ		小林 秀行
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 災害と社会		
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要 地震、津波、噴火、暴風、竜巻、豪雨、洪水、豪雪、地滑り、さらには早魃や蝗害、感染症にいたるまで、われわれの社会は自然の脅威と向き合い続けてきました。災害を学ぶというとき、多くの場合はこのような自然現象がもたらす被害やその発生メカニズムに目を向けることになると思いますが、災害はそれらの自然現象に襲われた社会のあり方にも大きな影響を受けるということはあまり意識されません。しかし、改めて考えてみれば、災害に関連していわれる、(事前の)防災、避難、救助・救命、避難生活、復旧、復興、慰霊、伝承といった活動は人々や社会によって行われるものです。ですから当然、社会のあり方が変われば、このような活動もまた変わり、それによって災害の姿というのにも影響を受けることになります。本ゼミナールでは、このような「災害」と呼ばれる現象を中心としながら、われわれの社会はどのような特徴をもっているのかということを中心にすることを目的とします。本ゼミナールはそのための方法として、2年間をかけて卒業論文の執筆に取り組んでいただくこととしています。卒業論文のテーマは「災害と社会」に関連するものについて、指導教員と相談のうえで決定できればと思います。開講後、受講生は自身の研究テーマについて、およそ3週間に1回程度の中間報告を繰り返し、指導教員や他の受講生からのコメントを受けながら研究を進めていくことになります。したがって、活動としてはその大部分が講義時間外での個人作業となり、講義時間はその作業内容を全体で共有するための時間となります。ゼミナール単位でのグループワークなどは行いません。 到達目標 学習の到達目標は、「問いを自ら立てられるようになること」「資料に基づいた論理的思考および記述ができるようになること」「自身の考えを他者に明確に伝えられる資料作成および説明ができるようになること」「他者の主張に対して議論の助けとなるような質問を行えるようになること」の4点とします。		
2. 授業内容 第1回 中間報告<第5回目>① 第2回 中間報告<第5回目>② 第3回 中間報告<第5回目>③ 第4回 中間報告<第6回目>① 第5回 中間報告<第6回目>② 第6回 中間報告<第6回目>③ 第7回 中間報告<第7回目>① 第8回 中間報告<第7回目>② 第9回 中間報告<第7回目>③ 第10回 中間報告<第8回目>① 第11回 中間報告<第8回目>② 第12回 中間報告<第8回目>③ 第13回 まとめ 第14回 学年末報告会		
3. 履修上の注意 4年生の皆さんは、卒業後の進路選択を含め様々なことに時間を必要とするものと思います。本ゼミナールでは、卒業論文執筆について自らスケジュールを立て、活動を着実に進めて頂くという前提のもとで、1年間のなかでどのような時間配分を行うかについて柔軟に対応しますので、何かある場合は速やかに担当教員へ相談をしてください。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 【予習】就職活動などで作業を中断せざるを得ない可能性も含めて、1年間のスケジュールを具体的な形で立て、定期的に自身の作業の進み具合と照らし合わせながら作業を進めること。 【復習】各週の中間発表で行われた議論を振り返り、自身の発見・疑問・着眼点を整理したうえで、自身の研究に有益な発見があれば、積極的な導入を図ること。		
5. 教科書 特になし。		
6. 参考書 『シリーズ災害と社会 1 災害社会学入門』大矢根淳・浦野正樹・田中淳・吉井博明編、弘文堂		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 ゼミナールへの出席および貢献(30%)、学期末課題(春学期)／卒業論文(秋学期)の提出(70%)		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅠ		齋藤 航
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 現代の法律トラブルと模擬法律相談		
1. 授業の概要・到達目標 ・授業の概要 この授業では、実践的な法律知識と法的思考力、それを用いて他者とコミュニケーションをする能力の習得を目的とします。授業は主に、法律知識習得回、および模擬法律相談回（準備回含む）で構成されます。 法律知識習得回では、前半に、入門書等の法律関係の文章を読み、それを整理・要約・説明することで法律の基礎的な知識と文章理解力、説明能力を養います。後半では、前半で扱った内容に関連した、実際に世間で話題となった、将来巻き込まれる可能性がある具体的な法律トラブルを検討し、グループディスカッションの形で、法的な論点の抽出や解決方法について議論します。 これらのプロセスを数回程度繰り返した後、それぞれのテーマに関連した模擬法律相談を学生同士で設計・実施します。具体的には、学生自らが法律トラブルの相談者と回答者になったつもりで、自らシナリオを考えたうえで実際にロールプレイを行い、法的知識の実践的な応用力やコミュニケーション能力を高めます。 授業外での課題や卒業論文等は基本的に課しません。その代わりに、全員が全ての回に、積極的に授業に参加することを前提としています。そのため遅刻・欠席については講義科目よりも厳しく評価します（就職活動等によるやむを得ない欠席については配慮します）。 受講者の希望に応じて、裁判所見学や模擬裁判等の実施も検討します。 ・到達目標 この授業では、①法律関係の文章を読んで理解する能力、②理解した内容を簡潔に要約する能力、③その内容を人にわかりやすく説明する能力、④学んだ知識を用いて実際の問題を検討する能力、の4つの能力を身につけることが目標です。		
2. 授業内容 第1回 インTRODクシヨソ 第2回 法律知識習得①民事 第3回 法律知識習得②民事 第4回 模擬法律相談シナリオ作成① 第5回 模擬法律相談① 第6回 法律知識習得③民事 第7回 法律知識習得④民事 第8回 模擬法律相談シナリオ作成② 第9回 模擬法律相談② 第10回 法律知識習得⑤刑事 第11回 法律知識習得⑥刑事 第12回 模擬法律相談シナリオ作成③ 第13回 模擬法律相談③ 第14回 まとめ ※これらは前年度の実施例をもとに作成したものであり、実際の内容は学生の希望や時事問題を踏まえて決定する。民事においては、民法、商法、会社法、労働法、倒産法など、刑事においては刑法、刑事訴訟法を主に扱う。		
3. 履修上の注意 模擬法律相談実施回など、一部を3年生・4年生合同で行うことがある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 問題を考えるのに必要な知識は基本的に授業時間中に扱い、授業中に完結するようにします。授業時間中は集中して取り組んでください。		
5. 教科書 学生の習熟度を踏まえて決定する。 2025年度は『法学部、ロースクール、司法研修所で学ぶ法律知識 [第2版] 主要10法と法的思考のエッセンス』（ダイヤモンド社、2021年）を使用した。		
6. 参考書 指定しない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に行う。		
8. 成績評価の方法 授業中の発言および議論への参加状況（100%） 毎回の授業活動への参加が特に重要となるため、遅刻・欠席については特に厳しく評価する。		
9. その他 2年生までに市民社会と法Ⅰ・Ⅱを履修しており、3・4年のうちに財産と法Ⅰ・Ⅱも履修することが望ましい。		

問題分析ゼミナールⅡ		齋藤 航
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 現代の法律トラブルと模擬法律相談		
1. 授業の概要・到達目標 ・授業の概要 この授業では、実践的な法律知識と法的思考力、それを用いて他者とコミュニケーションをする能力の習得を目的とします。授業は主に、法律知識習得回、および模擬法律相談回（準備回含む）で構成されます。 法律知識習得回では、前半に、入門書等の法律関係の文章を読み、それを整理・要約・説明することで法律の基礎的な知識と文章理解力、説明能力を養います。後半では、前半で扱った内容に関連した、実際に世間で話題となった、将来巻き込まれる可能性がある具体的な法律トラブルを検討し、グループディスカッションの形で、法的な論点の抽出や解決方法について議論します。 これらのプロセスを数回程度繰り返した後、それぞれのテーマに関連した模擬法律相談を学生同士で設計・実施します。具体的には、学生自らが法律トラブルの相談者と回答者になったつもりで、自らシナリオを考えたうえで実際にロールプレイを行い、法的知識の実践的な応用力やコミュニケーション能力を高めます。 授業外での課題や卒業論文等は基本的に課しません。その代わりに、全員が全ての回に、積極的に授業に参加することを前提としています。そのため遅刻・欠席については講義科目よりも厳しく評価します（就職活動等によるやむを得ない欠席については配慮します）。 受講者の希望に応じて、裁判所見学や模擬裁判等の実施も検討します。 ・到達目標 この授業では、①法律関係の文章を読んで理解する能力、②理解した内容を簡潔に要約する能力、③その内容を人にわかりやすく説明する能力、④学んだ知識を用いて実際の問題を検討する能力、の4つの能力を身につけることが目標です。		
2. 授業内容 第1回 インTRODクシヨソ 第2回 法律知識習得①民事 第3回 法律知識習得②民事 第4回 模擬法律相談シナリオ作成① 第5回 模擬法律相談① 第6回 法律知識習得③民事 第7回 法律知識習得④民事 第8回 模擬法律相談シナリオ作成② 第9回 模擬法律相談② 第10回 法律知識習得⑤刑事 第11回 法律知識習得⑥刑事 第12回 模擬法律相談シナリオ作成③ 第13回 模擬法律相談③ 第14回 まとめ ※これらは前年度の実施例をもとに作成したものであり、実際の内容は学生の希望や時事問題を踏まえて決定する。民事においては、民法、商法、会社法、労働法、倒産法など、刑事においては刑法、刑事訴訟法を主に扱う。		
3. 履修上の注意 模擬法律相談実施回など、一部を3年生・4年生合同で行うことがある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 問題を考えるのに必要な知識は基本的に授業時間中に扱い、授業中に完結するようにします。授業時間中は集中して取り組んでください。		
5. 教科書 学生の習熟度を踏まえて決定する。 2025年度は『法学部、ロースクール、司法研修所で学ぶ法律知識 [第2版] 主要10法と法的思考のエッセンス』（ダイヤモンド社、2021年）を使用した。		
6. 参考書 指定しない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に行う。		
8. 成績評価の方法 授業中の発言および議論への参加状況（100%） 授業中の活動への参加が重要なため、遅刻・欠席については特に厳しく評価する。		
9. その他 2年生までに市民社会と法Ⅰ・Ⅱを履修しており、3・4年のうちに財産と法Ⅰ・Ⅱも履修することが望ましい。		

問題解決ゼミナールⅠ		齋藤 航
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 現代の法律トラブルと模擬法律相談		
1. 授業の概要・到達目標 ・授業の概要 この授業では、実践的な法律知識と法的思考力、それを用いて他者とコミュニケーションをする能力の習得を目的とします。授業は主に、法律知識習得回、および模擬法律相談回（準備回含む）で構成されます。 法律知識習得回では、前半に、入門書等の法律関係の文章を読み、それを整理・要約・説明することで法律の基礎的な知識と文章理解力、説明能力を養います。後半では、前半で扱った内容に関連した、実際に世間で話題となった、将来巻き込まれる可能性がある具体的な法律トラブルを検討し、グループディスカッションの形で、法的な論点の抽出や解決方法について議論します。 これらのプロセスを数回程度繰り返した後、それぞれのテーマに関連した模擬法律相談を学生同士で設計・実施します。具体的には、学生自らが法律トラブルの相談者と回答者になったつもりで、自らシナリオを考えたうえで実際にロールプレイを行い、法的知識の実践的な応用力やコミュニケーション能力を高めます。 授業外での課題や卒業論文等は基本的に課しません。その代わりに、全員が全ての回に、積極的に授業に参加することを前提としています。そのため遅刻・欠席については講義科目よりも厳しく評価します（就職活動等によるやむを得ない欠席については配慮します）。 受講者の希望に応じて、裁判所見学や模擬裁判等の実施も検討します。 ・到達目標 この授業では、①法律関係の文章を読んで理解する能力、②理解した内容を簡潔に要約する能力、③その内容を人にわかりやすく説明する能力、④学んだ知識を用いて実際の問題を検討する能力、の4つの能力を身につけることが目標です。		
2. 授業内容 第1回 インTRODクシヨソ 第2回 法律知識習得①民事 第3回 法律知識習得②民事 第4回 模擬法律相談シナリオ作成① 第5回 模擬法律相談① 第6回 法律知識習得③民事 第7回 法律知識習得④民事 第8回 模擬法律相談シナリオ作成② 第9回 模擬法律相談② 第10回 法律知識習得⑤刑事 第11回 法律知識習得⑥刑事 第12回 模擬法律相談シナリオ作成③ 第13回 模擬法律相談③ 第14回 まとめ ※これらは前年度の実施例をもとに作成したものであり、実際の内容は学生の希望や時事問題を踏まえて決定する。民事においては、民法、商法、会社法、労働法、倒産法など、刑事においては刑法、刑事訴訟法を主に扱う。		
3. 履修上の注意 模擬法律相談実施回など、一部を3年生・4年生合同で行うことがある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 問題を考えるのに必要な知識は基本的に授業時間中に扱い、授業中に完結するようにします。授業時間中は集中して取り組んでください。		
5. 教科書 学生の習熟度を踏まえて決定する。 2025年度は『法学部、ロースクール、司法研修所で学ぶ法律知識 [第2版] 主要10法と法的思考のエッセンス』（ダイヤモンド社、2021年）を使用した。		
6. 参考書 指定しない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に行う。		
8. 成績評価の方法 授業中の発言および議論への参加状況（100%） 毎回の授業活動への参加が特に重要となるため、遅刻・欠席については特に厳しく評価する。		
9. その他 2年生までに市民社会と法Ⅰ・Ⅱを履修しており、3・4年のうちに財産と法Ⅰ・Ⅱも履修することが望ましい。		

問題解決ゼミナールⅡ		齋藤 航
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 現代の法律トラブルと模擬法律相談		
1. 授業の概要・到達目標 ・授業の概要 この授業では、実践的な法律知識と法的思考力、それを用いて他者とコミュニケーションをする能力の習得を目的とします。授業は主に、法律知識習得回、および模擬法律相談回（準備回含む）で構成されます。 法律知識習得回では、前半に、入門書等の法律関係の文章を読み、それを整理・要約・説明することで法律の基礎的な知識と文章理解力、説明能力を養います。後半では、前半で扱った内容に関連した、実際に世間で話題となった、将来巻き込まれる可能性がある具体的な法律トラブルを検討し、グループディスカッションの形で、法的な論点の抽出や解決方法について議論します。 これらのプロセスを数回程度繰り返した後、それぞれのテーマに関連した模擬法律相談を学生同士で設計・実施します。具体的には、学生自らが法律トラブルの相談者と回答者になったつもりで、自らシナリオを考えたうえで実際にロールプレイを行い、法的知識の実践的な応用力やコミュニケーション能力を高めます。 授業外での課題や卒業論文等は基本的に課しません。その代わりに、全員が全ての回に、積極的に授業に参加することを前提としています。そのため遅刻・欠席については講義科目よりも厳しく評価します（就職活動等によるやむを得ない欠席については配慮します）。 受講者の希望に応じて、裁判所見学や模擬裁判等の実施も検討します。 ・到達目標 この授業では、①法律関係の文章を読んで理解する能力、②理解した内容を簡潔に要約する能力、③その内容を人にわかりやすく説明する能力、④学んだ知識を用いて実際の問題を検討する能力、の4つの能力を身につけることが目標です。		
2. 授業内容 第1回 インTRODクシヨソ 第2回 法律知識習得①民事 第3回 法律知識習得②民事 第4回 模擬法律相談シナリオ作成① 第5回 模擬法律相談① 第6回 法律知識習得③民事 第7回 法律知識習得④民事 第8回 模擬法律相談シナリオ作成② 第9回 模擬法律相談② 第10回 法律知識習得⑤刑事 第11回 法律知識習得⑥刑事 第12回 模擬法律相談シナリオ作成③ 第13回 模擬法律相談③ 第14回 まとめ ※これらは前年度の実施例をもとに作成したものであり、実際の内容は学生の希望や時事問題を踏まえて決定する。民事においては、民法、商法、会社法、労働法、倒産法など、刑事においては刑法、刑事訴訟法を主に扱う。		
3. 履修上の注意 模擬法律相談実施回など、一部を3年生・4年生合同で行うことがある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 問題を考えるのに必要な知識は基本的に授業時間中に扱い、授業中に完結するようにします。授業時間中は集中して取り組んでください。		
5. 教科書 学生の習熟度を踏まえて決定する。 2025年度は『法学部、ロースクール、司法研修所で学ぶ法律知識 [第2版] 主要10法と法的思考のエッセンス』（ダイヤモンド社、2021年）を使用した。		
6. 参考書 指定しない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に行う。		
8. 成績評価の方法 授業中の発言および議論への参加状況（100%） 毎回の授業活動への参加が特に重要となるため、遅刻・欠席については特に厳しく評価する。		
9. その他 2年生までに市民社会と法Ⅰ・Ⅱを履修しており、3・4年のうちに財産と法Ⅰ・Ⅱも履修することが望ましい。		

問題分析ゼミナールⅠ		坂本 祐太
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 「ことば」に関する研究：身近な不思議を発見・分析・解決する		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】本ゼミナールでは、我々にとって身近な存在である「ことば」を扱います。我々は日頃意識することなく「ことば」を上手く使いこなして他者とコミュニケーションを円滑にとっていますが、その背景には様々な不思議が潜んでいます。春学期の問題分析ゼミナールⅠでは、「ことば」の音声的な側面に焦点を当てて活動を行います。『(ポケモンの)「カビゴン」って、もし「カビゴン」だったら軽くて弱そう..』【「すくすく (sukusuku)」と「くすくす (kusukusu)」は同じ母音と子音から成り立っているけど意味が違う】『(くだけた文脈で)「すごい (sugoi)」は「すげー (sugee)」、「寒い (samui)」は「さみー (samii)」になるけど、「すぎー (sugii)」「さめー (samee)」にはならない』など、我々からしたら当たり前のように感じる事例ばかりですが、これらはどれも日頃我々が意識することのない「ことば」の規則に則っています。春学期は、このような具体的な事例を広く考察する中で、普段我々が何気なく使っている「ことば」に様々な不思議が存在することを認識することを目標とします。秋学期の問題分析ゼミナールⅡでは、「ことば」と社会及び「ことば」と認知の繋がりに焦点を当てて活動を行います。前者の枠組みでは、「ことば」とジェンダー・方言・文化・世代・上下関係などの繋がりを理解した上で、例えば「どうして『ドラえもん』の中でジャイアンは「おれ」、しずかちゃんは「あたし」、のび太とスネ夫は「はく」という呼称を使うのか」など具体的な事例を考える中で、我々の生きる社会の中で「ことば」がどのような役割を持つのかについて理解を深めることを目標とします。後者の枠組みでは、「異なる言語の話者は、世界を異なる仕方で見ているのか」という疑問に対し、言語学・発達心理学・認知心理学・脳科学の観点からどのような議論がなされているのかを概観します。具体的には「色の名前が2つしかないバブアニューギニアのダニ語の話者と日本語の話者では色に関して認識が異なるのか」「ヒトの子どもの認識は、ことばを学習することでどのように変わるのか」などの疑問について考察する中で、「ことば」が我々の認知にどのような影響を持つのかについて理解を深めることを目標とします。【到達目標】『1. 「ことば」の様々な側面（特に音声・社会・認知との繋がりに）について理解を深め、それらの枠組みの中で研究を行う手法を身につける』『2. 専門的な内容を、自分の言葉で他者に分かりやすく伝える力を身につける』		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 「ことば」の音声分野の概観 (1) 第3回 「ことば」の音声分野の概観 (2) 第4回 教科書1の発表とディスカッション (1) 第5回 教科書1の発表とディスカッション (2) 第6回 教科書1の発表とディスカッション (3) 第7回 教科書1の発表とディスカッション (4) 第8回 教科書1の発表とディスカッション (5) 第9回 教科書2の発表とディスカッション (6) 第10回 教科書2の発表とディスカッション (1) 第11回 教科書2の発表とディスカッション (2) 第12回 教科書2の発表とディスカッション (3) 第13回 教科書2の発表とディスカッション (4) 第14回 問題分析ゼミナールⅠの振り返り		
3. 履修上の注意 ゼミナール活動のために、3年次に「自然言語の生成モデル」「言語使用とディスコース」(共に駿河台科目)を履修していただきます。ディスカッションやグループワークを多く取り入れるので、積極的な姿勢を持って参加してください。また、発表の担当になった場合は、責任を持って準備を行ってください。		
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 ＜予習＞教科書の精読・発表の準備 ＜復習＞ゼミ内で学んだこと及び疑問に思ったことの整理		
5. 教科書 【春1】『オノマトペの謎—ピカチュウからモフモフまで』窪園晴夫・編 (岩波書店) 【春2】『ネーミングの言語学—ハリ—ポッターからドラゴンボールまで』窪園晴夫 (開拓社) 【秋1】『日本語は「空気」が決める—社会言語学入門』石黒圭 (光文社新書) 【秋2】『ことばと思考』今井むつみ (岩波新書)		
6. 参考書 【春】『音とことばの不思議な世界—メイド声から英語の達人まで』川原繁人 (岩波書店) 【春】『「あ」は「い」より大きい?—音象徴で学ぶ音声学入門』川原繁人 (ひつじ書房) 【秋】『新敬語「マジヤバイっす」—社会言語学の観点から』中村桃子 (白澤社) 【秋】『ことばの発達の謎を解く』今井むつみ (ちくまフリー新書)		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ゼミナール科目なので個別に対応を行う。		
8. 成績評価の方法 【春】【秋】発表50%、ゼミナール活動への貢献度50%		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅡ		坂本 祐太
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 「ことば」に関する研究：身近な不思議を発見・分析・解決する		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】本ゼミナールでは、我々にとって身近な存在である「ことば」を扱います。我々は日頃意識することなく「ことば」を上手く使いこなして他者とコミュニケーションを円滑にとっていますが、その背景には様々な不思議が潜んでいます。春学期の問題分析ゼミナールⅠでは、「ことば」の音声的な側面に焦点を当てて活動を行います。『(ポケモンの)「カビゴン」って、もし「カビゴン」だったら軽くて弱そう..』【「すくすく (sukusuku)」と「くすくす (kusukusu)」は同じ母音と子音から成り立っているけど意味が違う】『(くだけた文脈で)「すごい (sugoi)」は「すげー (sugee)」、「寒い (samui)」は「さみー (samii)」になるけど、「すぎー (sugii)」「さめー (samee)」にはならない』など、我々からしたら当たり前のように感じる事例ばかりですが、これらはどれも日頃我々が意識することのない「ことば」の規則に則っています。春学期は、このような具体的な事例を広く考察する中で、普段我々が何気なく使っている「ことば」に様々な不思議が存在することを認識することを目標とします。秋学期の問題分析ゼミナールⅡでは、「ことば」と社会及び「ことば」と認知の繋がりに焦点を当てて活動を行います。前者の枠組みでは、「ことば」とジェンダー・方言・文化・世代・上下関係などの繋がりを理解した上で、例えば「どうして『ドラえもん』の中でジャイアンは「おれ」、しずかちゃんは「あたし」、のび太とスネ夫は「はく」という呼称を使うのか」など具体的な事例を考える中で、我々の生きる社会の中で「ことば」がどのような役割を持つのかについて理解を深めることを目標とします。後者の枠組みでは、「異なる言語の話者は、世界を異なる仕方で見ているのか」という疑問に対し、言語学・発達心理学・認知心理学・脳科学の観点からどのような議論がなされているのかを概観します。具体的には「色の名前が2つしかないバブアニューギニアのダニ語の話者と日本語の話者では色に関して認識が異なるのか」「ヒトの子どもの認識は、ことばを学習することでどのように変わるのか」などの疑問について考察する中で、「ことば」が我々の認知にどのような影響を持つのかについて理解を深めることを目標とします。【到達目標】『1. 「ことば」の様々な側面（特に音声・社会・認知との繋がりに）について理解を深め、それらの枠組みの中で研究を行う手法を身につける』『2. 専門的な内容を、自分の言葉で他者に分かりやすく伝える力を身につける』		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 「ことば」と社会・認知の繋がりの概観 (1) 第3回 「ことば」と社会・認知の繋がりの概観 (2) 第4回 教科書1の発表とディスカッション (1) 第5回 教科書1の発表とディスカッション (2) 第6回 教科書1の発表とディスカッション (3) 第7回 教科書1の発表とディスカッション (4) 第8回 教科書1の発表とディスカッション (5) 第9回 教科書2の発表とディスカッション (6) 第10回 教科書2の発表とディスカッション (7) 第11回 教科書2の発表とディスカッション (8) 第12回 教科書2の発表とディスカッション (9) 第13回 教科書2の発表とディスカッション (10) 第14回 問題分析ゼミナールⅡの振り返り		
3. 履修上の注意 ゼミナール活動のために、3年次に「自然言語の生成モデル」「言語使用とディスコース」(共に駿河台科目)を履修していただきます。ディスカッションやグループワークを多く取り入れるので、積極的な姿勢を持って参加してください。また、発表の担当になった場合は、責任を持って準備を行ってください。		
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 ＜予習＞教科書の精読・発表の準備 ＜復習＞ゼミ内で学んだこと及び疑問に思ったことの整理		
5. 教科書 【春1】『オノマトペの謎—ピカチュウからモフモフまで』窪園晴夫・編 (岩波書店) 【春2】『ネーミングの言語学—ハリ—ポッターからドラゴンボールまで』窪園晴夫 (開拓社) 【秋1】『日本語は「空気」が決める—社会言語学入門』石黒圭 (光文社新書) 【秋2】『ことばと思考』今井むつみ (岩波新書)		
6. 参考書 【春】『音とことばの不思議な世界—メイド声から英語の達人まで』川原繁人 (岩波書店) 【春】『「あ」は「い」より大きい?—音象徴で学ぶ音声学入門』川原繁人 (ひつじ書房) 【秋】『新敬語「マジヤバイっす」—社会言語学の観点から』中村桃子 (白澤社) 【秋】『ことばの発達の謎を解く』今井むつみ (ちくまフリー新書)		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ゼミナール科目なので個別に対応を行う。		
8. 成績評価の方法 【春】【秋】発表50%、ゼミナール活動への貢献度50%		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅠ		坂本 祐太
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 「ことば」に関する研究：身近な不思議を発見・分析・解決する		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】本ゼミナールでは、我々にとって身近な存在である「ことば」を扱います。我々は日頃意識することなく「ことば」を上手く使いこなして他者とコミュニケーションを円滑にとっていますが、その背景には様々な不思議が潜んでいます。春学期の問題解決ゼミナールⅠでは、「ことば」の使用に焦点を当てます。受講生の皆さんの興味関心に合わせて教科書を選定する予定ですが、大まかな枠組みとして①談話分析、②批判的談話分析、③語用論の3つに焦点を当てます。①では、ライトノベルやケータイ小説などの日本のポピュラーカルチャーを通して日本語に特徴的な文体などを理解し、我々の生きる日本文化を読み解くことを目標とし、②では、社説・報道記事・雑誌・政治家の発言などの「ことば」から、いわゆる「ゆるキャラ」「萌えキャラ」と呼ばれるものに至るまで、その背後に潜んだイデオロギー・ポリティクスを読み解くことを目標とします。③では、「『今日飲みに行かない?—明日1限で朝早いんだよ。』のようなあいまいな会話がなぜ成り立つのか(協調の原理)」「本音と建前がなぜ存在するのか?タメ口はどのような機能を持つのか?(ポライトネス理論)」などについて理解を深め、我々の「ことば」を介した日常のコミュニケーションがどのような土台に基づいているのかについて理解を深めることを目標とします。また、春学期及び夏休みを通して、各自が卒業研究で扱う「ことば」に関する研究テーマを設定した上で、予備的な調査を行っていただく予定です。 秋学期の問題解決ゼミナールⅡでは、自分が設定したテーマに関して研究を進め、卒業研究としてゼミ内レポートを執筆する作業を行います。ゼミナールの時間は卒業研究の進捗状況を各自報告する場とし、教員及び他のゼミ生からのフィードバックを通して研究を深めてもらいます。また、ゼミナールの時間以外でも適宜教員との個別面談を行い、卒業研究のサポートを行います。 【到達目標】『1. 「ことば」の様々な側面(特に語用論)及び談話分析について理解を深め、それらの枠組みの中で研究を行う手法を身につける』『2. 専門的な知識を活かして、他者に適切なフィードバックを行う力を身につける』『3. 自ら「ことば」の不思議を発見し、それを分析・解決した上で、ゼミ内レポートの形で卒業研究としてまとめる』		
2. 授業内容 第1回 インTRODクダクション(教科書の選定など) 第2回 教科書の発表とディスカッション(1) 第3回 教科書の発表とディスカッション(2) 第4回 教科書の発表とディスカッション(3) 第5回 教科書の発表とディスカッション(4) 第6回 教科書の発表とディスカッション(5) 第7回 教科書の発表とディスカッション(6) 第8回 教科書の発表とディスカッション(7) 第9回 教科書の発表とディスカッション(8) 第10回 教科書の発表とディスカッション(9) 第11回 教科書の発表とディスカッション(10) 第12回 教科書の発表とディスカッション(11) 第13回 教科書の発表とディスカッション(12) 第14回 問題解決ゼミナールⅠの振り返り		
3. 履修上の注意 ディスカッションやグループワークを多く取り入れるので、積極的な姿勢を持って参加してください。また、発表の担当になった場合は、責任を持って準備を行ってください。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 ＜予習＞教科書の精読・発表の準備 ＜復習＞ゼミ内で学んだこと及び疑問に思ったことの整理		
5. 教科書 春学期の問題解決ゼミナールⅠでは、初回のゼミで受講生の興味関心を伺いながら、例えば以下の参考書に記載したのから2冊程度を教科書として選定します。受講人数や受講生の興味関心によって、同時並行で2冊以上使用する可能性もあります。		
6. 参考書 『ライトノベル表現論—会話・創造・遊びのディスコースの考察』泉子・K・メイナード(明治書院) 『ケータイ小説語考—私語りの会話体文章を探る』泉子・K・メイナード(明治書院) 『恋するふたりの「感情ことば」—ドラマ表現の分析と日本語論』泉子・K・メイナード(くろしお出版) 『ディスコース分析の実践—メディアが作る「現実」を明らかにする』石上文正編(くろしお出版) 『ウソと欺瞞のレトリック—ポスト・トゥルース時代の語用論』山本英一(関西大学出版部) 『対人関係の言語学—ポライトネスからの眺め』福田一		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ゼミナール科目なので個別に対応を行う。		
8. 成績評価の方法 【春】発表50%、ゼミナール活動への貢献度50% 【秋】発表20%、ゼミナール活動への貢献度30%、卒業研究50%		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅡ		坂本 祐太
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 「ことば」に関する研究：身近な不思議を発見・分析・解決する		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】本ゼミナールでは、我々にとって身近な存在である「ことば」を扱います。我々は日頃意識することなく「ことば」を上手く使いこなして他者とコミュニケーションを円滑にとっていますが、その背景には様々な不思議が潜んでいます。春学期の問題解決ゼミナールⅠでは、「ことば」の使用に焦点を当てます。受講生の皆さんの興味関心に合わせて教科書を選定する予定ですが、大まかな枠組みとして①談話分析、②批判的談話分析、③語用論の3つに焦点を当てます。①では、ライトノベルやケータイ小説などの日本のポピュラーカルチャーを通して日本語に特徴的な文体などを理解し、我々の生きる日本文化を読み解くことを目標とし、②では、社説・報道記事・雑誌・政治家の発言などの「ことば」から、いわゆる「ゆるキャラ」「萌えキャラ」と呼ばれるものに至るまで、その背後に潜んだイデオロギー・ポリティクスを読み解くことを目標とします。③では、「『今日飲みに行かない?—明日1限で朝早いんだよ。』のようなあいまいな会話がなぜ成り立つのか(協調の原理)」「本音と建前がなぜ存在するのか?タメ口はどのような機能を持つのか?(ポライトネス理論)」などについて理解を深め、我々の「ことば」を介した日常のコミュニケーションがどのような土台に基づいているのかについて理解を深めることを目標とします。また、春学期及び夏休みを通して、各自が卒業研究で扱う「ことば」に関する研究テーマを設定した上で、予備的な調査を行っていただく予定です。 秋学期の問題解決ゼミナールⅡでは、自分が設定したテーマに関して研究を進め、卒業研究としてゼミ内レポートを執筆する作業を行います。ゼミナールの時間は卒業研究の進捗状況を各自報告する場とし、教員及び他のゼミ生からのフィードバックを通して研究を深めてもらいます。また、ゼミナールの時間以外でも適宜教員との個別面談を行い、卒業研究のサポートを行います。 【到達目標】『1. 「ことば」の様々な側面(特に語用論)及び談話分析について理解を深め、それらの枠組みの中で研究を行う手法を身につける』『2. 専門的な知識を活かして、他者に適切なフィードバックを行う力を身につける』『3. 自ら「ことば」の不思議を発見し、それを分析・解決した上で、ゼミ内レポートの形で卒業研究としてまとめる』		
2. 授業内容 第1回 卒業研究の進捗報告(1) 第2回 卒業研究の進捗報告(2) 第3回 卒業研究の進捗報告(3) 第4回 卒業研究の進捗報告(4) 第5回 卒業研究の進捗報告(5) 第6回 卒業研究の進捗報告(6) 第7回 卒業研究の進捗報告(7) 第8回 卒業研究の進捗報告(8) 第9回 卒業研究の進捗報告(9) 第10回 卒業研究の進捗報告(10) 第11回 卒業研究の発表(1) 第12回 卒業研究の発表(2) 第13回 卒業研究の発表(3) 第14回 ゼミナール活動の総括		
3. 履修上の注意 ディスカッションやグループワークを多く取り入れるので、積極的な姿勢を持って参加してください。また、発表の担当になった場合は、責任を持って準備を行ってください。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 ＜予習＞教科書の精読・発表の準備 ＜復習＞ゼミ内で学んだこと及び疑問に思ったことの整理		
5. 教科書 春学期の問題解決ゼミナールⅠでは、初回のゼミで受講生の興味関心を伺いながら、例えば以下の参考書に記載したのから2冊程度を教科書として選定します。受講人数や受講生の興味関心によって、同時並行で2冊以上使用する可能性もあります。		
6. 参考書 『ライトノベル表現論—会話・創造・遊びのディスコースの考察』泉子・K・メイナード(明治書院) 『ケータイ小説語考—私語りの会話体文章を探る』泉子・K・メイナード(明治書院) 『恋するふたりの「感情ことば」—ドラマ表現の分析と日本語論』泉子・K・メイナード(くろしお出版) 『ディスコース分析の実践—メディアが作る「現実」を明らかにする』石上文正編(くろしお出版) 『ウソと欺瞞のレトリック—ポスト・トゥルース時代の語用論』山本英一(関西大学出版部) 『対人関係の言語学—ポライトネスからの眺め』福田一		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ゼミナール科目なので個別に対応を行う。		
8. 成績評価の方法 【春】発表50%、ゼミナール活動への貢献度50% 【秋】発表20%、ゼミナール活動への貢献度30%、卒業研究50%		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅠ		島田 剛
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
<p>◆ 研究テーマ コーヒーから見る国際経済と国内のまちづくり～グローバルの実践としての神保町コーヒー・プロジェクト</p>		
<p>1. 授業の概要・到達目標 (概要) 島田ゼミは2020年から「神保町コーヒー・プロジェクト」を実施してきている。この研究プロジェクトは神保町や福島浜通りのまちづくりに取り組むとともに、途上国のコーヒーの生産者の生活を改善することを目的としている。神保町を対象にしているのはこの地域がアマゾンや電子書籍の台頭といった経済のデジタル化によって大きな影響を受ける可能性のある地域だからである。神保町は古書街として有名であるだけでなく、古くからある喫茶店と新しいタイプのカフェのどちらも地域にあり、多様なコーヒーの楽しみ方を提供できる場所でもある。こうしたことからゼミ生はコーヒーと書店の相乗効果を考慮しながら、新たな街づくりに取り組み提案を作成する。同時により途上国のコーヒー生産者に寄り添ったコーヒー取引のあり方について調査し、こちらについても提案を作成する。こうした取り組みによりグローバルな視点を持ちつつ、同時にローカルな課題に取り組む問題意識を養うことを目的としている。こうした、一貫で福島浜通りの災害復興地域のまちづくりに取り組んでおり2024年度には大学生観光まちづくりコンテストにも参加した。 (到達目標) ゼミ生はコーヒーやチョコレートという財を通じて、国際経済と都市のあり方について理解を深め、実際に政策提案する力を身につける。</p>		
<p>2. 授業内容 第1回 インタロダクション：神保町コーヒープロジェクトとは何か？ 第2回 デジタル経済化と都市 — 神保町のあり方 第3回 コーヒーと世界経済 第4回 フェアな貿易とは何か？そもそもフェアとはなんだろうか？ 第5回 各班ごとの活動計画作成 第6回 各班の目標とスケジュール案の発表 第7回 研究発表① 第8回 研究発表② 第9回 研究発表③ 第10回 神保町フィールド調査① 第11回 インタビュー調査① 第12回 各班による提案書方向性準備 第13回 各班による提案書方向性発表・討議 第14回 春学期のまとめと夏合宿打ち合わせ</p>		
<p>3. 履修上の注意 「国際経済論」の授業を併せて履修することががぞましい。ゼミは人数に応じて3年・4年合同で実施するか別に実施するかを決定します。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容 「ミクロ経済学」「マクロ経済学」を履修していることが望ましい。</p>		
<p>5. 教科書 ゼミの中で指示します。</p>		
<p>6. 参考書 - 島田剛 (2025) 「いまを読み解くマクロ経済学 — 成長・失業・インフレを基礎から学ぶ」(日本評論社) - 島田剛 (2023) 「ミクロ経済学への招待(ライブラリ経済学への招待2)」(新世社) - 島田剛 (2022) 「第21章 コーヒーカップの向こう側 - フェアな経済とは何か」(明治大学情報コミュニケーション学部 (編) 『情報コミュニケーション学への招待』、ミネルヴァ書房) - ジョセフ スティグリッツ・島田 剛 (2020) 「グローバル化する世界における経済学者の役割とは」、経済セミナー 2020年2・3月号</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法</p>		
<p>8. 成績評価の方法 いかに主体的にゼミ活動したか(貢献度、70%)と他のゼミ生との協調度(30%)を評価します。4回以上の欠席した場合は以後の参加は認めません(遅刻は欠席0.5回とカウントします)。</p>		
<p>9. その他</p>		

問題分析ゼミナールⅡ		島田 剛
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
<p>◆ 研究テーマ コーヒーから見る国際経済と国内のまちづくり ～グローバルの実践としての神保町コーヒー・プロジェクト</p>		
<p>1. 授業の概要・到達目標 (概要) 島田ゼミは2020年から「神保町コーヒー・プロジェクト」を実施してきた。この研究プロジェクトは神保町や福島浜通りのまちづくりに取り組むとともに、途上国のコーヒーの生産者の生活を改善することを目的としている。神保町を対象にしているのはこの地域がアマゾンや電子書籍の台頭といった経済のデジタル化によって大きな影響を受ける可能性のある地域だからである。神保町は古書街として有名であるだけでなく、古くからある喫茶店と新しいタイプのカフェのどちらも地域にあり、多様なコーヒーの楽しみ方を提供できる場所でもある。こうしたことからゼミ生はコーヒーと書店の相乗効果を考慮しながら、新たな街づくりに取り組み提案を作成する。同時により途上国のコーヒー生産者に寄り添ったコーヒー取引のあり方について調査し、こちらについても提案を作成する。こうした取り組みによりグローバルな視点を持ちつつ、同時にローカルな課題に取り組む問題意識を養うことを目的としている。こうした、一貫で福島浜通りの災害復興地域のまちづくりに取り組んでおり2024年度には大学生観光まちづくりコンテストにも参加した。 (到達目標) ゼミ生はコーヒーやチョコレートという財を通じて、国際経済と都市のあり方について理解を深め、実際に政策提案する力を身につける。</p>		
<p>2. 授業内容 第1回 各班の秋活動計画打ち合わせ、発表 第2回 研究発表① 第3回 インタビュー実施調査① 第4回 研究発表② 第5回 インタビュー調査② 第6回 研究発表③ 第7回 インタビュー調査③ 第8回 神保町フィールド調査② 第9回 各班による提案書準備 第10回 各班による提案書発表・討議 第11回 追加調査の実施 第12回 神保町関係者との対話 第13回 各班による提案書改訂作業 第14回 提案書発表</p>		
<p>3. 履修上の注意 「国際経済論」の授業を併せて履修することががぞましい。ゼミは人数に応じて3年・4年合同で実施するか別に実施するかを決定します。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容 「ミクロ経済学」「マクロ経済学」を履修していることが望ましい。</p>		
<p>5. 教科書 ゼミの中で指示します。</p>		
<p>6. 参考書 - 島田剛 (2025) 「いまを読み解くマクロ経済学 — 成長・失業・インフレを基礎から学ぶ」(日本評論社) - 島田剛 (2023) 「ミクロ経済学への招待(ライブラリ経済学への招待2)」(新世社) - 島田剛 (2022) 「第21章 コーヒーカップの向こう側 - フェアな経済とは何か」(明治大学情報コミュニケーション学部 (編) 『情報コミュニケーション学への招待』、ミネルヴァ書房) - ジョセフ スティグリッツ・島田 剛 (2020) 「グローバル化する世界における経済学者の役割とは」、経済セミナー 2020年2・3月号</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法</p>		
<p>8. 成績評価の方法 いかに主体的にゼミ活動したか(貢献度、70%)と他のゼミ生との協調度(30%)を評価します。4回以上の欠席した場合は以後の参加は認めません(遅刻は欠席0.5回とカウントします)。</p>		
<p>9. その他</p>		

問題解決ゼミナールⅠ		島田 剛
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
<p>◆ 研究テーマ コーヒーから見る国際経済と国内のまちづくり～グローバルの実践としての神保町コーヒー・プロジェクト</p>		
<p>1. 授業の概要・到達目標 (概要) 島田ゼミは2020年から「神保町コーヒー・プロジェクト」を実施してきた。この研究プロジェクトは神保町のまちづくりに取り組むとともに、途上国のコーヒーや福島浜通りの生産者の生活を改善することを目的としている。神保町を対象にしているのはこの地域がアマゾンや電子書籍の台頭といった経済のデジタル化によって大きな影響を受ける可能性のある地域だからである。神保町は古書街として有名であるだけでなく、古くからある喫茶店と新しいタイプのカフェのどちらも地域にあり、多様なコーヒーの楽しみ方を提供できる場所でもある。こうしたことからゼミ生はコーヒーと書店の相乗効果を考慮しながら、新たな街づくりに取り組み提案を作成する。同時により途上国のコーヒー生産者に寄り添ったコーヒー取引のあり方について調査し、こちらについても提案を作成する。こうした取り組みによりグローバルな視点を持ちつつ、同時にローカルな課題に取り組む問題意識を養うことを目的としている。こうした、一貫で福島浜通りの災害復興地域のまちづくりに取り組んでおり2024年度には大学生観光まちづくりコンテストにも参加した。 (到達目標) ゼミ生はコーヒーやチョコレートという財を通じて、国際経済と都市のあり方について理解を深め、実際に政策提案する力を身につける。</p>		
<p>2. 授業内容 第1回 インタロダクション：神保町コーヒープロジェクトとは何か？ 第2回 デジタル経済化と都市 — 神保町のあり方 第3回 コーヒーと世界経済 第4回 フェアな貿易とは何か？そもそもフェアとはなんだろうか？ 第5回 各班ごとの活動計画作成 第6回 各班の目標とスケジュール案の発表 第7回 研究発表① 第8回 研究発表② 第9回 研究発表③ 第10回 神保町フィールド調査① 第11回 インタビュー調査① 第12回 各班による提案書方向性準備 第13回 各班による提案書方向性発表・討議 第14回 春学期のまとめと夏合宿打ち合わせ</p>		
<p>3. 履修上の注意 ゼミは人数に応じて3年・4年合同で実施するか別に実施するかを決定します。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容 「ミクロ経済学」「マクロ経済学」を履修していることが望ましい。</p>		
<p>5. 教科書 ゼミの中で指示します。</p>		
<p>6. 参考書 - 島田剛 (2025)「いまを読み解くマクロ経済学 — 成長・失業・インフレを基礎から学ぶ」(日本評論社) - 島田剛 (2023)「ミクロ経済学への招待(ライブラリ経済学への招待2)」(新世社) - 島田剛 (2022)「第21章 コーヒーカップの向こう側 - フェアな経済とは何か」(明治大学情報コミュニケーション学部 (編)『情報コミュニケーション学への招待』、ミネルヴァ書房) - ジョセフ スティグリッツ・島田 剛 (2020)「グローバル化する世界における経済学者の役割とは」、経済セミナー 2020年2・3月号</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法</p>		
<p>8. 成績評価の方法 いかに主体的にゼミ活動したか(貢献度、70%)と他のゼミ生との協調度(30%)を評価します。4回以上の欠席した場合は以後の参加は認めません(遅刻は欠席0.5回とカウントします)。</p>		
<p>9. その他</p>		

問題解決ゼミナールⅡ		島田 剛
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
<p>◆ 研究テーマ コーヒーから見る国際経済と国内のまちづくり ～グローバルの実践としての神保町コーヒー・プロジェクト</p>		
<p>1. 授業の概要・到達目標 (概要) 島田ゼミは2020年から「神保町コーヒー・プロジェクト」を実施してきた。この研究プロジェクトは神保町や福島浜通りのまちづくりに取り組むとともに、途上国のコーヒーの生産者の生活を改善することを目的としている。神保町を対象にしているのはこの地域がアマゾンや電子書籍の台頭といった経済のデジタル化によって大きな影響を受ける可能性のある地域だからである。神保町は古書街として有名であるだけでなく、古くからある喫茶店と新しいタイプのカフェのどちらも地域にあり、多様なコーヒーの楽しみ方を提供できる場所でもある。こうしたことからゼミ生はコーヒーと書店の相乗効果を考慮しながら、新たな街づくりに取り組み提案を作成する。同時により途上国のコーヒー生産者に寄り添ったコーヒー取引のあり方について調査し、こちらについても提案を作成する。こうした取り組みによりグローバルな視点を持ちつつ、同時にローカルな課題に取り組む問題意識を養うことを目的としている。こうした、一貫で福島浜通りの災害復興地域のまちづくりに取り組んでおり2024年度には大学生観光まちづくりコンテストにも参加した。 (到達目標) ゼミ生はコーヒーやチョコレートという財を通じて、国際経済と都市のあり方について理解を深め、実際に政策提案する力を身につける。</p>		
<p>2. 授業内容 第1回 各班の秋活動計画打ち合わせ、発表 第2回 研究発表① 第3回 インタビュー実施調査① 第4回 研究発表② 第5回 インタビュー調査② 第6回 研究発表③ 第7回 インタビュー調査③ 第8回 神保町フィールド調査② 第9回 各班による提案書準備 第10回 各班による提案書発表・討議 第11回 追加調査の実施 第12回 神保町関係者との対話 第13回 各班による提案書改訂作業 第14回 提案書発表</p>		
<p>3. 履修上の注意 ゼミは人数に応じて3年・4年合同で実施するか別に実施するかを決定します。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容 「ミクロ経済学」「マクロ経済学」を履修していることが望ましい。</p>		
<p>5. 教科書 ゼミの中で指示します。</p>		
<p>6. 参考書 - 島田剛 (2025)「いまを読み解くマクロ経済学 — 成長・失業・インフレを基礎から学ぶ」(日本評論社) - 島田剛 (2023)「ミクロ経済学への招待(ライブラリ経済学への招待2)」(新世社) - 島田剛 (2022)「第21章 コーヒーカップの向こう側 - フェアな経済とは何か」(明治大学情報コミュニケーション学部 (編)『情報コミュニケーション学への招待』、ミネルヴァ書房) - ジョセフ スティグリッツ・島田 剛 (2020)「グローバル化する世界における経済学者の役割とは」、経済セミナー 2020年2・3月号</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法</p>		
<p>8. 成績評価の方法 いかに主体的にゼミ活動したか(貢献度、70%)と他のゼミ生との協調度(30%)を評価します。4回以上の欠席した場合は以後の参加は認めません(遅刻は欠席0.5回とカウントします)。</p>		
<p>9. その他</p>		

問題分析ゼミナールⅠ		清水 晶紀
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 各アクターの視点で環境行政の課題を分析し、法政策を提言してみよう		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本ゼミナールでは、「環境」「災害」「地域」「行政」「法」のいずれかに関心のある学生さんを募集します（全てに関心がある必要はありませんし、詳しい必要もありません）。環境・災害・地域に関係する進路の志望者、公務員志望者、法曹志望者の履修はもちろん歓迎しますが、どのような進路に進むにせよ、本ゼミナールで得られるものはあると信じています。 具体的には、Ⅰでは、担当教員の指導の下で基礎文献の輪読をした後、「環境」「災害」「地域」「行政」「法」というキーワードを包摂する研究テーマと研究対象地域を学生さん同士の協議を通じて絞り込み、文献調査から論点を抽出しつつ、フィールドワークの準備を行います。その後、夏季休業中にフィールドワークを実施した上で、Ⅱでは、得られた調査結果を分析するとともに、補充的な文献調査・フィールドワークを実施し、最終的には課題解決策として法政策提言を行う予定です。 （なお、参考までに、2025年度は、 <u>福島原発事故後の環境回復と地域再生をめぐる課題</u> を取り上げています。） 担当教員の専門は環境行政法であり、これまで、環境問題（災害課題、地域課題についても担当教員は広義の環境問題と捉えています）を解決するために国や地方自治体の行政活動を規律するルールについて、共通する「考え方」を探求してきました。そのため、本ゼミナールでは、 <u>法学のアプローチを重視し、法政策提言をゴールに設定しています</u> （とはいえ、法学の素養はゼミナールと並行して修得すればよいので、あまり難しく考える必要はありません）。 他方で、法学は、課題解決ツールの一つである「法」の適切な設計・運用を学ぶ学問にすぎず、そもそもの課題解決策の検討に際しては、様々な学問のアプローチを積極的に用いることが必要不可欠です。そのため、本ゼミナールにおいても、 <u>法政策提言の前提として、学際的分析を活用します</u> （もちろん、法学以外については担当教員も専門家ではないので、社会学・経済学・政治学・歴史学等については、一緒に勉強していきましょう）。 本ゼミナールの二大特徴は、①フィールドとする研究対象地域が抱える課題の特殊性と普遍性を理解する作業、②学際的分析の成果を法政策に落とし込む作業にあります。そのことの意義や醍醐味を一緒に味わってみたいと思う学生さんの応募を、心からお待ちしております。 【到達目標】 ①法律をてがかりに環境行政の課題を抽出する能力が身につけていること ②官僚・自治体職員・事業者・労働者・NPO・地域住民など、各アクターの視点で環境行政の課題を分析する能力が身につけていること ③環境行政のあるべき姿とそれを担保するルールを構想する能力が身につけていること		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 自己紹介・前期の進め方 第2回 ★報告の作法 第3回 基礎文献輪読① 第4回 基礎文献輪読② 第5回 基礎文献輪読③ 第6回 ★ゲスト講義①（基礎文献について） 第7回 ★研究テーマの設定 第8回 研究テーマに関する基礎知識調査 第9回 研究テーマに関する文献調査① 第10回 研究テーマに関する文献調査② 第11回 ★フィールドワーク準備①〈論点抽出〉 第12回 ★フィールドワーク準備②〈質問項目設定〉 第13回 ★ゲスト講義②〈社会調査について〉 第14回 前期の総括・夏休みの予定 ※各回の割り振りはあくまで一例であり、詳細はゼミ生との相談で最終決定します。		
3. 履修上の注意 ・問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱと合同で実施する回があります（連続する時間帯で開講予定、★が予定日程）。 ・「現代行政と法A・B」を履修して下さい（これによって「法律家の視点」「法学の素養」を十分に獲得できます）。 ・何回かのゼミでは、ゲストスピーカーを招いて講演してもらったり、フィールドワークを実施したりする予定です。また、他大学・他ゼミと合同で、合宿やレクリエーション等の各種行事を実施する可能性があります。 ・上記のフィールドワーク等は、正規の演習時間外に有料で行う可能性があります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 当たり前のことですが、報告・議論等の準備は、ゼミの時間外に行うことになります。なお、担当教員としては、ゲストスピーカーとの懇親会をはじめ、各種イベント（花見・芋煮・OBOG会等）への参加も、広い意味で「学習」の一環であると考えています。		
5. 教科書 特に指定しません。		
6. 参考書 原島良成『条例理論の基礎』（有斐閣、2025年） 清水晶紀『環境リスクと行政の不作為』（信山社、2024年） 筑紫圭一『自治体環境行政の基礎』（有斐閣、2020年） その他、各回の内容に応じて、その都度指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ゼミナール形式のため、学生による報告や議論については、そのタイミングで適宜フィードバックを行います。		
8. 成績評価の方法 演習は学生の皆さんが主体のクラスであるため、出席は当然の前提です。就職活動等で、やむをえず欠席する場合には、事前に担当教員まで連絡をするようにしてください。その上で、演習での報告内容（60%）、議論への参加状況（40%）を総合的に評価します。		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅡ		清水 晶紀
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 各アクターの視点で環境行政の課題を分析し、法政策を提言してみよう		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本ゼミナールでは、「環境」「災害」「地域」「行政」「法」のいずれかに関心のある学生さんを募集します（全てに関心がある必要はありませんし、詳しい必要もありません）。環境・災害・地域に関係する進路の志望者、公務員志望者、法曹志望者の履修はもちろん歓迎しますが、どのような進路に進むにせよ、本ゼミナールで得られるものはあると信じています。 具体的には、Ⅰでは、担当教員の指導の下で基礎文献の輪読をした後、「環境」「災害」「地域」「行政」「法」というキーワードを包摂する研究テーマと研究対象地域を学生さん同士の協議を通じて絞り込み、文献調査から論点を抽出しつつ、フィールドワークの準備を行います。その後、夏季休業中にフィールドワークを実施した上で、Ⅱでは、得られた調査結果を分析するとともに、補充的な文献調査・フィールドワークを実施し、最終的には課題解決策として法政策提言を行う予定です。 （なお、参考までに、2025年度は、 <u>福島原発事故後の環境回復と地域再生をめぐる課題</u> を取り上げています。） 担当教員の専門は環境行政法であり、これまで、環境問題（災害課題、地域課題についても担当教員は広義の環境問題と捉えています）を解決するために国や地方自治体の行政活動を規律するルールについて、共通する「考え方」を探求してきました。そのため、本ゼミナールでは、 <u>法学のアプローチを重視し、法政策提言をゴールに設定しています</u> （とはいえ、法学の素養はゼミナールと並行して修得すればよいので、あまり難しく考える必要はありません）。 他方で、法学は、課題解決ツールの一つである「法」の適切な設計・運用を学ぶ学問にすぎず、そもそもの課題解決策の検討に際しては、様々な学問のアプローチを積極的に用いることが必要不可欠です。そのため、本ゼミナールにおいても、 <u>法政策提言の前提として、学際的分析を活用します</u> （もちろん、法学以外については担当教員も専門家ではないので、社会学・経済学・政治学・歴史学等については、一緒に勉強していきましょう）。 本ゼミナールの二大特徴は、①フィールドとする研究対象地域が抱える課題の特殊性と普遍性を理解する作業、②学際的分析の成果を法政策に落とし込む作業にあります。そのことの意義や醍醐味を一緒に味わってみたいと思う学生さんの応募を、心からお待ちしております。 【到達目標】 ①法律をてがかりに環境行政の課題を抽出する能力が身につけていること ②官僚・自治体職員・事業者・労働者・NPO・地域住民など、各アクターの視点で環境行政の課題を分析する能力が身につけていること ③環境行政のあるべき姿とそれを担保するルールを構想する能力が身につけていること		
2. 授業内容 第1回 前期の振り返り・後期の進め方 第2回 ★フィールドワーク結果の分析 第3回 補充的文献調査 第4回 研究交流祭準備① 第5回 研究交流祭準備② 第6回 ★研究交流祭で報告 第7回 ★交流祭の振り返りと課題抽出 第8回 ★ゲスト講義③（法制度設計について） 第9回 法政策の原案作成〈制度設計の青写真〉 第10回 補充的文献調査 第11回 補充的フィールドワーク 第12回 法政策の原案修正〈制度設計の具体化〉 第13回 法政策提言準備 第14回 ★法政策提言・卒研最終報告会 ※各回の割り振りはあくまで一例であり、詳細はゼミ生との相談で最終決定します。		
3. 履修上の注意 ・問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱと合同で実施する回があります（連続する時間帯で開講予定、★が予定日程）。 ・「現代行政と法A・B」を履修して下さい（これによって「法律家の視点」「法学の素養」を十分に獲得できます）。 ・何回かのゼミでは、ゲストスピーカーを招いて講演してもらったり、フィールドワークを実施したりする予定です。また、他大学・他ゼミと合同で、合宿やレクリエーション等の各種行事を実施する可能性があります。 ・上記のフィールドワーク等は、正規の演習時間外に有料で行う可能性があります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 当たり前のことですが、報告・議論等の準備は、ゼミの時間外に行うことになります。なお、担当教員としては、ゲストスピーカーとの懇親会をはじめ、各種イベント（花見・芋煮・OBOG会等）への参加も、広い意味で「学習」の一環であると考えています。		
5. 教科書 特に指定しません。		
6. 参考書 原島良成『条例理論の基礎』（有斐閣、2025年） 清水晶紀『環境リスクと行政の不作為』（信山社、2024年） 筑紫圭一『自治体環境行政の基礎』（有斐閣、2020年） その他、各回の内容に応じて、その都度指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ゼミナール形式のため、学生による報告や議論については、そのタイミングで適宜フィードバックを行います。		
8. 成績評価の方法 演習は学生の皆さんが主体のクラスであるため、出席は当然の前提です。就職活動等で、やむをえず欠席する場合には、事前に担当教員まで連絡をするようにしてください。その上で、演習での報告内容（60%）、議論への参加状況（40%）を総合的に評価します。		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅠ		清水 晶紀
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 各アクターの視点で環境行政の課題を分析し、法政策を提言してみよう		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本ゼミナールでは、問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱで学んだ内容を土台に、各ゼミ生が興味関心のあるテーマを選定し、法政策提言を含む卒業研究に取り組みます（個人研究、グループ研究、いずれも可）。具体的には、卒業研究の完成に向けて、自らの研究テーマを絞る過程を各ゼミ生に報告してもらい、ゼミナールでの検討を通じて各ゼミ生の研究計画を煮詰めていきたいと考えています。なお、担当教員としては、環境行政法に係るテーマを想定していますが、「環境」「災害」「地域」「行政」「法」のいずれかに係るテーマであれば、柔軟に対応する用意があります。 加えて、1学年後輩の問題分析ゼミナールに適宜参加し、後輩の議論をサポートしてもらうとともに、個別報告、グループ報告、フィールドワーク等の準備についてもアドバイスをしてもらいたいと考えています。 【到達目標】 ①法律をてがかりに環境行政の課題を抽出する能力が身についていること ②官僚・自治体職員・事業者・労働者・NPO・地域住民など、各アクターの視点で環境行政の課題を分析する能力が身についていること ③環境行政のあるべき姿とそれを担保するルールを構想する能力が身についていること		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション・前期の進め方 第2回 ★後輩へのアドバイス 第3回 卒研テーマ報告① 第4回 卒研テーマ報告② 第5回 卒研テーマ報告③ 第6回 ★ゲスト講義① 第7回 ★後輩へのアドバイス 第8回 先行研究報告① 第9回 先行研究報告② 第10回 先行研究報告③ 第11回 ★後輩へのアドバイス 第12回 ★後輩へのアドバイス 第13回 ★ゲスト講義② 第14回 前期の総括・夏休みの過ごし方 ※各回の割り振りはあくまで一例であり、詳細はゼミ生との相談で最終決定します。		
3. 履修上の注意 ・本ゼミナールの単位取得に際して、「卒業論文・卒業制作」の単位付与基準を満たす必要はありませんが、同基準を満たす論文を提出すれば、本ゼミナールの単位とは別に「卒業論文・卒業制作」の単位を取得できます。 ・問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱと合同で実施する回があります（連続する時間帯で開講予定、★が予定日程）。 ・何回かのゼミでは、ゲストスピーカーを招いて講演してもらったり、フィールドワークを実施したりする予定です。また、他大学・他ゼミと合同で、合宿やレクリエーション等の各種行事を実施する可能性があります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 当たり前ですが、報告・議論等の準備は、ゼミの時間外に行うこととなります。 なお、担当教員としては、ゲストスピーカーとの懇親会をはじめ、各種イベント（花見・芋煮・OBOG会等）への参加も、広い意味で「学習」の一環であると考えています。		
5. 教科書 特に指定しません。		
6. 参考書 各回の内容に応じて、その都度指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ゼミナール形式のため、学生による報告や議論については、そのタイミングで適宜フィードバックを行います。		
8. 成績評価の方法 演習は学生の皆さんが主体のクラスであるため、出席は当然の前提です。就職活動等で、やむをえず欠席する場合には、事前に担当教員まで連絡をするようにしてください。 その上で、研究成果（40%）、演習での報告内容（20%）、議論への参加状況（20%）、後輩のサポート状況（20%）を総合的に評価します。		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅡ		清水 晶紀
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 各アクターの視点で環境行政の課題を分析し、法政策を提言してみよう		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本ゼミナールでは、問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱで学んだ内容を土台に、各ゼミ生が興味関心のあるテーマを選定し、法政策提言を含む卒業研究に取り組みます（個人研究、グループ研究、いずれも可）。具体的には、卒業研究の完成に向けて、自らの研究テーマを絞る過程を各ゼミ生に報告してもらい、ゼミナールでの検討を通じて各ゼミ生の研究計画を煮詰めていきたいと考えています。なお、担当教員としては、環境行政法に係るテーマを想定していますが、「環境」「災害」「地域」「行政」「法」のいずれかに係るテーマであれば、柔軟に対応する用意があります。 加えて、1学年後輩の問題分析ゼミナールに適宜参加し、後輩の議論をサポートしてもらうとともに、個別報告、グループ報告、フィールドワーク等の準備についてもアドバイスをしてもらいたいと考えています。 【到達目標】 ①法律をてがかりに環境行政の課題を抽出する能力が身についていること ②官僚・自治体職員・事業者・労働者・NPO・地域住民など、各アクターの視点で環境行政の課題を分析する能力が身についていること ③環境行政のあるべき姿とそれを担保するルールを構想する能力が身についていること		
2. 授業内容 第1回 前期の振り返り・後期の進め方 第2回 ★後輩へのアドバイス 第3回 卒研中間報告Ⅰ① 第4回 卒研中間報告Ⅰ② 第5回 卒研中間報告Ⅰ③ 第6回 ★研究交流祭に参加 第7回 ★後輩へのアドバイス 第8回 ★ゲスト講義③ 第9回 卒研中間報告Ⅱ① 第10回 卒研中間報告Ⅱ② 第11回 卒研中間報告Ⅱ③ 第12回 個別指導① 第13回 個別指導② 第14回 ★法政策提言・卒研最終報告会 ※各回の割り振りはあくまで一例であり、詳細はゼミ生との相談で最終決定します。		
3. 履修上の注意 ・本ゼミナールの単位取得に際して、「卒業論文・卒業制作」の単位付与基準を満たす必要はありませんが、同基準を満たす論文を提出すれば、本ゼミナールの単位とは別に「卒業論文・卒業制作」の単位を取得できます。 ・問題分析ゼミナールⅠ・Ⅱと合同で実施する回があります（連続する時間帯で開講予定、★が予定日程）。 ・何回かのゼミでは、ゲストスピーカーを招いて講演してもらったり、フィールドワークを実施したりする予定です。また、他大学・他ゼミと合同で、合宿やレクリエーション等の各種行事を実施する可能性があります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 当たり前ですが、報告・議論等の準備は、ゼミの時間外に行うこととなります。 なお、担当教員としては、ゲストスピーカーとの懇親会をはじめ、各種イベント（花見・芋煮・OBOG会等）への参加も、広い意味で「学習」の一環であると考えています。		
5. 教科書 特に指定しません。		
6. 参考書 各回の内容に応じて、その都度指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ゼミナール形式のため、学生による報告や議論については、そのタイミングで適宜フィードバックを行います。		
8. 成績評価の方法 演習は学生の皆さんが主体のクラスであるため、出席は当然の前提です。就職活動等で、やむをえず欠席する場合には、事前に担当教員まで連絡をするようにしてください。 その上で、研究成果（40%）、演習での報告内容（20%）、議論への参加状況（20%）、後輩のサポート状況（20%）を総合的に評価します。		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅠ		鈴木 健
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ カルチュラル・スタディーズ入門ー現代思想との関連でメディア批評の方法論を学ぶ。		
1. 授業の概要・到達目標 本ゼミでは、社会論争のような公的問題の分析からポップ・カルチャー批評までさまざまなコミュニケーション批評 (Communication Criticism) を学びます。過去には、主にゼミ生は現代社会に関するテーマで、以下の三分野から選んでレポートを書いてきました。(1)「メディア批評 (Media Criticism)」では、映画やテレビ番組の分析が中心になります。具体例としては、「[死神の精度] に見るポストモダン論」「ディストピア映画のジャンル分析」「[ドクター X] はなぜ高視聴率を獲得したのか?」「[BBC「SERLOCK」は何が新しかったのか?」です。(2)「カルチュラル・スタディーズ (Cultural Studies)」では、現代文化に関する問いに答えを見いだそうとします。具体例としては、「なぜ映画では老婦人と少年が題材にされないのか?」「昭和の美人女優の分析」「荒唐男系と雅系「いい男」の分類」「なぜ英国の食事はまじりのか?」です。(3)「社会批評 (Social Criticism)」では、現代社会における論点を考察します。具体例としては、「なぜホームグロウン・テロリズムが起こるのか?」「魅力的な悪役の条件とは?」「ホームドラマに観る家族像の変遷とは何か?」「ベトナム戦争: 受け入れがたい戦争はどのように受け入れられたのか?」です。 春学期は、映画批評を中心に、メディア批評の理論と実践に関する文献を読みます。たとえば、社会構成主義は、ジェンダーや人種のステレオタイプが「社会的に構築された現実」に過ぎないにもかかわらず、そうした現実の人々が「参加する」ことで影響されていると考えます。背景には、知識を構築した人々の利害関係があり、普段からそうした知識を維持しようとしたり、危機を迎えた場合には守ったりしようとする。構造主義は、記号論や二項対立の概念を駆使しながら言語の差異関係が生む構造を見いだそうとします。マルクス主義は、資本主義からの人の解放を目指すマルキシストと偏見・差別・権威などを拘束するすべての社会状況からの解放を目指すネオ・マルキシストに代表されます。また、近代主義 (modernism) が真・善・美の三分野で統一的な基準をあまねく当てはめようとするのに対し、ポストモダニズムは多元文化主義と判断基準の相対化をすることで絶対的な価値観の否定を目指そうとします。 秋学期は、コミュニケーション批評の論文を読みます。まず、「政治的闘争の場としてのポピュラーカルチャー (pop culture as the site of political struggle)」について考察します。さらに、言葉による説得が、社会的コンセンサスを形成し、人々の協調活動を促したかを、歴史の転換点や重要な危機を迎えた時、人々の選択にどのような影響を与えたのかも研究します。		
2. 授業内容 第1回 インTRODクシヨソ 第2回 映画批評とは何か (教科書第1章) 第3回 なぜ映画批評をするか (教科書第2章) 第4回 どのように映画批評をするか (教科書第3章) 第5回 監督研究と映画批評 (教科書第4章) 第6回 物語の展開パターン (教科書第5章) 第7回 ジャンル分析 (教科書第6章) 第8回 物語批評の枠組みと神話分析 (教科書第7・8章) 第9回 記号論と社会批評 (教科書第9・10章) 第10回 精神分析批評 (教科書第11章) 第11回 イデオロギー批評 (教科書第12章) 第12回 ジェンダー批評 (教科書第13章) 第13回 ポストモダン批評 (教科書第14章) 第14回 最終レポート報告		
3. 履修上の注意 毎回、担当者によるプレゼンテーションと全員による議論を行います。発表者以外も、積極的にディスカッションに参加すること。		
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 発表担当者は、2〜3枚のハンドアウトまたはパワーポイントを用意すること。		
5. 教科書 春学期は、鈴木健『現代思想を使って映画批評!』(小鳥遊書房2025年)を使います。秋学期は、英語論文を読みます。どちらも、授業は日本語で行います。		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中の発表担当者に対しては、提出されたハンドアウトまたは用意されたパワーポイントファイルに対してコメントをする。春学期の研究レポートに対しては、秋学期の最初の授業で評価の説明とコメントを行う。		
8. 成績評価の方法 前期レポート30%、後期レポート40%、授業中の貢献度30%。		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅡ		鈴木 健
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ カルチュラル・スタディーズ入門ー現代思想との関連でメディア批評の方法論を学ぶ。		
1. 授業の概要・到達目標 聞き手は、頭の中の「知的枠組み」(frame of reference) に当てはめて外部からのメッセージを理解します。そのため同一のメッセージが相手によって肯定的や否定的に受け取られたりするために誤解や対立を招くこともあれば、説得的な象徴行為が社会に大きな影響力を持つこともあります。このゼミでは、演説や社会論争等の公的言説から映画やテレビ等のポピュラー・カルチャーまで自分が興味のある言語文化コミュニケーションに関するメディア批評のテーマを深く知るための方法論を学びます。 春学期は、ポピュラー・カルチャーを「政治的闘争の場」(a site of political struggle) と考えるカルチュラル・スタディーズ研究者ジョン・ストーリーの教科書を読みます。社会構成主義は、例えば、ジェンダーによる役割や人種のステレオタイプが「社会的に構築された現実」(social reality) に過ぎないにもかかわらず、そうした現実の人々が「参加する」ことで影響されていると考えます。背景には、知識を構築した人々の利害関係があり、彼らは普段からそうした知識を維持しようとしたり、危機を迎えた場合には守ったりしようとする。構造主義は、記号論や二項対立の概念を駆使しながら言語の差異関係が生む構造を見いだそうとします。マルクス主義は、資本主義からの人の解放を目指すマルキシストと偏見・差別・権威などを拘束するすべての社会状況からの解放を目指すネオ・マルキシストに代表されます。また、近代主義 (modernism) が真・善・美の三分野で統一的な基準をあまねく当てはめようとするのに対し、ポストモダニズムは多元文化主義に判断基準の相対化をすることで絶対的な価値観の否定を目指そうとします。秋学期は、説得コミュニケーション論としてのレトリック批評を読みます。社会的コンセンサスを形成し、人々の協調活動を促す言語を研究するレトリックは、歴史の転換点や社会が重要な危機を迎えた時に、言葉による説得が人々の選択に大きな影響を与えたという考え方です。具体的には、『スター・ウォーズ』やアメコミのヒーロー物 (あるいは『ジョーカー』のようなアンチヒーロー物) に上記の方法論を当てはめてキャラクターを分析することができます。あるいは、戦前の日本文化の香りに貫かれたアニメ『サザエさん』や、戦後の自由な空気を体現する『ちびまる子ちゃん』などの社会的文脈 (social contexts) としてのイデオロギーに着目することで批評の論文を書くことができます。		
2. 授業内容 第1回 インTRODクシヨソ 第2回 レトリック研究と文化研究 (Rosteck, "Cultural Studies") 第3回 レトリック批評と映画 (Griffin, "Teaching Rhetorical Criticism") 第4回 イデオロギー研究 (Kotchemidova, "Why We Say Cheese") 第5回 精神分析批評 (Frentz & Hocker, "The Frankenstein Myth") 第6回 白人性研究と映画 (Watts, "Border Patrolling") 第7回 アフロアメリカン研究 (Winn, "Challenges") 第8回 戦争映画研究 (Rasmussen & Downey, "Dialectical Disorientation") 第9回 ジェンダーと映画 (Cooper, "Boys Don't Cry") 第10回 ポストモダンと映画 (Goodnight, "The Firm and Park") 第11回 ファンタジーテーマ分析 (Benoit, "A Fantasy Theme Analysis") 第12回 最終プロジェクト発表Ⅰ 第13回 最終プロジェクト発表Ⅱ 第14回 まとめ		
3. 履修上の注意 毎回、担当者によるプレゼンテーションと全員による議論を行います。発表者以外も、積極的にディスカッションに参加すること。		
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 発表担当者は、2〜3枚のハンドアウトまたはパワーポイントを用意すること。		
5. 教科書 秋学期は、英語論文を読みます。授業は日本語で行います。		
6. 参考書		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中の発表担当者に対しては、提出されたハンドアウトまたは用意されたパワーポイントファイルに対してコメントをする。秋学期の研究レポートに対しては、最終の授業で評価の説明とコメントを行う。		
8. 成績評価の方法 前期レポート30%、後期レポート40%、授業中の貢献度30%。		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅠ		鈴木 健
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ カルチュラル・スタディーズ入門—現代思想との関連でメディア批評の方法論を学ぶ。		
1. 授業の概要・到達目標 「問題解決ゼミ」(春学期) 鈴木 健 (tsuzuki@meiji.ac.jp) 研究テーマ: メディア批評について学ぶ——ポップカルチャーと文化研究を中心に授業概要と到達目標: 西洋では、レトリックは単なる美辞麗句としてだけではなく、公的な説得 (the art of public persuasion) の分析方法としても研究されてきました。特に、アメリカのコミュニケーション学部では、政治演説や討論、社会運動、メディアを通じた公的言説や超越的表象が分析対象になってきました。本ゼミナールでは、3年時に学んだ批判的方法論に基づき、4年時にポップカルチャー批評 (pop culture criticism) をテーマに、メディア時代におけるテキストとしてのレトリックをどのように読み解くべきかを考察します。「ポスト真実」(世論形成の際、客観的事実よりむしろ感情や個人的心情へのアピールが影響力を持つ、2016 Word of the Year of Oxford University Press) の時代には、後ろ向きや否定的な考えに陥るのではなく、前向きで建設的な批評を学ぶことが急務です。 メディア批評には、以下の目的があります。(1) 文化的に影響力のあるテキストを分析する研究方法論を学ぶ、(2) 対立的な社会状況において各陣営はどのような説得戦略を用いたか、権力を持たない人々が社会変革を望んだ時にどのようなアピールを用いたかを知る、(3) 公的メッセージの分析と発信能力を涵養し民主主義社会の構成員としての責任を果たし、議論を通じてより成熟した社会にしていこうための理論と実践について学ぶ。		
2. 授業内容 第1回 インTRODクシヨ 第2回 何をテーマとするか? I 第3回 何をテーマとするか? II 第4回 どのような先行研究があるか? I 第5回 どのような先行研究があるか? II 第6回 どのような研究方法論を用いるか? I 第7回 どのような研究方法論を用いるか? II 第8回 どのような問題提起に答えを出そうとするか? I 第9回 どのような問題提起に答えを出そうとするか? II 第10回 ゼミ論経過報告 I 第11回 ゼミ論経過報告 II 第12回 ゼミ論第1章案 (序論) I 第13回 ゼミ論第1章案 (序論) II 第14回 まとめ		
3. 履修上の注意 毎回、担当者によるプレゼンテーションと全員による議論を行います。発表者以外も、積極的にディスカッションに参加すること。		
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 発表担当者は、2~3枚のハンドアウトまたはパワーポイントを用意すること。		
5. 教科書 教科書: (編著) 鈴木健、岡部朗一『説得コミュニケーション論を学ぶ人のために』世界思想社、2008年		
6. 参考書 参考書: 河野哲也『レポート・論文の書き方入門 第3版』慶應義塾大学出版会、2002年		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中の発表担当者に対しては、提出されたハンドアウトまたは用意されたパワーポイントファイルに対してコメントをする。		
8. 成績評価の方法 成績評価の方法: 授業への貢献度とハンドアウト35%、ゼミ論65%。		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅡ		鈴木 健
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ カルチュラル・スタディーズ入門—現代思想との関連でメディア批評の方法論を学ぶ。		
1. 授業の概要・到達目標 「問題解決ゼミ」(秋学期) 鈴木 健 (tsuzuki@meiji.ac.jp) 研究テーマ: メディア批評について学ぶ——ポップカルチャーと文化研究を中心に授業概要と到達目標: 西洋では、レトリックは単なる美辞麗句としてだけではなく、公的な説得 (the art of public persuasion) の分析方法としても研究されてきました。特に、アメリカのコミュニケーション学部では、政治演説や討論、社会運動、メディアを通じた公的言説や超越的表象が分析対象になってきました。本ゼミナールでは、3年時に学んだ批判的方法論に基づき、4年時にポップカルチャー批評 (pop culture criticism) をテーマに、メディア時代におけるテキストとしてのレトリックをどのように読み解くべきかを考察します。「ポスト真実」(世論形成の際、客観的事実よりむしろ感情や個人的心情へのアピールが影響力を持つ、2016 Word of the Year of Oxford University Press) の時代には、後ろ向きや否定的な考えに陥るのではなく、前向きで建設的な批評を学ぶことが急務です。 メディア批評には、以下の目的があります。(1) 文化的に影響力のあるテキストを分析する研究方法論を学ぶ、(2) 対立的な社会状況において各陣営はどのような説得戦略を用いたか、権力を持たない人々が社会変革を望んだ時にどのようなアピールを用いたかを知る、(3) 公的メッセージの分析と発信能力を涵養し民主主義社会の構成員としての責任を果たし、議論を通じてより成熟した社会にしていこうための理論と実践について学ぶ。		
2. 授業内容 第1回 インTRODクシヨ 第2回 ゼミ論第2章案 (主論1) I 第3回 ゼミ論第2章案 (主論1) II 第4回 ゼミ論第3章案 (主論2) I 第5回 ゼミ論第3章案 (主論2) II 第6回 ゼミ論第4章案 (主論3) I 第7回 ゼミ論第4章案 (主論3) II 第8回 ゼミ論第5章案 (結論と将来の展望) I 第9回 ゼミ論第5章案 (結論と将来の展望) II 第10回 ゼミ論経過報告 III 第11回 ゼミ論経過報告 IV 第12回 プレゼンテーション I 第13回 プレゼンテーション II 第14回 まとめ		
3. 履修上の注意 毎回、担当者によるプレゼンテーションと全員による議論を行います。発表者以外も、積極的にディスカッションに参加すること。		
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 発表担当者は、2~3枚のハンドアウトまたはパワーポイントを用意すること。		
5. 教科書 教科書: (編著) 鈴木健、岡部朗一『説得コミュニケーション論を学ぶ人のために』世界思想社、2008年		
6. 参考書 参考書: 河野哲也『レポート・論文の書き方入門 第3版』慶應義塾大学出版会、2002年		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中の発表担当者に対しては、提出されたハンドアウトまたは用意されたパワーポイントファイルに対してコメントをする。年度末のゼミ論に対しては、最終の授業で評価の説明とコメントを行う。		
8. 成績評価の方法 成績評価の方法: 授業への貢献度とハンドアウト35%、ゼミ論65%。		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅠ		鈴木 健人
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
<p>◆ 研究テーマ 米国の覇権が揺らぎを見せる中で進んでいる国際秩序の変動を理解し、日本の進むべき方向を考える。 また日本の強みであるソフトパワーについて考え、将来に生かす視点を探る。</p>		
<p>1. 授業の概要・到達目標 個人またはグループによって上記テーマに沿った研究課題を設定し、学生が自主的に研究を進め、その成果を発表しゼミ全体で討論する。なお研究テーマについては学生の意向に沿って柔軟かつ広範に変更を認める予定である。国際社会の政治的側面だけでなく、文化的・思想的な面を含め、いわゆるソフトパワーにも留意していきたい。 自主的に研究を進める訓練をし、問題解決ゼミナールでの卒業研究が自力で進めることができるようにすることをめざす。それによって現在の国際社会が抱える諸問題について、学問的に分析するための知的枠組みを形成できるように促していく。</p>		
<p>2. 授業内容 ＜問題分析ゼミナールⅠ＞ 第1回 ゼミの進め方、研究方法についてのイントロダクション。ゼミで議論する本や資料の選定。 第2回 本や共通資料の決定と読解部分の割り当て。 第3回 教員による研究発表のデモンストレーション。(1) 第4回 第1グループまたは個人の発表および討論。 第5回 第2グループまたは個人の発表および討論。 第6回 第3グループまたは個人の発表および討論。 第7回 グループ発表または個人発表の総括。 第8回 教員による研究発表のデモンストレーション。(2) 第9回 第4グループまたは個人の発表。 第10回 第5グループまたは個人の発表および討論。 第11回 第6グループまたは個人の発表および討論。 第12回 個人の発表および討論。1～2名。 第13回 個人の発表および討論。1～2名。 第14回 春学期の総括と講評。</p>		
<p>3. 履修上の注意 参加者全員が必ず研究発表を行うので積極的に参加すること。参加人数やグループの数によって授業内容を変更する可能性があるので留意されたい。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容 国際関係論を履修済みであることが望ましいが、履修していない学生でも参加できる。割り当てられた資料などは必ず事前に読んで内容を理解しておくこと。</p>		
<p>5. 教科書 特に指定しない。</p>		
<p>6. 参考書 特に指定しないが、各グループや個人の研究テーマに応じて指示する。</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法</p>		
<p>8. 成績評価の方法 研究発表の内容と態様：50%。他のグループや個人に対する質問や議論など：30%。ゼミ活動に対する積極性：20%。</p>		
<p>9. その他 研究テーマは自由に決めて良いが、決めたテーマに関しては十分に研究すること。</p>		

問題分析ゼミナールⅡ		鈴木 健人
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
<p>◆ 研究テーマ 米国の覇権が揺らぎを見せる中で進んでいる国際秩序の変動を理解し、日本の進むべき方向を考える。 また日本の強みであるソフトパワーについて考え、将来に生かす視点を探る。</p>		
<p>1. 授業の概要・到達目標 個人またはグループによって上記テーマに沿った研究課題を設定し、学生が自主的に研究を進め、その成果を発表しゼミ全体で討論する。なお研究テーマについては学生の意向に沿って柔軟かつ広範に変更を認める予定である。国際社会の政治的側面だけでなく、文化的・思想的な面を含め、いわゆるソフトパワーにも留意していきたい。 自主的に研究を進める訓練をし、問題解決ゼミナールでの卒業研究が自力で進めることができるようにすることをめざす。それによって現在の国際社会が抱える諸問題について、学問的に分析するための知的枠組みを形成できるように促していく。</p>		
<p>2. 授業内容 ＜問題分析ゼミナールⅡ＞ 第1回 新しい研究発表グループと各グループの研究テーマの設定。 第2回 共通資料に関する教員からの解説及び説明。 第3回 第1グループの研究発表および討論。 第4回 第2グループの研究発表および討論。 第5回 第3グループの研究発表および討論。 第6回 グループ発表の総括と新グループの割り当て。 第7回 第1グループの研究発表。 第8回 第2グループの研究発表。 第9回 第3グループの研究発表。 第10回 グループによる研究発表の総括。 第11回 個人研究の発表。3～4名。(1) 第12回 個人研究の発表。3～4名。(2) 第13回 卒業研究へむけてのテーマ設定と研究方法について指示。 第14回 秋学期および1年間全体の総括と講評。</p>		
<p>3. 履修上の注意 参加者全員が必ず研究発表を行うので積極的に参加すること。参加人数やグループの数によって授業内容を変更する可能性があるので留意されたい。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容 国際関係論を履修済みであることが望ましいが、履修していない学生でも参加できる。割り当てられた資料などは必ず事前に読んで内容を理解しておくこと。</p>		
<p>5. 教科書 特に指定しない。</p>		
<p>6. 参考書 特に指定しないが、各グループや個人の研究テーマに応じて指示する。</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法</p>		
<p>8. 成績評価の方法 研究発表の内容と態様：50%。他のグループや個人に対する質問や議論など：30%。ゼミ活動に対する積極性：20%。</p>		
<p>9. その他 研究テーマは自由に決めて良いが、決めたテーマに関しては十分に研究すること。</p>		

問題解決ゼミナールⅠ		鈴木 健人
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
<p>◆ 研究テーマ 21世紀日本の国家戦略と世界政治の秩序変容。世界の中の日本のソフトパワーの発展。</p>		
<p>1. 授業の概要・到達目標 卒業論文またはその代替として1万2千字～2万字程度（図表・脚注を含む）のゼミ論文を執筆し提出してもらう。4年間の大学生活の集大成として、それにふさわしい研究水準の論文を作成することを目標とする。細かい研究テーマは個人で自由に設定して良いが、大まかに言って上記の研究テーマに即したものであることが望ましい。ただし自分で追及したいテーマがあるときには事前に相談を受け付けて柔軟に対応する。ガイダンス以外は学生の自主的な研究と参加に基づく自由な討論の場とする。</p>		
<p>2. 授業内容 ＜問題解決ゼミナールⅠ＞ 第1回 卒業研究の進め方についてのイントロダクション。 第2回 国際関係史の研究方法についてのイントロダクション。 第3回 現状分析の研究方法についてのイントロダクション。 第4回 国際関係思想の研究方法についてのイントロダクション。 第5回 資料の分析と解説。3～4名。(1) 第6回 資料の分析と解説。3～4名。(2) 第7回 資料の分析と解説。3～4名。(3) 第8回 資料の分析と解説。3～4名。(4) 第9回 資料の分析と解説。3～4名。(5) 第10回 卒業論文またはゼミ論文の執筆の方法についてのイントロダクション。 第11回 卒業論文またはゼミ論文初稿の提出とそれに基づく討論。(1) 第12回 卒業論文またはゼミ論文初稿の提出とそれに基づく討論。(2) 第13回 卒業論文またはゼミ論文初稿の提出とそれに基づく討論。(3) 第14回 卒業論文またはゼミ論文初稿に関する講評。</p>		
<p>3. 履修上の注意 各自の研究テーマに沿って自主的に研究を進め論文を執筆するので、学生諸君の意欲が重要な要件となる。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容 問題分析ゼミで培った研究方法を生かして自主的に研究を進めること。</p>		
<p>5. 教科書 特に指定しない。</p>		
<p>6. 参考書 特に指定しないが、研究テーマに応じて適宜指示する。</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法</p>		
<p>8. 成績評価の方法 卒業論文またはゼミ論文：50%。ゼミでの研究発表の内容と態様：30%。他者の研究への質問や討論：20%。</p>		
<p>9. その他 卒業論文（任意）またはゼミ論文を書いてもらうので、十分準備して期日までに必ず提出すること。</p>		

問題解決ゼミナールⅡ		鈴木 健人
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
<p>◆ 研究テーマ 21世紀日本の国家戦略と世界政治の秩序変容。世界の中の日本のソフトパワーの発展。</p>		
<p>1. 授業の概要・到達目標 卒業論文またはその代替として1万2千字～2万字程度（図表・脚注を含む）のゼミ論文を執筆し提出してもらう。4年間の大学生活の集大成として、それにふさわしい研究水準の論文を作成することを目標とする。細かい研究テーマは個人で自由に設定して良いが、大まかに言って上記の研究テーマに即したものであることが望ましい。ただし自分で追及したいテーマがあるときには事前に相談を受け付けて柔軟に対応する。ガイダンス以外は学生の自主的な研究と参加に基づく自由な討論の場とする。</p>		
<p>2. 授業内容 ＜問題解決ゼミナールⅡ＞ 第1回 卒業論文またはゼミ論文第2稿の提出と各論文の修正点の確認。 第2回 卒業論文またはゼミ論文第2稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(1) 第3回 卒業論文またはゼミ論文第2稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(2) 第4回 卒業論文またはゼミ論文第2稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(3) 第5回 卒業論文またはゼミ論文第2稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(4) 第6回 卒業論文またはゼミ論文第2稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(5) 第7回 卒業論文またはゼミ論文最終稿の執筆に向けたイントロダクション。 第8回 教員による研究発表のデモンストレーション。 第9回 卒業論文またはゼミ論文最終稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(1) 第10回 卒業論文またはゼミ論文最終稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(2) 第11回 卒業論文またはゼミ論文最終稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(3) 第12回 卒業論文またはゼミ論文最終稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(4) 第13回 卒業論文またはゼミ論文最終稿に基づく研究発表と質疑応答および討論。(5) 第14回 卒業論文またはゼミ論文最終稿の提出と講評。</p>		
<p>3. 履修上の注意 各自の研究テーマに沿って自主的に研究を進め論文を執筆するので、学生諸君の意欲が重要な要件となる。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容 問題分析ゼミで培った研究方法を生かして自主的に研究を進めること。</p>		
<p>5. 教科書 特に指定しない。</p>		
<p>6. 参考書 特に指定しないが、研究テーマに応じて適宜指示する。</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法</p>		
<p>8. 成績評価の方法 卒業論文またはゼミ論文：50%。ゼミでの研究発表の内容と態様：30%。他者の研究への質問や討論：20%。</p>		
<p>9. その他 卒業論文（任意）またはゼミ論文を書いてもらうので、十分準備して期日までに必ず提出すること。</p>		

問題分析ゼミナールⅠ		鈴木 雅博
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 学校の社会学		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本ゼミナールは、受講生が4年次の卒業論文執筆（任意）に向けて、先行研究を批判的に検討することを通して、今日の学校教育に関する知識と質的調査を中心とした研究方法を身につけることを目標とします。そのために、分析ゼミナールⅠでは、教育に関する文献を批判的に読解するトレーニングを行った上で、ゼミ共通の検討文献を講読します。分析ゼミナールⅡでは、各自の関心に沿った先行研究をレビューし、相互に批評し合う機会を設けます。これにより、受講者が自らの問題関心を洗練させ、調査に向けたリサーチエスチョンを設定することが期待されます。 なお、卒業論文を執筆しない受講者については、各自が関心を持つ教育に関するテーマについての先行研究を調べ、それらをレビューすることが課題となります。 【到達目標】 ①種々の先行研究に学び、それを批判的に読み解く作業を行うことができる。 ②各自が関心を持つテーマに対して確かな方法と対象への理解に基づいたリサーチエスチョンを設定することができる。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 先行研究の批判的検討の方法① 第3回 先行研究の批判的検討の方法② 第4回 先行研究の批判的検討の方法③ 第5回 文献講読① 第6回 文献講読② 第7回 文献講読③ 第8回 文献講読④ 第9回 文献講読⑤ 第10回 文献講読⑥ 第11回 文献講読⑦ 第12回 文献講読⑧ 第13回 文献講読⑨ 第14回 卒業レポートのテーマ設定に向けて		
3. 履修上の注意 自らの研究に取り組むのはもちろんですが、他者の研究にもしっかりと向き合い、議論に参加するよう心掛けてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 発表担当でない時も、必ず文献を精読し、自分なりの論点をもってゼミに臨んでください。		
5. 教科書 特に指定しません。		
6. 参考書 適宜、指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で実施します。		
8. 成績評価の方法 発表時のレポート（60%）ならびに議論への貢献度（40%）。		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅡ		鈴木 雅博
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 学校の社会学		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本ゼミナールは、受講生が4年次の卒業論文執筆（任意）に向けて、先行研究を批判的に検討することを通して、今日の学校教育に関する知識と質的調査を中心とした研究方法を身につけることを目標とします。そのために、分析ゼミナールⅠでは、教育に関する文献を批判的に読解するトレーニングを行った上で、ゼミ共通の検討文献を講読します。分析ゼミナールⅡでは、各自の関心に沿った先行研究をレビューし、相互に批評し合う機会を設けます。これにより、受講者が自らの問題関心を洗練させ、調査に向けたリサーチエスチョンを設定することが期待されます。 なお、卒業論文を執筆しない受講者については、各自が関心を持つ教育に関するテーマについての先行研究を調べ、それらをレビューすることが課題となります。 【到達目標】 ①種々の先行研究に学び、それを批判的に読み解く作業を行うことができる。 ②各自が関心を持つテーマに対して確かな方法と対象への理解に基づいたリサーチエスチョンを設定することができる。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 研究課題の設定と先行研究のレビュー① 第3回 研究課題の設定と先行研究のレビュー② 第4回 研究課題の設定と先行研究のレビュー③ 第5回 研究課題の設定と先行研究のレビュー④ 第6回 研究課題の設定と先行研究のレビュー⑤ 第7回 研究課題の設定と先行研究のレビュー⑥ 第8回 研究課題の設定と先行研究のレビュー⑦ 第9回 研究課題の設定と先行研究のレビュー⑧ 第10回 研究課題の設定と先行研究のレビュー⑨ 第11回 研究課題の設定と先行研究のレビュー⑩ 第12回 研究課題の設定と先行研究のレビュー⑪ 第13回 研究課題の設定と先行研究のレビュー⑫ 第14回 まとめ		
3. 履修上の注意 自らの研究に取り組むのはもちろんですが、他者の研究にもしっかりと向き合い、議論に参加するよう心掛けてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 発表担当でない時も、必ず文献を精読し、自分なりの論点をもってゼミに臨んでください。		
5. 教科書 特に指定しません。		
6. 参考書 適宜、指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で実施します。		
8. 成績評価の方法 発表時のレポート（60%）ならびに議論への貢献度（40%）。		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅠ		鈴木 雅博
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 学校の社会学		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本ゼミナールでは、確かな研究方法に基づき、学校教育を対象とした調査を行うことを目標とします(卒論は任意)。教育は、社会の諸問題を解決するものとして期待される一方、いじめ・不登校、体罰・「ブラック校則」、さらには教師の「ブラック」な労働環境等、教育それ自身が「問題」としてみなされてもいます。このことは、既に学校教育に対する浩瀚な研究蓄積がありながらも、教育には依然として、解くべき「問い」があることを示唆しています。受講者には、今日の教育をめぐる現状と先行研究の到達点を踏まえた上で、適切なりサーチクエストを設定し、確かな方法に基づいて、その「問い」を解明することが求められます。 なお、卒業論文を執筆しない受講者については、各自が関心を持つ教育に関するテーマについての先行研究を調べ、それらをレビューすることが課題となります。 【到達目標】 自らの問題関心に基づいてリサーチクエストを設定し、計画的に研究を進め、卒業論文にまとめることができる。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 研究計画の発表① 第3回 研究計画の発表② 第4回 研究計画の発表③ 第5回 研究計画の発表④ 第6回 研究の経過報告① 第7回 研究の経過報告② 第8回 研究の経過報告③ 第9回 研究の経過報告④ 第10回 研究の経過報告⑤ 第11回 研究の経過報告⑥ 第12回 研究の経過報告⑦ 第13回 研究の経過報告⑧ 第14回 まとめ		
3. 履修上の注意 自らの研究に取り組むのはもちろんですが、他者の研究にもしっかりと向き合い、議論に参加するよう心掛けてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 発表の際に指摘された課題や助言・質問をしっかりと振り返ることで論文の質を向上させるように努めてください。		
5. 教科書 特に指定しません。		
6. 参考書 適宜、指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で実施します。		
8. 成績評価の方法 発表時のレポート（60%）ならびに議論への貢献度（40%）。		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅡ		鈴木 雅博
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 学校の社会学		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本ゼミナールでは、確かな研究方法に基づき、学校教育を対象とした調査を行うことを目標とします(卒論は任意)。教育は、社会の諸問題を解決するものとして期待される一方、いじめ・不登校、体罰・「ブラック校則」、さらには教師の「ブラック」な労働環境等、教育それ自身が「問題」としてみなされてもいます。このことは、既に学校教育に対する浩瀚な研究蓄積がありながらも、教育には依然として、解くべき「問い」があることを示唆しています。受講者には、今日の教育をめぐる現状と先行研究の到達点を踏まえた上で、適切なりサーチクエストを設定し、確かな方法に基づいて、その「問い」を解明することが求められます。 なお、卒業論文を執筆しない受講者については、各自が関心を持つ教育に関するテーマについての先行研究を調べ、それらをレビューすることが課題となります。 【到達目標】 自らの問題関心に基づいてリサーチクエストを設定し、計画的に研究を進め、卒業論文にまとめることができる。		
2. 授業内容 第1回 研究の経過報告① 第2回 研究の経過報告② 第3回 研究の経過報告③ 第4回 研究の経過報告④ 第5回 研究の経過報告⑤ 第6回 研究の経過報告⑥ 第7回 研究の経過報告⑦ 第8回 研究の経過報告⑧ 第9回 研究発表① 第10回 研究発表② 第11回 研究発表③ 第12回 研究発表④ 第13回 研究発表⑤ 第14回 研究発表⑥		
3. 履修上の注意 自らの研究に取り組むのはもちろんですが、他者の研究にもしっかりと向き合い、議論に参加するよう心掛けてください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 発表の際に指摘された課題や助言・質問をしっかりと振り返ることで論文の質を向上させるように努めてください。		
5. 教科書 特に指定しません。		
6. 参考書 適宜、指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で実施します。		
8. 成績評価の方法 発表時のレポート（60%）ならびに議論への貢献度（40%）。		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅠ		須田 努
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 異文化コミュニケーション史・社会文化史の研究		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 ①文献講読・テキスト（史料）解釈の方法論と、研究報告（プレゼン）の作法を会得します。 ②日本の17～20世紀の社会文化の様相を理解します。 ③異文化コミュニケーション史とは何か、この視点のおもしろさを理解します。 【到達目標】 上記を通じて、帰納法を駆使した思考能力を養い、歴史認識と知の形成をはかり、現実社会への鋭利な視座を獲得します。 なぜ、ジェンダー格差や差別が無自覚に発生する背景と何か、他者・他国・他民族への排他意識はなぜ形成されるのか、といった問題群と向き合い、それへの対処をゼミメンバー全員で考えます。そのため能力を養うために、共同研究を行います。17～20世紀における異文化コミュニケーション史もしくは、社会文化史に関連する論文とデータ（史料）を分析し、その内容に則した報告を行います。異文化コミュニケーション史にするかは、ゼミ員全員の合意により決定します。 4年次（問題解決ゼミナール）では卒業論文（必須）を作成しますが、そのための準備期間となります。		
2. 授業内容 第1回 テキスト選択 第2回 テキスト報告順番決定 第3回 テキスト読解（1） 第4回 テキスト読解（2） 第5回 テキスト読解（3） 第6回 テキスト読解（4） 第7回 テキスト読解（5） 第8回 テキスト読解（6） 第9回 テキスト読解（7） 第10回 テキスト読解（8） 第11回 テキスト読解（9） 第12回 テキスト読解（10） 第13回 卒論にむけて（1） 第14回 卒論にむけて（2）		
3. 履修上の注意 勉強・研究を行うゼミです。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 社会文化史・異文化コミュニケーション史に関する文献を事前に読んでおくこと。具体的な書名等は、その都度指摘します。		
5. 教科書 ゼミメンバーとの協議で決定します。		
6. 参考書 その都度指摘します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 ゼミの運営は共同研究方式となります。ゼミの課題への取り組みは勿論、いかに主体的にゼミに参加したかを評価します。ゼミ課題への取り組み60%、主体的ゼミ参加40%です。		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅡ		須田 努
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 異文化コミュニケーション史・社会文化史の研究		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 ①文献講読・テキスト（史料）解釈の方法論と、研究報告（プレゼン）の作法を会得します。 ②日本の17～20世紀の社会文化の様相を理解します。 ③異文化コミュニケーション史とは何か、この視点のおもしろさを理解します。 【到達目標】 上記を通じて、帰納法を駆使した思考能力を養い、歴史認識と知の形成をはかり、現実社会への鋭利な視座を獲得します。 なぜ、ジェンダー格差や差別が無自覚に発生する背景と何か、他者・他国・他民族への排他意識はなぜ形成されるのか、といった問題群と向き合い、それへの対処をゼミメンバー全員で考えます。そのため能力を養うために、共同研究を行います。17～20世紀における異文化コミュニケーション史もしくは、社会文化史に関連する論文とデータ（史料）を分析し、その内容に則した報告を行います。異文化コミュニケーション史にするかは、ゼミ員全員の合意により決定します。 4年次（問題解決ゼミナール）では卒業論文（必須）を作成しますが、そのための準備に入ります。		
2. 授業内容 第1回 卒論準備報告（1） 第2回 卒論準備報告（2） 第3回 卒論プロット報告（1） 第4回 卒論プロット報告（2） 第5回 卒論プロット報告（3） 第6回 卒論プロット報告（4） 第7回 卒論プロット報告（5） 第8回 卒論プロット報告（6） 第9回 卒論プロット報告（7） 第10回 卒論報告（1） 第11回 卒論報告（2） 第12回 卒論報告（3） 第13回 卒論報告（4） 第14回 卒論報告（5）		
3. 履修上の注意 特にありません。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 社会文化史・異文化コミュニケーション史に関する文献を事前に読んでおくことが重要です。具体的な書名等は、その都度指摘します。		
5. 教科書 ゼミメンバーとの協議で決定します。		
6. 参考書 その都度指摘します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 ゼミの運営は共同研究方式となる。ゼミの課題への取り組みは勿論、いかに主体的にゼミに参加したかを評価する。ゼミ課題への取り組み60%、主体的ゼミ参加40%となります。		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅠ		須田 努
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 異文化コミュニケーション史・社会文化史の研究		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 3年次に獲得した方法論と能力に基づき、ゼミ員各人が、歴史学を対象として自由にテーマを設定して個別研究をはじめ、卒業論文を作成します。卒業論文は、2年間の勉学・研究の成果が反映したものとなります。過去の卒論では、ウクライナ戦争にショックをうけた「傷痍軍人の妻の生きた戦後日本社会」、日韓関係の問題を意識した「在朝日本人のコミュニケーション」、メディアの社会的影響に関心をもった「伝説を語り継ぐメディア」などがあり、『情コミジャーナル』に投稿し、賞を取りました。 【到達目標】 別添「卒業論文・卒業制作に求めること」(学部版)の基準に従い、12,000から20,000 字程度(図表・注・文献リストを含む)の卒業論文を作成します。テーマは歴史学に関連したものならば、自由です。卒論作成を目指し、卒論は2単位となります。卒論は必須としますが、途中で挫折しても、その過程での研究報告・議論参加でゼミ4単位は付与します。		
2. 授業内容 第1回 卒論プロット報告 (1) 第2回 卒論プロット報告 (2) 第3回 卒論プロット報告 (3) 第4回 卒論プロット報告 (4) 第5回 卒論プロット報告 (5) 第6回 卒論プロット報告 (6) 第7回 卒論プロット報告 (7) 第8回 卒論プロット報告 (8) 第9回 卒論プロット報告 (9) 第10回 卒論プロット報告 (10) 第11回 卒論プロット報告 (11) 第12回 卒論プロット報告 (12) 第13回 卒論プロット報告 (13) 第14回 卒論プロット報告 (14)		
3. 履修上の注意 基準に従い、卒業論文を提出した学生には、ゼミ履修4単位のほかに、2単位を付与する。なお最終的に卒業論文を提出出来なかった場合でも、ゼミ履修4単位の修得は可能である。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 社会文化史・異文化コミュニケーション史に関する文献を事前に読んでおくこと。具体的な書名等は、その都度指摘する。		
5. 教科書 その都度指摘する		
6. 参考書 その都度指摘する		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 ゼミへの参加と研究成果の報告で4単位 基準にしたがった卒論提出で2単位		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅡ		須田 努
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 異文化コミュニケーション史・社会文化史の研究		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 3年次に獲得した方法論と能力に基づき、ゼミ員各人が、歴史学を対象として自由にテーマを設定して個別研究をはじめ、卒業論文を作成します。卒業論文は、2年間の勉学・研究の成果が反映したものとなります。過去の卒論では、ウクライナ戦争にショックをうけた「傷痍軍人の妻の生きた戦後日本社会」、日韓関係の問題を意識した「在朝日本人のコミュニケーション」、メディアの社会的影響に関心をもった「伝説を語り継ぐメディア」などがあり、『情コミジャーナル』に投稿し、賞を取りました。 【到達目標】 別添「卒業論文・卒業制作に求めること」(学部版)の基準に従い、12,000から20,000 字程度(図表・注・文献リストを含む)の卒業論文を作成する。テーマは歴史学に関連したものならば、自由です。卒論作成を目指し、卒論は2単位となります。卒論は必須としますが、途中で挫折しても、その過程での研究報告・議論参加でゼミ4単位は付与します。		
2. 授業内容 第1回 卒論報告 (1) 第2回 卒論報告 (2) 第3回 卒論報告 (3) 第4回 卒論報告 (4) 第5回 卒論報告 (5) 第6回 卒論報告 (6) 第7回 卒論報告 (7) 第8回 卒論報告 (8) 第9回 卒論報告 (9) 第10回 卒論報告 (10) 第11回 卒論報告 (11) 第12回 卒論報告 (12) 第13回 卒論報告 (13) 第14回 卒論報告 (14)		
3. 履修上の注意 基準に従い、卒業論文を提出した学生には、ゼミ履修4単位のほかに、2単位を付与する。なお最終的に卒業論文を提出出来なかった場合でも、ゼミ履修4単位の修得は可能である。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 社会文化史・異文化コミュニケーション史に関する文献を事前に読んでおくこと。具体的な書名等は、その都度指摘する。		
5. 教科書 その都度指摘する		
6. 参考書 その都度指摘する		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 ゼミへの参加と研究成果の報告で4単位 基準にしたがった卒論提出で2単位		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅠ		関口 裕昭
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 春学期：メルヒェン研究／秋学期：映画と文学の比較研究		
1. 授業の概要・到達目標 概要：文学テキストと映画を主たる対象とし、その内容を正しく理解し、分析する基本的な手法を学ぶ。 到達目標： ①テキスト解説の基礎と、そのための文献の収集・精読の方法を学ぶ ②論文作成のためのテーマ設定、構成力、文章力を身に着ける ③異文化を学ぶための基礎となる歴史・地理の知識、実践力、コミュニケーション力を培う ④映画の分析方法の基礎を習得する ⑤生涯にわたる文化への関心とそれに接する習慣を身に着ける		
2. 授業内容 第1回 インTRODクシヨン——メルヒェンとは何か 第2回 グリム童話「ヘンゼルとグレーテル」の分析①——テキスト解説 第3回 グリム童話「ヘンゼルとグレーテル」の分析②——比較研究 第4回 グリム童話の歴史的背景を知る 第5回 メルヒェン研究の具体例①——「赤ずきん」「ラプンツェル」「いばら姫」 第6回 メルヒェン研究の具体例②——その他 第7回 グリム・メルヒェン研究のさまざまな可能性 第8回 グリム・メルヒェン分析の実践 第9回 そのほかのメルヒェン読解① 第10回 そのほかのメルヒェン読解② 第11回 研究論文の読み方 第12回 個別発表① 第13回 個別発表② 第14回 まとめと展望		
3. 履修上の注意 本ゼミナールは3年生と4年生の合同で、2コマ通して行います。受講者は2コマを通して受講しなければなりません。大変な面もありますが、3・4年生間の交流を深めたり、映画を鑑賞した後にそれについて分析したりする時間が十分にとれるなどの利点もあります。そのことを了解したうえで受講して下さい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 受講者が決定次第、読むべきテキストを前もってお知らせしますので、必ずそれを読んでから出席してください。中には長いテキスト（小説など）もありますので、それだけの覚悟をもって受講して下さい。		
5. 教科書 特に指定しません。随時プリントなどを配布します。		
6. 参考書 ゼミの時間中に指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 学期末レポートに対しては、Oh-ol Meijiを通して、提出した全員に講評をお送りします。それいがの小レポートなどの提出物に対しても、個別または全体に講評をお送りする予定です。		
8. 成績評価の方法 出席とゼミへの参加度、および学期末のレポートをそれぞれ50%で評価します。3年生の欠席は3回までで、それ以上休むと失格になります。4年生は就職活動などを多少考慮しますが、できる限り参加することを条件とします。		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅡ		関口 裕昭
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 春学期：メルヒェン研究／秋学期：映画と文学の比較研究		
1. 授業の概要・到達目標 概要：文学テキストと映画を主たる対象とし、その内容を正しく理解し、分析する基本的な手法を学ぶ。 到達目標： ①テキスト解説の基礎と、そのための文献の収集・精読の方法を学ぶ ②論文作成のためのテーマ設定、構成力、文章力を身に着ける ③異文化を学ぶための基礎となる歴史・地理の知識、実践力、コミュニケーション力を培う ④映画の分析方法の基礎を習得する ⑤生涯にわたる文化への関心とそれに接する習慣を身に着ける		
2. 授業内容 第1回 インTRODクシヨン——映画分析の基礎 第2回 文学テキストと映画の分析の相違 第3回 メルヒェンの原作と映画化の比較研究 第4回 ベルンハルト・シュリンク『朗読者』テキスト講読 第5回 『朗読者』とその映画化『愛を読む人』の鑑賞と比較分析① 第6回 『朗読者』と『愛を読む人』の比較分析② 第7回 カフカ「田舎医者」のテキストとアニメーション映画の比較研究 第8回 映画分析の応用——映画批評の文献講読① 第9回 映画分析の応用——映画批評の文献講読② 第10回 映画鑑賞と分析① 第11回 映画鑑賞と分析② 第12回 個別発表と論文執筆への準備① 第13回 個別発表と論文執筆への準備② 第14回 まとめと展望		
3. 履修上の注意 本ゼミナールは3年生と4年生の合同で、2コマ通して行います。受講者は2コマを通して受講しなければなりません。大変な面もありますが、3・4年生間の交流を深めたり、映画を鑑賞した後にそれについて分析したりする時間が十分にとれるなどの利点もあります。そのことを了解したうえで受講して下さい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 受講者が決定次第、読むべきテキストを前もってお知らせしますので、必ずそれを読んでから出席してください。中には長いテキスト（小説など）もありますので、それだけの覚悟をもって受講して下さい。		
5. 教科書 特に指定しません。随時プリントなどを配布します。		
6. 参考書 ゼミの時間中に指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 学期末レポートに対しては、提出した全員に個別に講評をお送りします。小レポートなどその他の提出物に対しても、個別または全体に対して講評をお送りします。		
8. 成績評価の方法 出席とゼミへの参加度、および学期末のレポートをそれぞれ50%で評価します。3年生の欠席は3回までで、それ以上休むと失格になります。4年生は就職活動などを多少考慮しますが、できる限り参加することを条件とします。		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅠ		関口 裕昭
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 春学期：カフカ研究／秋学期：歴史的背景からみた映画の分析		
1. 授業の概要・到達目標 概要：文学テキストと映画を主たる対象とし、その内容を的確に理解し、比較的手法により分析することを学ぶ。 到達目標： ①テキスト解説の応用力と、そのための文献の収集・精読の方法を学ぶ ②卒業論文作成のために的確なテーマを設定し、豊かな構成力、文章力を身に着ける ③異文化を学ぶためのより深く広範囲な歴史・地理の知識、実践力、コミュニケーション力を培う ④映画分析の様々な方法を習得し、個々の作品において実践する ⑤生涯にわたる文化への関心とそれに接する習慣を身に着ける ⑥以上を踏まえた上で、ゼミで培った学力と「人間力」を総動員して、第一志望の会社の内定をなんとしても勝ちとる		
2. 授業内容 第1回 インタロダクション—文学テキストの読み方 第2回 カフカの生涯と時代背景 第3回 『変身』を読む①—テキスト精読 第4回 『変身』を読む②—映画との比較から 第5回 『審判』を読む①—テキスト精読 第6回 『審判』を読む②—映画との比較から 第7回 短編小説の読み方 第8回 カフカの短編① 第9回 カフカの短編② 第10回 カフカの短編—個別発表 第11回 カフカと漫画・アニメーション 第12回 卒論中間発表① 第13回 卒論中間発表② 第14回 まとめと展望		
3. 履修上の注意 本ゼミナールは3年生と4年生の合同で、2コマ通して行います。受講者は2コマを通して受講しなければなりません。大変な面もありますが、3・4年生間の交流を深めたり、映画を鑑賞した後にそれについて分析したりする時間が十分にとれるなどの利点もあります。そのことを了解したうえで受講して下さい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 受講者が決定次第、読むべきテキストを前もってお知らせしますので、必ずそれを読んでから出席してください。中には長いテキスト（小説など）もありますので、それだけの覚悟をもって受講して下さい。		
5. 教科書 特に指定しません。随時プリントなどを配布します。		
6. 参考書 ゼミの時間中に指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 学期末レポートに対しては、提出した全員にOh-ol Meijiを通して講評をお送りします。その他の提出物に対しても、できる限り個別にまたは全体の講評としてフィードバックを行います。		
8. 成績評価の方法 出席とゼミへの参加度、および学期末のレポートをそれぞれ50%で評価します。3年生の欠席は3回までで、それ以上休むと失格になります。4年生は就職活動などを多少考慮しますが、できる限り参加することを条件とします。		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅡ		関口 裕昭
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 春学期：カフカ研究／秋学期：歴史的背景からみた映画の分析		
1. 授業の概要・到達目標 概要：文学テキストと映画を主たる対象とし、その内容を的確に理解し、比較的手法により分析することを学ぶ。 到達目標： ①テキスト解説の応用力と、そのための文献の収集・精読の方法を学ぶ ②卒業論文作成のために的確なテーマを設定し、豊かな構成力、文章力を身に着ける ③異文化を学ぶためのより深く広範囲な歴史・地理の知識、実践力、コミュニケーション力を培う ④映画分析の様々な方法を習得し、個々の作品において実践する ⑤生涯にわたる文化への関心とそれに接する習慣を身に着ける ⑥以上を踏まえた上で、ゼミで培った学力と「人間力」を総動員して、第一志望の会社の内定をなんとしても勝ちとる		
2. 授業内容 第1回 インタロダクション—戦争と映画 第2回 戦争映画とその分析の方法 第3回 映画鑑賞と分析① 第4回 映画鑑賞と分析② 第5回 映画鑑賞と分析③ 第6回 卒論の中間発表 第7回 映画鑑賞と分析④ 第8回 映画鑑賞と分析⑤ 第9回 映画分析の応用—映画批評の文献講読① 第10回 映画分析の応用—映画批評の文献講読② 第11回 卒論の発表と検討① 第12回 卒論の発表と検討② 第13回 卒論の発表と検討③ 第14回 まとめと展望		
3. 履修上の注意 本ゼミナールは3年生と4年生の合同で、2コマ通して行います。受講者は2コマを通して受講しなければなりません。大変な面もありますが、3・4年生間の交流を深めたり、映画を鑑賞した後にそれについて分析したりする時間が十分にとれるなどの利点もあります。そのことを了解したうえで受講して下さい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 受講者が決定次第、読むべきテキストを前もってお知らせしますので、必ずそれを読んでから出席してください。中には長いテキスト（小説など）もありますので、それだけの覚悟をもって受講して下さい。		
5. 教科書 特に指定しません。随時プリントなどを配布します。		
6. 参考書 ゼミの時間中に指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 学期末レポートに対しては提出した全員に、Oh-ol Meijiを通して講評をお送りします。その他の提出物に対しても、個別にまたは全他の講評としてフィードバックを行います。		
8. 成績評価の方法 出席とゼミへの参加度、および学期末のレポートをそれぞれ50%で評価します。3年生の欠席は3回までで、それ以上休むと失格になります。4年生は就職活動などを多少考慮しますが、できる限り参加することを条件とします。		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅠ		大黒 岳彦
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 特になし。		
1. 授業の概要・到達目標 情報社会は現在、新しいフェーズを迎えています。世紀変わり直後の2000年代には、Googleなどを使った検索（「ググる」という言葉の流行）、現在はイロン・マスクによる買収によって「X」というダサイ名前に変わった「Twitter」に代表されるSNSがバズりました。2010年代になると、「Bitcoin」に代表される暗号通貨が投資用ばかりでなく購買などのためにも流通し始め、後半になると「シンギュラリティ」や「ディープラーニング」といったキャッチワードによってAIが第三次ブームを迎えます。また、同時にSoftbankの「Pepper」や各種ドローンが発売されたことでロボットブームが起こりました。そして2020年代の現在、注目を浴びているのは何と言ってもXR（メタバースや3Dグラス）とChat GPT（生成AI）です。新しいメディアテクノロジー群は、人間と社会のあり方を根底から変えつつあります。本ゼミナールでは、上述した新しいメディアテクノロジーのメカニズムの概要と、その社会的な意義を、主として人文科学・社会科学的手法と観点から考察し、情報社会の今後の姿を考えることを目標とします。		
2. 授業内容 第一回 自己紹介 第二回 ガイダンス 第三回 検索（Google） 第四回 SNS 第五回 ビッグデータ 第六回 AI 第七回 ロボット 第八回 暗号通貨 第九回 VR 第十回 ポストトゥルース 第十一回 情報倫理 第十二回 生成AI 第十三回 メタバース 第十四回 まとめ		
3. 履修上の注意 必須というわけではありませんが、当方が担当する「メディア論」「記号論」塩田純先生担当の「ジャーナリズム論」慎蒼健先生の「科学技術論」の授業を履修することをお勧めします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各自がそれぞれのアンテナを張り巡らして、最新テクノロジーの動向に敏感であってください。		
5. 教科書 購入を義務付けることはしませんが、講義の内容が書籍になっているので精読をお勧めします。 大黒岳彦『情報社会の〈哲学〉——グーグル・ビッグデータ・人工知能』（勁草書房） 大黒岳彦『ヴァーチャル社会の〈哲学〉——ビットコイン・VR・ポスト・トゥルース』（青土社） 大黒岳彦『「情報社会」とは何か？——〈メディア〉論への前哨』（NTT出版）		
6. 参考書 同上。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 前期は特に課題は課しませんので、質問がある場合はその都度授業中に直接尋ねて、疑問をみんなと共有するようにしてください。		
8. 成績評価の方法 出席および授業中のパフォーマンス100%。		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅡ		大黒 岳彦
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 特になし。		
1. 授業の概要・到達目標 情報社会は現在、新しいフェーズを迎えています。世紀変わり直後の2000年代には、Googleなどを使った検索（「ググる」という言葉の流行）、現在はイロン・マスクによる買収によって「X」というダサイ名前に変わった「Twitter」に代表されるSNSがバズりました。2010年代になると、「Bitcoin」に代表される暗号通貨が投資用ばかりでなく購買などのためにも流通し始め、後半になると「シンギュラリティ」や「ディープラーニング」といったキャッチワードによってAIが第三次ブームを迎えます。また、同時にSoftbankの「Pepper」や各種ドローンが発売されたことでロボットブームが起こりました。そして2020年代の現在、注目を浴びているのは何と言ってもXR（メタバースや3Dグラス）とChat GPT（生成AI）です。新しいメディアテクノロジー群は、人間と社会のあり方を根底から変えつつあります。本ゼミナールでは、上述した新しいメディアテクノロジーのメカニズムの概要と、その社会的な意義を、主として人文科学・社会科学的手法と観点から考察し、情報社会の今後の姿を考えることを目標とします。		
2. 授業内容 秋学期は、春学期の講義内容を参考にしながら、自分なりの問題・課題を設定して研究の方向を定めます。 まず、最初に各自の関心を荒っぽくでいいので発表して貰い、それに対して指導教員（大黒）がコメントとアドバイスをを行います。 それを踏まえて、それぞれがパワーポイントを作成して発表を行うことになります。 第一回 ガイダンス 第二回 課題発表&コメント① 第三回 課題発表&コメント② 第四回 課題発表&コメント③ 第五回 プレゼン① 第六回 プレゼン② 第七回 プレゼン③ 第八回 プレゼン④ 第九回 プレゼン⑤ 第十回 プレゼン⑥ 第十一回 プレゼン⑦ 第十二回 プレゼン⑧ 第十三回 プレゼン⑨ 第十四回 まとめ		
3. 履修上の注意 大黒が担当する「メディア論」「記号論」および塩田純先生が担当する「ジャーナリズム論」を受講することをお勧めします。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 各自がそれぞれにアンテナを張り巡らして、自分の問題関心に関係ある出来事を注意深く観察するようにしてください。		
5. 教科書 購入を義務付けることはしませんが、講義の内容が書籍になっているので精読をお勧めします。 大黒岳彦『情報社会の〈哲学〉——グーグル・ビッグデータ・人工知能』（勁草書房） 大黒岳彦『ヴァーチャル社会の〈哲学〉——ビットコイン・VR・ポスト・トゥルース』（青土社） 大黒岳彦『「情報社会」とは何か？——〈メディア〉論への前哨』（NTT出版）		
6. 参考書 同上。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 質問がある場合は授業中に行い、問題をみんなと共有してください。回答も授業中に行います。		
8. 成績評価の方法 出席および授業中のパフォーマンス 30% パワーポイントによる発表 70%		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅠ		大黒 岳彦
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 特になし。		
1. 授業の概要・到達目標 情報社会は現在、新しいフェーズを迎えています。世紀変わり直後の2000年代には、Googleなどを使った検索（「ググる」という言葉の流行）、現在はイーロン・マスクによる買収によって「X」というダサイ名前に変わった「Twitter」に代表されるSNSがバズりました。2010年代になると、「Bitcoin」に代表される暗号通貨が投資用ばかりでなく購買などのためにも流通し始め、後半になると「シンギュラリティ」や「ディープラーニング」といったキャッチワードによってAIが第三次ブームを迎えます。また、同時にSoftbankの「Pepper」や各種ドローンが発売されたことでロボットブームが起こりました。そして2020年代の現在、注目を浴びているのは何と言ってもXR（メタバースや3Dグラス）とChat GPT（生成AI）です。新しいメディアテクノロジー群は、人間と社会のあり方を根底から変えつつあります。本ゼミナールでは、上述した新しいメディアテクノロジーのメカニズムの概要と、その社会的な意義を、主として人文科学・社会科学的手法と観点から考察し、情報社会の今後の姿を考えることを目標とします。		
2. 授業内容 問題分析ゼミでの活動を踏まえて、単著論文を作成して貰います。前期の早いうちに ・論文タイトル ・概要（問題の設定） ・構成 を固め、次いで ・先行研究のサーヴェイ作業 に取り掛かります。 第一回 ガイダンス 第二回 論文仮タイトル決定 第三回 論文概要決定 第四回 論文構成決定 第五回 論文の書き方① 第六回 論文の書き方② 第七回 論文の書き方③ 第八回 個別指導① 第九回 個別指導② 第十回 個別指導③ 第十一回 個別指導④ 第十二回 個別指導⑤ 第十三回 個別指導⑥ 第十四回 まとめ		
3. 履修上の注意 論文で単位を取ることを原則としていますのでそのつもりで受講してください。 基本的には、各自が主体的に計画を立て、それに基づいて作業を進めることとなります。 指導教員は、論文の書き方や資料の読み方などについてのレクチャーは講義形式で行いますが、執筆作業が始まって以後は原則的に個別指導となります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 前期は、自分の立てたテーマに関する文献を大量に読み込んでください。詳しくは授業内で述べます。		
5. 教科書 特になし。		
6. 参考書 特になし。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 その都度授業中に行います。		
8. 成績評価の方法 授業中のパフォーマンス100%		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅡ		大黒 岳彦
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 特になし。		
1. 授業の概要・到達目標 情報社会は現在、新しいフェーズを迎えています。世紀変わり直後の2000年代には、Googleなどを使った検索（「ググる」という言葉の流行）、現在はイーロン・マスクによる買収によって「X」というダサイ名前に変わった「Twitter」に代表されるSNSがバズりました。2010年代になると、「Bitcoin」に代表される暗号通貨が投資用ばかりでなく購買などのためにも流通し始め、後半になると「シンギュラリティ」や「ディープラーニング」といったキャッチワードによってAIが第三次ブームを迎えます。また、同時にSoftbankの「Pepper」や各種ドローンが発売されたことでロボットブームが起こりました。そして2020年代の現在、注目を浴びているのは何と言ってもXR（メタバースや3Dグラス）とChat GPT（生成AI）です。新しいメディアテクノロジー群は、人間と社会のあり方を根底から変えつつあります。本ゼミナールでは、上述した新しいメディアテクノロジーのメカニズムの概要と、その社会的な意義を、主として人文科学・社会科学的手法と観点から考察し、情報社会の今後の姿を考えることを目標とします。		
2. 授業内容 秋学期は論文の完成を目指します。 分量は2万字以上で上限なしとします。 内容は情報社会に関連するものであればどんなものでも構いません。 授業では、執筆の進捗状況の報告、および質問の機会を提供します。 第一回 ガイダンス 第二回 個別指導① 第三回 個別指導② 第四回 個別指導③ 第五回 個別指導④ 第六回 個別指導⑤ 第七回 個別指導⑥ 第八回 個別指導⑦ 第九回 個別指導⑧ 第十回 個別指導⑨ 第十一回 個別指導⑩ 第十二回 個別指導⑪ 第十三回 個別指導⑫ 第十四回 まとめ		
3. 履修上の注意 執筆が始まったら、読むことよりも考えることにエネルギーと時間を掛けて下さい。 詳しくは授業内で話します。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 常に、自分の抱えるテーマについて考え、あらゆることを自分のテーマに結び付けようと努力してください。		
5. 教科書 特になし。		
6. 参考書 特になし。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 質問は授業中に個別に受け付けます。		
8. 成績評価の方法 授業中のパフォーマンス 100%		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅠ		高橋 華生子
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 「ソフトパワー」と都市再生：カルチャーを用いた開発の理念と実践		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 私たちは今、「都市の時代」に生きている。これまで都市は経済成長のエンジンとして機能し、産業と人口を引き寄せる中心地であった。しかし近年、オートメーションやAIの導入が加速する中で、かつて製造業を中心に繁栄した産業都市は衰退し、一部の大都市のみが成長を続ける偏在的な構造が強まりつつある。 そうした状況のもとで注目されているのが、「カルチャー（文化）」を活用した地方都市の再生である。その代表的なモデルとして、「創造都市(creative cities)」と呼ばれる都市開発の枠組みが挙げられる。たとえば、スペイン・バスク地方の工業都市ビルバオは、1980年代以降に深刻な荒廃を経験したが、世界的な美術館を中心とした再開発によって、現在では国際的な芸術拠点として知られている。 このような再生モデルの重要な点は、単に近代的な建築物やインフラを整備する「ハード」な開発にとどまらず、音楽、文学、映画、メディアアート、食文化など、多様な「ソフトパワー」を積極的に活用し、都市の魅力と活力を再構築していることである。長野県松本市での「りんご音楽祭」に代表される地方の音楽フェスティバルの増加も、こうした文化を軸とした地域活性化の流れの中に位置づけることができる。 本ゼミでは、上述した都市の開発・再生モデルに焦点を当て、その可能性と課題を多角的に検討していく。日本を含む先進諸国の事例に加えて、成長著しい新興国や開発途上国の動向にも目を向けながら、今日の都市で何が起きているのか、なぜソフトパワーが都市戦略として重視されているのか、そこにどのような社会的・文化的問題が潜んでいるのかを分析していく。 受講生とともに具体的な事例や地域を選定し、現地でのフィールドワークを通じて実態を観察し、理解を深めることを目指す。		
【到達目標】 * 都市の時代における開発の動向や戦略の変化を捉え、それを批判的かつ建設的に見つめる力を養うこと * 国内の 이슈であったとしても、国際的な視座に基づいて考察する力を身につけること		
2. 授業内容 第1回 春学期 ゼミ・イントロダクション 第2回 研究の手法に関する講義 第3回 今年度のテーマ決め、資料収集 第4回 テーマに関する文献・先行研究の輪読① 第5回 テーマに関する文献・先行研究の輪読② 第6回 テーマに関する文献・先行研究の輪読③ 第7回 テーマに関する文献・先行研究の輪読④ 第8回 テーマに関する文献・先行研究の輪読⑤ 第9回 調査事例・対象地に関するグループワーク① 第10回 調査事例・対象地に関するグループワーク② 第11回 調査事例・対象地に関するグループワーク③ 第12回 調査事例・対象地に関するグループワーク④ 第13回 調査事例・対象地に関するグループワーク⑤ 第14回 春学期の総括		
3. 履修上の注意 3年次に駿河台で開講される「国際開発論」を必ず履修すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 2年次までに社会学や政治学、経済学、社会調査法、統計学といった社会科学の基盤となる授業の履修を強く勧める。		
5. 教科書 ゼミでは基盤となる文献を用いるが、受講生との話し合いを通じて具体的なテーマを選定し、文献や資料の選定も学生と協働して進めていく。		
6. 参考書 適宜、受講生と協議しながら、必要な文献や資料などを取り入れていく。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 発表を含む成果物については、ゼミ内外で具体的なコメント・フィードバックを共有する。		
8. 成績評価の方法 平常点（出席・参加・貢献度など）60%、課題（発表やレポートなど）50%		
9. その他 「学び・考え・行動する」ことに貪欲な学生が受講を検討すること。学外での調査活動に主体的に取り組み、現場での経験を楽しむ姿勢が求められる。また、必要に応じて、国際的な視野とコミュニケーション能力を高めるための英語スキルの向上にも取り組んでいく。		

問題分析ゼミナールⅡ		高橋 華生子
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 「ソフトパワー」と都市再生：カルチャーを用いた開発の理念と実践		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 私たちは今、「都市の時代」に生きている。これまで都市は経済成長のエンジンとして機能し、産業と人口を引き寄せる中心地であった。しかし近年、オートメーションやAIの導入が加速する中で、かつて製造業を中心に繁栄した産業都市は衰退し、一部の大都市のみが成長を続ける偏在的な構造が強まりつつある。 そうした状況のもとで注目されているのが、「カルチャー（文化）」を活用した地方都市の再生である。その代表的なモデルとして、「創造都市(creative cities)」と呼ばれる都市開発の枠組みが挙げられる。たとえば、スペイン・バスク地方の工業都市ビルバオは、1980年代以降に深刻な荒廃を経験したが、世界的な美術館を中心とした再開発によって、現在では国際的な芸術拠点として知られている。 このような再生モデルの重要な点は、単に近代的な建築物やインフラを整備する「ハード」な開発にとどまらず、音楽、文学、映画、メディアアート、食文化など、多様な「ソフトパワー」を積極的に活用し、都市の魅力と活力を再構築していることである。長野県松本市での「りんご音楽祭」に代表される地方の音楽フェスティバルの増加も、こうした文化を軸とした地域活性化の流れの中に位置づけることができる。 本ゼミでは、上述した都市の開発・再生モデルに焦点を当て、その可能性と課題を多角的に検討していく。日本を含む先進諸国の事例に加えて、成長著しい新興国や開発途上国の動向にも目を向けながら、今日の都市で何が起きているのか、なぜソフトパワーが都市戦略として重視されているのか、そこにどのような社会的・文化的問題が潜んでいるのかを分析していく。 受講生とともに具体的な事例や地域を選定し、現地でのフィールドワークを通じて実態を観察し、理解を深めることを目指す。		
【到達目標】 * 都市の時代における開発の動向や戦略の変化を捉え、それを批判的かつ建設的に見つめる力を養うこと * 国内の 이슈であったとしても、国際的な視座に基づいて考察する力を身につけること		
2. 授業内容 第1回 秋学期 ゼミ・イントロダクション 第2回 グループワークのまとめ① 第3回 グループワークのまとめ② 第4回 フィールド調査の関連作業① 第5回 フィールド調査の関連作業② 第6回 フィールド調査の関連作業③ 第7回 フィールド調査の関連作業④ 第8回 作業に関する全体の共有 第9回 フィールド調査の関連作業⑤ 第10回 フィールド調査の関連作業⑥ 第11回 フィールド調査の関連作業⑦ 第12回 フィールド調査の発表① 第13回 フィールド調査の発表② 第14回 ゼミの総括		
3. 履修上の注意 3年次に駿河台で開講される「国際開発論」を必ず履修すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 2年次までに社会学や政治学、経済学、社会調査法、統計学といった社会科学の基盤となる授業の履修を強く勧める。		
5. 教科書 ゼミでは基盤となる文献を用いるが、受講生との話し合いを通じて具体的なテーマを選定し、文献や資料の選定も学生と協働して進めていく。		
6. 参考書 適宜、受講生と協議しながら、必要な文献や資料などを取り入れていく。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 発表を含む成果物については、ゼミ内外で具体的なコメント・フィードバックを共有する。		
8. 成績評価の方法 平常点（出席・参加・貢献度など）60%、課題（発表やレポートなど）40%		
9. その他 「学び・考え・行動する」ことに貪欲な学生が受講を検討すること。学外での調査活動に主体的に取り組み、現場での経験を楽しむ姿勢が求められる。また、必要に応じて、国際的な視野とコミュニケーション能力を高めるための英語スキルの向上にも取り組んでいく。		

問題解決ゼミナールⅠ		高橋 華生子
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 「ソフトパワー」と都市再生：カルチャーを用いた開発の理念と実践		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本ゼミは大きく2つの活動から成る。第1に、3年次の問題分析ゼミで培った知識を活用し、本年度のテーマを設定し、それに関する調査・研究を企画・構築したうえで、グループワークに取り組むことである。第2に、これまでの学びを基盤として、自身の関心をさらに掘り下げ、2年間の学習成果を総括することである。具体的には、春学期は第1の活動を進めつつ、並行して第2の活動の準備を各自で行う。秋学期は、その集大成として研究成果の発表に注力する。成果発表は、追加単位認定の対象となる卒業論文（単独）またはゼミ単位のみ認定の卒業制作（単独・ペア・グループ可）として行う。卒業制作は、論文形式に限らず、イベントの企画・実施と報告書、映像作品など多様な形式での発表が可能である。受講生は都市計画や地方開発に関する課題を題材に、卒業論文または卒業制作の完成を目指す。なお、4年次は3年次との合同ゼミとして実施する。フィールド調査は基本的に3年次に行く予定であるが、4年生の参加も可能である。4年生には、これまでに培った経験や知見を3年生に伝え、ゼミ全体の活動を牽引する役割を期待する。 【到達目標】 * 習得した知識や経験をもとに、これからの都市のあり方について自らの考えや方針を確立すること。 * 問題や現象を「学ぶ・知る」だけにとどまらず、それらを「解決・軽減する」ための方策を探究すること。		
2. 授業内容 第1回 春学期 ゼミ・イントロダクション 第2回 研究の手法に関する講義 第3回 今年度のテーマ決め、資料収集 第4回 テーマに関する文献・先行研究の輪読① 第5回 テーマに関する文献・先行研究の輪読② 第6回 テーマに関する文献・先行研究の輪読③ 第7回 テーマに関する文献・先行研究の輪読④ 第8回 テーマに関する文献・先行研究の輪読⑤ 第9回 テーマに関するグループワーク① 第10回 テーマに関するグループワーク② 第11回 テーマに関するグループワーク③ 第12回 テーマに関するグループワーク④ 第13回 テーマに関するグループワーク⑤ 第14回 春学期の総括		
3. 履修上の注意 特になし。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 必修ではないが、興味のある題材やイシューに関する授業を学部やキャンパスの垣根を超えて見つけ出し、積極的に履修してもらいたい。		
5. 教科書 ゼミでは基盤となる文献を用いるが、受講生との話し合いを通じて具体的なテーマを選定し、文献や資料の選定も学生と協働して進めていく。		
6. 参考書 適宜、受講生と協議しながら、必要な文献や資料などを取り入れていく。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 発表を含む成果物については、ゼミ内外で具体的なコメント・フィードバックを共有する		
8. 成績評価の方法 平常点（出席・参加・貢献度など）60%、課題（発表やレポートなど）40%		
9. その他 本ゼミは、3・4年生の合同実施を前提としていることを理解しておくこと。		

問題解決ゼミナールⅡ		高橋 華生子
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 「ソフトパワー」と都市再生：カルチャーを用いた開発の理念と実践		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本ゼミは大きく2つの活動から成る。第1に、3年次の問題分析ゼミで培った知識を活用し、本年度のテーマを設定し、それに関する調査・研究を企画・構築したうえで、グループワークに取り組むことである。第2に、これまでの学びを基盤として、自身の関心をさらに掘り下げ、2年間の学習成果を総括することである。具体的には、春学期は第1の活動を進めつつ、並行して第2の活動の準備を各自で行う。秋学期は、その集大成として研究成果の発表に注力する。成果発表は、追加単位認定の対象となる卒業論文（単独）またはゼミ単位のみ認定の卒業制作（単独・ペア・グループ可）として行う。卒業制作は、論文形式に限らず、イベントの企画・実施と報告書、映像作品など多様な形式での発表が可能である。受講生は都市計画や地方開発に関する課題を題材に、卒業論文または卒業制作の完成を目指す。なお、4年次は3年次との合同ゼミとして実施する。フィールド調査は基本的に3年次に行く予定であるが、4年生の参加も可能である。4年生には、これまでに培った経験や知見を3年生に伝え、ゼミ全体の活動を牽引する役割を期待する。 【到達目標】 * 習得した知識や経験をもとに、これからの都市のあり方について自らの考えや方針を確立すること。 * 問題や現象を「学ぶ・知る」だけにとどまらず、それらを「解決・軽減する」ための方策を探究すること。		
2. 授業内容 第1回 秋学期 ゼミ・イントロダクション 第2回 グループワークのまとめ① 第3回 グループワークのまとめ② 第4回 フィールド調査のサポート 第5回 卒業論文・卒業制作の準備① 第6回 卒業論文・卒業制作の準備② 第7回 卒業論文・卒業制作の準備③ 第8回 中間発表 第9回 卒業論文・卒業制作の最終調整① 第10回 卒業論文・卒業制作の最終調整② 第11回 卒業論文・卒業制作の最終調整③ 第12回 卒業論文・卒業制作の発表① 第13回 卒業論文・卒業制作の発表② 第14回 ゼミの総括		
3. 履修上の注意 特になし。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 必修ではないが、興味のある題材やイシューに関する授業を学部やキャンパスの垣根を超えて見つけ出し、積極的に履修してもらいたい。		
5. 教科書 ゼミでは基盤となる文献を用いるが、受講生との話し合いを通じて具体的なテーマを選定し、文献や資料の選定も学生と協働して進めていく。		
6. 参考書 受講生との話し合いで具体的なテーマを選定し、学生と協働しながら文献や資料などを決定する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 発表を含む成果物については、ゼミ内外で具体的なコメント・フィードバックを共有する		
8. 成績評価の方法 平常点（出席・参加・貢献度など）60%、課題（発表や卒業制作など）40%		
9. その他 本ゼミは、3・4年生の合同実施を前提としていることを理解しておくこと。		

問題分析ゼミナールⅠ		竹崎 一真
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ スポーツ社会学、カルチュラル・スタディーズ		
1. 授業の概要・到達目標 【授業概要】 近代社会の到来とともに出現したスポーツは、社会の変化とともに大きく変化しています。とりわけ、グローバル化の進展、テクノロジーの進展、新しい資本主義の到来、多様性の拡大といった変化は、スポーツのあり方を根本的に変えようとしています。こうした社会の変化が、スポーツの何を变えようとしているのか、あるいはスポーツの変化が社会の何を变えようとしているのかを領域横断的に思考していきます。 【到達目標】 自らスポーツと社会の関係に問題を発見し、分析する力を身に着けることを目指します。		
2. 授業内容 第1回 クラスの概要説明 第2回 文献購読① 第3回 文献購読② 第4回 文献購読③ 第5回 文献購読④ 第6回 文献購読⑤ 第7回 研究プロジェクト①グループ 第8回 研究プロジェクト②グループ 第9回 研究プロジェクト③グループ 第10回 研究成果発表①グループ 第11回 研究成果発表②グループ 第12回 研究成果発表③グループ 第13回 研究成果発表④グループ 第14回 まとめ		
3. 履修上の注意 予備知識は不要ですが、問題意識を持って授業に臨んでください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 個人やグループで研究を行ってもらいます。ゼミ以外での学習（研究）時間を確保してください。		
5. 教科書 授業時に紹介します。		
6. 参考書 適宜、紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業後およびメールにて個別に行います。		
8. 成績評価の方法 平常点50%、研究発表50%		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅡ		竹崎 一真
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ スポーツ社会学、カルチュラル・スタディーズ		
1. 授業の概要・到達目標 【授業概要】 近代社会の到来とともに出現したスポーツは、社会の変化とともに大きく変化しています。とりわけ、グローバル化の進展、テクノロジーの進展、新しい資本主義の到来、多様性の拡大といった変化は、スポーツのあり方を根本的に変えようとしています。こうした社会の変化が、スポーツの何を变えようとしているのか、あるいはスポーツの変化が社会の何を变えようとしているのかを領域横断的に思考していきます。 【到達目標】 自らスポーツと社会の関係に問題を発見し、分析する力を身に着けることを目指します。		
2. 授業内容 第1回 クラスの概要説明 第2回 文献購読① 第3回 文献購読② 第4回 文献購読③ 第5回 研究プロジェクト①個人 第6回 研究プロジェクト②個人 第7回 研究プロジェクト③個人 第8回 研究方法を学ぶ① 第9回 研究方法を学ぶ② 第10回 研究構想発表①個人 第11回 研究構想発表②個人 第12回 研究構想発表③個人 第13回 研究構想発表④個人 第14回 まとめ		
3. 履修上の注意 予備知識は不要ですが、問題意識を持って授業に臨んでください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 個人やグループで研究を行ってもらいます。ゼミ以外での学習（研究）時間を確保してください。		
5. 教科書 授業時に紹介します。		
6. 参考書 適宜、紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業後およびメールにて対応します。		
8. 成績評価の方法 平常点50%、研究発表50%		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅠ		竹崎 一真
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ スポーツ社会学、カルチュラル・スタディーズ		
1. 授業の概要・到達目標 【授業概要】 近代社会の到来とともに出現したスポーツは、社会の変化とともに大きく変化しています。とりわけ、グローバル化の進展、テクノロジーの進展、新しい資本主義の到来、多様性の拡大といった変化は、スポーツのあり方を根本的に変えようとしています。こうした社会の変化が、スポーツの何を变えようとしているのか、あるいはスポーツの変化が社会の何を变えようとしているのかを領域横断的に思考していきます。 【到達目標】 自ら設定した研究テーマを深く追求し、論文化する力を身に付けることを目指します。		
2. 授業内容 第1回 クラスの概要説明 第2回 卒業論文の書き方①テーマの設定方法 第3回 卒業論文の書き方②先行研究と理論 第4回 卒業論文の書き方③調査方法（資料収集） 第5回 卒業論文の書き方④調査方法（インタビュー） 第6回 第一回研究構想発表① 第7回 第一回研究構想発表② 第8回 第一回研究構想発表③ 第9回 第一回研究構想発表④ 第10回 第二回研究構想発表① 第11回 第二回研究構想発表② 第12回 第二回研究構想発表③ 第13回 第二回研究構想発表④ 第14回 まとめ		
3. 履修上の注意 予備知識は不要ですが、問題意識を持って授業に臨んでください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 卒業論文の執筆の時間を確保してください。		
5. 教科書 特になし。		
6. 参考書 適宜、紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業後およびメールにて個別に行います。		
8. 成績評価の方法 平常点50%、成果発表50%		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅡ		竹崎 一真
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ スポーツ社会学、カルチュラル・スタディーズ		
1. 授業の概要・到達目標 【授業概要】 近代社会の到来とともに出現したスポーツは、社会の変化とともに大きく変化しています。とりわけ、グローバル化の進展、テクノロジーの進展、新しい資本主義の到来、多様性の拡大といった変化は、スポーツのあり方を根本的に変えようとしています。こうした社会の変化が、スポーツの何を变えようとしているのか、あるいはスポーツの変化が社会の何を变えようとしているのかを領域横断的に思考していきます。 【到達目標】 自ら設定した研究テーマを深く追求し、論文化する力を身に付けることを目指します。		
2. 授業内容 第1回 クラスの概要説明 第2回 中間報告会① 第3回 中間報告会② 第4回 中間報告会③ 第5回 中間報告会④ 第6回 中間報告会⑤ 第7回 研究進捗報告① 第8回 研究進捗報告② 第9回 研究進捗報告③ 第10回 研究進捗報告④ 第11回 研究進捗報告⑤ 第12回 成果発表① 第13回 成果発表② 第14回 成果発表③およびまとめ		
3. 履修上の注意 予備知識は不要ですが、問題意識を持って授業に臨んでください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 卒業論文の執筆の時間を確保してください。		
5. 教科書 特になし。		
6. 参考書 適宜、紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業後およびメールにて対応します。		
8. 成績評価の方法 平常点50%、成果発表50%		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅠ		竹中 克久
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 組織社会学—現代社会を読み解く		
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要：現代社会は、組織（企業、大学、病院など）と関わらずに生活することは不可能なものになっている。その「関わり」は直接的なものから、間接的なものまで非常に多様である。しかし、その組織とはいったい何なのだろうか？ もともと、「一人ではできないこと」を可能にするために組織はできることが多い。それによって大きな成果や一人では味わえないような一体感をもつことができたりもする。ところが、いつの間にか組織それ自身が意志を持って動き出したかのように、誰にも制御できないものになっていくことがある。たとえば今日では、メディアで組織の不祥事や、組織の「ウソ」である偽装問題を目にしたり耳にしたりすることがある種「当たり前」になっている。なぜ、このような社会問題は起こるのだろうか。また、過労死・過労自殺といった「悲劇」が引き起こされる背景には何があるのだろうか。本ゼミナールでは、まずは共同で文献読解を行うことで、組織に関する共通言語を獲得する。次いで、個人の関心に基づいた研究発表を行い、その結果を基に教員が4つのグループを作成する。秋に開催される研究交流祭に向けてグループ研究を行うことによって、結果的に「個」の研究力を強くしてゆく。 到達目標：「問題が起こっている」ことを指摘することだけでは、学問ではない。そのメカニズムを論理的に説明することが重要である。そういった問いを通じて「当たり前」とらわれない能力を養うことがこのゼミナールの到達目標である。		
2. 授業内容 第1回 インTRODクシヨン—組織社会学とは 第2回 論文読解1 第3回 論文読解2 第4回 論文読解3 第5回 個人研究発表1（4名） 第6回 個人研究発表2（4名） 第7回 個人研究発表3（4名） 第8回 個人研究発表4（4名） 第9回 個人研究発表5（4名） 第10回 グループ研究・ブレインストーミング（研究交流祭での研究発表準備開始） 第11回 グループ研究1 第12回 グループ研究2 第13回 グループ研究3 第14回 プレゼンテーション		
3. 履修上の注意 ゼミナールの要件ではないが、1・2年次開講の「組織論」、3・4年次開講の「組織と情報」を履修していることが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 常日頃から記事やニュースに触れ、情報と問題意識について質的にも量的にも高いレベルを維持すること。 個人研究発表については、ゼミ資料「論文スタイルガイド」を意識し、「Google Scholar」等により文献調査を行うこと。 グループ研究は構成メンバーの準備学習が必須であり、ゼミナールにおけるコメントを受けた復習・振り返りも必須である。		
5. 教科書 『組織の理論社会学—コミュニケーション・社会・人間』、竹中克久、文真堂、2013		
6. 参考書 特に事前に指定はしない。臨機応変に文献や記事を教員より提供する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ゼミや休憩時間などに直接フィードバックするとともに、メールやLineも使用する。		
8. 成績評価の方法 プレゼンテーション70%、ディスカッション30%		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅡ		竹中 克久
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 組織社会学—現代社会を読み解く		
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要：現代社会は、組織（企業、大学、病院など）と関わらずに生活することは不可能なものになっている。その「関わり」は直接的なものから、間接的なものまで非常に多様である。しかし、その組織とはいったい何なのだろうか？ もともと、「一人ではできないこと」を可能にするために組織はできることが多い。それによって大きな成果や一人では味わえないような一体感をもつことができたりもする。ところが、いつの間にか組織それ自身が意志を持って動き出したかのように、誰にも制御できないものになっていくことがある。たとえば今日では、メディアで組織の不祥事や、組織の「ウソ」である偽装問題を目にしたり耳にしたりすることがある種「当たり前」になっている。なぜ、このような社会問題は起こるのだろうか。また、過労死・過労自殺といった「悲劇」が引き起こされる背景には何があるのだろうか。本ゼミナールでは、秋に開催される研究交流祭に向けてグループ研究を行うことによって、結果的に「個」の研究力を強くしてゆく。また、可能であればその共同成果を論文化することも視野に入れている。 到達目標：「問題が起こっている」ことを指摘することだけでは、学問ではない。そのメカニズムを論理的に説明することが重要である。そういった問いかけを通じて「当たり前」とらわれない能力を養うことがこのゼミナールの到達目標である。また、4年次に必須の「卒業論文」に向けて、論文の書き方を学ぶとともに、それぞれが構想を練る。		
2. 授業内容 第1回 グループ研究1 第2回 グループ研究2 第3回 グループ研究3 第4回 中間プレゼンテーション 第5回 グループ研究4 第6回 グループ研究5 第7回 グループ研究6 第8回 中間プレゼンテーション 第9回 グループ研究7 第10回 グループ研究8 第11回 最終プレゼンテーション 第12回 研究交流祭での発表・振り返り・論文の書き方 第13回 卒論構想1 第14回 卒論構想2		
3. 履修上の注意 ゼミナールの要件ではないが、1・2年次開講の「組織論」、3・4年次開講の「組織と情報」を履修していることが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 常日頃から記事やニュースに触れ、情報と問題意識について質的にも量的にも高いレベルを維持すること。 個人研究発表については、ゼミ資料「論文スタイルガイド」を意識し、「Google Scholar」等により文献調査を行うこと。 グループ研究は構成メンバーの準備学習が必須であり、ゼミナールにおけるコメントを受けた復習・振り返りも必須である。		
5. 教科書 『組織の理論社会学—コミュニケーション・社会・人間』、竹中克久、文真堂、2013		
6. 参考書 特に事前に指定はしない。臨機応変に文献や記事を教員より提供する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ゼミや休憩時間などに直接フィードバックするとともに、メールやLineも使用する。		
8. 成績評価の方法 プレゼンテーション70%、ディスカッション30%		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅠ		竹中 克久
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 組織社会学—現代社会を読み解く		
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要：大学4年間の集大成として、単著で卒業論文を執筆する。 テーマは組織に関連するものや、広く社会に関するものとする。 その際に社会学的手法に基づくことが重要である。 教育組織における「洗脳性」や、企業組織における「宗教性」など、多様な組織を社会学的に分析し、先行研究の読解、最新の研究動向の組み入れ、それに基づいた独自の問題関心と結論をともなう卒業論文の作成を目標とする。 問題解決ゼミナールⅠでは、主としてパワーポイントによる研究発表を行いながら、論文の方向性を決定する。問題解決ゼミナールⅡでは、文書化した原稿に基づき、卒業論文の完成を目指す。 到達目標：独立した「個」としての研究者としての資質の基礎を身につける。		
2. 授業内容 第1回 インTRODakション—卒業論文とは何か 第2回 個人研究発表1 第3回 個人研究発表2 第4回 個人研究発表3 第5回 個人研究発表4 第6回 個人研究発表5 第7回 中間考察 第8回 個人研究発表6 第9回 個人研究発表7 第10回 個人研究発表8 第11回 個人研究発表9 第12回 個人研究発表10 第13回 個人研究発表11 第14回 個人研究発表12・総括		
3. 履修上の注意 ゼミナールの要件ではないが、1・2年次開講の「組織論」、3・4年次開講の「組織と情報」を履修していることが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 半期ごとに2回程度の個人研究発表となるため、十分に事前準備を行うこと。常日頃から記事やニュースに触れ、情報と問題意識について質的にも量的にも高いレベルを維持すること。個人研究発表については、ゼミ資料「論文スタイルガイド」を意識し、「Google Scholar」等により文献調査を行うこと。 ゼミナールにおけるコメントを受けた復習・振り返り・指導記録の作成も必須である。		
5. 教科書 『組織の理論社会学—コミュニケーション・社会・人間』、竹中克久、文眞堂、2013		
6. 参考書 特に事前に指定はしない。臨機応変に文献や記事を教員より提供する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ゼミや休憩時間などに直接フィードバックするとともに、メールやLineも使用する。		
8. 成績評価の方法 卒業論文100%		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅡ		竹中 克久
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 組織社会学—現代社会を読み解く		
1. 授業の概要・到達目標 授業の概要：大学4年間の集大成として、単著で卒業論文を執筆する。 テーマは組織に関連するものや、広く社会に関するものとする。 その際に社会学的手法に基づくことが重要である。 教育組織における「洗脳性」や、企業組織における「宗教性」など、多様な組織を社会学的に分析し、先行研究の読解、最新の研究動向の組み入れ、それに基づいた独自の問題関心と結論をともなう卒業論文の作成を目標とする。 到達目標：問題解決ゼミナールⅡでは、独立した「個」による卒業論文を執筆し、社会的貢献を果たす。		
2. 授業内容 第1回 個人研究発表1 第2回 個人研究発表2 第3回 個人研究発表3 第4回 個人研究発表4 第5回 個人研究発表5 第6回 個人研究発表6 第7回 個人研究発表7 第8回 個人研究発表8 第9回 個人研究発表9 第10回 個人研究発表10 第11回 個人研究発表11 第12回 個人研究発表12 第13回 個人研究発表13 第14回 卒業論文総括		
3. 履修上の注意 ゼミナールの要件ではないが、1・2年次開講の「組織論」、3・4年次開講の「組織と情報」を履修していることが望ましい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 半期ごとに2回程度の個人研究発表となるため、十分に事前準備を行うこと。常日頃から記事やニュースに触れ、情報と問題意識について質的にも量的にも高いレベルを維持すること。個人研究発表については、ゼミ資料「論文スタイルガイド」を意識し、「Google Scholar」等により文献調査を行うこと。 ゼミナールにおけるコメントを受けた復習・振り返り・指導記録の作成も必須である。		
5. 教科書 『組織の理論社会学—コミュニケーション・社会・人間』、竹中克久、文眞堂、2013		
6. 参考書 特に事前に指定はしない。臨機応変に文献や記事を教員より提供する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ゼミや休憩時間などに直接フィードバックするとともに、メールやLineも使用する。		
8. 成績評価の方法 卒業論文100%		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅠ		田中 洋美
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ Shifting Boundaries——差異と境界の社会学		
1. 授業の概要・到達目標 本ゼミナールでは、ジェンダー、人種、エスニシティ等の社会的差異を切り口に多様に複雑な社会について考察します。Shifting Boundariesとは、設定されている境界をずらすことです。わたしたちの社会には様々な差異があり、それを生み出す境界設定があります。たとえば自己/他者、男性/女性、白人/黒人、文化/自然、人間/機械などの二分法がありますが、それらはいつどのよう生まれ、どのように社会や人間のありようを規定してきたのでしょうか。 このゼミナールでは、人文・社会科学のさまざまな分野で大きなテーマの一つとなってきた差異について社会学・ジェンダー研究・メディア研究のアプローチから研究します。社会や自分の身の回りには様々な差異に気づき、その成立背景や意味・影響などについて考えていきますが、まずは教員の講義と文献講読を通じて、研究に必要な概念や理論、方法を学びます。その上で、さまざまな研究事例に触れ、自らの研究プロジェクトを立案していきます。参考までに、担当教員はメディア、デジタルテクノロジー、ポピュラーカルチャーについてジェンダーや人種の視点から研究しています。差異に関するものであれば、これらに関するものはもちろん他のトピックに関するプロジェクトでも相談に応じます。 【到達目標】 先行研究の概念・アプローチを学び、自ら使えるようになる。 クリティカルな視点から社会・文化分析を行うための基礎力をつける。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション、授業計画の説明 第2回 先行研究の検討、文献講読 (1) 第3回 先行研究の検討、文献講読 (2) 第4回 先行研究の検討、文献講読 (3) 第5回 先行研究の検討、文献講読 (4) 第6回 先行研究の検討、文献講読 (5) 第7回 先行研究の検討、文献講読 (6) 第8回 先行研究の検討、文献講読 (7) 第9回 研究プロジェクト計画書の作成 (1) 第10回 研究プロジェクト計画書の作成 (2) 第11回 計画書の発表 (1) 第12回 計画書の発表 (2) 第13回 計画書の再検討 第14回 まとめ議論、今後(秋学期)の研究・活動計画		
3. 履修上の注意 ・問題意識を持って授業に臨んでください。 ・準備学習(予習・復習等)の内容[必須] 授業時間外での取り組みがあります。時間を確保してください。 ・文献を探して読むこと、また自分の考えを言語化することは必須の作業となります。 ・原則8割以上の出席が必要です。遅刻・欠席が多い場合は、評価対象なりません。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 【予習】 ・講読の場合、事前に読み、内容を把握し、気になったところ、不明点、質問などをまとめておきましょう。 ・発表やレポートといった課題も事前の取り組みが必要です。 ・グループでの取り組みの場合は、グループで集まる時間も必要です。 【復習】 ・授業内容を振り返り、学んだことを確認・整理する。不明点、質問があれば、自ら調べる。それでもわからない場合は、教員に相談する。他の履修者と話し合うのもよいでしょう。		
5. 教科書 参考書の中から、履修者の関心をみて決めます。		
6. 参考書 田中洋美・高馬京子・高峰修(編)『デジタル社会の多様性と創造性』明治大学出版会 ケン・ブラマー『21世紀を生きるための社会学の教科書』筑摩書房 小林信重『デジタルゲーム研究入門』ミネルヴァ書房 ※履修者の関心をみて調整します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で、あるいは面談等で行います。		
8. 成績評価の方法 平常点(授業態度、各種課題への取り組み内容)50% 成果発表(口頭発表、レポート)50%		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅡ		田中 洋美
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ Shifting Boundaries——差異と境界の社会学		
1. 授業の概要・到達目標 本ゼミナールでは、ジェンダー、人種、エスニシティ等の社会的差異を切り口に多様に複雑な社会について考察します。私たちの社会にはさまざまな差異があり、それを生み出す境界設定があります。たとえば自己/他者、男性/女性、白人/黒人、文化/自然、人間/機械などの二分法がありますが、それらはいつどのよう生まれ、どのように社会や人間のありようを規定してきたのでしょうか。 このゼミナールでは、人文・社会科学の様々な分野で大きなテーマの一つとなってきた差異について社会学・ジェンダー研究・メディア研究のアプローチから研究します。社会や自分の身の回りには様々な差異に気づき、その成立背景や意味・影響などについて考えていきます。 秋学期も引き続き、社会的差異を切り口に多様に複雑な社会について考察します。担当教員はメディアとジェンダー、ポピュラーカルチャー、デジタルテクノロジーについてジェンダーや人種の視点から研究しています。差異に関するものであれば、これらに関するものはもちろん他のトピックに関するプロジェクトでも相談に応じます。 【到達目標】 先行研究の概念・アプローチを学び、自ら使えるようになる。 クリティカルな視点から社会・文化分析を行うための基礎力をつける。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション、春学期・夏休みの課題の確認 第2回 研究計画の作成・見直し (1) 第3回 研究計画の作成・見直し (2) 第4回 研究計画の作成・見直し (3) 第5回 研究計画の作成・見直し (4) 第6回 研究計画の作成・見直し (5) 第7回 中間発表 第8回 研究計画に基づく作業：文献調査・データ収集 (1) 第9回 研究計画に基づく作業：文献調査・データ収集 (2) 第10回 研究計画に基づく作業：文献調査・データ収集 (3) 第11回 研究計画に基づく作業：文献調査・データ収集 (4) 第12回 研究発表会 (1) 第13回 研究発表会 (2) 第14回 まとめ議論		
3. 履修上の注意 ・問題意識を持って授業に臨んでください。 ・準備学習(予習・復習等)の内容[必須] 授業時間外での取り組みがあります。 ・文献を探して読むこと、また自分の考えを言語化することは必須の作業となります。 ・原則8割以上の出席が必要です。遅刻・欠席が多い場合は、評価対象なりません。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 【予習】 ・講読の場合、事前に読み、内容を把握し、気になったところ、不明点、質問などをまとめておきましょう。 ・発表やレポートといった課題も事前の取り組みが必要です。 ・グループでの取り組みの場合は、グループで集まる時間も考慮してください。 【復習】 ・授業内容を振り返り、学んだことを確認・整理する。わからないことがあれば調べる。それでもわからない場合は教員に相談する。他の履修者と話し合うのもよいでしょう。		
5. 教科書 履修者が春学期に立案したプロジェクトのテーマ・内容を関心をみて決めます。		
6. 参考書 ケン・ブラマー『21世紀を生きるための社会学の教科書』筑摩書房 小林信重『デジタルゲーム研究入門』ミネルヴァ書房 田中洋美・高馬京子・高峰修(編)『デジタル社会の多様性と創造性』明治大学出版会 ※履修者の関心をみて調整します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で、あるいは面談等でフィードバックします。		
8. 成績評価の方法 平常点(授業態度、授業への貢献度、各種課題への取り組み内容)50% 成果発表(口頭発表、レポート)50%		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅠ		田中 洋美
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ Shifting Boundaries——差異と境界の社会学		
1. 授業の概要・到達目標 【概要】 本ゼミナールでは、ジェンダー、人種、エスニシティ等の社会的差異を切り口に多様で複雑な社会について考察します。Shifting Boundariesとは、設定されている境界をずらすことです。私たちの社会にはさまざまな差異があり、それを生み出す境界設定があります。たとえば自己/他者、男性/女性、白人/黒人、文化/自然、人間/機械などの二分法がありますが、それらはいつどのようにして成立し、どのように社会や人間のありようを規定してきたのでしょうか。 このゼミナールでは、20世紀の終わりから現在に至るまで人文・社会科学の様々な分野で大きなテーマの一つとなってきた差異について、社会学・ジェンダー研究・メディア研究のアプローチから研究します。社会や身の回りにある差異に気づき、その成立背景や影響について考えていきます。4年次も引き続き、研究に必要な概念や理論、方法などツールについて学び、理解を深めます。そして様々な研究事例に触れ、自らのプロジェクトの企画立案を進めます。 参考までに、担当教員は現在、メディア、デジタルテクノロジー（AI、ロボットなど）、ポピュラーカルチャーに関するジェンダー/人種/身体/美について研究しています。差異に関するものであれば、これらに関するものはもちろん他のトピックに関するプロジェクトでも相談に応じます。 【到達目標】 先行研究の概念・アプローチを使ってクリティカルな視点から社会・文化分析ができる。自ら分析を行い、新たな知と価値を生み出すことができる。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション、授業計画の説明、研究方法・スケジュールの確認 第2回 文献調査の継続、データ収集 (1) 第3回 文献調査の継続、データ収集 (2) 第4回 文献調査の継続、データ収集 (3) 第5回 文献調査の継続、データ収集 (4) 第6回 文献調査の継続、データ収集 (5) 第7回 中間の見直し *序章～方法の執筆 第8回 データ分析 (1) 第9回 データ分析 (2) 第10回 データ分析 (3) 第11回 中間発表の準備 (1) 第12回 中間発表の準備 (2) 第13回 中間発表会 第14回 今学期のまとめの議論、夏休み・秋学期に向けて		
3. 履修上の注意 ・問題意識を持って授業に臨んでください。 ・文献を探して読むこと、また自分の考えを言語化することは必須です。 ・準備学習（予習・復習等）の内容〔必須〕授業時間外での取り組みがあります。時間を確保してください。 ・遅刻・欠席が続く場合は、単位習得不可になることがあります。事情がある場合は、相談してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ・自分で決めたプロジェクトへの取り組みが中心となります。うまくスケジュール管理してください。 ・進捗が芳しくない場合は、早めに相談すること。		
5. 教科書 各履修者のプロジェクト内容に応じて指示します。		
6. 参考書 小林信重『デジタルゲーム研究入門』ミネルヴァ書房 その他、各履修者のプロジェクト内容に応じて指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で、または面談等で行います。		
8. 成績評価の方法 平常点（授業態度、授業への貢献度、各種課題への取り組み内容）50% 成果発表（口頭発表、レポート）50%		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅡ		田中 洋美
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ Shifting Boundaries——差異と境界の社会学		
1. 授業の概要・到達目標 本ゼミナールでは、ジェンダー、人種、エスニシティ等の社会的差異を切り口に多様で複雑な社会について考察します。私たちの社会にはさまざまな差異があり、それを生み出す境界設定があります。たとえば自己/他者、男性/女性、白人/黒人、文化/自然、人間/機械などの二分法がありますが、それらはいつどのように生まれ、どのように社会や人間のありようを規定してきたのでしょうか。 このゼミナールでは、20世紀後半から現在に至るまで、人文・社会科学の様々な分野で大きなテーマの一つとなってきた差異について、社会学・ジェンダー研究・メディア研究のアプローチから研究します。社会や自分の中にある様々な差異に気づき、その成立背景や意味・影響について考えていきます。 今学期は、これまでゼミナールで取り組んできた研究の総仕上げを行います。自ら立案したプロジェクトをやり遂げ、成果をまとめ、形に残します。悔いのないよう、しっかり取り組みましょう。 【到達目標】 先行研究の概念・アプローチを使ってクリティカルな視点から社会・文化分析ができる。自ら分析を行い、新たな知と価値を生み出すことができる。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション、今学期の研究計画の確認 第2回 論文前半部分（序論、問題設定、方法）の見直し 第3回 分析・議論の執筆・見直し (1) 第4回 分析・議論の執筆・見直し (2) 第5回 分析・議論の執筆・見直し (3) 第6回 結論の執筆と全体的な見直し (1) 第7回 結論の執筆と全体的な見直し (2) 第8回 初校 (1) 第7回 初校 (2) 第8回 再校 (1) 第9回 再校 (2) 第10回 原稿の仕上げ・提出 (1) 第11回 原稿の仕上げ・提出 (2) 第12回 成果発表会 (1) 第13回 成果発表会 (2) 第14回 まとめ議論		
3. 履修上の注意 学部4年生、最後の学期です。自ら立案したプロジェクトを責任を持って仕上げましょう。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 自ら立案したプロジェクトをやり遂げるために必要な作業に取り組む。スケジュール管理を工夫し、作業時間を確保する。		
5. 教科書 各自のプロジェクト内容によって個別に指示します。		
6. 参考書 小林信重『デジタルゲーム研究入門』ミネルヴァ書房 その他、各自のプロジェクト内容によって個別に指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で、または面談等で行います。		
8. 成績評価の方法 平常点（授業態度、各種課題への取り組み）50% 成果発表（口頭発表、レポート・論文等）50%		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅠ		田村 理
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 映像作品の分析を通じて「格差社会」の現実を知り、映像作品の制作・発表を通じて「格差社会」への対策を提案する。		
1. 授業の概要・到達目標 このゼミでは、3年次・4年次の二年間を通じて、「格差社会で私はどう生きるか」を考えます。映画・ドラマ・ドキュメンタリーなどの映像作品を手がかりに社会の現実を明らかにし、「私」がどう対処すべきかを映像作品として実社会に提案することをめざします。3年次は現状分析をメインにしつつ、映像作品制作の構想を練ります。4年次は各個人の作品を一本、ゼミ全員で一本の作品をつくり、発表します。個人の作品は、ドキュメンタリー、フィクション、ミュージック・ビデオ、ダンス、コントなど、どのような形態でもかまいません。ゼミ全体で創る映像作品は20分程度のドキュメンタリーとし、ビデオコンテストに出品する予定です。 3年次春学期は、映画『ラスト・マイル』（満島ひかり主演、野木亜紀子脚本）をてがかりに、みなさんが出て行く社会の現状と未来がどのようなものかを検証・分析していく予定です。 (なお、このゼミナールでは卒論への単位付与は行いません。)		
2. 授業内容 第1回 イン트로ダクション 第2回 格差社会の現状を理解する (1) 第3回 格差社会の現状を理解する (2) 第4回 格差社会の現状を理解する (3) 第5回 格差社会の現状を理解する (4) 第6回 個人作品のテーマを考える (1) 第7回 個人作品のテーマを考える (2) 第8回 格差社会の現状を検証する (1) 第9回 格差社会の現状を検証する (2) 第10回 格差社会の現状を検証する (3) 第12回 格差社会の現状を検証する (4) 第13回 全体作品のテーマを考える (1) 第14回 全体作品のテーマを考える (2)		
3. 履修上の注意 大学設置基準では、1単位には45時間の学修を必要とするというのが基本になっています。2単位を修得するためには90時間の学修が原則として求められます。毎週授業時間の倍の時間を授業外での学習に充てる必要があることとなります。毎週200分この授業のために自宅で学習せよと求めることは現実的ではありませんが、授業時間外にも単位の修得にはそれなりの時間と労力を割くことが必要だということを理解した上で履修してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ゼミナールですので、全体を通じた定型の準備学習はありません。毎回、その時に必要な準備学習を指示します。		
5. 教科書		
6. 参考書 必要な文献やその探し方は授業中に丁寧に説明します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題ごとに学生から報告をしてもらい、他のゼミ生とともにその都度丁寧に必要な改善点等を指摘し、フィードバックしていきます。		
8. 成績評価の方法 成績評価は、①授業中に行った報告、②他学生の報告に対するコメント、③全体課題のための議論への参加姿勢と質、④制作された作品の質、⑤ゼミ全体への貢献、をそれぞれ5点満点で評価します。 5点以上=C、10点以上=B、15点以上=A、20点以上=S とします。		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅡ		田村 理
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 映像作品の分析を通じて「格差社会」の現実を知り、映像作品の制作・発表を通じて「格差社会」への対策を提案する。		
1. 授業の概要・到達目標 このゼミでは、3年次・4年次の二年間を通じて、「格差社会で私はどう生きるか」を考えます。映画・ドラマ・ドキュメンタリーなどの映像作品を手がかりに社会の現実を明らかにし、「私」がどう対処すべきかを映像作品として実社会に提案することをめざします。3年次は現状分析をメインにしつつ、映像作品制作の構想を練ります。4年次は各個人の作品を一本、ゼミ全員で一本の作品をつくり、発表します。個人の作品は、ドキュメンタリー、フィクション、ミュージック・ビデオ、ダンス、コントなど、どのような形態でもかまいません。ゼミ全体で創る映像作品は20分程度のドキュメンタリーとし、ビデオコンテストに出品する予定です。 3年次秋学期は、ドラマ『御上先生』（松坂桃李主演、詩森ろば脚本）など、教育についての映像作品をてがかりに、格差社会を生きる力を私たちが養って来ているか、足りなければ何が必要かを検証・分析していきます。 (なお、このゼミナールでは卒論への単位付与は行いません。)		
2. 授業内容 第1回 イン트로ダクション 第2回 教育の現状を理解する (1) 第3回 教育の現状を理解する (2) 第4回 教育の現状を理解する (3) 第5回 教育の現状を理解する (4) 第6回 個人作品のテーマを考える (1) 第7回 個人作品のテーマを考える (2) 第8回 「足りないもの」を検証する (1) 第9回 「足りないもの」を検証する (2) 第10回 「足りないもの」を検証する (3) 第12回 「足りないもの」を検証する (4) 第13回 全体作品のテーマを考える (1) 第14回 全体作品のテーマを考える (2)		
3. 履修上の注意 大学設置基準では、1単位には45時間の学修を必要とするというのが基本になっています。2単位を修得するためには90時間の学修が原則として求められます。毎週授業時間の倍の時間を授業外での学習に充てる必要があることとなります。毎週200分この授業のために自宅で学習せよと求めることは現実的ではありませんが、授業時間外にも単位の修得にはそれなりの時間と労力を割くことが必要だということを理解した上で履修してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 ゼミナールですので、全体を通じた定型の準備学習はありません。毎回、その時に必要な準備学習を指示します。		
5. 教科書		
6. 参考書 必要な文献やその探し方は授業中に丁寧に説明します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題ごとに学生から報告をしてもらい、他のゼミ生とともにその都度丁寧に必要な改善点等を指摘し、フィードバックしていきます。		
8. 成績評価の方法 成績評価は、①授業中に行った報告、②他学生の報告に対するコメント、③全体課題のための議論への参加姿勢と質、④制作された作品の質、⑤ゼミ全体への貢献、をそれぞれ5点満点で評価します。 5点以上=C、10点以上=B、15点以上=A、20点以上=S とします。		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅠ		田村 理
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 映像作品の分析を通じて「格差社会」の現実を知り、映像作品の制作・発表を通じて「格差社会」への対策を提案する。		
1. 授業の概要・到達目標 このゼミでは、3年次・4年次の二年間を通じて、「格差社会で私はどう生きるか」を考えます。映画・ドラマ・ドキュメンタリーなどの映像作品を手がかりに社会の現実を明らかにし、「私」がどう対処すべきかを映像作品として実社会に提案することをめざします。3年次は現状分析をメインにしつつ、映像作品制作の構想を練ります。4年次は各個人の作品を一本、ゼミ全員で一本の作品をつくり、発表します。個人の作品は、ドキュメンタリー、フィクション、ミュージック・ビデオ、ダンス、コントなど、どのような形態でもかまいません。ゼミ全体で創る映像作品は20分程度のドキュメンタリーとし、ビデオコンテストに出品する予定です。 4年次春学期は、全体作品の構想を練り、取材計画を決定することに力を入れます。それと並行して、各個人の作品の構想も固めていきます。 (なお、このゼミナールでは卒論への単位付与は行いません。)		
2. 授業内容 第1回 全体作品の制作準備 (1) 第2回 全体作品の制作準備 (2) 第3回 全体作品の制作準備 (3) 第4回 全体作品の制作準備 (4) 第5回 全体作品の制作準備 (5) 第6回 全体作品の制作準備 (6) 第7回 個人作品の制作準備 (1) 第8回 個人作品の制作準備 (2) 第9回 個人作品の制作準備 (3) 第10回 個人作品の制作準備 (4) 第11回 個人作品の制作準備 (5) 第12回 個人作品の制作準備 (6) 第13回 全体作品の制作 (7) 第14回 全体作品の制作 (8)		
3. 履修上の注意 大学設置基準では、1単位には45時間の学修を必要とするというのが基本になっています。2単位を修得するためには90時間の学修が原則として求められます。毎週授業時間の倍の時間を授業外での学習に充てる必要があることとなります。毎週200分この授業のために自宅で学習せよと求めることは現実的ではありませんが、授業時間外にも単位の修得にはそれなりの時間と労力を割くことが必要だということを理解した上で履修してください。		
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 ゼミナールですので、全体を通じた定型の準備学習はありません。毎回、その時に必要な準備学習を指示します。		
5. 教科書		
6. 参考書 必要な文献やその探し方は授業中に丁寧に説明します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題ごとに学生から報告をしてもらい、他のゼミ生とともにその都度丁寧に必要な改善点等を指摘し、フィードバックしていきます。		
8. 成績評価の方法 成績評価は、①授業中に行った報告、②他学生の報告に対するコメント、③全体課題のための議論への参加姿勢と質、④制作された作品の質、⑤ゼミ全体への貢献、をそれぞれ5点満点で評価します。 5点以上=C、10点以上=B、15点以上=A、20点以上=Sとします。		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅡ		田村 理
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 映像作品の分析を通じて「格差社会」の現実を知り、映像作品の制作・発表を通じて「格差社会」への対策を提案する。		
1. 授業の概要・到達目標 このゼミでは、3年次・4年次の二年間を通じて、「格差社会で私はどう生きるか」を考えます。映画・ドラマ・ドキュメンタリーなどの映像作品を手がかりに社会の現実を明らかにし、「私」がどう対処すべきかを映像作品として実社会に提案することをめざします。3年次は現状分析をメインにしつつ、映像作品制作の構想を練ります。4年次は各個人の作品を一本、ゼミ全員で一本の作品をつくり、発表します。個人の作品は、ドキュメンタリー、フィクション、ミュージック・ビデオ、ダンス、コントなど、どのような形態でもかまいません。ゼミ全体で創る映像作品は20分程度のドキュメンタリーとし、ビデオコンテストに出品する予定です。 4年次秋学期は、前半に全体作品を仕上げ、コンテストに出品します。後半は、個人作品の仕上げにあてます。 (なお、このゼミナールでは卒論への単位付与は行いません。)		
2. 授業内容 第1回 全体作品の制作 (1) 第2回 全体作品の制作 (2) 第3回 全体作品の制作 (3) 第4回 全体作品の制作 (4) 第5回 全体作品の制作 (5) 第6回 全体作品の制作 (6) 第7回 全体作品の制作 (7) 第8回 個人作品の経過報告 (1) 第9回 個人作品の経過報告 (2) 第10回 個人作品の経過報告 (3) 第11回 個人作品の経過報告 (4) 第12回 個人作品の経過報告 (5) 第13回 個人作品の経過報告 (6) 第14回 個人作品の経過報告 (7)		
3. 履修上の注意 大学設置基準では、1単位には45時間の学修を必要とするというのが基本になっています。2単位を修得するためには90時間の学修が原則として求められます。毎週授業時間の倍の時間を授業外での学習に充てる必要があることとなります。毎週200分この授業のために自宅で学習せよと求めることは現実的ではありませんが、授業時間外にも単位の修得にはそれなりの時間と労力を割くことが必要だということを理解した上で履修してください。		
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 ゼミナールですので、全体を通じた定型の準備学習はありません。毎回、その時に必要な準備学習を指示します。		
5. 教科書		
6. 参考書 必要な文献やその探し方は授業中に丁寧に説明します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題ごとに学生から報告をしてもらい、他のゼミ生とともにその都度丁寧に必要な改善点等を指摘し、フィードバックしていきます。		
8. 成績評価の方法 成績評価は、①授業中に行った報告、②他学生の報告に対するコメント、③全体課題のための議論への参加姿勢と質、④制作された作品の質、⑤ゼミ全体への貢献、をそれぞれ5点満点で評価します。 5点以上=C、10点以上=B、15点以上=A、20点以上=Sとします。		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅠ		塚原 康博
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 現代社会と情報コミュニケーション—問題分析編—		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】現代の社会は、情報化、少子化、高齢化、グローバル化などによって、特徴づけられているが、本ゼミナールでは、現代の社会に関わるあらゆる問題を取り上げ、その原因やその解決策を考えていく。その過程で、情報やコミュニケーションの意義や重要性を理解してもらう。本ゼミナールでは、グループ研究を行う。学生が研究したいテーマに合わせて数人からなるグループをつくり、学生はどれか1つに参加し、ゼミナールでの質疑応答を経て、研究成果をまとめる。研究成果は、ゼミナール大会で発表する。 【到達目標】社会の問題の原因や解決策を考えることで、学生が論理的な思考力を身に着けること、グループ研究を通じて、学生が協調性やリーダーシップを身につけること、研究を進める過程で、学生が関連文献の調べ方や研究報告のまとめ方を学ぶこと、ゼミナールやゼミナール大会で発表や質疑応答を通じて、学生がプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高めていくことを目指している。		
2. 授業内容 第1回 ゼミナールの進め方 第2回 グループ研究のテーマとグループ分け 第3回 グループごとの研究発表と質疑応答、その1 第4回 グループごとの研究発表と質疑応答、その2 第5回 グループごとの研究発表と質疑応答、その3 第6回 グループごとの研究発表と質疑応答、その4 第7回 グループごとの研究発表と質疑応答、その5 第8回 その時の重要な時事問題に関するグループディスカッション、その1 第9回 グループごとの研究発表と質疑応答、その6 第10回 グループごとの研究発表と質疑応答、その7 第11回 グループごとの研究発表と質疑応答、その8 第12回 グループごとの研究発表と質疑応答、その9 第13回 グループごとの研究発表と質疑応答、その10 第14回 その時の重要な時事問題に関するグループディスカッション、その2		
3. 履修上の注意 授業に出席し、ゼミナールでは積極的に発言し、報告の際はしっかり準備をしたうえで、ゼミナールに臨むこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 本ゼミナールでは、社会問題への強い関心が求められるので、新聞等のニュースには目を通し、その原因や解決策を考えておくこと。		
5. 教科書 使用しない。		
6. 参考書 使用しない。ゼミナールで議論する新聞記事や資料は教員が用意する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題に対する解説は、次の回の授業中に行う。		
8. 成績評価の方法 平常点（100%）、すなわちゼミナールやゼミナール大会での研究報告や質疑応答によって評価する。		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅡ		塚原 康博
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 現代社会と情報コミュニケーション—問題分析編—		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】現代の社会は、情報化、少子化、高齢化、グローバル化などによって、特徴づけられているが、本ゼミナールでは、現代の社会に関わるあらゆる問題を取り上げ、その原因やその解決策を考えていく。その過程で、情報やコミュニケーションの意義や重要性を理解してもらう。本ゼミナールでは、グループ研究を行う。学生が研究したいテーマに合わせて数人からなるグループをつくり、学生はどれか1つに参加し、ゼミナールでの質疑応答を経て、研究成果をまとめる。研究成果は、ゼミナール大会で発表する。 【到達目標】社会の問題の原因や解決策を考えることで、学生が論理的な思考力を身に着けること、グループ研究を通じて、学生が協調性やリーダーシップを身につけること、研究を進める過程で、学生が関連文献の調べ方や研究報告のまとめ方を学ぶこと、ゼミナールやゼミナール大会で発表や質疑応答を通じて、学生がプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高めていくことを目指している。		
2. 授業内容 第1回 グループごとの研究発表と質疑応答、その1 第2回 グループごとの研究発表と質疑応答、その2 第3回 グループごとの研究発表と質疑応答、その3 第4回 グループごとの研究発表と質疑応答、その4 第5回 グループごとの研究発表と質疑応答、その5 第6回 その時の重要な時事問題に関するグループディスカッション、その1 第7回 グループごとの研究発表と質疑応答、その6 第8回 グループごとの研究発表と質疑応答、その7 第9回 グループごとの研究発表と質疑応答、その8 第10回 グループごとの研究発表と質疑応答、その9 第11回 その時の重要な時事問題に関するグループディスカッション、その2 第12回 グループの最終研究発表と質疑応答、その1 第13回 グループの最終研究発表と質疑応答、その2 第14回 グループの最終研究発表と質疑応答、その3		
3. 履修上の注意 授業に出席し、ゼミナールでは積極的に発言し、報告の際はしっかり準備をしたうえで、ゼミナールに臨むこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 本ゼミナールでは、社会問題への強い関心が求められるので、新聞等のニュースには目を通し、その原因や解決策を考えておくこと。		
5. 教科書 使用しない。		
6. 参考書 使用しない。ゼミナールで議論する新聞記事や資料は教員が用意する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題に対する解説は、次の回の授業中に行う。		
8. 成績評価の方法 平常点（100%）、すなわちゼミナールやゼミナール大会での研究報告や質疑応答によって評価する。		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅠ		塚原 康博
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 現代社会と情報コミュニケーション—問題解決編—		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】現代の社会は、情報化、少子化、高齢化、グローバル化などによって、特徴づけられているが、本ゼミナールでは、現代の社会に関わるあらゆる問題を取り上げ、その原因やその解決策を考えていく。その過程で、情報やコミュニケーションの意義や重要性を理解してもらう。本ゼミナールでは、個人研究を行う。学生が社会問題の中から研究したいテーマを選び、ゼミナールでの質疑応答を経て、研究成果をリサーチペーパーとしてまとめ、提出してもらう。分量は少なくともよい。 【到達目標】社会の問題の原因や解決策を考えることで、学生が論理的な思考力を身に着けること、個人研究を進める過程で、学生が関連文献の調べ方や研究報告のまとめ方を学ぶこと、ゼミナールでの研究発表や質疑応答を通じて、学生がプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高めていくことを目指している。		
2. 授業内容 第1回 ゼミナールの進め方 第2回 個人研究の研究テーマの決定 第3回 個人の研究発表と質疑応答、その1 第4回 個人の研究発表と質疑応答、その2 第5回 個人の研究発表と質疑応答、その3 第6回 個人の研究発表と質疑応答、その4 第7回 個人の研究発表と質疑応答、その5 第8回 その時の重要な時事問題に関するグループディスカッション、その1 第9回 個人の研究発表と質疑応答、その6 第10回 個人の研究発表と質疑応答、その7 第11回 個人の研究発表と質疑応答、その8 第12回 個人の研究発表と質疑応答、その9 第13回 個人の研究発表と質疑応答、その10 第14回 その時の重要な時事問題に関するグループディスカッション、その2		
3. 履修上の注意 授業に出席し、ゼミナールでは積極的に発言し、報告の際はしっかり準備をしたうえで、ゼミナールに臨むこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 本ゼミナールでは、社会問題への強い関心が求められるので、新聞等のニュースには目を通し、その原因や解決策を考えておくこと。		
5. 教科書 使用しない。		
6. 参考書 使用しない。ゼミナールで議論する新聞記事や資料は教員が用意する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題に対する解説は、次の回の授業中に行う。		
8. 成績評価の方法 ゼミナールでの研究報告や質疑応答などの平常点（60%）とリサーチペーパー（40%）により評価する。		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅡ		塚原 康博
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 現代社会と情報コミュニケーション—問題解決編—		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】現代の社会は、情報化、少子化、高齢化、グローバル化などによって、特徴づけられているが、本ゼミナールでは、現代の社会に関わるあらゆる問題を取り上げ、その原因やその解決策を考えていく。その過程で、情報やコミュニケーションの意義や重要性を理解してもらう。本ゼミナールでは、個人研究を行う。学生が社会問題の中から研究したいテーマを選び、ゼミナールでの質疑応答を経て、研究成果をリサーチペーパーとしてまとめ、提出してもらう。分量は少なくともよい。 【到達目標】社会の問題の原因や解決策を考えることで、学生が論理的な思考力を身に着けること、個人研究を進める過程で、学生が関連文献の調べ方や研究報告のまとめ方を学ぶこと、ゼミナールでの研究発表や質疑応答を通じて、学生がプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高めていくことを目指している。		
2. 授業内容 第1回 個人の研究発表と質疑応答、その1 第2回 個人の研究発表と質疑応答、その2 第3回 個人の研究発表と質疑応答、その3 第4回 個人の研究発表と質疑応答、その4 第5回 個人の研究発表と質疑応答、その5 第6回 その時の重要な時事問題に関するグループディスカッション、その1 第7回 個人の研究発表と質疑応答、その6 第8回 個人の研究発表と質疑応答、その7 第9回 個人の研究発表と質疑応答、その8 第10回 個人の研究発表と質疑応答、その9 第11回 その時の重要な時事問題に関するグループディスカッション、その2 第12回 個人の最終研究発表と質疑応答、その1 第13回 個人の最終研究発表と質疑応答、その2 第14回 個人の最終研究発表と質疑応答、その3		
3. 履修上の注意 授業に出席し、ゼミナールでは積極的に発言し、報告の際はしっかり準備をしたうえで、ゼミナールに臨むこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 本ゼミナールでは、社会問題への強い関心が求められるので、新聞等のニュースには目を通し、その原因や解決策を考えておくこと。		
5. 教科書 使用しない。		
6. 参考書 使用しない。ゼミナールで議論する新聞記事や資料は教員が用意する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 課題に対する解説は、次の回の授業中に行う。		
8. 成績評価の方法 ゼミナールでの研究報告や質疑応答などの平常点（60%）とリサーチペーパー（40%）により評価する。		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅠ		ドウ、ティモシー J.
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 英語の語用論、第二言語習得		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本ゼミナールでは、様々なコミュニケーションの目的を達成するために様々な場面で英語がどのように使われているかを学びます。外国語を熱心に勉強しているにもかかわらず、その言語を実際のコミュニケーションで使うことが難しいという学生をよく見かけます。この問題の原因は、外国語教育のほとんどが文法と語彙を重視していることであり、学生は適切な時に適切な表現が何であるかが分からないのです。そのため、何年勉強しても英語を丁寧に使えなかったり、英語のユーモアを理解できなかったりすることが多いです。このゼミナールでは「英語語用論」という領域の研究を英語のテレビや映画に応用し、現代社会で英語がどのように使われているかを学びます。 春学期の問題分析ゼミナールⅠでは、英会話また、丁寧な英語表現の根底にある基本原則に焦点を当てて活動を行います。例えば、海外で観光するとき、知らない人に「What is the time?」ではなく「Could you tell me the time?」と尋ねる方が、なぜ適切なかを学びます。また、英会話の中で話しているトピックについて、その話を続けるほうがよいか、それとも違うトピックに変えるほうがよいかを決める際に、相手の反応を見ることも重要です。さらに、英会話の根底にある原理が自分の母語とどのように似ているのか、あるいは異なっているのかを探ります。 【到達目標】 1. 英会話の根底にあるこれらの原則を学ぶことで、英語を話しているときに自分の意思を明確に表現する方法を身につける。 2. 英語を話す人々と交流するときに、より適切な対応をする方法を身につける。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 「英語の語用論」の概観（1） 第3回 「英語の語用論」の概観（2） 第4回 言語行為（1） 第5回 言語行為（2） 第6回 言語行為（3） 第7回 協調の原理（1） 第8回 協調の原理（2） 第9回 協調の原理（3） 第10回 ポライテネス理論（1） 第11回 ポライテネス理論（2） 第12回 ポライテネス理論（3） 第13回 ポライテネス理論（4） 第14回 問題分析ゼミナールⅠの振り返り		
3. 履修上の注意 このゼミナールは英語で行います。このゼミナールは CLILアプローチ（内容言語統合型学習）を使います。英語の語用論を学びながら、英語のコミュニケーション能力とアカデミック英語力を養います。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 特にありません。		
5. 教科書 英語の教科書などをもとに教師作成材料を授業の時に配布します。 メインの教科書は：Scott, K. (2023). Pragmatics in English: An Introduction. Cambridge University Press.		
6. 参考書 特にありません。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 第7回と14回で、テストの正答解説と講評を行う。		
8. 成績評価の方法 授業参加50%、テスト50%		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅡ		ドウ、ティモシー J.
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 英語の語用論、第二言語習得		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本ゼミナールでは、様々なコミュニケーションの目的を達成するために様々な場面で英語がどのように使われているかを学びます。外国語を熱心に勉強しているにもかかわらず、その言語を実際のコミュニケーションで使うことが難しいという学生をよく見かけます。この問題の原因は、外国語教育のほとんどが文法と語彙を重視していることであり、学生は適切な時に適切な表現が何であるかが分からないのです。そのため、何年勉強しても英語を丁寧に使えなかったり、英語のユーモアを理解できなかったりすることが多いです。このゼミナールでは「英語語用論」という領域の研究を英語のテレビや映画に応用し、現代社会で英語がどのように使われているかを学びます。 秋学期の問題分析ゼミナールⅡでは、英会話をどのように研究するかに焦点を当てます。少人数のグループに分かれて英語のテレビ番組や映画を選び、丁寧な英語表現やユーモアの中で使われる英語を探ります。 そして、これらの映像で使われているセリフの詳細なトランスクリプトを作成し、話し手がどのように自分の意図を表現しているかを分析します。例えば、親に「寝なさい」と言われた時、子供は「いや、寝たくない」と直接言うのではなく「うん、でも朝の5時に起きるかもしれない」と間接的に反対することの理由を探ります。その他にも、英語話者が冗談を言うために、曇った日の天気の良いさについてコメントするなど、本心とは正反対のことを言う「言葉の皮肉」の使い方や、友人同士が親密な関係を維持するために、なぜ不親切に見えるコメントを言い合うのかについても調べます。 【到達目標】 1. 英会話の根底にあるこれらの原則を学ぶことで、英語を話しているときに自分の意思を明確に表現する方法を身につける。 2. 英語を話す人々と交流するときに、より適切な対応をする方法を身につける。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 「トランスクリプトを作成法」の概観（1） 第3回 「トランスクリプトを作成法」の概観（2） 第4回 丁寧な英語表現（1） 第5回 丁寧な英語表現（2） 第6回 丁寧な英語表現（3） 第7回 英語のユーモア（1） 第8回 英語のユーモア（2） 第9回 英語のユーモア（3） 第10回 間接的な英語表現（1） 第11回 間接的な英語表現（2） 第12回 間接的な英語表現（3） 第13回 間接的な英語表現（4） 第14回 問題分析ゼミナールⅡの振り返り		
3. 履修上の注意 このゼミナールは英語で行います。このゼミナールは CLILアプローチ（内容言語統合型学習）を使います。英語の語用論を学びながら、英語のコミュニケーション能力とアカデミック英語力を養います。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 特にありません。		
5. 教科書 英語の教科書などをもとに教師作成材料を授業の時に配布します。 メインの教科書は：Scott, K. (2023). Pragmatics in English: An Introduction. Cambridge University Press.		
6. 参考書 特にありません。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 第7回と14回で、テストの正答解説と講評を行う。		
8. 成績評価の方法 授業参加50%、テスト50%		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅠ		ドウ、ティモシー J.
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 英語の語用論、第二言語習得		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】本ゼミナールでは、様々なコミュニケーションの目的を達成するために様々な場面で英語がどのように使われているかを学びます。外国語を熱心に勉強しているにもかかわらず、その言語を実際コミュニケーションで使うことが難しいという学生をよく見かけます。この問題の原因は、外国語教育のほとんどが文法と語彙を重視していることであり、学生は適切な時に適切な表現が何であるかが分からないのです。そのため、何年勉強しても英語を丁寧に使えなかったり、英語のユーモアを理解できなかったりすることが多いです。このゼミナールでは「英語語用論」という領域の研究を英語のテレビや映画に応用し、現代社会で英語がどのように使われているかを学びます。 春学期の問題解決ゼミナールⅠでは、英会話また、英語で意見交換との改善するための基本原則に焦点を当てて活動を行います。この目標を達成するために、クラスでのディスカッションを録音し、学生のインターアクションを詳細に分析するためにトランスクリプトの作成方法を学びます。そして、そのトランスクリプトはグループでよい点または、よくない点を分析し、改善する選択肢を検討します。さらに、グループごとにこの分析の結果をクラスにプレゼンテーションを行います。		
【到達目標】 1. 問題点を特定し、対処する方法を学ぶことで、生徒たちは英語を話す際に、より適切なやり取りをする方法を身につける。 2. 英語を話す人が、自分の文化や価値観を表現するためにどのような言葉を使っているのかを知る方法を身につける。		
2. 授業内容 第1回 インTRODクシヨ 第2回 「会話分析」の概観(1) 第3回 「会話分析」の概観(2) 第4回 会話分析のトランスクリプトの作成法(1) 第5回 会話分析のトランスクリプトの作成法(2) 第6回 会話分析のトランスクリプトの作成法(3) 第7回 ターンテイク(1) 第8回 ターンテイク(2) 第9回 ターンテイク(3) 第10回 相互行為能力(1) 第11回 相互行為能力(2) 第12回 相互行為能力(3) 第13回 相互行為能力(4) 第14回 問題解決ゼミナールⅠの振り返り		
3. 履修上の注意 このゼミナールは英語で行います。このゼミナールは CLILアプローチ(内容言語統合型学習)を使います。英語の語用論を学びながら、英語のコミュニケーション能力とアカデミック英語力を養います。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 特にありません。		
5. 教科書 英語の雑誌や記事などをもとに教師作成材料を授業の時に配布します。		
6. 参考書 特にありません。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 第7回と14回で、テストの正答解説と講評を行う。		
8. 成績評価の方法 授業参加50%、テスト50%		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅡ		ドウ、ティモシー J.
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 英語の語用論、第二言語習得		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】本ゼミナールでは、様々なコミュニケーションの目的を達成するために様々な場面で英語がどのように使われているかを学びます。外国語を熱心に勉強しているにもかかわらず、その言語を実際コミュニケーションで使うことが難しいという学生をよく見かけます。この問題の原因は、外国語教育のほとんどが文法と語彙を重視していることであり、学生は適切な時に適切な表現が何であるかが分からないのです。そのため、何年勉強しても英語を丁寧に使えなかったり、英語のユーモアを理解できなかったりすることが多いです。このゼミナールでは「英語語用論」という領域の研究を英語のテレビや映画に応用し、現代社会で英語がどのように使われているかを学びます。 秋学期の問題解決ゼミナールⅡでは、英語で自分の価値観や信念を相手に説得する方法を学びます。つまり、考え方や文化が話し方によいような影響を与えるかに焦点を当てます。生徒は小グループに分かれ、You Tubeなどから英語の面接の映像(政治家や芸能人など)を選び、話し手の言葉が価値観や信念にどのように影響しているかを発見します。さらに、英会話の中で相手を説得する方法が、自分の母語のそれとどのように似ているのか、あるいは違うのかを探ります。		
【到達目標】 1. 問題点を特定し、対処する方法を学ぶことで、生徒たちは英語を話す際に、より適切なやり取りをする方法を身につける。 2. 英語を話す人が、自分の文化や価値観を表現するためにどのような言葉を使っているのかを知る方法を身につける。		
2. 授業内容 第1回 インTRODクシヨ 第2回 「英語の批判的談話分析」の概観(1) 第3回 「英語の批判的談話分析」の概観(2) 第4回 価値観(1) 第5回 価値観(2) 第6回 価値観(3) 第7回 説得(1) 第8回 説得(2) 第9回 説得(3) 第10回 相互行為能力を高める方法(1) 第11回 相互行為能力を高める方法(2) 第12回 相互行為能力を高める方法(3) 第13回 相互行為能力を高める方法(4) 第14回 問題解決ゼミナールⅠの振り返り		
3. 履修上の注意 このゼミナールは英語で行います。このゼミナールは CLILアプローチ(内容言語統合型学習)を使います。英語の語用論を学びながら、英語のコミュニケーション能力とアカデミック英語力を養います。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 特にありません。		
5. 教科書 英語の雑誌や記事などをもとに教師作成材料を授業の時に配布します。		
6. 参考書 特にありません。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 第7回と14回で、テストの正答解説と講評を行う。		
8. 成績評価の方法 授業参加50%、テスト50%		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅠ		内藤 まりこ
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 言語表現を読み解く技法：理論と実践		
1. 授業の概要・到達目標 【ゼミ全体の概要】 私達の生活空間には、文学や映画、演劇、漫画等、さまざまな言語表現が溢れており、それらは趣味や娯楽の対象として広く享受されています。しかし、このような日常の鑑賞の場においては、言語表現が私達の物事に対する思考や認識のあり方を形作っているということはあまり意識されません。 そこで、本ゼミでは、こうした言語表現の深層の働きに迫るべく、「批評理論」と呼ばれる、言語表現を読み解くための専門的な技術を習得し、文学や映画、演劇、漫画等の言語表現を分析することで、日常感覚の敷衍によっては導き出すことのできない作品の解釈や作品と歴史的・社会的背景との関わりを理解する方法を身につけられるでしょう。 【ゼミの到達目標】 受講生は、授業を通して学習した批評理論に関する専門的な知識と技術を以て、自ら対象を選んで分析を行い、分析結果に基づく考察を学期末レポートにまとめます。 【3年次ゼミの概要】 3年次は「言語表現」の代表的な形態である文学に焦点を絞り、それらに関する理論書の輪読及び議論を行います。更に、こうした言語表現を読み解くための理論的枠組みの学習を踏まえ、実作の分析を行います。		
2. 授業内容 3年ゼミ生には履修の対象となる1時間分の「ゼミ」とは別に「サブゼミ」と呼ばれる1時間分の自主ゼミへの参加も求められます。春学期の「ゼミ」では批評理論の入門書の精読を行い、「サブゼミ」では批評理論の原著（日本語訳）の精読を行います。以下に示すのは、春学期の「ゼミ」の授業内容です。 第1回 オリエンテーション 第2回 『批評理論入門—『フランケンシュタイン』解剖講義』第1部1「冒頭」・2「ストーリーとプロット」 第3回 『批評理論入門』第1部3「語り手」・4「焦点化」 第4回 『批評理論入門』第1部5「提示と叙述」・6「時間」 第5回 『批評理論入門』第1部7「性格描写」・8「アイロニー」 第6回 『批評理論入門』第1部5「提示と叙述」・6「時間」 第5回 『批評理論入門』第1部9「声」・10「イメージアリー」 第7回 『批評理論入門』第1部11「反復」・12「異化」 第8回 『批評理論入門』第1部13「間テクスト性」・14「メタフィクション」 第9回 『批評理論入門』第1部15「結末」・第2部1「伝統的批評」・13「透明な批評」 第10回 『批評理論入門』第2部2「ジャンル批評」・3「読者反応批評」・12「文体的批評」 第11回 『批評理論入門』第2部4「脱構築批評」・5「精神分析批評」 第12回 『批評理論入門』第2部6「フェミニズム批評」・7「ジェンダー批評」 第13回 『批評理論入門』第2部8「マルクス主義批評」・9「文化批評」 第14回 『批評理論入門』第2部10「ポストコロニアル批評」・11「新歴史主義」		
3. 履修上の注意 ・ 本ゼミでは、ゼミ生が自らの問題関心を十分に掘り下げた上で論文を執筆することができるように、「ゼミ」と「サブゼミ」以外に「セッション」（指導教員との個別面談）と呼ばれる時間を設けています。1学期に3回程度行われる「セッション」を通じて、ゼミ生は自らの問題関心に即した言語表現を選び、研究テーマを立ち上げ、学期末レポートを執筆します。 ・ 本ゼミでは、学期中の活動の他に、3・4年ゼミ合同での活動として、夏合宿（夏季休業中に関する学期末レポートに関する発表会）、研究成果発表会（春季休業中に実施する学期末レポートに関する発表会）、プレゼミ（春季休業中に実施する社会人や高校生を交えたワークショップ）等のイベントの運営・参加が求められます。したがって、学期中の活動だけではなく、こうした春季・夏季休業中の活動も履修の対象となることに注意してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎週、宿題が課されます。宿題の内容は作品の読了もしくは視聴、参考資料の読解、発表担当者はレジュメの準備、ブログ担当者はゼミの内容をまとめたブログ記事の執筆等です。		
5. 教科書 廣野由美子『批評理論入門—『フランケンシュタイン』解剖講義』（中公新書 2005年）、批評理論の原書（日本語訳）		
6. 参考書 テリー・イーグルトン『文学とは何か—現代批評理論への招待』（岩波書店、1997年） 大橋洋一『新文学入門—T・イーグルトン『文学とは何か』を読む』（岩波セミナーブックス、1995年） 筒井康隆『文学部唯野教授』（岩波書店、2000年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 セッション（教員との面談）にてフィードバックを行います。		
8. 成績評価の方法 発表20%、議論への貢献20%、ブログ記事の執筆20%、学期末レポート40%		
9. その他 ゼミ生がゼミの活動の様子をブログ記事としてあげているゼミのHPをご覧ください。 https://lt.marikonaito.com		

問題分析ゼミナールⅡ		内藤 まりこ
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 言語表現を読み解く技法：理論と実践		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 私達の生活空間には、文学や映画、演劇、漫画等、さまざまな言語表現が溢れており、それらは趣味や娯楽の対象として広く享受されています。しかし、このような日常の鑑賞の場においては、言語表現が私達の物事に対する思考や認識のあり方を形作っているということはあまり意識されません。 そこで、本ゼミでは、こうした言語表現の深層の働きに迫るべく、「批評理論」と呼ばれる、言語表現を読み解くための専門的な技術を習得し、文学や映画、演劇、漫画等の言語表現を分析することで、日常感覚の敷衍によっては導き出すことのできない作品の解釈や作品と歴史的・社会的背景との関わりを理解する方法を身につけられるでしょう。 【到達目標】 受講生は、授業を通して学習した批評理論に関する専門的な知識と技術を以て、自ら対象を選んで分析を行い、分析結果に基づく考察を学期末レポートにまとめます。 【3年次ゼミの概要】 3年次は「言語表現」の代表的な形態である文学に焦点を絞り、それらに関する理論書の輪読及び議論を行います。更に、こうした言語表現を読み解くための理論的枠組みの学習を踏まえ、実作の分析を行います。		
2. 授業内容 3年ゼミ生には履修の対象となる1時間分の「ゼミ」とは別に「サブゼミ」と呼ばれる1時間分の自主ゼミへの参加も求められます。秋学期の授業では、ゼミ生が自らの興味に基づいて深掘りしたい批評理論を選んで、1学期の予定を組みます。「ゼミ」では、ゼミ生が選んだ批評理論に関わる論文を精読します。「サブゼミ」ではそれらの理論を用いてゼミ生たちが選んだ作品の分析を行います。ゼミ生の興味に従い、1学期の予定は毎年変わりますので、以下にはその1例として2023年度の秋学期の「ゼミ」の授業内容を紹介します。 第1回 オリエンテーション 第2回 脱構築批評：小説『闇の奥』（ジョセフ・コンラッド、1902） 第3回 精神分析批評：小説『夢浮橋』（谷崎潤一郎、1960） 第4回 ナラトロジー批評：小説『坊っちゃん』（夏目漱石、1906） 第5回 ロシア・フォルマリズム批評：小説『傲慢と善良』（辻村深月、2019） 第6回 精神分析批評：小説『こころ』（夏目漱石、1914） 第7回 ジェンダー・クイア批評：映画『バービー』（グレタ・ガーウィグ、2023） 第8回 マルクス主義批評：随筆『ランスへの帰郷』（ディディエ・エリボン、2009） 第9回 ポスト・コロニアル批評：映画『アラジン』（実写版）（ガイ・リッチー、2019） 第10回 ジェンダー・クイア批評：映画『Women Talking』（サラ・ポーリー、2023） 第11回 観念論・実在論：映画『インセプション』（クリストファー・ノーラン、2010） 第12回 生権力批評：複数の作品中の「家族」表象 第13回 リキッド・モダニティ論：映画『ゾンビ』（ジョージ・A・ロメロ、1978） 第14回 ポスト・コロニアル批評：小説『奇妙な仕事』（大江健三郎、1957）		
3. 履修上の注意 ・ 本ゼミでは、ゼミ生が自らの問題関心を十分に掘り下げた上で論文を執筆することができるように、「ゼミ」と「サブゼミ」以外に「セッション」（指導教員との個別面談）と呼ばれる時間を設けています。1学期に3回程度行われる「セッション」を通じて、ゼミ生は自らの問題関心に即した言語表現を選び、研究テーマを立ち上げ、学期末レポートを執筆します。 ・ 本ゼミでは、学期中の活動の他に、3・4年ゼミ合同での活動として、夏合宿（夏季休業中に関する学期末レポートに関する発表会）、研究成果発表会（春季休業中に実施する学期末レポートに関する発表会）、プレゼミ（春季休業中に実施する社会人や高校生を交えたワークショップ）等のイベントの運営・参加が求められます。したがって、学期中の活動だけではなく、こうした春季・夏季休業中の活動も履修の対象となることに注意してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎週、宿題が課されます。宿題の内容は作品の読了もしくは視聴、参考資料の読解、発表担当者はレジュメの準備、ブログ担当者はゼミの内容をまとめたブログ記事の執筆等です。		
5. 教科書 ゼミ生の興味に則して、批評理論及び作品分析に関わる論文が提示されます。		
6. 参考書 テリー・イーグルトン『文学とは何か—現代批評理論への招待』（岩波書店、1997年） 大橋洋一『新文学入門—T・イーグルトン『文学とは何か』を読む』（岩波セミナーブックス、1995年） 筒井康隆『文学部唯野教授』（岩波書店、2000年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 セッション（教員との面談）にてフィードバックを行います。		
8. 成績評価の方法 発表20%、議論への貢献20%、ブログ記事の執筆20%、学期末レポート40%		
9. その他 ゼミ生がゼミの活動の様子をブログ記事としてあげているゼミのHPをご覧ください。 https://lt.marikonaito.com		

問題解決ゼミナールⅠ		内藤 まりこ
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 言語表現を読み解く技法：理論と実践		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 私達の生活空間には、文学や映画、演劇、漫画等、さまざまな言語表現が溢れており、それらは趣味や娯楽の対象として広く享受されています。しかし、このような日常の鑑賞の場においては、言語表現が私達の物事に対する思考や認識のあり方を形作っているという事はあまり意識されません。 そこで、本ゼミでは、こうした言語表現の深層の働きに迫るべく、「批評理論」と呼ばれる、言語表現を読み解くための専門的な技術を習得し、文学や映画、演劇、漫画等の言語表現を分析することで、日常感覚の敷衍によっては導き出すことのできない作品の解釈や作品と歴史的・社会的背景との関わりを理解する方法を身につけられるでしょう。 【到達目標】 受講生は、授業を通して学習した批評理論に関する専門的な知識と技術を以て、自ら対象を選んで分析を行い、分析結果に基づく考察を卒業論文にまとめます。 【4年次ゼミの概要】 4年次は「言語表現」を代表する視覚的形態である映画やアニメーションに焦点を絞り、それらに関する理論書の輪読及び議論を行います。更に、こうした言語表現を読み解くための理論的枠組みの学習を踏まえ、実作の分析を行います。		
2. 授業内容 4年次春学期の授業では、ゼミ生が自らの興味に基づいて深掘りしたい視覚ジャンルに関わる批評理論を選び、その理論を取り上げた論文を精読した上で、その論文に取り上げられている作品やゼミ生自らが選んだ作品を分析します。ゼミ生の興味に従い、1学期の予定は毎年変わりますので、以下にはその1例として2023年度の春学期の「ゼミ」の授業内容を紹介します。 第1回 オリエンテーション 第2回 精読【Film Analysis 映画分析入門】：分析対象のアニメーション映画『千と千尋の神隠し』（宮崎駿, 2001） 第3回 精読【Film Analysis 映画分析入門】：分析対象の映画『突撃』（スタンリー・キューブリック, 1957） 第4回 精読【Film Analysis 映画分析入門】：分析対象の映画『シャイニング』（スタンリー・キューブリック, 1980） 第5回 精読【Film Analysis 映画分析入門】：分析対象の映画『地獄の黙示録』（フランシス・フォード・コッポラ, 1979） 第6回 精読【Film Analysis 映画分析入門】：分析対象の映画『カリガリ博士』（ロベルト・ヴィーネ, 1920） 第7回 精読【Film Analysis 映画分析入門】：分析対象の映画『ミリオンダラーベイビー』（クリント・イーストウッド, 2004） 第8回 精読【フィルム・アート 映画芸術入門】：分析対象の映画『恋する惑星』（ウォン・カーウァイ, 1994） 第9回 精読【フィルム・アート 映画芸術入門】：分析対象の映画『ロジャー&ミー』（マイケル・ムーア, 1984） 第10回 精読【フィルム・アート 映画芸術入門】：分析対象の映画『羊たちの沈黙』（ジョン・ダニエル・バートン, 1991） 第11回 精読【フィルム・アート 映画芸術入門】：分析対象の映画『テルマ&ルイズ』（リドリー・スコット, 1991） 第12回 精読【フィルム・アート 映画芸術入門】：分析対象のアニメーション映画『白雪姫』（ディズニー製作, 1937） 第13回 精読【フィルム・アート 映画芸術入門】：分析対象のアニメーション映画『東京ゴッドファーザーズ』（今敏, 2003） 第14回 学期の振り返り		
3. 履修上の注意 ・ 本ゼミでは、ゼミ生が自らの問題関心を十分に掘り下げた上で論文を執筆することができるように、「ゼミ」と「サブゼミ」以外に「セッション」（指導教員との個別面談）と呼ばれる時間を設けています。4年次には1学期に3回程度行われる「セッション」を通じて、ゼミ生は自らの問題関心に即した言語表現を選び、研究テーマを立ち上げ、卒業論文の執筆の準備を進めていきます。 ・ 本ゼミでは、学期中の活動の他に、3・4年ゼミ合同での活動として、夏合宿（夏季休業中に関する学期末レポートに関する発表会）、研究成果発表会（春季休業中に実施する学期末レポートに関する発表会）、プレゼミ（春季休業中に実施する社会人や高校生を交えたワークショップ）などのイベントの運営・参加が求められます。したがって、学期中の活動だけではなく、こうした春季・夏季休業中の活動も履修の対象となることに注意してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎週、宿題が課されます。宿題の内容は作品の読了もしくは視聴、参考資料の読解、発表担当者はレジュメの準備、ブログ担当者はゼミの内容をまとめたブログ記事の執筆等です。		
5. 教科書 ゼミ生が自らの卒論テーマ及び希望に即したテキストを選択するので、以下に示すのはそれらのテキストのいくつかの例となります。 マイケル・ライアン他『Film Analysis 映画分析入門』（フィルムアート社、2014年） デイヴィッド・ボードウェル『フィルム・アート—映画芸術入門』名古屋大学出版会、2007年 シーモア・チャトマン『小説と映画の修辞学』水声社、1998年		
6. 参考書 ゼミ生の卒論テーマに応じて紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 セッション（教員との面談）にてフィードバックを行います。		
8. 成績評価の方法 発表20%、議論への貢献20%、ブログ記事の執筆20%、学期末レポート40%		
9. その他 ゼミ生がゼミの活動の様子をブログ記事としてあげているゼミのHPをご覧ください。 https://lt.marikonaito.com		

問題解決ゼミナールⅡ		内藤 まりこ
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 言語表現を読み解く技法：理論と実践		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 私達の生活空間には、文学や映画、演劇、漫画等、さまざまな言語表現が溢れており、それらは趣味や娯楽の対象として広く享受されています。しかし、このような日常の鑑賞の場においては、言語表現が私達の物事に対する思考や認識のあり方を形作っているという事はあまり意識されません。 そこで、本ゼミでは、こうした言語表現の深層の働きに迫るべく、「批評理論」と呼ばれる、言語表現を読み解くための専門的な技術を習得し、文学や映画、演劇、漫画等の言語表現を分析することで、日常感覚の敷衍によっては導き出すことのできない作品の解釈や作品と歴史的・社会的背景との関わりを理解する方法を身につけられるでしょう。 【到達目標】 受講生は、授業を通して学習した批評理論に関する専門的な知識と技術を以て、自ら対象を選んで分析を行い、分析結果に基づく考察を卒業論文にまとめます。 【4年次ゼミの概要】 4年次は「言語表現」を代表する視覚的形態である映画やアニメーションに焦点を絞り、それらに関する理論書の輪読及び議論を行います。更に、こうした言語表現を読み解くための理論的枠組みの学習を踏まえ、実作の分析を行います。		
2. 授業内容 4年次秋学期はゼミ生が各回の授業を分担し、自らの卒論執筆にとって必要な議論を行います。ゼミ生の人数にもよりますが、1人のゼミ生が学期中に2、3回の授業を受け持ち、卒論の構想発表やアウトラインの発表、先行研究に関する議論や実際の作品分析に関する議論、執筆中の卒論の内容に関する議論などを主導し、他のゼミ生と話し合います。 第1回 オリエンテーション 第2回 卒論構想発表（1） 第3回 卒論構想発表（2） 第4回 卒論構想発表（3） 第5回 卒論構想発表（4） 第6回 卒論分析発表（1） 第7回 卒論分析発表（2） 第8回 卒論分析発表（3） 第9回 卒論分析発表（4） 第10回 卒論パラグラフライティング（1） 第11回 卒論パラグラフライティング（2） 第12回 卒論パラグラフライティング（3） 第13回 卒論完成報告 第14回 振り返り		
3. 履修上の注意 ・ 本ゼミでは、ゼミ生が自らの問題関心を十分に掘り下げた上で論文を執筆することができるように、「ゼミ」と「サブゼミ」以外に「セッション」（指導教員との個別面談）と呼ばれる時間を設けています。4年次には1学期に3回程度行われる「セッション」を通じて、ゼミ生は自らの問題関心に即した言語表現を選び、研究テーマを立ち上げ、卒業論文の執筆の準備を進めていきます。 ・ 本ゼミでは、学期中の活動の他に、3・4年ゼミ合同での活動として、夏合宿（夏季休業中に関する学期末レポートに関する発表会）、研究成果発表会（春季休業中に実施する学期末レポートに関する発表会）、プレゼミ（春季休業中に実施する社会人や高校生を交えたワークショップ）等のイベントの運営・参加が求められます。したがって、学期中の活動だけではなく、こうした春季・夏季休業中の活動も履修の対象となることに注意してください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 毎週、宿題が課されます。宿題の内容は作品の読了もしくは視聴、参考資料の読解、発表担当者はレジュメの準備、ブログ担当者はゼミの内容をまとめたブログ記事の執筆等です。		
5. 教科書 ゼミ生が自らの卒論テーマ及び希望に即したテキストを選択するので、以下に示すのはそれらのテキストのいくつかの例となります。 マイケル・ライアン他『Film Analysis 映画分析入門』（フィルムアート社、2014年） デイヴィッド・ボードウェル『フィルム・アート—映画芸術入門』名古屋大学出版会、2007年 シーモア・チャトマン『小説と映画の修辞学』水声社、1998年		
6. 参考書 ゼミ生の卒論テーマに応じて紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 セッション（教員との面談）にてフィードバックを行います。		
8. 成績評価の方法 発表20%、議論への貢献20%、卒業論文60%		
9. その他 ゼミ生がゼミの活動の様子をブログ記事としてあげているゼミのHPをご覧ください。 https://lt.marikonaito.com		

問題分析ゼミナールⅠ		中川 雄大
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 都市と空間の社会学		
1. 授業の概要・到達目標 都市とはさまざまな文化的・経済的・社会的活動が生起する舞台であり、同時に超高層ビルのような建物や道路、鉄道のような無数のインフラによって編成される物質的な存在でもある。都市では新しく、刹那的な出来事が日々生み出される一方で、都市構造は長い歴史をかけて形成されたものでもある。このような多面的な様相を持つ都市は、社会学にとって格好の分析対象である。 問題分析ゼミナールⅠでは、まず都市論の文献輪読を通じて、社会学やメディア論を軸とした理論や調査手法などの基礎的知識を身につける。次に卒論に向けた問題意識の明確化と先行研究のレビューを行い、卒論執筆に向けた基礎作業に取り掛かる。問題分析ゼミナールⅡでも引き続き文献輪読を行いつつ、卒論の研究課題を設定し、仮説の構築を通じて自らの問いを絞り込んでいく。 到達目標 ・都市について学術的に書かれた論文・書籍を批判的に読解し、内容を理解できるようにする ・都市に対する自らの問題意識を明確化し、卒論執筆の基礎を固める		
2. 授業内容 第1回 インTRODクシヨン、研究テーマ案発表 (1) 第2回 研究テーマ案発表 (2) 第3回 都市論の文献輪読 (1) 第4回 都市論の文献輪読 (2) 第5回 都市論の文献輪読 (3) 第6回 都市論の文献輪読 (4) 第7回 都市論の文献輪読 (5) 第8回 問題意識を探る (1) 第9回 問題意識を探る (2) 第10回 問題意識を探る (3) 第11回 先行研究をレビューする (1) 第12回 先行研究をレビューする (2) 第13回 先行研究をレビューする (3) 第14回 調査計画を立てる		
3. 履修上の注意 3年次に教員が担当する「都市情報論」「人文地理学」(ともに駿河台科目)と合わせて受講してください。 授業内容や文献輪読の対象となる本は、学生の問題関心に合わせて多少変更する可能性があります。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 文献輪読では出席者全員が事前に文献を読んで、授業に臨むことが基本となります。加えて、グループごとにレジュメを作成し、発表してもらい場合があります。卒論に関するワークでは、各自が文献を読み、研究計画を策定して授業で発表することが求められます。		
5. 教科書 特に指定しません。		
6. 参考書 『都市論を学ぶための12冊』若林幹夫(弘文堂) 『東京スタディーズ』吉見俊哉・若林幹夫編(紀伊國屋書店) 『東京裏返し』吉見俊哉(集英社) 『リサーチのはじめかた ―「きみの問い」を見つけ、育て、伝える方法』トーマス・S・マラニー/クリストファー・レア(筑摩書房)		
7. 課題に対するフィードバックの方法 主として授業中に口頭で発表内容についてコメントします。		
8. 成績評価の方法 平常点(50%) + 研究計画書(50%)		
9. その他 ゼミは教員と学生の協働作業であるため、モチベーションが高く、好奇心旺盛で、積極的に他者の研究についてコメントし、議論できる学生の参加を歓迎します。また、正規の授業時間以外にもゼミ活動が発生する場合があります。		

問題分析ゼミナールⅡ		中川 雄大
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 都市と空間の社会学		
1. 授業の概要・到達目標 都市とはさまざまな文化的・経済的・社会的活動が生起する舞台であり、同時に超高層ビルのような建物や道路、鉄道のような無数のインフラによって編成される物質的な存在でもある。都市では新しく、刹那的な出来事が日々生み出される一方で、都市構造は長い歴史をかけて形成されたものでもある。このような多面的な様相を持つ都市は、社会学にとって格好の分析対象である。 問題分析ゼミナールⅠでは、まず都市論の文献輪読を通じて、社会学やメディア論を軸とした理論や調査手法などの基礎的知識を身につける。次に卒論に向けた問題意識の明確化と先行研究のレビューを行い、卒論執筆に向けた基礎作業に取り掛かる。問題分析ゼミナールⅡでも引き続き文献輪読を行いつつ、卒論の研究課題を設定し、仮説の構築を通じて自らの問いを絞り込んでいく。 到達目標 ・都市について学術的に書かれた論文・書籍を批判的に読解し、内容を分析できるようにする ・都市に対する自らの問題意識に立脚した上で、研究課題を設定できるようにする		
2. 授業内容 第1回 研究課題を設定する (1) 第2回 研究課題を設定する (2) 第3回 研究課題を設定する (3) 第4回 研究課題を設定する (4) 第5回 文献輪読 (1) 第6回 仮説を構築する (1) 第7回 仮説を構築する (2) 第8回 文献輪読 (2) 第9回 方法論/基礎調査を検討する (1) 第10回 方法論/基礎調査を検討する (2) 第11回 卒論の研究計画を発表する (1) 第12回 卒論の研究計画を発表する (2) 第13回 卒論の研究計画を発表する (3) 第14回 卒論の研究計画を発表する (4)		
3. 履修上の注意 3年次に教員が担当する「都市情報論」「人文地理学」(ともに駿河台科目)と合わせて受講してください。 授業内容や文献輪読の対象となる本は、学生の問題関心に合わせて多少変更する可能性があります。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 文献輪読では出席者全員が事前に文献を読んで、授業に臨むことが基本となります。加えて、グループごとにレジュメを作成し、発表してもらい場合があります。卒論に関するワークでは、各自が文献を読み、研究計画を策定して授業で発表することが求められます。		
5. 教科書 特に指定しません。		
6. 参考書 『都市論を学ぶための12冊』若林幹夫(弘文堂) 『東京スタディーズ』吉見俊哉・若林幹夫編(紀伊國屋書店) 『東京裏返し』吉見俊哉(集英社) 『リサーチのはじめかた ―「きみの問い」を見つけ、育て、伝える方法』トーマス・S・マラニー/クリストファー・レア(筑摩書房)		
7. 課題に対するフィードバックの方法 主として授業中に口頭で発表内容についてコメントします。		
8. 成績評価の方法 平常点(50%) + 研究計画書(50%)		
9. その他 ゼミは教員と学生の協働作業であるため、モチベーションが高く、好奇心旺盛で、積極的に他者の研究についてコメントし、議論できる学生の参加を歓迎します。また、正規の授業時間以外にもゼミ活動が発生する場合があります。		

問題解決ゼミナールⅠ		中川 雄大
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 都市と空間の社会学		
1. 授業の概要・到達目標 都市とはさまざまな文化的・経済的・社会的活動が生起する舞台であり、同時に超高層ビルのような建物や道路、鉄道のような無数のインフラによって編成される物質的な存在でもある。都市では新しく、刹那的な出来事が日々生み出される一方で、都市構造は長い歴史をかけて形成されたものでもある。このような多面的な様相を持つ都市は、社会学にとって格好の分析対象である。 問題解決ゼミナールⅠでは、これまで策定した研究計画に即して、自ら設定した学術的問いに答えるための調査を設計・遂行し、卒論の核となる知見を導出する。その上で、卒論執筆作業を継続的に進める。問題解決ゼミナールⅡでは、これまで実行してきた研究成果を再検討し、自ら設定した問いに答えられる結論を導く。その上で、自らが導出した知見を他者に対して説得的に説明できるような論文を完成させる。 到達目標 ・都市の社会現象を特定の方法論にもとづいて分析できるようになる。 ・他者の研究課題に対して、建設的なコメントが提供できるようになる。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 研究構想発表 (1) 第3回 研究構想発表 (2) 第4回 研究構想発表 (3) 第5回 研究構想発表 (4) 第6回 研究構想発表 (5) 第7回 研究構想発表 (6) 第8回 研究構想発表 (7) 第9回 研究構想発表 (8) 第10回 研究構想発表 (9) 第11回 研究構想発表 (10) 第12回 研究構想発表 (11) 第13回 研究構想発表 (12) 第14回 まとめ		
3. 履修上の注意 授業内容は、進捗状況に応じて多少変更する可能性があります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 卒論に関するワークでは、各自が文献を読み、研究計画を策定して授業で発表することが求められます。		
5. 教科書 特に指定しません。		
6. 参考書 『リサーチのはじめかた ―「きみの問い」を見つけ、育て、伝える方法』トーマス・S・マラニー／クリストファー・レア（筑摩書房） 『リサーチの技法』ウェイン・C・ブース／グレゴリー・G・コロンブ／ジョセフ・M・ウィリアムズ（ソシム） 『基礎からわかる 論文の書き方』小熊英二（講談社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に口頭で発表内容についてコメントします。また、作成途中の卒論の原稿に対する添削を実施します。		
8. 成績評価の方法 平常点50%、卒業論文50%		
9. その他 ゼミは教員と学生の協働作業であるため、モチベーションが高く、好奇心旺盛で、積極的に他者の研究についてコメントし、議論できる学生の参加を歓迎します。また、正規の授業時間以外にもゼミ活動が発生する場合があります。		

問題解決ゼミナールⅡ		中川 雄大
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 都市と空間の社会学		
1. 授業の概要・到達目標 都市とはさまざまな文化的・経済的・社会的活動が生起する舞台であり、同時に超高層ビルのような建物や道路、鉄道のような無数のインフラによって編成される物質的な存在でもある。都市では新しく、刹那的な出来事が日々生み出される一方で、都市構造は長い歴史をかけて形成されたものでもある。このような多面的な様相を持つ都市は、社会学にとって格好の分析対象である。 問題解決ゼミナールⅠでは、これまで策定した研究計画に即して、自ら設定した学術的問いに答えるための調査を設計・遂行し、卒論の核となる知見を導出する。その上で、卒論執筆作業を継続的に進める。問題解決ゼミナールⅡでは、これまで実行してきた研究成果を再検討し、自ら設定した問いに答えられる結論を導く。その上で、自らが導出した知見を他者に対して説得的に説明できるような論文を完成させる。 到達目標 ・都市に関する社会現象を分析し、他者に対して説明できるようになる。 ・他者の研究課題に対して、建設的なコメントが提供できるようになる。		
2. 授業内容 第1回 卒論中間報告会 (1) 第2回 卒論中間報告会 (2) 第3回 卒論中間報告会 (3) 第4回 研究進捗報告 (1) 第5回 研究進捗報告 (2) 第6回 研究進捗報告 (3) 第7回 研究進捗報告 (4) 第8回 研究進捗報告 (5) 第9回 研究進捗報告 (6) 第10回 研究進捗報告 (7) 第11回 研究進捗報告 (8) 第12回 成果発表 (1) 第13回 成果発表 (2) 第14回 成果発表 (3)		
3. 履修上の注意 授業内容は、進捗状況に応じて多少変更する可能性があります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 卒論に関するワークでは、各自が文献を読み、研究計画を策定して授業で発表することが求められます。		
5. 教科書 特に指定しません。		
6. 参考書 『リサーチのはじめかた ―「きみの問い」を見つけ、育て、伝える方法』トーマス・S・マラニー／クリストファー・レア（筑摩書房） 『リサーチの技法』ウェイン・C・ブース／グレゴリー・G・コロンブ／ジョセフ・M・ウィリアムズ（ソシム） 『基礎からわかる 論文の書き方』小熊英二（講談社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中に口頭で発表内容についてコメントします。また、作成途中の卒論の原稿に対する添削を実施します。		
8. 成績評価の方法 平常点50%、卒業論文50%		
9. その他 ゼミは教員と学生の協働作業であるため、モチベーションが高く、好奇心旺盛で、積極的に他者の研究についてコメントし、議論できる学生の参加を歓迎します。また、正規の授業時間以外にもゼミ活動が発生する場合があります。		

問題分析ゼミナールⅠ		中里 裕美
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 社会ネットワーク〈つながり〉の研究		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本ゼミナールでは、ゲオルク・ジンメル（社会学者であり哲学者でもある）の昔から探求されてきた「つながり」〈社会ネットワーク〉とその種々の効果に関する研究を中心に展開します。本ゼミナールで扱うつながりは、人と人とのつながり—たとえば、家族・友人、地域住民のつながりなど—に焦点をあてますが、取引関係のある企業同士のつながりや国家間のつながりといった様々な領域におけるつながりも対象になります。進め方としてはまず、全員でテキストを輪読し、つながり〈社会ネットワーク〉の基礎知識や社会調査法、つながりを科学的に分析する手法である社会ネットワーク分析について学びます。そのうえで、グループ単位で研究テーマを選定し、主体的に研究をすすめ、各グループで研究論文としてまとめてもらいます。 【到達目標】 社会ネットワークの概念、社会調査法ならびに社会ネットワーク分析に関する基礎知識を習得すること。卒業論文に繋がる研究テーマとその方向性の筋道を立てること。		
2. 授業内容 第1回 インタロダクション（春学期スケジュール、文献担当決め等） 第2回 文献輪読① 第3回 文献輪読② 第4回 文献輪読③ 第5回 研究とは（流れ、テーマ設定のしかた）研究計画書（プロポザル）の書き方 第6回 社会調査の方法論① 第7回 社会調査の方法論② 第8回 先行研究の整理と調査設計／調査票の作成① 第9回 先行研究の整理と調査設計／調査票の作成② 第10回 先行研究の整理と調査設計／調査票の作成③ 第11回 中間報告会 第12回 過去の論文から学ぶ 第13回 研究計画書の報告会① 第14回 研究計画書の報告会②		
3. 履修上の注意 特になし。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として、テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。		
5. 教科書 ・『「つながり」を突き止める—入門！ネットワーク・サイエンス』、安田雪、光文社新書 ・『新・社会調査へのアプローチ』、大谷信介他著、ミネルヴァ書房		
6. 参考書 ・『社会ネットワークのリサーチメソッド—「つながり」を調査する』、平松闊、ミネルヴァ書房		
7. 課題に対するフィードバックの方法 フィードバックは、適宜（授業中や各回の発表後、もしくはレポート提出後）の適切なタイミングで行います。		
8. 成績評価の方法 授業内のプレゼンなどの平常点40%、学期末のレポート60%		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅡ		中里 裕美
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 社会ネットワーク〈つながり〉の研究		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本ゼミナールでは、ゲオルク・ジンメル（社会学者であり哲学者でもある）の昔から探求されてきた「つながり」〈社会ネットワーク〉とその種々の効果に関する研究を中心に展開します。本ゼミナールで扱うつながりは、人と人とのつながり—たとえば、家族・友人、地域住民のつながりなど—に焦点をあてますが、取引関係のある企業同士のつながりや国家間のつながりといった様々な領域におけるつながりも対象になります。進め方としてはまず、全員でテキストを輪読し、つながり〈社会ネットワーク〉の基礎知識や社会調査法、つながりを科学的に分析する手法である社会ネットワーク分析について学びます。そのうえで、グループ単位で研究テーマを選定し、主体的に研究をすすめ、各グループで研究論文としてまとめてもらいます。 【到達目標】 社会ネットワークの概念、社会調査法ならびに社会ネットワーク分析に関する基礎知識を習得すること。卒業論文に繋がる研究テーマとその方向性の筋道を立てること。		
2. 授業内容 第1回 秋学期のスケジュール確認、文献担当決め、各グループの進捗状況の発表等 第2回 調査票の検討会① 第3回 調査票の検討会② 第4回 ネットワーク調査の基礎① 第5回 ネットワーク調査の基礎② 第6回 中間報告会① 第7回 中間報告会② 第8回 データ分析の方法① 第9回 データ分析の方法② 第10回 結果の整理と論文執筆① 第11回 結果の整理と論文執筆② 第12回 結果の整理と論文執筆③ 第13回 成果報告会① 第14回 成果報告会②		
3. 履修上の注意 特になし。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習として、テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。		
5. 教科書 ・『「つながり」を突き止める—入門！ネットワーク・サイエンス』、安田雪、光文社新書 ・『新・社会調査へのアプローチ』、大谷信介他著、ミネルヴァ書房		
6. 参考書 ・『社会ネットワークのリサーチメソッド—「つながり」を調査する』、平松闊、ミネルヴァ書房		
7. 課題に対するフィードバックの方法 フィードバックは、適宜（授業中や各回の発表後、もしくはレポート提出後）の適切なタイミングで行います。		
8. 成績評価の方法 授業内のプレゼンなどの平常点40%、学期末のレポート60%		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅠ		中里 裕美
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 社会ネットワーク〈つながり〉の研究		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本ゼミナールでは、ゲオルク・ジンメル（社会学者であり哲学者でもある）の昔から探求されてきた「つながり」〈社会ネットワーク〉とその種々の効果に関する研究を中心に展開します。本ゼミナールで扱うつながりは、人と人とのつながり—たとえば、家族・友人、地域住民のつながりなど—に焦点をあてますが、取引関係のある企業同士のつながりや国家間のつながりといった様々な領域におけるつながりも対象になります。 【到達目標】 3年次に学んだ〈社会ネットワーク〉の基礎知識や社会調査法、ならびに社会ネットワーク分析の手法をふまえて、個人単位で興味・関心のある社会・経済的現象に関する「テーマ」を設定して研究をすすめ、卒業論文を作成・完成させること。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション（年間スケジュール、発表日時の決定等） 第2回 論文の組み立て方①：過去の論文から学ぶ 第3回 論文の組み立て方②：過去の論文から学ぶ 第4回 論文の組み立て方③：過去の論文から学ぶ 第5回 卒業論文プロポーザルの発表① 第6回 卒業論文プロポーザルの発表② 第7回 調査法、問題設定から質問文まで① 第8回 調査法、問題設定から質問文まで② 第9回 先行研究の整理と調査設計／調査票などの発表① 第10回 先行研究の整理と調査設計／調査票などの発表② 第11回 先行研究の整理と調査設計／調査票などの発表③ 第12回 進捗報告会① 第13回 進捗報告会② 第14回 進捗報告会③		
3. 履修上の注意 特になし。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 上記の授業の内容に沿って、各自必要となる準備をすすめること。		
5. 教科書 特に指定しない。		
6. 参考書 参考書は必要に応じて随時紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 フィードバックは、適宜（授業中や各回の発表後、もしくはレポート提出後）の適切なタイミングで行います。		
8. 成績評価の方法 授業内のプレゼンなどの平常点40%、卒業論文60%		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅡ		中里 裕美
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 社会ネットワーク〈つながり〉の研究		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 本ゼミナールでは、ゲオルク・ジンメル（社会学者であり哲学者でもある）の昔から探求されてきた「つながり」〈社会ネットワーク〉とその種々の効果に関する研究を中心に展開します。本ゼミナールで扱うつながりは、人と人とのつながり—たとえば、家族・友人、地域住民のつながりなど—に焦点をあてますが、取引関係のある企業同士のつながりや国家間のつながりといった様々な領域におけるつながりも対象になります。 【到達目標】 3年次に学んだ〈社会ネットワーク〉の基礎知識や社会調査法、ならびに社会ネットワーク分析の手法をふまえて、個人単位で興味・関心のある社会・経済的現象に関する「テーマ」を設定して研究をすすめ、卒業論文を作成・完成させること。		
2. 授業内容 第1回 秋学期のスケジュール確認、各自の進捗状況の発表 第2回 問題設定、仮説、データ分析方法① 第3回 問題設定、仮説、データ分析方法② 第4回 卒業論文の中間報告会① 第5回 卒業論文の中間報告会② 第6回 卒業論文の中間報告会③ 第7回 データの分析① 第8回 データの分析② 第9回 分析結果とその意義を説明する① 第10回 分析結果とその意義を説明する② 第11回 分析結果とその意義を説明する③ 第12回 卒業論文の成果報告会① 第13回 卒業論文の成果報告会② 第14回 卒業論文の成果報告会③		
3. 履修上の注意 特になし。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 上記の授業の内容に沿って、各自必要となる準備をすすめること。		
5. 教科書 特に指定しない。		
6. 参考書 参考書は必要に応じて随時紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 フィードバックは、適宜（授業中や各回の発表後、もしくはレポート提出後）の適切なタイミングで行います。		
8. 成績評価の方法 授業内のプレゼンなどの平常点40%、卒業論文60%		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅠ		根橋 玲子
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 異文化間コミュニケーションと多文化共生		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 当ゼミナールでは、日本社会における多文化共生について、主に次の2つの対象グループについて学ぶ。(1) 外国人移住者とその家族(子どもたちや配偶者)など、日本に暮らす外国につながる人々、そして(2) ホスト社会の人々(主に日本人)に焦点を当てる。そして、(A) グループプロジェクトと(B) フィールドワークという主に2つの活動を中心に対象について学びを深める。グループプロジェクトでは、ヒューマンライブラリーややさしい日本語ワークショップの開催など、グループごとに異なる内容に取り組む。フィールドワークは東京近郊の外国人集住地とそこに暮らす人々を対象に、各グループがそれぞれ問いを立て、調査を行う。 また、当ゼミナールでは、実際に文化背景の異なる人々とコミュニケーションする機会を多く設ける。国際連携との取り組みから留学生の受け入れや、オンラインでの海外の大学生との交流授業、スピーカーの招聘などを行うなど、多角的な学びの場を提供する。当ゼミナールは、多文化共生について学び、実践する場である。ゼミはdiverse community buildingを体験する場であり、実験場でもある。ゼミ生には、そのメンバーとして積極的に参加することを期待する。 【到達目標】 問題分析ゼミナールⅠでは、現代社会における文化の違いがもたらす課題について、基礎文献を読んだりディスカッションを通して知識や問題意識を深めることを到達目標とする。問題分析ゼミナールⅡでは、問題分析ゼミナールⅠで関心を持ったトピックを中心に、各グループで問いを立て、研究プロジェクトとして取り組む。これによりその問いへのアプローチの仕方や分析の仕方といった技法も身につけてもらうことを到達目標とする。		
2. 授業内容 第1回 Introduction 第2回 グループプロジェクト(GP)とフィールドワーク(FW)について 第3回 交流会 第4回 ヒューマンライブラリー(HL)とは 第5回 HLの実践 第1回/FW・GP準備 第6回 HLの実践 第2回/FW・GP準備 第7回 HLの実践 第3回/FW・GP準備 第8回 HLの実践 第4回/FW・GP準備 第9回 FWの準備 第10回 FW 第11回 FWプレゼンテーション準備① 第12回 FWプレゼンテーション準備② 第13回 やさしい日本語ワークショップ 第14回 FWプレゼンテーション		
3. 履修上の注意 これまでに異文化および社会調査関連の授業を履修した人の受講を優先する。また、授業では英語を積極的に使用するので、ある程度の英語力が必要である。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 自分だ選んだゼミで扱うトピックに関連するテキストを読み、授業内で発表し議論を行う。		
5. 教科書 授業内で指示する。		
6. 参考書 大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武(2005)『社会調査へのアプローチ(第2版)』ミネルヴァ書房。APA Manual		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-ol Meijiを通して提出した課題については、同じくOh-ol Meijiを通してフィードバックする。 それ以外については、別途授業内でその方法を説明する。		
8. 成績評価の方法 プレゼン30%；English Session 10%；授業への貢献と参加 30%；ペーパー30%		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅡ		根橋 玲子
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 異文化間コミュニケーションと多文化共生		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 当ゼミナールでは、日本社会における多文化共生について、主に次の2つの対象グループについて学ぶ。(1) 外国人移住者とその家族(子どもたちや配偶者)など、日本に暮らす外国につながる人々、そして(2) ホスト社会の人々(主に日本人)に焦点を当てる。そして、(A) グループプロジェクトと(B) フィールドワークという主に2つの活動を中心に対象について学びを深める。グループプロジェクトでは、ヒューマンライブラリーややさしい日本語ワークショップの開催など、グループごとに異なる内容に取り組む。フィールドワークは東京近郊の外国人集住地とそこに暮らす人々を対象に、各グループがそれぞれ問いを立て、調査を行う。 また、当ゼミナールでは、実際に文化背景の異なる人々とコミュニケーションする機会を多く設ける。国際連携との取り組みから留学生の受け入れや、オンラインでの海外の大学生との交流授業、スピーカーの招聘などを行うなど、多角的な学びの場を提供する。当ゼミナールは、多文化共生について学び、実践する場である。ゼミはdiverse community buildingを体験する場であり、実験場でもある。ゼミ生には、そのメンバーとして積極的に参加することを期待する。 【到達目標】 問題分析ゼミナールⅠでは、現代社会における文化の違いがもたらす課題について、基礎文献を読んだりディスカッションを通して知識や問題意識を深めることを到達目標とする。問題分析ゼミナールⅡでは、問題分析ゼミナールⅠで関心を持ったトピックを中心に、各グループで問いを立て、研究プロジェクトとして取り組む。これによりその問いへのアプローチの仕方や分析の仕方といった技法も身につけてもらうことを到達目標とする。		
2. 授業内容 第1回 Introduction 第2回 グループプロジェクト(GP)準備①/研究交流祭準備① 第3回 GP実施準備②/研究交流祭準備② 第4回 GP実施準備③/研究交流祭準備③ 第5回 International Virtual Exchange(IVE)①/研究交流祭準備④ 第6回 GP実施準備④ 第7回 IVE② 第8回 GP実施準備⑤ 第9回 IVE③ 第10回 日本語カフェ開催 第11回 IVE④ 第12回 Paper writing① 第13回 Paper writing② 第14回 ペーパー締め切り・まとめ		
3. 履修上の注意 これまでに異文化および社会調査関連の授業を履修した人の受講を優先する。また、授業では英語を積極的に使用するので、ある程度の英語力が必要である。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 自分だ選んだゼミで扱うトピックに関連するテキストを読み、授業内で発表し議論を行う。		
5. 教科書 特に指定しない。		
6. 参考書 大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武(2005)『社会調査へのアプローチ(第2版)』ミネルヴァ書房。APA Manual		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-ol Meijiを通して提出した課題については、同じくOh-ol Meijiを通してフィードバックする。 それ以外については、別途授業内でその方法を説明する。		
8. 成績評価の方法 企画の運営20%；ペーパー 20%；授業への貢献と参加30%；プレゼン30%		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅠ		根橋 玲子
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 異文化間コミュニケーションと多文化共生		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 当ゼミナールでは、問題分析ゼミナールに続き、日本社会における多文化共生について、主に次の2つの対象グループについて学ぶ。(1) 外国人移住者とその家族(子どもたちや配偶者)など、日本に暮らす外国につながる人々、そして(2) ホスト社会の人々(主に日本人)に焦点を当てる。そして、(A) グループプロジェクトと(B) フィールドワークという主に2つの活動を中心に対象について学びを深める。グループプロジェクトでは、ヒューマンライブラリーややさしい日本語ワークショップの開催など、グループごとに異なる内容に取り組む。フィールドワークは東京近郊の外国人集住地とそこに暮らす人々を対象に、各グループがそれぞれ問いを立て、調査を行う。問題分析ゼミナールI/IIで身につけた知識や調査方法を用い、自ら立てた問いへの答えを導き出すのが目標である。また、各活動は3年生とともに実施するが、4年生にはリーダーシップを磨く機会ととらえ積極的に取り組んでもらいたい。 【到達目標】 本ゼミナールの到達目標は、イニシアチブを取り、研究プロジェクトを企画・実施できるようになることである。大学4年間の学びの集大成として、楽しんで自分の課題に取り組んでもらいたい。		
2. 授業内容 第1回 Introduction 第2回 グループプロジェクト(GP)とフィールドワーク(FW)について 第3回 交流会 第4回 ヒューマンライブラリー(HL)とは 第5回 HLの実践 第1回/FW・GP準備 第6回 HLの実践 第2回/FW・GP準備 第7回 HLの実践 第3回/FW・GP準備 第8回 HLの実践 第4回/FW・GP準備 第9回 FWの準備 第10回 FW 第11回 FWプレゼンテーション準備① 第12回 FWプレゼンテーション準備② 第13回 やさしい日本語ワークショップ 第14回 FWプレゼンテーション		
3. 履修上の注意 特になし。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 予め指定された文献・資料を読んだ上で、ディスカッションに臨んでもらいたい。		
5. 教科書 APA Manual		
6. 参考書 特に指定しない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-ol Meijiを通して提出した課題については、同じくOh-ol Meijiを通してフィードバックする。 それ以外については、別途授業内でその方法を説明する。		
8. 成績評価の方法 企画の運営30%; ペーパー 40%; 授業への貢献と参加30%		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅡ		根橋 玲子
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 異文化間コミュニケーションと多文化共生		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 当ゼミナールでは、問題分析ゼミナールに続き、日本社会における多文化共生について、主に次の2つの対象グループについて学ぶ。(1) 外国人移住者とその家族(子どもたちや配偶者)など、日本に暮らす外国につながる人々、そして(2) ホスト社会の人々(主に日本人)に焦点を当てる。そして、(A) グループプロジェクトと(B) フィールドワークという主に2つの活動を中心に対象について学びを深める。グループプロジェクトでは、ヒューマンライブラリーややさしい日本語ワークショップの開催など、グループごとに異なる内容に取り組む。フィールドワークは東京近郊の外国人集住地とそこに暮らす人々を対象に、各グループがそれぞれ問いを立て、調査を行う。問題分析ゼミナールI/IIで身につけた知識や調査方法を用い、自ら立てた問いへの答えを導き出すのが目標である。また、各活動は3年生とともに実施するが、4年生にはリーダーシップを磨く機会ととらえ積極的に取り組んでもらいたい。 【到達目標】 本ゼミナールの到達目標は、イニシアチブを取り、研究プロジェクトを企画・実施できるようになることである。大学4年間の学びの集大成として、楽しんで自分の課題に取り組んでもらいたい。		
2. 授業内容 第1回 Introduction 第2回 グループプロジェクト(GP)準備①/研究交流祭準備① 第3回 GP実施準備②/研究交流祭準備② 第4回 GP実施準備③/研究交流祭準備③ 第5回 International Virtual Exchange(IVE)①/研究交流祭準備④ 第6回 GP実施準備④ 第7回 IVE② 第8回 GP実施準備⑤ 第9回 IVE③ 第10回 日本語カフェ開催 第11回 IVE④ 第12回 Paper writing① 第13回 Paper writing② 第14回 ペーパー締め切り・まとめ		
3. 履修上の注意 特になし。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 予め指定された文献・資料を読んだ上で、ディスカッションに臨んでもらいたい。		
5. 教科書 APA Manual		
6. 参考書 特に指定しない。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-ol Meijiを通して提出した課題については、同じくOh-ol Meijiを通してフィードバックする。 それ以外については、別途授業内でその方法を説明する。		
8. 成績評価の方法 企画の運営30%; ペーパー 20%; 授業への貢献と参加30%(English Sessionを含む); プレゼン20%		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅠ		波照間 永子
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 身体表現とコミュニケーション－社会におけるアートの役割・問題を検討する－		
1. 授業の概要・到達目標 コミュニケーション不足による人間関係の希薄化が重要な課題といわれる今日、身体表現を伴う芸術(アート)によるコミュニケーションの意義がますます高まっています。そのようななかで、企業・自治体・学校・病院・NPO・アーティストらがコラボレートし、多様な企画が実施されています。「人を育み、人を繋げるアートのもつ力は、現代社会でいかに活用され、どのような問題を抱えているのでしょうか。」 到達目標 本ゼミナールでは、身体表現およびアートがさまざまな場面で活用されている事例を研究するとともに、積極的に現場に赴きアートの力を確認する企画や、作品を創造することを到達目標とします。その成果を四年次において「卒業論文」もしくは「作品&卒業制作試論」として纏めてもらいます。		
2. 授業内容 第1回 ガイダンス(授業計画・評価の方法・研究方法) 第2回 個人研究テーマの紹介(1) 第3回 個人研究テーマの紹介(2) 第4回 研究方法 第5回 個人研究 中間報告Ⅰ(1) 第6回 個人研究 中間報告Ⅰ(2) 第7回 個人研究 中間報告Ⅰ(3) 第8回 個人研究 中間報告Ⅱ(1) 第9回 個人研究 中間報告Ⅱ(2) 第10回 個人研究 中間報告Ⅱ(3) 第11回 個人研究 中間報告Ⅲ(1) 共同制作(1) 第12回 個人研究 中間報告Ⅲ(2) 共同制作(2) 第13回 個人研究 中間報告Ⅲ(3) 共同制作(3) 第14回 まとめ 課題提出 春学期の後半は、個人研究のほかに共同制作の実践活動も行います。		
3. 履修上の注意 (1) 4年次には、「卒業論文」もしくは「作品&卒業制作試論」の提出を必須としますので、積極的に自身の課題に取り組んでください。 (2) 毎回ではありませんが、増野ゼミ(音楽論)との合同ゼミへの参加が求められます。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 個人研究の発表準備や、実践研究の下調べなど、毎回の授業に際して自宅学習が必要です。		
5. 教科書 なし		
6. 参考書 個人研究の発表を踏まえ、各自に適切な参考書や論文・資料を紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の発表時に、教員から個人研究に対する講評を行います。 また、期末課題は、添削した結果を対面もしくはオンラインで共有します。		
8. 成績評価の方法 平常点(積極性)50%、研究報告25%、レポート25%		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅡ		波照間 永子
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 身体表現とコミュニケーション－社会におけるアートの役割・問題を検討する－		
1. 授業の概要・到達目標 コミュニケーション不足による人間関係の希薄化が重要な課題といわれる今日、身体表現を伴う芸術(アート)によるコミュニケーションの意義がますます高まっています。そのようななかで、企業・自治体・学校・病院・NPO・アーティストらがコラボレートし、多様な企画が実施されています。「人を育み、人を繋げるアートのもつ力は、現代社会でいかに活用され、どのような問題を抱えているのでしょうか。」 到達目標 本ゼミナールでは、身体表現およびアートがさまざまな場面で活用されている事例を研究するとともに、積極的に現場に赴きアートの力を確認する企画や、作品を創造することを到達目標とします。その成果を、四年次において「卒業論文」もしくは「作品&卒業制作試論」として纏めてもらいます。		
2. 授業内容 第1回 ガイダンス(授業計画・評価の方法等) 第2回 個人研究 中間報告Ⅳ(1) 第3回 個人研究 中間報告Ⅳ(2) 第4回 個人研究 中間報告Ⅳ(3) 第5回 実践研究(企画・制作)(1) 第6回 実践研究(企画・制作)(2) 第7回 実践研究(企画・制作)(3) 第8回 実践研究(企画・制作)(4) 第9回 実践研究(企画・制作)(5) 第10回 実践研究(企画・制作)(6) 第11回 個人研究 最終報告(1) 第12回 個人研究 最終報告(2) 第13回 個人研究 最終報告(3) 第14回 個人研究 最終報告(4) 課題提出		
3. 履修上の注意 (1) 4年次には、「卒業論文」もしくは「作品&卒業制作試論」の提出を必須としますので、積極的に自身の課題に取り組んでください。 (2) 毎回ではありませんが、増野ゼミ(音楽論)との合同ゼミへの参加が求められます。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 個人研究の発表準備や、実践研究の下調べなど、毎回の授業に際して自宅学習が必要です。		
5. 教科書 なし		
6. 参考書 個人研究の発表を踏まえ、各自に適切な参考書や論文・資料を紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の発表時に、教員から個人研究に対する講評を行います。 また、期末課題は、添削した結果を対面もしくはオンラインで共有します。		
8. 成績評価の方法 平常点(積極性)50%、研究報告25%、レポート25%		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅠ		波照間 永子
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 身体表現とコミュニケーション－社会におけるアートの役割・問題を検討する－		
1. 授業の概要・到達目標 コミュニケーション不足による人間関係の希薄化が重要な課題といわれる今日、身体表現を伴う芸術（アート）によるコミュニケーションの意義がますます高まっています。そのようななかで、企業・自治体・学校・病院・NPO・アーティストらがコラボレートし、多様な企画が実施されています。「人を育み、人を繋げるアートのもつ力は、現代社会でいかに活用され、どのような問題を抱えているのでしょうか。」		
到達目標 問題分析ゼミナールで実施した個人研究や実践研究を踏まえ、問題解決ゼミナールでは、卒業研究に取り組みます。 卒業研究は、A「卒業論文（卒業レポート）」もしくは、B「卒業制作試論」、のA/Bいずれかの形式を選択します。卒業研究を丹念に創り上げ完成を目指す「クリエイティブな力を高める」ことを本ゼミナールの到達目標とします。 卒業研究については、ゼミナール案内に記載された「成果物（卒業論文・卒業制作）の単位付与基準」を参照してください。		
2. 授業内容 第1回 ガイダンス（授業計画・評価の方法等） 第2回 3年次までの個人研究の内容報告 第3回 3年次までの個人研究の内容報告 第4回 3年次までの個人研究の内容報告 第5回 3年次までの個人研究の内容報告 第6回 卒業研究のテーマと方法 第7回 卒業研究のテーマと方法 第8回 卒業研究のテーマと方法 第9回 卒業研究のテーマと方法 第10回 中間報告Ⅰ 第11回 中間報告Ⅰ 第12回 中間報告Ⅰ 第13回 中間報告Ⅰ 第14回 まとめ・夏以降のスケジュール設定・課題の確認		
3. 履修上の注意 卒業研究（成果物）を完成させることを全員の到達目標とします。地道に、かつ積極的に取り組んでください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 自身の課題に即し毎回の授業に際して自宅学習が必要です。		
5. 教科書 なし		
6. 参考書 個人研究の発表を踏まえ、各自に適切な参考書や論文・資料を紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の発表時に、教員から個人研究に対する講評を行います。また、「卒業論文」「卒業制作試論」は、添削した結果を対面もしくはオンラインで共有します。		
8. 成績評価の方法 平常点・研究報告50%、作品25%、レポート（卒業論文・卒業制作の土台となる内容）25%		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅡ		波照間 永子
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 身体表現とコミュニケーション－社会におけるアートの役割・問題を検討する－		
1. 授業の概要・到達目標 コミュニケーション不足による人間関係の希薄化が重要な課題といわれる今日、身体表現を伴う芸術（アート）によるコミュニケーションの意義がますます高まっています。そのようななかで、企業・自治体・学校・病院・NPO・アーティストらがコラボレートし、多様な企画が実施されています。「人を育み、人を繋げるアートのもつ力は、現代社会でいかに活用され、どのような問題を抱えているのでしょうか。」		
到達目標 問題分析ゼミナールで実施した個人研究や実践研究を踏まえ、問題解決ゼミナールでは、卒業研究に取り組みます。 卒業研究は、A「卒業論文」もしくは、B「作品&卒業制作試論」、のA/Bいずれかの形式を選択します。卒業研究を丹念に創り上げ完成を目指す「クリエイティブな力を高める」ことを本ゼミナールの到達目標とします。 卒業研究については、ゼミナール案内に記載された「成果物（卒業論文・卒業制作）の単位付与基準」を参照してください。		
2. 授業内容 第1回 秋学期の授業計画 第2回 卒業研究の中間報告Ⅱ 第3回 卒業研究の中間報告Ⅱ 第4回 卒業研究の中間報告Ⅱ 第5回 卒業研究の中間報告Ⅲ 第6回 卒業研究の中間報告Ⅲ 第7回 卒業研究の中間報告Ⅲ 第8回 卒業研究の仮提出・添削・改訂 第9回 卒業研究の仮提出・添削・改訂 第10回 卒業研究の仮提出・添削・改訂 第11回 卒業研究の仮提出・添削・改訂 第12回 卒業研究の本提出 第13回 卒業論文・卒業制作試論集 編集 第14回 卒業論文・卒業制作試論集 編集		
3. 履修上の注意 卒業研究（成果物）を完成させることを全員の到達目標とします。地道に、かつ積極的に取り組んでください。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 自身の課題に即し毎回の授業に際して自宅学習が必要です。		
5. 教科書 なし		
6. 参考書 個人研究の発表を踏まえ、各自に適切な参考書や論文・資料を紹介します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 毎回の発表時に、教員から個人研究に対する講評を行います。また、「卒業論文」「卒業制作試論」は、添削した結果を対面もしくはオンラインで共有します。		
8. 成績評価の方法 平常点・研究報告50%、作品25%、レポート（卒業論文・卒業制作試論の土台となる内容）25%		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅠ		日置 貴之
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 芸術・文化を考える		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 芸術・文化は私たちの周りにさまざまな形で存在している。それらは一見すると「見ればわかる」ように思われがちだが、実際には古典的作品であっても現代の創作であっても、それぞれのコンテクストを持っており、歴史的知識や社会的背景などを踏まえ、それらについて分析して語るための〈言葉〉を持たなければ、理解することも、その価値を他者に伝えることもできない。このゼミナールでは、身の回りに存在する芸術・文化について、個々の作品や作家に対する美的分析だけでなく、芸術・文化の創造環境を用意する社会的制度等を含む、さまざまな側面から考え、4年次に卒業論文を執筆することを旨とする。 問題分析ゼミナールⅠでは、まず授業担当者の専門領域である演劇を中心に、芸術・文化に関する学術文献の講読をおこない、芸術・文化を学術的に分析する方法を学んでいく。同時に、3年次秋学期以降に講演会等のイベントをゼミナール主催で開催することを念頭に置いて、その企画を具体化していく。 【授業の到達目標】 芸術・文化を対象として学術的な文献を適切に読み、理解する能力を身につける。既存の研究を踏まえて自身の考えを展開することができるようになる。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 研究テーマについての報告(1)／ゼミイベントの企画(1) 第3回 研究テーマについての報告(2)／ゼミイベントの企画(2) 第4回 文献購読(1) 第5回 文献購読(2) 第6回 文献購読(3) 第7回 文献購読(4)／ゼミイベントの企画(3) 第8回 文献購読(5) 第9回 文献購読(6) 第10回 文献購読(7) 第11回 先行研究の調査について 第12回 引用・出典表記について 第13回 ゼミイベントの企画(4) 第14回 まとめ		
3. 履修上の注意 ・本ゼミナールは、3・4年次連続での履修を原則とし、4年次には卒業論文の提出を求める。 ・他の受講者の報告に対しても、積極的に意見を示し、活発な議論を行うことを求める。 ・授業時間外にも各自で劇場や美術館・博物館に足を運ぶなどする機会を積極的に設けること。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 ・受講者は授業で取り上げる文献について、事前に予習をした上で受講すること。また、各回の授業で担当者に文献の内容や補足情報等を報告してもらう。		
5. 教科書 渡邊守章『舞台芸術入門 ギリシア悲劇、伝統芸能から現代劇まで』角川ソフィア文庫、2025年		
6. 参考書 池上英洋『西洋美術史入門』ちくまプリマー新書、2012年 岡田暁生『音楽の聴き方 聴く型と趣味を語る言葉』中公新書、2009年 北村紗衣『批評の教室——チョウのように読み、ハチのように書く』ちくま新書、2021年 山本陽子『入門 日本美術史』ちくま新書、2024年 ほか、授業内で適宜紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 各回の報告については、授業内でコメントをおこなう。また、授業後の疑問等については、次回以降の授業内、またはクラスウェブを利用して適宜回答する。 また、提出物を設定する場合は、クラスウェブ上で添削等をおこなって返却する。		
8. 成績評価の方法 発表40%、ディスカッション20%、期末レポート40%。		
9. その他 ゼミナールは教員が一方的に知識を教授する場ではないので、受講者には授業時間外の予習や自身の関心に応じた芸術・文化の鑑賞等を積極的におこなうこと、また授業での議論の際に積極的に参加し、意見を述べることを望みます。受講者の要望や、ゼミイベントの企画準備の進展状況等に応じて、合宿等をおこなうことも検討しますが、これについても受講者からの積極的な提案を求めたいと思います。		

問題分析ゼミナールⅡ		日置 貴之
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 芸術・文化を考える		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 芸術・文化は私たちの周りにさまざまな形で存在している。それらは一見すると「見ればわかる」ように思われがちだが、実際には古典的作品であっても現代の創作であっても、それぞれのコンテクストを持っており、歴史的知識や社会的背景などを踏まえ、それらについて分析して語るための〈言葉〉を持たなければ、理解することも、その価値を他者に伝えることもできない。このゼミナールでは、身の回りに存在する芸術・文化について、個々の作品や作家に対する美的分析だけでなく、芸術・文化の創造環境を用意する社会的制度等を含む、さまざまな側面から考え、4年次に卒業論文を執筆することを旨とする。 問題分析ゼミナールⅡでは、春学期に引き続いて文献購読をおこなうとともに、受講者各自の関心に応じた年度末レポートの執筆を目指して、中間報告や下書きの作成と添削等をおこなう。また、講演会等、ゼミナール主催のイベントを受講者の企画によっておこなう。 【授業の到達目標】 先行研究を適切に踏まえるとともに、独自の調査や考察を展開して、芸術・文化を学術的に論じることができるようになる。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 研究テーマに関する報告(1)／ゼミイベントの企画(1) 第3回 研究テーマに関する報告(2)／ゼミイベントの企画(2) 第4回 文献購読(1)／論述の仕方について 第5回 文献購読(2)／注の表記等について 第6回 文献購読(3) 第7回 文献購読(4) 第8回 文献購読(5) 第9回 レポートの執筆と添削(1) 第10回 レポートの執筆と添削(2) 第11回 文献購読(6) 第12回 文献購読(7) 第13回 レポートの仕上げ 第14回 まとめ		
3. 履修上の注意 ・本ゼミナールは、3・4年次連続での履修を原則とし、4年次には卒業論文の提出を求める。 ・他の受講者の報告に対しても、積極的に意見を示し、活発な議論を行うことを求める。 ・授業時間外にも各自で劇場や美術館・博物館に足を運ぶなどする機会を積極的に設けること。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 ・受講者は授業で取り上げる文献について、事前に予習をした上で受講すること。また、各回の授業で担当者に文献の内容や補足情報等を報告してもらう。		
5. 教科書 渡邊守章『舞台芸術入門 ギリシア悲劇、伝統芸能から現代劇まで』角川ソフィア文庫、2025年		
6. 参考書 池上英洋『西洋美術史入門』ちくまプリマー新書、2012年 岡田暁生『音楽の聴き方 聴く型と趣味を語る言葉』中公新書、2009年 北村紗衣『批評の教室——チョウのように読み、ハチのように書く』ちくま新書、2021年 山本陽子『入門 日本美術史』ちくま新書、2024年 ほか、授業内で適宜紹介する		
7. 課題に対するフィードバックの方法 各回の報告については、授業内でコメントをおこなう。また、授業後の疑問等については、次回以降の授業内、またはクラスウェブを利用して適宜回答する。 また、提出物を設定する場合は、クラスウェブ上で添削等をおこなって返却する。		
8. 成績評価の方法 発表40%、ディスカッション20%、期末レポート40%。		
9. その他 ゼミナールは教員が一方的に知識を教授する場ではないので、受講者には授業時間外の予習や自身の関心に応じた芸術・文化の鑑賞等を積極的におこなうこと、また授業での議論の際に積極的に参加し、意見を述べることを望みます。受講者の要望や、ゼミイベントの企画準備の進展状況等に応じて、合宿等をおこなうことも検討しますが、これについても受講者からの積極的な提案を求めたいと思います。		

問題解決ゼミナールⅠ		日置 貴之
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 芸術・文化を考える		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 芸術・文化は私たちの周りにさまざまな形で存在している。それらは一見すると「見ればわかる」ように思われがちだが、実際には古典的作品であっても現代の創作であっても、それぞれのコンテキストを持っており、歴史的知識や社会的背景などを踏まえ、それらについて分析して語るための〈言葉〉を持たなければ、理解することも、その価値を他者に伝えることもできない。 このゼミナールでは、身の回りに存在する芸術・文化について、個々の作品や作家に対する美学的分析だけでなく、芸術・文化の創造環境を用意する社会的制度等を含む、さまざまな側面から考え、4年次に卒業論文を執筆することを旨とする。 問題解決ゼミナールⅠでは、卒業論文の執筆に向けて、各自の研究テーマを具体化し、先行研究の調査をおこなった上で、独自の調査・考察をおこなう。そして、論文の執筆に向けた準備を進める。 【授業の到達目標】 先行研究を適切に踏まえるとともに、独自の調査や考察を展開して、芸術・文化を学術的に論じることができるようになる。		
2. 授業内容 第1回 インTRODクッション 第2回 卒論構想発表(1) 第3回 卒論構想発表(2) 第4回 卒論構想発表(3) 第5回 卒論構想発表(4) 第6回 卒論構想発表(5) 第7回 卒論構想発表(6) 第8回 卒論構想発表(7) 第9回 卒論構想発表(8) 第10回 卒論構想発表(9) 第11回 卒論構想発表(10) 第12回 卒論構想発表(11) 第13回 卒論構想発表(12) 第14回 まとめ		
3. 履修上の注意 ・本ゼミナールは、3・4年次連続での履修を原則とし、4年次には卒業論文の提出を求める。 ・他の受講者の報告に対しても、積極的に意見を示し、活発な議論を行うことを求める。 ・授業時間外にも各自で劇場や美術館・博物館に足を運ぶなどする機会を積極的に設けること。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 各回の内容に即して、報告の準備等をおこなった上で授業に参加すること。		
5. 教科書 特に指定しない。		
6. 参考書 小笠原喜康『最新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、講談社、2018年 戸田山和久『最新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHK出版、2022年 このほか、各回の内容によって、その都度指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 各回の報告については、授業内でコメントをおこなう。また、授業後の疑問等については、次回以降の授業内、またはクラスウェブを利用して適宜回答する。 また、提出物を設定する場合は、クラスウェブ上で添削等をおこなって返却する。		
8. 成績評価の方法 発表40%、ディスカッション20%、期末レポート(卒業論文草稿)40%。		
9. その他 ゼミナールは教員が一方的に知識を教授する場ではないので、受講者には授業時間外の予習や自身の関心に応じた芸術・文化の鑑賞等を積極的におこなうこと、また授業での討論の際に積極的に参加し、意見を述べることを望みます。受講者の要望や、卒業論文執筆の進展状況等に応じて、合宿等をおこなうことも検討しますが、これについても受講者からの積極的な提案を求めたいと思います。		

問題解決ゼミナールⅡ		日置 貴之
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 芸術・文化を考える		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 芸術・文化は私たちの周りにさまざまな形で存在している。それらは一見すると「見ればわかる」ように思われがちだが、実際には古典的作品であっても現代の創作であっても、それぞれのコンテキストを持っており、歴史的知識や社会的背景などを踏まえ、それらについて分析して語るための〈言葉〉を持たなければ、理解することも、その価値を他者に伝えることもできない。 このゼミナールでは、身の回りに存在する芸術・文化について、個々の作品や作家に対する美学的分析だけでなく、芸術・文化の創造環境を用意する社会的制度等を含む、さまざまな側面から考え、4年次に卒業論文を執筆することを旨とする。 問題解決ゼミナールⅠでは、卒業論文の執筆に向けて、各自の研究テーマを具体化し、先行研究の調査をおこなった上で、独自の調査・考察をおこなう。そして、論文の完成を目指す。 【授業の到達目標】 先行研究を適切に踏まえるとともに、独自の調査や考察を展開して、芸術・文化を学術的に論じることができるようになる。		
2. 授業内容 第1回 卒業論文の執筆および添削(1) 第2回 卒業論文の執筆および添削(2) 第3回 卒業論文の執筆および添削(3) 第4回 卒業論文の執筆および添削(4) 第5回 卒業論文の執筆および添削(5) 第6回 卒業論文の執筆および添削(6) 第7回 卒業論文の執筆および添削(7) 第8回 卒業論文の執筆および添削(8) 第9回 卒業論文の執筆および添削(9) 第10回 卒業論文の執筆および添削(10) 第11回 卒業論文の執筆および添削(11) 第12回 卒業論文の執筆および添削(12) 第13回 卒業論文の執筆および添削(13) 第14回 論文報告会		
3. 履修上の注意 ・本ゼミナールは、3・4年次連続での履修を原則とし、4年次には卒業論文の提出を求める。 ・他の受講者の報告に対しても、積極的に意見を示し、活発な議論を行うことを求める。 ・授業時間外にも各自で劇場や美術館・博物館に足を運ぶなどする機会を積極的に設けること。		
4. 準備学習(予習・復習等)の内容 各回の内容に即して、報告の準備等をおこなった上で授業に参加すること。		
5. 教科書 特に指定しない。		
6. 参考書 小笠原喜康『最新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、講談社、2018年 戸田山和久『最新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHK出版、2022年 このほか、各回の内容によって、その都度指示する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 各回の報告については、授業内でコメントをおこなう。また、授業後の疑問等については、次回以降の授業内、またはクラスウェブを利用して適宜回答する。 また、提出物を設定する場合は、クラスウェブ上で添削等をおこなって返却する。		
8. 成績評価の方法 発表50%、ディスカッション50%。		
9. その他 ゼミナールは教員が一方的に知識を教授する場ではないので、受講者には授業時間外の予習や自身の関心に応じた芸術・文化の鑑賞等を積極的におこなうこと、また授業での討論の際に積極的に参加し、意見を述べることを望みます。受講者の要望や、卒業論文執筆の進展状況等に応じて、合宿等をおこなうことも検討しますが、これについても受講者からの積極的な提案を求めたいと思います。		

問題分析ゼミナールⅠ		蛭川 立
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 人類学と意識研究		
1. 授業の概要・到達目標 分析ゼミナールⅠでは、基本的な文献の購読を通じて人類学、脳神経科学、心理学、意識研究、あるいは芸術学、宗教学などの分野における基礎概念、およびそれらの分野が現在どこまで進んでいるのかという知識を身につける。とりわけ通常の講義では学ぶ機会の少ない特異体験や変性意識などの分野を重視したい。ただし少人数制の授業になるので、具体的な内容は履修者の関心によって決める。 分析ゼミナールⅡでは、履修者各人が自らテーマを選んで調査・研究を行い、簡単な成果をまとめることを目標とする。テーマは履修者各自の関心におうじ、話し合っ決めてたい。また、「論文」という種類の文章を書くにあたっての必要最低限の作法（文体、引用の方法など）も身につけられるようにしたい。授業では、履修者一人ひとりが研究の進捗状況を報告し、それをもとにディスカッションを行う。下記の授業内容では仮に履修者が12人である場合を仮定したが、じっさいの履修者の人数によってゼミを進める速度は変わる。		
2. 授業内容 第1回 全体の見通し 第2回 心理学・脳神経科学・意識研究にかんする基礎的な文献講読（1） 第3回 心理学・脳神経科学・意識研究にかんする基礎的な文献講読（2） 第4回 心理学・脳神経科学・意識研究にかんする基礎的な文献講読（3） 第5回 心理学・脳神経科学・意識研究にかんする基礎的な文献講読（4） 第6回 人類学・地域研究・比較思想にかんする基礎的な文献講読（1） 第7回 人類学・地域研究・比較思想にかんする基礎的な文献講読（2） 第8回 人類学・地域研究・比較思想にかんする基礎的な文献講読（3） 第9回 人類学・地域研究・比較思想にかんする基礎的な文献講読（4） 第10回 未開社会・現代社会における芸術学・宗教学にかんする基礎的な文献講読（1） 第11回 未開社会・現代社会における芸術学・宗教学にかんする基礎的な文献講読（2） 第12回 未開社会・現代社会における芸術学・宗教学にかんする基礎的な文献講読（3） 第13回 未開社会・現代社会における芸術学・宗教学にかんする基礎的な文献講読（4） 第14回 全体のまとめと夏期休業期間中の過ごし方など		
3. 履修上の注意 下に書いたように出席自体は成績評価の対象とはしないが、ゼミナール科目は参加しなければ意味がないし、出席しても議論に参加しなければ意味がないということを理解しておくこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業時間中だけではなく、それ以外の時間にも勉強をする必要がある。予習・復習に役立つような資料は、授業情報などを載せたブログ（ hirukawa.hateblo.jp ）も併せて参考にしてほしい。		
5. 教科書 とくに定めない。		
6. 参考書 蛭川立『彼岸の時間－〈意識〉の人類学－』（春秋社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ゼミの授業時間や、それ以外の時間でも、履修者とはつねに議論を続けるので、それが教員からのフィードバックにもなる。		
8. 成績評価の方法 各人が勉強・研究したことについて、ゼミで発表した内容を評価する（100%）		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅡ		蛭川 立
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 人類学と意識研究		
1. 授業の概要・到達目標 分析ゼミナールⅠでは、基本的な文献の購読を通じて人類学、脳神経科学、心理学、意識研究、あるいは芸術学、宗教学などの分野における基礎概念、およびそれらの分野が現在どこまで進んでいるのかという知識を身につける。とりわけ通常の講義では学ぶ機会の少ない特異体験や変性意識などの分野を重視したい。ただし少人数制の授業になるので、具体的な内容は履修者の関心によって決める。 分析ゼミナールⅡでは、履修者各人が自らテーマを選んで調査・研究を行い、簡単な成果をまとめることを目標とする。テーマは履修者各自の関心におうじ、話し合っ決めてたい。また、「論文」という種類の文章を書くにあたっての必要最低限の作法（文体、引用の方法など）も身につけられるようにしたい。授業では、履修者一人ひとりが研究の進捗状況を報告し、それをもとにディスカッションを行う。下記の授業内容では仮に履修者が12人である場合を仮定したが、じっさいの履修者の人数によってゼミを進める速度は変わる。		
2. 授業内容 第1回 全体の見通し 第2回 研究報告と討論（二人分、一巡目）（1） 第3回 研究報告と討論（二人分、一巡目）（2） 第4回 研究報告と討論（二人分、一巡目）（3） 第5回 研究報告と討論（二人分、一巡目）（4） 第6回 研究報告と討論（二人分、一巡目）（5） 第7回 研究報告と討論（二人分、一巡目）（6） 第8回 研究報告と討論（二人分、二巡目）（7） 第9回 研究報告と討論（二人分、二巡目）（8） 第10回 研究報告と討論（二人分、二巡目）（9） 第11回 研究報告と討論（二人分、二巡目）（10） 第12回 研究報告と討論（二人分、二巡目）（11） 第13回 研究報告と討論（二人分、二巡目）（12） 第14回 全体のまとめ		
3. 履修上の注意 下に書いたように出席自体は成績評価の対象とはしないが、ゼミナール科目は参加しなければ意味がないし、出席しても議論に参加しなければ意味がないということを理解しておくこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業時間中だけではなく、それ以外の時間にも勉強をする必要がある。予習・復習に役立つような資料は、授業情報などを載せたブログ（ hirukawa.hateblo.jp ）も併せて参考にしてほしい。		
5. 教科書 とくに定めない。		
6. 参考書 蛭川立『彼岸の時間－〈意識〉の人類学－』（春秋社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ゼミの授業時間や、それ以外の時間でも、履修者とはつねに議論を続けるので、それが教員からのフィードバックにもなる。		
8. 成績評価の方法 各人が勉強・研究したことについて、ゼミで発表した内容を評価する（100%）		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅠ		蛭川 立
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 人類学と意識研究		
1. 授業の概要・到達目標 問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱでは、履修者各人が自らテーマを選んで調査・研究を行い、卒業研究というひとつの成果にまとめることを目標とする。テーマは履修者各自の関心におうじ、話し合って決めたい。問題分析ゼミナールからの繰り返しにもなるが、あるテーマを「研究」ということ、そしてそれを「論文」または「作品」という形式にまとめ、公表するという、一連の「作法」も身につけられるようにしたい。 授業では、履修者一人ひとりが研究の進捗状況を報告し、それをもとにディスカッションを行い、最後の授業では、その成果をまとめて発表する。下記の授業内容では仮に履修者が12人である場合を仮定したが、じっさいの履修者の人数によってゼミを進める速度は変わる。		
2. 授業内容 第1回 全体の見直し 第2回 研究計画発表と討論（二人ずつ、一巡目）(1) 第3回 研究計画発表と討論（二人ずつ、一巡目）(2) 第4回 研究計画発表と討論（二人ずつ、一巡目）(3) 第5回 研究計画発表と討論（二人ずつ、一巡目）(4) 第6回 研究計画発表と討論（二人ずつ、一巡目）(5) 第7回 研究経過報告と討論（二人ずつ、一巡目）(6) 第8回 研究経過報告と討論（二人ずつ、二巡目）(7) 第9回 研究経過報告と討論（二人ずつ、二巡目）(8) 第10回 研究経過報告と討論（二人ずつ、二巡目）(9) 第11回 研究経過報告と討論（二人ずつ、二巡目）(10) 第12回 研究経過報告と討論（二人ずつ、二巡目）(11) 第13回 研究経過報告と討論（二人ずつ、二巡目）(12) 第14回 全体のまとめと夏期休業期間中の過ごし方など		
3. 履修上の注意 授業への出席自体は成績評価の対象とはしないし、就職活動などやむを得ない理由で出席できないことがあるかもしれないが、履修の目的は、毎週の授業に出席すること自体ではなく、履修者が各人の研究を進めて行くことなのだという事は認識しておいてほしい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 上に書いたように、問題解決ゼミナールでは、履修者が各人の研究を進めていくことが中心となる。毎週の授業だけではなく、それ以外の時間にも個人指導を行う。		
5. 教科書 とくに定めない。		
6. 参考書 蛭川立『彼岸の時間－〈意識〉の人類学－』（春秋社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ゼミの授業時間や、それ以外の時間でも、履修者とはつねに議論を続けるので、それが教員からのフィードバックにもなる。		
8. 成績評価の方法 卒業研究の成果を評価する（100%）		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅡ		蛭川 立
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 人類学と意識研究		
1. 授業の概要・到達目標 問題解決ゼミナールⅠ・Ⅱでは、履修者各人が自らテーマを選んで調査・研究を行い、卒業研究というひとつの成果にまとめることを目標とする。テーマは履修者各自の関心におうじ、話し合って決めたい。問題分析ゼミナールからの繰り返しにもなるが、あるテーマを「研究」ということ、そしてそれを「論文」または「作品」という形式にまとめ、公表するという、一連の「作法」も身につけられるようにしたい。 授業では、履修者一人ひとりが研究の進捗状況を報告し、それをもとにディスカッションを行い、最後の授業では、その成果をまとめて発表する。下記の授業内容では仮に履修者が12人である場合を仮定したが、じっさいの履修者の人数によってゼミを進める速度は変わる。		
2. 授業内容 第1回 研究経過報告と討論（二人ずつ、三巡目）(1) 第2回 研究経過報告と討論（二人ずつ、三巡目）(2) 第3回 研究経過報告と討論（二人ずつ、三巡目）(3) 第4回 研究経過報告と討論（二人ずつ、三巡目）(4) 第5回 研究経過報告と討論（二人ずつ、三巡目）(5) 第6回 研究経過報告と討論（二人ずつ、三巡目）(6) 第7回 研究経過報告と討論（二人ずつ、四巡目）(7) 第8回 研究経過報告と討論（二人ずつ、四巡目）(8) 第9回 研究経過報告と討論（二人ずつ、四巡目）(9) 第10回 研究経過報告と討論（二人ずつ、四巡目）(10) 第11回 研究経過報告と討論（二人ずつ、四巡目）(11) 第12回 研究経過報告と討論（二人ずつ、四巡目）(12) 第13回 卒業研究発表会（1） 第14回 卒業研究発表会（2）		
3. 履修上の注意 授業への出席自体は成績評価の対象とはしないし、就職活動などやむを得ない理由で出席できないことがあるかもしれないが、履修の目的は、毎週の授業に出席すること自体ではなく、履修者が各人の研究を進めて行くことなのだという事は認識しておいてほしい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 上に書いたように、問題解決ゼミナールでは、履修者が各人の研究を進めていくことが中心となる。毎週の授業だけではなく、それ以外の時間にも個人指導を行う。		
5. 教科書 とくに定めない。		
6. 参考書 蛭川立『彼岸の時間－〈意識〉の人類学－』（春秋社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ゼミの授業時間や、それ以外の時間でも、履修者とはつねに議論を続けるので、それが教員からのフィードバックにもなる。		
8. 成績評価の方法 卒業研究の成果を評価する（100%）		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅠ		増野 亜子
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 音楽コミュニケーション研究—音・人・社会のかかわりを考える		
1. 授業の概要・到達目標 一般に音楽は音でできていると考えられています。しかし「音だけで」できているわけではありません。多くの場合、歌唱や楽器演奏、あるいは音楽にあわせて踊ったり、行進したりすることは、身体的な行動でもあります。また肉体的労働の時に仕事をしながら歌う歌、宗教儀礼における祈りの歌、あるいは国家行事における国歌斉唱等にみられるように、音楽は個人の感情を表現するだけでなく、人と人が関係を築いたり、共同体を生み出したりする役割を担ってききました。この授業では様々なジャンルの音を使ったコミュニケーション、狭い意味での「音楽」だけでなく、音とかかわるさまざまな表現やコミュニケーションを通して人と音と社会の関係を考えます。音楽人類学の方法論を学び、世界各地の音楽や芸能、儀礼等の事例を理解する視点を身につけます。音としての「音楽」だけでなく、人々の身体の動き、生活、社会的・歴史的背景を含めた音の文化として理解してみましよう。また多様な音楽文化に触れることを通して、私たち自身の社会における身近な音楽文化についても、新たな視点から再発見し、自身の創造性を高めていくことを目指します。 ゼミの具体的な目標は①世界の多様な音楽文化に対する感受性を養い、幅広い知識を得ること、②音楽文化に対する知的なアプローチ方法を習得することです。受動的に音楽を聴き流すだけでなく、分析的・観察的に見たり聞いたりする訓練をし、自分の目と耳、そして身体を使って学びます。またそれらの経験を言語化し、学術的に考察する方法を習得し、自分自身の関心に基づく研究につなげていきましょう。 今期は「音楽を文化として知る」ための視点や技法を知ること、さまざまな事例に触れながら、自分自身の問いを検証することを目標とします。個人発表や文献講読の他、実践ワークショップ（動画や音源を用いて音を聞き取ったり、手拍子や楽器を用いた実践等）、インドネシア・バリ島の伝統音楽ガムラン合奏実践、フィールドワークの方法について学びます。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション、自己紹介等 第2回 文献講読とディスカッション① 第3回 文化としての音楽①（個人発表とディスカッション） 第4回 文化としての音楽②（個人発表とディスカッション） 第5回 文化としての音楽③（個人発表とディスカッション） 第6回 音を聞き取るワークショップ① 第7回 リズムを聞き取るワークショップ② 第8回 ガムラン演奏と実践に基づく考察① 第9回 ガムラン演奏と実践に基づく考察② 第10回 ガムラン演奏と実践に基づく考察③ 第11回 ガムラン演奏と実践に基づく考察④ 第12回 文献講読とディスカッション② 第13回 音楽/芸能フィールドワークの方法論 第14回 音楽/芸能フィールドワークの準備		
3. 履修上の注意 (1) 4年次では卒業研究を実施し「卒業論文」もしくは「作品+制作報告書」を提出します。3年次はその準備期間でもあります。履修生自身の関心に基づいて「問い」を深めてください。 (2) 五線譜の読譜能力や楽器の演奏経験の有無などは問いませんが、授業中ではワークショップなど身体や声、楽器等を使用した音表現の実践を行います。受講生にはこれらの実践に主体的に取り組む姿勢が求められます。 (3) ワークショップやフィールドワーク、発表会等一部の学習内容は、通常授業日外に実施することがあります。 (4) 履修生の関心などにより、授業内容の順番や構成を一部変更することがあります		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 学生は毎回の授業スケジュールにあわせてプレゼンの準備、テキストの予習、関連する情報の検索等を課します。積極的に取り組んでください。		
5. 教科書 なし		
6. 参考書 『声の世界を旅する』増野亜子著、(音楽之友社)		
7. 課題に対するフィードバックの方法 発表や実践課題に関しては、直接その場で、またレポートに関しては後日、履修生個々に対して講評を行います。		
8. 成績評価の方法 平常点（授業への積極的参加）40%、授業内課題30% 期末レポート30%		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅡ		増野 亜子
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 音楽コミュニケーション研究—音・人・社会のかかわりを考える		
1. 授業の概要・到達目標 一般に音楽は音でできていると考えられています。しかし「音だけで」できているわけではありません。多くの場合、歌唱や楽器演奏、あるいは音楽にあわせて踊ったり、行進したりすることは、身体的な行動でもあります。また肉体的労働の時に仕事をしながら歌う歌、宗教儀礼における祈りの歌、あるいは国家行事における国歌斉唱等にみられるように、音楽は個人の感情を表現するだけでなく、人と人が関係を築いたり、共同体を生み出したりする役割を担ってききました。この授業では様々なジャンルの音を使ったコミュニケーション、狭い意味での「音楽」だけでなく、音とかかわるさまざまな表現やコミュニケーションを通して人と音と社会の関係を考えます。音楽人類学の方法論を学び、世界各地の音楽や芸能、儀礼等の事例を理解する視点を身につけます。音としての「音楽」だけでなく、人々の身体の動き、生活、社会的・歴史的背景を含めた音の文化として理解してみましよう。また多様な音楽文化に触れることを通して、私たち自身の社会における身近な音楽文化についても、新たな視点から再発見し、自身の創造性を高めていくことを目指します。 目標は①世界の多様な音楽文化に対する感受性を養うこと、②音楽に対する知的なアプローチ方法を習得することです。受動的に音楽を聴き流すだけでなく、分析的・観察的に見たり聞いたりする訓練をし、自分の目と耳、そして身体を使って学びます。またそれらの経験を言語化し、学術的に考察する方法を習得し、自分自身の関心に基づく研究につなげていきましょう。今期は文献講読や各自の事例研究によって考察を深めるとともに、それらの知識や技法を演奏や創作などに実践的に応用することを目指します。アウトプットに重点を置き、研究成果を研究成果発表会（仮称）で発表する予定です。また今期は四年次の問題解決ゼミナールで実施する卒業研究に向けた助走期間でもあります。		
2. 授業内容 第1回 音楽/芸能フィールドワーク報告会① 第2回 音楽/芸能フィールドワーク報告会② 第3回 コミュニケーションとしての音楽/芸能① 文献講読と議論 第4回 コミュニケーションとしての音楽/芸能② 文献講読と議論 第5回 音楽/芸能を文化として理解する① グループ発表 第6回 音楽/芸能を文化として理解する② グループ発表 第7回 音楽/芸能を文化として理解する③ グループ発表 第8回 共同制作（実践）及び研究発表準備① 第9回 共同制作（実践）及び研究発表準備② 第10回 実践制作（実践）及び研究発表準備③ 第11回 実践制作（実践）及び研究発表準備④ 第12回 研究成果発表会（仮称）の実施 第13回 制作発表会報告書作成 第14回 今後の個人研究の展望と課題（仮題提出）		
3. 履修上の注意 (1) 4年次には、「卒業論文」もしくは「作品&制作報告書」の提出を必須としますので、3年次はその準備期間となります。履修生自身の関心に基づいて「問い」を深めてください。3年終了時までに4年次でとりくむ各自の卒業研究の仮題を提出していただきます。 (2) ワークショップや研究成果発表会（仮称）等の実施を予定しており、制作や運営などの活動に主体的に取り組む姿勢が求められます。また、これらの学習内容の一部は通常授業日外に実施することがあります。 (3) 履修生の関心や研究・制作の進捗状況によって授業の構成や順番が一部変更になることがあります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 プレゼンの準備、テキストの予習、関連情報の検索等を課します。また発表会前には準備が必要になります。積極的に取り組んでください。		
5. 教科書 なし		
6. 参考書 『ミュージック・アズ・ソーシャル・ライフ: 歌い踊ることをめぐる政治』トーマス・トゥリノ著、野澤豊一、西島千尋訳、(水声社)		
7. 課題に対するフィードバックの方法 発表や実践課題に関しては、直接その場で、またレポートに関しては後日、履修生個々に対して講評を行います。		
8. 成績評価の方法 平常点（授業への積極的参加）40%、授業内課題30% 期末レポート30%		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅠ		増野 亜子
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 音と身体によるコミュニケーションII:「場所」と「協働」		
1. 授業の概要・到達目標 このゼミでは「場所」と「協働」をキーワードに、世界の多様で固有な「音と身体によるコミュニケーション」の文化と技法をさらに掘り下げて考察します。たとえば現代の日本では伝統音楽、クラシック、ポップス等、多様なジャンルの音楽が演奏され、その上演の場もコンサートホールやライブハウス、寺社の祭礼、発表会やコンクール、カラオケから幼稚園のお遊戯まで多様です。それぞれの場において、人々はどのように音と身体を用いて、どのようにコミュニケーションしているのか？人々は音や身体を使ってどのように協働し、あるいは競合し、対立しているのか？人々の関係性や共同体の性質は、音楽や舞踊のかたちや、その場の社会的性質にどう作用しているのか？このような問いに答えを見出すためには、音や身体のあるかたを、より緻密に、分析的に考えていく必要があります。それぞれの上演の「場」の持つ性質は音楽や芸能にどのように働きかけ、また逆に音楽や芸能がどのような社会的な「場」を作っているのか、政治や経済といった社会的な視野から考察する必要があります。ミクロとマクロの視点を往來しながら、音と身体、個人と社会のダイナミックな関係性を考えていきます。 今期は文献講読や個人研究に加えて、実践ワークショップ（フィールドワーク、演奏実技、創作などを含む実践的学習、履修者の関心に応じて構成）、共同制作を行い、多様な地域や社会、時代の事例から、音楽や舞踊が生まれる場について多角的に検討します。またこれまでに学んできた視点や方法論を生かしながら、履修生各自の問題意識に基づいた卒業論文・卒業制作のための調査を実施し、そのプロセスで得られた知見や問題点を履修生同士で共有しながら、卒業研究を進めます。		
2. 授業内容 イントロダクション 第1回 音楽と場所①文献講読とディスカッション 第2回 音楽と場所②文献講読とディスカッション 第3回 実践ワークショップ① 第4回 実践ワークショップ② 第5回 卒業研究中間報告会① テーマと方法論 第6回 卒業研究中間報告会② テーマと方法論 第7回 共同制作 第8回 共同制作 第9回 共同制作 第10回 共同制作 第11回 卒論中間報告会③ 第12回 卒論中間報告会④ 第13回 卒論中間報告会⑤ 第14回 今後の展望と課題の整理		
3. 履修上の注意 (1) 終了時には個人による「卒業論文」もしくは「作品&制作報告書」の提出を求めます。 (2) 身体や声、楽器等を使用した音表現の体験を行うほか、ワークショップや研究成果発表会（仮称）等の実施定しており、その運営や制作などの実践的な活動にも主体的に取り組む姿勢が求められます。 (3) ワークショップやフィールドワーク等、一部の学習内容は通常の授業日外に実施することがあります。 (4) 受講生の関心や研究の進捗状況により、授業構成や順番が一部変更になることがあります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業時間内に実施するグループワークやワークショップ、文献講読の他に、履修生は卒業研究として、自身の個人的な関心に基づく調査や制作を進めることが求められます。研究の進捗状況やそこで生じた問題点等については、教員が随時相談や指導にあたりますが、自身で主体的に作業を進めることが求められます。		
5. 教科書 なし		
6. 参考書 『民族音楽学12の視点』徳丸吉彦監修、増野亜子編（音楽之友社）		
7. 課題に対するフィードバックの方法 基本的には授業時間内に直接口頭でフィードバックしますが、それ以外に卒業研究については個人的にメール等による相談に応じます。		
8. 成績評価の方法 平常点（授業への積極的参加）50%、授業内課題（報告書を含む）50%		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅡ		増野 亜子
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 音と身体によるコミュニケーションII:「場所」と「協働」		
1. 授業の概要・到達目標 このゼミでは「場所」と「協働」をキーワードに、世界の多様で固有な「音と身体によるコミュニケーション」の技法についてさらに掘り下げて考察します。たとえば現代の日本では伝統音楽、クラシック、ポップス等、多様なジャンルの音楽が演奏され、その上演の場もコンサートホールやライブハウス、寺社の祭礼、発表会やコンクール、カラオケから幼稚園のお遊戯まで多様です。それぞれの場において、人々はどのように音と身体を用いて、どのようにコミュニケーションしているのか？人々は音や身体を使ってどのように協働し、あるいは競合し、対立しているのか？そのような人々の関係性は、音楽や舞踊のかたちや、その場の社会的性質にどのように作用しているのか？このような問いに答えを見出すためには、音や身体のあるかたを、より緻密に、分析的に考えていく必要があります。同時にそれぞれの上演の「場」の持つ性質は音楽や芸能にどのように働きかけ、また逆に音楽や芸能がどのような社会的な「場」を作っているのか、より広い視野から考察する必要があります。ミクロとマクロの視点を往來しながら、音と身体、あるいは個人と社会のダイナミックな関係性を考えていきましょう。 今期の目標は、履修生個々の卒業研究を、卒論あるいは卒業制作のいずれかの方式で形にすることです。いずれの場合も、研究成果を学術的な文章で執筆します。教官による指導だけでなく、履修生同士で相互の研究をレビューし、学びの成果や問題点を共有しあいながら、研究の成果を形にしていきます。またこの卒業研究の成果は、卒業論文・卒業制作以外にも、研究成果報告集及び研究成果発表会（仮称）という形で公開を予定しており、その制作・製作と準備もゼミでの学びの一環として行います。		
2. 授業内容 第1回 課題進捗状況の確認 第2回 卒業研究中間報告会-3 第3回 卒業研究中間報告会-4 第4回 卒業研究中間報告会-5、卒論草稿提出 第5回 卒論草稿レビューと修正/共同制作① 第6回 卒論草稿のレビューと修正/共同制作② 第7回 卒論草稿のレビューと修正/共同制作③ 第8回 卒論提出、ゼミ内卒業研究報告会① 第9回 ゼミ内卒業研究報告会② 第10回 ゼミ内卒業研究報告会③ 第11回 公開研究成果発表会（仮称）に向けての制作と準備 第12回 公開研究成果発表会（仮称）の実施 第13回 研究成果発表会報告書の作成 第14回 報告書の完成		
3. 履修上の注意 (1) 個人による「卒業論文」もしくは「作品&制作レポート」の作成と提出を求めます。 (2) 研究発表会等の準備制作と運営、報告集の編集や制作も履修生自身が中心となって実施します。主体的に参加してください。 (3) 受講生の関心や研究の進捗状況により、授業の構成や順番が一部変更になることがあります。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 授業ではそれぞれの研究の進捗状況の報告や課題の共有、教員による研究指導や助言を行います。各自の卒業研究のための調査・執筆・制作は、基本的に授業時間外に進める必要があります。主体的に作業を進めてください。		
5. 教科書 なし		
6. 参考書 なし		
7. 課題に対するフィードバックの方法 基本的には授業時間内に直接口頭でフィードバックしますが、それ以外に卒業研究については個人的にメール等による相談に応じます。		
8. 成績評価の方法 平常点（授業への積極的参加）50%、授業内課題（報告書を含む）50%		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅠ		宮田 泰
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 紛争解決システム論		
1. 授業の概要・到達目標 紛争解決システム論の問題分析ゼミの課題は、契約事件や不法行為事件などの民事事件を対象に訴訟手続の開始から終了迄の一連の手続に従って分析的に検討することにあります。民事訴訟の手続は、当事者の行為が時系列に従って積み重ねられて発展してゆく一定の目的に向けられた動的な過程とも言えます。そこでの課題は、右の手続の時系列的な流れの把握のみならず、システムとしての要素も手続を構成するスキームワークとして適切に位置づけることが重要です。こうしたシステム論的課題に対しては、とくに裁判所、当事者そして訴訟対象という三つの要素から、手続にアプローチする視点が手続場面での予期の対象となります。それぞれの要素から複眼的視点により、手続を構成する個々の場面へとアプローチすることも、手続理解にとって重要です。紛争解決システム論の手続に隠された訴訟法独自の構造的な理解へと導くことが本ゼミナールの究極の課題となります。 最終的な到達目標としては、論点表への理解ないし習熟、隠れた構造の理解を得て、体系的な整理をつけることを目標としたい。		
2. 授業内容 第1回 イン트로ダクション（ゼミ参加の目的・趣旨説明） 第2回 Start（実施計画書提出） 第3回 総論—紛争解決システム論 第4回 新しい司法の課題 第5回 裁判外の紛争処理制度 第6回 民事訴訟における解釈方法論 第7回 紛争解決の方法—実体形成論 第8回 裁判所—管轄 第9回 当事者①—当事者確定の理論 第10回 当事者論②—当事者能力及び当事者適格 第11回 訴訟対象論①—処分権主義 第12回 訴訟対象論②—訴えの提起及び訴訟類型 第13回 訴訟対象論③—訴状審査及び送達 第14回 夏休みの課題（実践研究計画書・リフレッシュ計画書提出）		
3. 履修上の注意 法律系の科目履修を目指す学生諸氏を対象にしておりますが、民事裁判に関心のある諸氏への参加も幅広く希望しております。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 参加者の学習計画を加味しながら、予習及び復習への在り方、さらには実施計画書の作成など相談（第二回のゼミ）して決める予定です。		
5. 教科書 納谷廣美編著『新版・民事訴訟法』（八千代出版、2000年）。		
6. 参考書 中野・松浦・鈴木編『新民事訴訟法講義（第三版）』（有斐閣、2018年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 平常点（60%）、課題の提出状況（20%）やゼミ参加への積極性（20%）などを加味しながら、評価を行います。		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅡ		宮田 泰
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 紛争解決システム論		
1. 授業の概要・到達目標 紛争解決システム論の問題分析ゼミの課題は、契約事件や不法行為事件などの民事事件を対象に訴訟手続の開始から終了迄の一連の手続に従って分析的に検討することにあります。民事訴訟の手続は、当事者の行為が時系列に従って積み重ねられて発展してゆく一定の目的に向けられた動的な過程とも言えます。そこでの課題は、右の手続の時系列的な流れの把握のみならず、システムとしての要素も手続を構成するスキームワークとして適切に位置づけることが重要です。こうしたシステム論的課題に対しては、とくに裁判所、当事者そして訴訟対象という三つの要素から、手続にアプローチする視点が手続場面での予期の対象となります。それぞれの要素から複眼的視点により、手続を構成する個々の場面へとアプローチすることも、手続理解にとって重要です。紛争解決システム論の手続に隠された訴訟法独自の構造的な理解へと導くことが本ゼミナールの究極の課題となります。 最終的な到達目標としては、論点表への理解ないし習熟、隠れた構造の理解を得て、体系的な整理をつけることを目標としたい。		
2. 授業内容 第1回 イン트로ダクション 第2回 Start（軌道修正案提出） 第3回 紛争解決手続の過程—訴訟手続 第4回 口頭弁論の手続 第5回 弁論主義 第6回 争点整理手続 第7回 証明システム—証拠調べの準備 第8回 証拠調べの実施 第9回 各種の証拠調べ 第10回 訴訟の終了—既判力の客観的範囲 第11回 既判力論—既判力の時的限界 第12回 既判力論—既判力の主観的範囲 第13回 当事者自らによる紛争解決 第14回 総括（自己点検・自己評価書提出）		
3. 履修上の注意 法律系の科目履修を目指す学生諸氏を対象にしておりますが、民事裁判に関心のある諸氏への参加も幅広く希望しております。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 参加者の学習計画を加味しながら、予習及び復習への在り方、さらには実施計画書の作成など相談（第二回のゼミ）して決める予定です。		
5. 教科書 納谷廣美編著『新版・民事訴訟法』（八千代出版、2000年）。		
6. 参考書 中野・松浦・鈴木編『新民事訴訟法講義（第三版）』（有斐閣、2018年）		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 平常点（60%）、課題の提出状況（20%）やゼミ参加への積極性（20%）などを加味しながら、評価を行います。		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅠ		宮田 泰
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 紛争解決システム論		
1. 授業の概要・到達目標 紛争解決システム論の問題解決ゼミナールの目的は、これまで検討した訴訟手続ないし判決手続の部分、すなわち手続の開始から終了までの手続についての理解を前提に、この応用問題に取り組むことです。民事司法は、手続の簡略化の課題を特別訴訟に置いて、迅速かつ実効的な紛争処理を図っております。なおかつ、我々が検討した第一審判決手続への課題が手続保障といった手続論という形をとって具体的に論ぜられなければなりません。果たしてこうした手続的な課題を、正面から受け止め、適切・妥当な手続による正当化論へと纏め上げられるのか、こうしたシステム論的論題が実務・実践的な課題として論じられなければなりません。 問題解決ゼミは、システム論における手続による正当化論、すなわちオートボイエーシス概念形成（自己産出の概念形成）への手続論的分出を試みて参りたいと思います。 学際性議論への確かな洞察を深め、そこでの紛争解決システム論の意義を確かめ、システム論の理論的可能性を探りたい。		
2. 授業内容 第1回 インTRODakション（ゼミ参加の目的・趣旨説明） 第2回 Start（実施計画書提出） 第3回 紛争解決システム論—訴訟の迅速化 第4回 紛争解決システム論—民事訴訟法の史的展開 第5回 紛争解決システム論—手続法に関わる諸制度 第6回 紛争解決システム論—法政策的論議にまつわる課題 第7回 複合訴訟—複数請求訴訟 第8回 複合訴訟—複数当事者訴訟 第9回 複合訴訟—訴訟参加形態 第10回 上訴—控訴 第11回 上訴—上告 第12回 特別訴訟—簡易裁判所 第13回 特別訴訟—少額訴訟手続 第14回 夏休みの課題（実施計画書・リフレッシュ計画書提出）		
3. 履修上の注意 法律系の科目履修を目指す学生諸氏を対象としておりますが、民事裁判に関心のある諸氏への参加も幅広く希望しております。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 参加者の履修状況及び学習計画などを加味しながら、最終段階での纏め上げに取り組むため、自己産出（自己点検・自己評価）を行います。		
5. 教科書 田中成明『現代裁判を考える 民事裁判のヴィジョンを求めて』（有斐閣、2014年）		
6. 参考書 講座の中で適宜指摘し、必要な場合は、コピーをお渡しします。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 常に学生諸氏との連絡を取りつつ、適宜授業への貢献度（60％）を把握し、課題の提出状況（20％）や出席時の積極性（20％）などを加味し、評価いたします。		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅡ		宮田 泰
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 紛争解決システム論		
1. 授業の概要・到達目標 紛争解決システム論の問題解決ゼミナールの目的は、これまで検討した訴訟手続ないし判決手続の部分、すなわち手続の開始から終了までの手続についての理解を前提に、この応用問題に取り組むことです。民事司法は、手続の簡略化の課題を特別訴訟に置いて、迅速かつ実効的な紛争処理を図っております。なおかつ、我々が検討した第一審判決手続への課題が手続保障といった手続論という形をとって具体的に論ぜられなければなりません。果たしてこうした手続的な課題を、正面から受け止め、適切・妥当な手続による正当化論へと纏め上げられるのか、こうしたシステム論的論題が実務・実践的な課題として論じられなければなりません。 問題解決ゼミは、システム論における手続による正当化論、すなわちオートボイエーシス概念形成（自己産出の概念形成）への手続論的分出を試みて参りたいと思います。 学際性議論への確かな洞察を深め、そこでの紛争解決システム論の意義を確かめ、システム論の理論的可能性を探りたい。		
2. 授業内容 第1回 紛争解決システム論の展望① 第2回 紛争解決システム論の展望② 第3回 紛争解決システム論の展望③ 第4回 紛争解決システム論の展望④ 第5回 特別訴訟—督促手続 第6回 特別訴訟—手形訴訟 第7回 争点整理論① 第8回 争点整理論② 第9回 争点整理論③ 第10回 実体法と訴訟法のシステムカップリング① 第11回 実体法と訴訟法のシステムカップリング② 第12回 実体法と訴訟法のシステムカップリング③ 第13回 実体法と訴訟法のシステムカップリング④ 第14回 総括（自己点検・自己評価書提出）		
3. 履修上の注意 法律系の科目履修を目指す学生諸氏を対象としておりますが、民事裁判に関心のある諸氏への参加も幅広く希望しております。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 参加者の履修状況及び学習計画などを加味しながら、最終段階での纏め上げに取り組むため、自己産出（自己点検・自己評価）を行います。		
5. 教科書 田中成明『現代裁判を考える 民事裁判のヴィジョンを求めて』（有斐閣、2014年）		
6. 参考書 講座の中で適宜指摘し、必要な場合は、コピーをお渡しします。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 常に学生諸氏との連絡を取りつつ、適宜授業への貢献度（60％）を把握し、課題の提出状況（20％）や出席時の積極性（20％）などを加味し、評価いたします。		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅠ		宮本 真也
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 現代社会と社会理論		
1. 授業の概要・到達目標 本ゼミナールでは、現代社会における文化現象、社会的な病理などについて問題点を見だし、社会学的な観点から分析し、考察を加えることを目的とする。そのためにゼミでは文献講読と個人の研究報告の二つを主要な柱とする。個別的な研究テーマの例を参考までに挙げておきたい。 ・孤独をめぐる産業 ・若者の自分らしさの意識と友人関係について ・スポーツから体罰を取り除くには？ ・ロックの歴史 ・なぜ下町は残ったか？ ・現代社会が生んだ心の病の実態を探る ・携帯電話のデザイン ・国家に飼いならされた民衆 ・働き方改革の現在 このゼミでの研究の到達目標は、まずは社会学的な考え方、概念の基礎的な理解を固め、それを自分自身の研究テーマへとつなげていくことである。4年次の問題解決ゼミナールのための準備段階とも言える。 また、ゼミナールではメディア作品の視聴を通じて、より具体的な社会状況を文化や国を越えて理解できるように試みる。		
2. 授業内容 ＜問題分析ゼミナールⅠ＞ 第1回 導入 第2回 文献講読1-1 第3回 文献講読1-2 第4回 文献講読1-3 第5回 文献講読1-4 第6回 まとめと議論 第7回 文献講読 第8回 文献講読2-1 第9回 文献講読2-2 第10回 文献講読2-3 第11回 文献講読2-4 第12回 まとめと議論 第13回 文献紹介と議論 第14回 卒業レポート準備についての議論		
3. 履修上の注意 研究テーマが確定している必要はないが、常に「学術書で書かれていることが、私の所属する社会においてはどのような意味をもっているのか」については、自分自身で解釈を試み、意識して読んで欲しい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 本ゼミナールへの参加の準備のための基本的なテキストとしては、以下のものが役立つと思われる。 「モダニティと自己アイデンティティ——後期近代における自己と社会」、アンソニー・ギデンズ、ちくま学芸文庫 「他者と居る技法」、奥村隆、ちくま学芸文庫 「資本主義はなぜ私たちに幸せにしないのか」、ナンシー・フレイザー、ちくま新書		
5. 教科書 「自由の権利」、アクセル・ホネット、法政大学出版局 「逆境の中の尊厳概念」、セイラ・ベンハビブ、法政大学出版局 「なぜ愛に傷つくのか」、エヴァ・イルーズ、福村書店		
6. 参考書 特になし。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 学生のそれぞれの報告30%、学期末レポート70%		
9. その他 留学経験者、留学予定者も歓迎します。また、ゼミナール入室を希望するものは、質問がある場合には事前にメール（es_meiji@yahoo.co.jp）で質問も受け付けます。入室希望者は重要な情報をガイダンスでもお伝えするので必ず参加すること。		

問題分析ゼミナールⅡ		宮本 真也
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 現代社会と社会理論		
1. 授業の概要・到達目標 本ゼミナールでは、現代社会における文化現象、社会的な病理などについて問題点を見だし、社会学的な観点から分析し、考察を加えることを目的とする。そのためにゼミでは文献講読と個人の研究報告の二つを主要な柱とする。個別的な研究テーマの例を参考までに挙げておきたい。 ・孤独をめぐる産業 ・若者の自分らしさの意識と友人関係について ・スポーツから体罰を取り除くには？ ・ロックの歴史 ・なぜ下町は残ったか？ ・現代社会が生んだ心の病の実態を探る ・携帯電話のデザイン ・国家に飼いならされた民衆 ・働き方改革の現在 このゼミでの研究の到達目標は、まずは社会学的な考え方、概念の基礎的な理解を固め、それを自分自身の研究テーマへとつなげていくことである。4年次の問題解決ゼミナールのための準備段階とも言える。 また、ゼミナールではメディア作品の視聴を通じて、より具体的な社会状況を文化や国を越えて理解できるように試みる。		
2. 授業内容 ＜問題分析ゼミナールⅡ＞ 第1回 導入 第2回 文献講読1-1 第3回 文献講読1-2 第4回 文献講読1-3 第5回 文献講読1-4 第6回 まとめと議論 第7回 文献講読 第8回 文献講読2-1 第9回 文献講読2-2 第10回 文献講読2-3 第11回 文献講読2-4 第12回 まとめと議論 第13回 文献紹介と議論 第14回 卒業レポート準備についての議論		
3. 履修上の注意 研究テーマが確定している必要はないが、常に「学術書で書かれていることが、私の所属する社会においてはどのような意味をもっているのか」については、自分自身で解釈を試み、意識して読んで欲しい。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 本ゼミナールへの参加の準備のための基本的なテキストとしては、以下のものが役立つと思われる。 「モダニティと自己アイデンティティ——後期近代における自己と社会」、アンソニー・ギデンズ、ちくま学芸文庫 「他者と居る技法」、奥村隆、ちくま学芸文庫 「資本主義はなぜ私たちに幸せにしないのか」、ナンシー・フレイザー、ちくま新書		
5. 教科書 「自由の権利」、アクセル・ホネット、法政大学出版局 「逆境の中の尊厳概念」、セイラ・ベンハビブ、法政大学出版局 「なぜ愛に傷つくのか」、エヴァ・イルーズ、福村書店		
6. 参考書 特になし。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 学生のそれぞれの報告30%、学期末レポート70%		
9. その他 留学経験者、留学予定者も歓迎します。また、ゼミナール入室を希望するものは、質問がある場合には事前にメール（es_meiji@yahoo.co.jp）で質問も受け付けます。入室希望者は重要な情報をガイダンスでもお伝えするので必ず参加すること。		

問題解決ゼミナールⅠ		宮本 真也
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 現代社会の諸問題		
1. 授業の概要・到達目標 本ゼミナールでは、現代社会における文化現象、社会的な病理などについて問題点を見だし、社会学的な観点から分析し、考察を加えることを目的とする。このゼミの最終目的は卒業レポートの完成と提出にある。そのために、ここでは一学期につき、それぞれの参加者が最低2回のレポートのための進捗状況を報告し、議論を通じて、内容を深めて完成させていくことを行う。		
2. 授業内容 ＜問題解決ゼミナールⅠ＞ 第1回 導入 第2回 研究報告1-1 第3回 研究報告1-2 第4回 研究報告1-3 第5回 研究報告1-4 第6回 研究報告1-5 第7回 小括 第8回 文献紹介と議論 第9回 研究報告2-1 第10回 研究報告2-2 第11回 研究報告2-3 第12回 研究報告2-4 第13回 研究報告2-5 第14回 全体のまとめと今後の調整		
3. 履修上の注意 研究テーマの確定をなによりも優先させ、卒業レポートの完成のために自主的に研究を進めること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 報告担当者は必ず、簡単でいいので参加者に報告のアウトラインを記したものを配付できるようにしておくこと。		
5. 教科書 個別研究の進捗状況と指導が中心となるので、特定の教科書を指定はしない。		
6. 参考書 特になし。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 問題解決ゼミナールⅠについては、報告を30%、学期末レポートを70%の割合で成績評価を行う。また、問題解決ゼミナールⅡについても、報告を30%、卒業レポートを70%で成績評価をする。いずれの場合も、レポートの提出がない場合は、成績評価の対象とならず、F評価となる。		
9. その他 適宜、授業外でのオフィスアワーも設けるので、申し出ること。		

問題解決ゼミナールⅡ		宮本 真也
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 現代社会の諸問題		
1. 授業の概要・到達目標 本ゼミナールでは、現代社会における文化現象、社会的な病理などについて問題点を見だし、社会学的な観点から分析し、考察を加えることを目的とする。このゼミの最終目的は卒業レポートの完成と提出にある。そのために、ここでは一学期につき、それぞれの参加者が最低2回のレポートのための進捗状況を報告し、議論を通じて、内容を深めて完成させていくことを行う。		
2. 授業内容 ＜問題解決ゼミナールⅡ＞ 第1回 導入 第2回 研究報告1-1 第3回 研究報告1-2 第4回 研究報告1-3 第5回 研究報告1-4 第6回 研究報告1-5 第7回 小括 第8回 文献紹介と議論 第9回 研究報告2-1 第10回 研究報告2-2 第11回 研究報告2-3 第12回 研究報告2-4 第13回 研究報告2-5 第14回 研究レポートの提出と講評		
3. 履修上の注意 研究テーマの確定をなによりも優先させ、卒業レポートの完成のために自主的に研究を進めること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 報告担当者は必ず、簡単でいいので参加者に報告のアウトラインを記したものを配付できるようにしておくこと。		
5. 教科書 個別研究の進捗状況と指導が中心となるので、特定の教科書を指定はしない。		
6. 参考書 特になし。		
7. 課題に対するフィードバックの方法		
8. 成績評価の方法 問題解決ゼミナールⅠについては、報告を30%、学期末レポートを70%の割合で成績評価を行う。また、問題解決ゼミナールⅡについても、報告を30%、卒業レポートを70%で成績評価をする。いずれの場合も、レポートの提出がない場合は、成績評価の対象とならず、F評価となる。		
9. その他 適宜、授業外でのオフィスアワーも設けるので、申し出ること。		

問題分析ゼミナールⅠ		山内 勇
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ イノベーションの経済学		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】イノベーションとは、新たな知識を創出し普及させることで社会的な価値を生み出すことである。良いアイデア・技術があっても、それが消費者に受け入れられ、社会で利用されなければ社会的な価値は生まれない。このゼミでは、企業のイノベーション活動について経済学的な分析を行う。 具体的には、教科書や先行研究の内容を整理し発表することで基本的な概念・分析手法を身につけるとともに、グループごとに簡単な製品開発・ビジネスモデルの考案（日常生活における課題の発見及びそれを解決するための手段の検討）を行い、それを普及させる方法について考察する。その過程で、各種コンテストへの応募、権利化なども可能な限り行っていく。 【到達目標】こうした体験を通じて、新製品・サービスの開発から市場投入、普及に至るイノベーション・プロセスについて、具体的なイメージを持ちつつ、論理的に考え説明できる能力を身に付けることが3年次のゼミの目標である。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 イノベーションの基礎概念 第3回 文献発表、グループワーク（市場構造） 第4回 文献発表、グループワーク（市場分析） 第5回 文献発表、グループワーク（課題の発見1） 第6回 文献発表、グループワーク（課題の発見2） 第7回 文献発表、グループワーク（課題の解決手段1） 第8回 文献発表、グループワーク（課題の解決手段2） 第9回 文献発表、グループワーク（製品差別化1） 第10回 文献発表、グループワーク（製品差別化2） 第11回 文献発表、グループワーク（ブランド構築1） 第12回 文献発表、グループワーク（ブランド構築2） 第13回 文献発表、グループワーク（マーケティング） 第14回 文献発表、グループワーク（価格戦略）		
3. 履修上の注意 毎回授業の前半に2～3人が書籍・論文等の文献紹介を行い、それをもとにディスカッションを行う。授業の後半はグループワークを行い、各グループがその結果を発表する。 各回の授業内容はゼミ生の関心や理解度に応じ、相談のうえ変更することがある。なお、発言のない学生はゼミに貢献していないものとみなす。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：ゼミで扱うテーマについて、議論に必要な情報を指示された教科書・参考書等から収集しておくこと。また発表者はスライドを用意すること。 復習：ゼミでの報告内容、議論・コメントを整理し、次の報告にかすこと。		
5. 教科書 金間大介・山内勇・吉岡（小林）徹『イノベーション&マーケティングの経済学』中央経済社、2019年		
6. 参考書 加藤雅俊『スタートアップの経済学 新しい企業の誕生と成長プロセスを学ぶ』有斐閣、2022年 清水洋『イノベーション』有斐閣、2022年		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中にフィードバックを行う。また、必要に応じてメール等でもフィードバックを行うことがある。		
8. 成績評価の方法 報告内容（50%）、ゼミへの貢献（50%）		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅡ		山内 勇
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ イノベーションの経済学		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】イノベーションとは、新たな知識を創出し普及させることで社会的な価値を生み出すことである。良いアイデア・技術があっても、それが消費者に受け入れられ、社会で利用されなければ社会的な価値は生まれない。このゼミでは、企業のイノベーション活動について経済学的な分析を行う。 具体的には、教科書や先行研究の内容を整理し発表することで基本的な概念・分析手法を身につけるとともに、グループごとに簡単な製品開発・ビジネスモデルの考案（日常生活における課題の発見及びそれを解決するための手段の検討）を行い、それを普及させる方法について考察する。その過程で、各種コンテストへの応募、権利化なども可能な限り行っていく。 【到達目標】こうした体験を通じて、新製品・サービスの開発から市場投入、普及に至るイノベーション・プロセスについて、具体的なイメージを持ちつつ、論理的に考え説明できる能力を身に付けることが3年次のゼミの目標である。		
2. 授業内容 第1回 イノベーション・プロセス 第2回 経済学の分析手法 第3回 文献発表、グループワーク（消費者行動） 第4回 文献発表、グループワーク（知識の創出1） 第5回 文献発表、グループワーク（知識の創出2） 第6回 文献発表、グループワーク（知的財産制度） 第7回 文献発表、グループワーク（先行技術調査） 第8回 文献発表、グループワーク（知財マネジメント） 第9回 文献発表、グループワーク（知識共有の仕組み） 第10回 文献発表、グループワーク（データ分析1） 第11回 文献発表、グループワーク（データ分析2） 第12回 文献発表、グループワーク（回帰分析1） 第13回 文献発表、グループワーク（回帰分析2） 第14回 文献発表、グループワーク（付加価値）		
3. 履修上の注意 毎回授業の前半に2～3人が書籍・論文等の文献紹介を行い、それをもとにディスカッションを行う。授業の後半はグループワークを行い、各グループがその結果を発表する。 各回の授業内容はゼミ生の関心や理解度に応じ、相談のうえ変更することがある。なお、発言のない学生はゼミに貢献していないものとみなす。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：ゼミで扱うテーマについて、議論に必要な情報を指示された教科書・参考書等から収集しておくこと。また発表者はスライドを用意すること。 復習：ゼミでの報告内容、議論・コメントを整理し、次の報告にかすこと。		
5. 教科書 研究に必要な文献等は個人ごとに異なるため授業中に適宜指示する。		
6. 参考書 清水洋『イノベーション』有斐閣、2022年 牧兼充『イノベーターのためのサイエンスとテクノロジーの経営学』東洋経済新報社、2022年 金間大介、山内勇、吉岡（小林）徹『イノベーション&マーケティングの経済学』中央経済社、2019年		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中にフィードバックを行う。また、必要に応じてメール等でもフィードバックを行うことがある。		
8. 成績評価の方法 報告内容（50%）、ゼミへの貢献（50%）		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅠ		山内 勇
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ イノベーションの経済学		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】このゼミでは、企業のイノベーション活動について経済学的な分析を行う。4年次のゼミは、3年次に行ってきた分析をより学術的に発展させ、研究論文としてまとめていく。特に、他社との差別化を図り、付加価値を高め、製品を普及させていくうえで必要となる、企業戦略や市場構造等についての分析を行う。 【到達目標】このゼミにおける目標は、自分の関心のあるテーマについて、先行研究の分析結果を解釈できるようになること、及び、自分で研究テーマに関する仮説を設定しそれを検証するためのデータを収集、回帰分析などの実証分析を行うことができるスキルを身に付けることである。また、自分の考えや行った分析結果について、論理的に説明する能力を身に付けることもこのゼミの大きな目的である。		
2. 授業内容 第1回 インTRODクダクシヨクン 第2回 研究報告、グループワーク（利潤最大化） 第3回 研究報告、グループワーク（市場の規定1） 第4回 研究報告、グループワーク（市場の規定2） 第5回 研究報告、グループワーク（競争構造1） 第6回 研究報告、グループワーク（競争構造2） 第7回 研究報告、グループワーク（事業領域1） 第8回 研究報告、グループワーク（事業領域2） 第9回 研究報告、グループワーク（企業の境界1） 第10回 研究報告、グループワーク（企業の境界2） 第11回 研究報告、グループワーク（購買行動1） 第12回 研究報告、グループワーク（購買行動2） 第13回 研究論文中間報告（1） 第14回 研究論文中間報告（2）		
3. 履修上の注意 原則として、毎回担当者が自分の設定したテーマについて研究発表を行い、それについてディスカッションを行う。また、グループワークを行うことで、学術的な知見を実際の事業に生かす視点を養う。なお、発言のない学生はゼミに貢献していないものとみなす。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：ゼミで扱うテーマについて、議論に必要な情報を指示された教科書・参考書等から収集しておくこと。また発表者はスライドを用意すること。 復習：ゼミでの報告内容、議論・コメントを整理し、次の報告にかすこと。		
5. 教科書 研究に必要な文献等は個人ごとに異なるため授業中に適宜指示する。		
6. 参考書 清水洋『アントレプレナーシップ』有斐閣、2022 P. Swann, The Economics of Innovation: An Introduction, Edward Elgar, 2009. B. Hall and N.Rosenberg (eds.), Economics of Innovation, vol 1 & 2, Handbooks in economics, North-Holland, 2010.		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中にフィードバックを行う。また、必要に応じてメール等でもフィードバックを行うことがある。		
8. 成績評価の方法 報告内容（20%）、演習への貢献（30%）、研究成果（50%）		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅡ		山内 勇
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ イノベーションの経済学		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】このゼミでは、企業のイノベーション活動について経済学的な分析を行う。4年次のゼミは、3年次に行ってきた分析をより学術的に発展させ、研究論文としてまとめていく。特に、他社との差別化を図り、付加価値を高め、製品を普及させていくうえで必要となる、企業戦略や市場構造等についての分析を行う。 【到達目標】このゼミにおける目標は、自分の関心のあるテーマについて、先行研究の分析結果を解釈できるようになること、及び、自分で研究テーマに関する仮説を設定しそれを検証するためのデータを収集、回帰分析などの実証分析を行うことができるスキルを身に付けることである。また、自分の考えや行った分析結果について、論理的に説明する能力を身に付けることもこのゼミの大きな目的である。		
2. 授業内容 第1回 研究の進捗報告 第2回 研究報告、グループワーク（製品属性1） 第3回 研究報告、グループワーク（製品属性2） 第4回 研究報告、グループワーク（広告） 第5回 研究報告、グループワーク（流通） 第6回 研究報告、グループワーク（探索設計1） 第7回 研究報告、グループワーク（探索設計2） 第8回 研究報告、グループワーク（売上予測） 第9回 研究報告、ディスカッション 第10回 研究報告、ディスカッション 第11回 研究報告、ディスカッション 第12回 研究報告、ディスカッション 第13回 研究論文最終報告（1） 第14回 研究論文最終報告（2）		
3. 履修上の注意 原則として、毎回担当者が自分の設定したテーマについて研究発表を行い、それについてディスカッションを行う。また、グループワークを行うことで、学術的な知見を実際の事業に生かす視点を養う。なお、発言のない学生はゼミに貢献していないものとみなす。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 予習：ゼミで扱うテーマについて、議論に必要な情報を指示された教科書・参考書等から収集しておくこと。また発表者はスライドを用意すること。 復習：ゼミでの報告内容、議論・コメントを整理し、次の報告にかすこと。		
5. 教科書 研究に必要な文献等は個人ごとに異なるため授業中に適宜指示する。		
6. 参考書 清水洋『アントレプレナーシップ』有斐閣、2022 P. Swann, The Economics of Innovation: An Introduction, Edward Elgar, 2009. B. Hall and N.Rosenberg (eds.), Economics of Innovation, vol 1 & 2, Handbooks in economics, North-Holland, 2010.		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業中にフィードバックを行う。また、必要に応じてメール等でもフィードバックを行うことがある。		
8. 成績評価の方法 報告内容（20%）、演習への貢献（30%）、研究成果（50%）		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅠ		山口 生史
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
<p>◆ 研究テーマ 組織コミュニケーションと組織行動学の質的調査・研究： 問題分析ゼミナールⅠでは、組織コミュニケーションと組織行動学の関係について、文献調査を中心に理解を深めます。またⅡで行う質的調査のための基本的な手法を学びます。</p>		
<p>1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 問題分析ゼミナールⅠでは、組織が機能するための手段であるコミュニケーションと組織行動学のテーマとの関係を研究します。具体的には、組織メンバー間のコミュニケーションを通して、組織メンバーが相互理解を深め、彼らの肯定的な組織行動や態度を導き、組織運営と協働を効率よく促し、組織及び組織メンバーの生産性を高めるにはどうしたらよいかを研究します。また、組織コミュニケーション研究や組織研究のための質的調査法についても学びます。 【到達目標】 到達目標は、(a) 組織コミュニケーションの理解；(b) 研究テーマの明確化；(c) 文献調査による先行研究のレビュー；(d) 研究課題（問い）の設定；(e) 質的調査の方法の理解です。</p>		
<p>2. 授業内容 諸般の事情により一部変更する可能性があります 第1回 研究アプローチの解説 第2回 発表1：教科書（組織行動学関連）の章の発表と解説と討論 第3回 発表2：教科書（組織行動学関連）の章の発表と解説と討論 第4回 発表3：教科書（組織行動学関連）の章の発表と解説と討論 第5回 発表4：教科書（組織行動学関連）の章の発表と解説と討論 第6回 発表5：教科書（組織行動学関連）の章の発表と解説と討論 第7回 発表6：教科書（組織行動学関連）の章の発表と解説と討論 第8回 発表7：教科書（質的研究法関連）の章の発表と解説と討論 第9回 発表8：教科書（質的研究法関連）の章の発表と解説と討論 第10回 発表9：教科書（質的研究法関連）の章の発表と解説と討論 第11回 研究テーマの検討：研究課題（Research Questions）を考える 第12回 研究テーマに関する文献調査発表1 第13回 研究テーマに関する文献調査発表2 第14回 研究テーマに関する文献調査発表3</p>		
<p>3. 履修上の注意 課題提出とディスカッション参加は「成績評価の方法」の比率にかかわらず必須です（十分な課題提出がないと評価対象となりません）。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書の各章のリーディングアサイメントの発表準備と文献調査の発表の準備を行うことが必要です。</p>		
<p>5. 教科書 (1) 組織行動学関連の専門書1冊を授業開始前に指定（「参考書」のリストから選ぶ可能性もあり） (2) 太田裕子（2019）『はじめて「質的研究」を「書く」あなたへ』東京図書、あるいは、その他の質的研究の基本図書を選定（参考書リストから選ぶ可能性もあり）</p>		
<p>6. 参考書 ダウンス、C. W. (1988 [太田正孝監訳1999]) 『コミュニケーション・オーディット』CAP出版 ロビンス、S.P. (2005 [高木晴夫監訳2009]) 『新版・組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社 ウヴェ・フリック監修（鈴木聡志訳）『質的研究のデザイン』（新曜社） 大谷信介・後藤範章・小松洋・木下 栄二（2023）『最新・社会調査へのアプローチ：論理と方法』（ミネルヴァ書房）</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法 リーディングアサイメントのサマリーペーパーに関しては、対面授業における発表&コメントで対応します。 それ以外の課題の場合は、コメントペーパーにて対応します。</p>		
<p>8. 成績評価の方法 (1) クラス発表・討論参加：40%； (2) 課題・提出物（最終課題も含む）：60%</p>		
<p>9. その他 調査・研究はチーム（グループ）で行う予定です。</p>		

問題分析ゼミナールⅡ		山口 生史
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
<p>◆ 研究テーマ 組織コミュニケーションと組織行動学の質的調査・研究： 問題分析ゼミナールⅡでは、質的調査を実査します。インタビュー調査を行い、その手法やデータ分析の仕方を学び、仮説生成のプロセスを理解するように教授します。</p>		
<p>1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 問題分析ゼミナールⅡでは、Ⅰで理解した、組織コミュニケーション学と組織行動学の概念や理論に基づき、自分（たち）が設定した両者の関係に関する研究課題（問い）を探求するために、実際に質的調査（インタビュー調査）を行います。Ⅰで学んだ質的調査法にしたがって、インタビューガイドの作成、インタビュー調査の実施、質的データ分析を行い、理論モデルの構築と仮説生成を行います。 【到達目標】 到達目標は、(a) インタビューガイドの作成法の理解；(b) 調査・研究倫理の対応の理解；(c) インタビュー調査の方法と手順の理解；(d) 質的データ分析の方法の理解；(e) データ分析に基づく、組織コミュニケーションと組織行動学との関係の理論モデルの構築と仮説の生成；そして、(f) 論文の作成です。</p>		
<p>2. 授業内容 諸般の事情により一部変更する可能性があります 第1回 研究課題の確認：グループディスカッション 第2回 半構造的インタビュー調査の準備 第3回 インタビューガイドの作成 第4回 インタビューガイドの修正と完成 第5回 質的データの分析の方法 第6回 データ分析 (1)：コーディング1 第7回 データ分析 (2)：コーディング2 第8回 データ分析 (3)：コーディング3 第9回 データ分析 (4)：コーディング4 第10回 データ分析 (5)：コーディングの枠組みの検討 第11回 データ分析 (6)：コード（概念）間の関係の考察1 第12回 データ分析 (7)：コード（概念）間の関係の考察2 第13回 データ分析 (8)：コード（概念）間の関係の考察3 第14回 発表：理論モデルの構築と仮説生成</p>		
<p>3. 履修上の注意 課題提出とディスカッション参加は「成績評価の方法」の比率にかかわらず必須です（十分な提出がないと評価対象となりません）。</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容 インタビューガイドの作成やデータ分析は、各授業に来る前に、自分たちで進めておく必要があります</p>		
<p>5. 教科書 太田裕子（2019）『はじめて「質的研究」を「書く」あなたへ』東京図書、あるいはその他の質的研究の基本図書を選定（参考書リストから選ぶ可能性もあり）</p>		
<p>6. 参考書 ウヴェ・フリック監修（鈴木聡志訳）『質的研究のデザイン』（新曜社）</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法 インタビューガイドの作成の課題に関しては、提出とコメントを繰り返す形で対応します。 データ分析に関しては、対面授業時に毎回コメントします</p>		
<p>8. 成績評価の方法 (1) クラス発表・討論参加：40%； (2) 課題・提出物（最終課題も含む）：60%</p>		
<p>9. その他 調査・研究はチーム（グループ）で行う予定です。</p>		

問題解決ゼミナールⅠ		山口 生史
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
<p>◆ 研究テーマ 組織コミュニケーションと組織行動学の量的調査・研究： 問題解決ゼミナールⅠでは、前年までに生成した仮説の検証のため、量的調査を行います。量的調査の手法を学び、データ収集を行い、統計解析の基本を学びます。</p>		
<p>1. 授業の概要・到達目標 問題解決ゼミナールⅠでは、問題分析ゼミナールⅡで文献調査と質的調査（インタビュー調査）に基づいて生成した仮説を検証するため、質問票（量的）調査を行い、量的データを収集し、統計解析用ソフトにデータを入力し、統計解析の準備までを行います。具体的な到達目標は、組織コミュニケーション研究および組織行動学における、(a) 量的調査の方法（質問票の作り方、サンプリング、データ収集の方法）と (b) 統計解析の基本と統計解析ソフトの初歩的操作の理解です。</p>		
<p>2. 授業内容 諸般の事情により一部変更する可能性があります 第1回 仮説の確認と修正点の検討 第2回 質問票の作り方と尺度の説明 第3回 質問票の作成 第4回 質問票の修正 (1) 第5回 質問票の修正 (2) 第6回 質問票の修正 (3) 第7回 質問票の完成 第8回 サンプリングの説明と統計の説明 第9回 統計解析のテストの説明 第10回 データベースの作成 1 第11回 データベースの作成 2 第12回 データクリーニング 第13回 記述統計の算出 第14回 探索的因子分析</p>		
<p>3. 履修上の注意 統計ソフトの操作などに関しては、教科書を読みながら、積極的に学ぼうとする姿勢が必要です</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容 質問票の作成、データ入力、記述統計の算出などを事前に行っていくことが必須です。</p>		
<p>5. 教科書 諸般の事情により一部変更する可能性があります 石村貞夫・石村友二郎（2020）『SPSSでやさしく学ぶ統計解析第6版』東京図書 小塩真司（2011）『SPSSとAmosによる心理・調査データ解析 [第2版]』東京図書</p>		
<p>6. 参考書 大谷信介・後藤範章・小松洋・木下 栄二（2023）『最新・社会調査へのアプローチ：論理と方法』（ミネルヴァ書房）</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法 質問票の作成の課題に関しては、提出とコメントを繰り返す形で対応します。 データ処理の課題に関しては、統計解析ソフトが必要なため、クラス内で説明とフィードバックをします。</p>		
<p>8. 成績評価の方法 (1) クラス発表・討論参加：40%； (2) 個別課題と学期末個別課題：60%</p>		
<p>9. その他 調査・研究はチーム（グループ）で行う予定です。</p>		

問題解決ゼミナールⅡ		山口 生史
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
<p>◆ 研究テーマ 組織コミュニケーションと組織行動学の量的調査・研究： 問題解決ゼミナールⅡでは、仮説検証のための統計解析ソフトの使い方を理解し、Ⅰで収集したデータの統計解析を行い、仮説を検証します。そして、研究論文を作成します。研究論文の執筆の基本を習得してください。</p>		
<p>1. 授業の概要・到達目標 Ⅱでは、統計解析をおこない、仮説の検証により、論文を書き、ゼミ論文集を作成します。前半は、仮説検証に必要な統計解析に集中し、仮説の検証を行ったあと、後半は論文の作成に集中します。論文の作成は、統計解析結果のチーム内検討、プレゼンテーションとコメントを繰り返し、完成をめざします。具体的な到達目標は、(a) 統計解析専用ソフトの操作の習得；(b) 仮説を検証することおよび量的調査の意義の理解；(c) 統計解析ソフトでデータ分析する方法の理解；(d) データ解析結果の読み方（解釈の仕方）の理解 (e) 仮説の検証；(f) 量的調査の論文の書き方の習得；(g) ゼミ論文の完成です。</p>		
<p>2. 授業内容 諸般の事情により一部変更する可能性があります 第1回 仮説検証のための統計解析：信頼係数と下位尺度の作成 第2回 仮説検証のための統計解析 1 第3回 仮説検証のための統計解析 2 第4回 仮説検証のための統計解析 3 第5回 仮説検証のための統計解析 4 第6回 仮説検証のための統計解析 5 第7回 仮説検証のための統計解析 6 第8回 発表1：「文献調査」～「理論モデルの構築」 第9回 発表2：「インタビュー調査とそのデータ分析」と「仮説の生成・再生成」 第10回 発表3：「量的調査・分析の調査の方法」 第11回 発表4：「統計解析の結果」 第12回 発表5：「考察」 第13回 発表6：完成論文の発表 第14回 発表7：完成論文の修正</p>		
<p>3. 履修上の注意 統計解析に関しては、教科書を読みながら、積極的に学ぼうとする姿勢が必要です</p>		
<p>4. 準備学習（予習・復習等）の内容 データ分析は、クラスに来る前に自分で一度分析をしてきてください。論文作成に関しては、その週の章を事前に文章化してきてください。</p>		
<p>5. 教科書 諸般の事情により一部変更する可能性があります 石村貞夫・石村友二郎（2020）『SPSSでやさしく学ぶ統計解析第6版』東京図書 小塩真司（2011）『SPSSとAmosによる心理・調査データ解析 [第2版]』東京図書</p>		
<p>6. 参考書 大谷信介・後藤範章・小松洋・木下 栄二（2023）『最新・社会調査へのアプローチ：論理と方法』（ミネルヴァ書房）</p>		
<p>7. 課題に対するフィードバックの方法 統計解析の課題に関しては、ソフトが必要なため、クラス内で説明とフィードバックをします。論文執筆に関しては、クラス内でコメントをし、それを修正してきたものに対して、再度コメントを返します。</p>		
<p>8. 成績評価の方法 (1) クラス発表・討論参加：40%； (2) 個別課題と学期末個別課題：60% [チーム研究のゼミ論文提出を前提として (1) (2) を評価]</p>		
<p>9. その他 調査・研究はチーム（グループ）で行う予定です。</p>		

問題分析ゼミナールⅠ		山崎 浩二
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ ソフトウェア開発とアルゴリズム		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 私たちは日常生活の様々な場面でコンピュータを利用している。この際、コンピュータの利用価値はソフトウェアの出来、不出来に依存しているといっても過言ではない。ソフトウェアを作成するには、実現したい機能を分析し、手順を決定し、プログラミング言語で用意された要素を適切に組み合わせなければならない。このゼミではプログラミング言語としてpythonを用いて、ソフトウェアの作成方法を学習する。 【到達目標】 ソフトウェアの作成をとおして情報社会の基盤技術を理解し、ひいては情報社会における問題や限界を理解することを目標とする。		
2. 授業内容 第1回 プログラムとは何か 第2回 pythonのプログラムの作成手順 第3回 変数と変数型 第4回 いろいろな演算子 第5回 制御文－条件分岐 (if-else文) 第6回 制御文－条件分岐 (if-elif-else文) 第7回 論理演算 第8回 制御文－繰り返し (for文) 第9回 制御文－繰り返し (while文) 第10回 関数 第11回 グローバル変数とローカル変数 第12回 ファイルへのアクセス 第13回 エラー処理 第14回 まとめ		
3. 履修上の注意 特になし		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Oh-ol Meiji上の授業資料に事前に目を通しておくこと。復習として、授業資料を読み直し、不明な点は授業で質問すること。		
5. 教科書 特に定めない		
6. 参考書 特に定めない		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-ol Meijiのレポート機能のコメントでフィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 平常点40% レポート60%		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅡ		山崎 浩二
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ ソフトウェア開発とアルゴリズム		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 私たちは日常生活の様々な場面でコンピュータを利用している。この際、コンピュータの利用価値はソフトウェアの出来、不出来に依存しているといっても過言ではない。ソフトウェアを作成するには、実現したい機能を分析し、手順を決定し、プログラミング言語で用意された要素を適切に組み合わせなければならない。このゼミではプログラミング言語としてpythonを用いて、ソフトウェアの作成方法を学習する。 【到達目標】 ソフトウェアの作成をとおして情報社会の基盤技術を理解し、ひいては情報社会における問題や限界を理解することを目標とする。		
2. 授業内容 第1回 モジュールの利用 第2回 リスト 第3回 多次元リスト 第4回 内包表現 第5回 連想配列 第6回 クラスの作成 第7回 クラスの継承 第8回 数の大小当てゲームの作成 第9回 数当てゲームの作成（1）－処理の流れの作成 第10回 数当てゲームの作成（2）－関数の作成 第11回 数当てゲームの作成（3）－ゲームの完成 第12回 ○×ゲームの作成（1）－処理の流れの作成 第13回 ○×ゲームの作成（2）－関数の作成とゲームの完成 第14回 まとめ		
3. 履修上の注意 特になし		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 Oh-ol Meiji上の授業資料に事前に目を通しておくこと。復習として、授業資料を読み直し、不明な点は授業で質問すること。		
5. 教科書 特に定めない		
6. 参考書 特に定めない		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-ol Meijiのレポート機能のコメントでフィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 平常点40% レポート60%		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅠ		山崎 浩二
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ ソフトウェア開発とアルゴリズム		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 私たちは日常生活の様々な場面でコンピュータを利用している。この際、コンピュータの利用価値はソフトウェアの出来、不出来に依存しているといっても過言ではない。ソフトウェアを作成するには、実現したい機能を分析し、手順を決定し、プログラミング言語で用意された要素を適切に組み合わせなければならない。このゼミでは、ある程度の大きさのソフトウェアを自分で設計し、作成する。 【到達目標】 ある程度の大きさのソフトウェアの作成をとおして情報社会の基盤技術の理解、情報社会における問題や限界の理解、問題を分析し解決する力を養うことを目標とする。		
2. 授業内容 第1回 卒業制作のテーマ決定 (1) 第2回 卒業制作のテーマ決定 (2) 第3回 卒業制作の概要発表 (1) 第4回 卒業制作の概要発表 (2) 第5回 卒業制作の概要発表 (3) 第6回 卒業制作 (1) 第7回 卒業制作 (2) 第8回 進捗報告 (1) 第9回 卒業制作 (3) 第10回 卒業制作 (4) 第11回 進捗報告 (2) 第12回 卒業制作 (5) 第13回 卒業制作の中間発表 (1) 第14回 卒業制作の中間発表 (2)		
3. 履修上の注意 特になし		
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 卒業制作を各自ですすめ、不明な点は授業で質問すること。		
5. 教科書 特に定めない		
6. 参考書 特に定めない		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-ol Meijiのレポート機能のコメントでフィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 平常点40% レポート60%		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅡ		山崎 浩二
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ ソフトウェア開発とアルゴリズム		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 私たちは日常生活の様々な場面でコンピュータを利用している。この際、コンピュータの利用価値はソフトウェアの出来、不出来に依存しているといっても過言ではない。ソフトウェアを作成するには、実現したい機能を分析し、手順を決定し、プログラミング言語で用意された要素を適切に組み合わせなければならない。このゼミでは、ある程度の大きさのソフトウェアを自分で設計し、作成する。 【到達目標】 ある程度の大きさのソフトウェアの作成をとおして情報社会の基盤技術の理解、情報社会における問題や限界の理解、問題を分析し解決する力を養うことを目標とする。		
2. 授業内容 第1回 卒業制作の中間発表 (1) 第2回 卒業制作の中間発表 (2) 第3回 卒業制作 (1) 第4回 卒業制作 (2) 第5回 進捗報告 (1) 第6回 卒業制作 (3) 第7回 卒業制作 (4) 第8回 進捗報告 (2) 第9回 卒業制作 (5) 第10回 卒業制作 (6) 第11回 進捗報告 (3) 第12回 卒業制作発表資料の作成 第13回 卒業制作の発表 (1) 第14回 卒業制作の発表 (2)		
3. 履修上の注意 特になし		
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 卒業制作を各自ですすめ、不明な点は授業で質問すること。		
5. 教科書 特に定めない		
6. 参考書 特に定めない		
7. 課題に対するフィードバックの方法 Oh-ol Meijiのレポート機能のコメントでフィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 平常点40% レポート60%		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅠ		横田 貴之
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 比較政治学と国際関係論から世界を読む		
1. 授業の概要・到達目標 当ゼミナールでは、国際関係論・比較政治学・地域研究を学びます。研究対象は、国際関係、国際政治、国際／地域情勢、世界各国の政治経済などです。対象事例は、紛争やクーデタ、移民／難民問題、エネルギー資源問題、グローバル・テロリズム、民主化と独裁など国際政治に関連するものが中心となります。異文化文化や多文化共存など地域・文化に関するテーマを比較政治学の視点から研究することも可能です。なお、担当教員（私）の研究は、「ディシプリン（研究手法）が比較政治学＋研究地域が現代中東＝中東地域研究」です。 国際問題を理解する能力は、現代を生きる我々にとって不可欠の能力です。日本という殻に閉じこもってやり過ごせる時代は過ぎ去りました。では、国際問題について理解する力はどうやって修得すればいいのでしょうか？学生の皆さんが自分自身で、国際問題について「知り」、「考え」、「述べる」ことによってはじめて可能になります。当ゼミでは、受講生の調査・発表やアクティブラーニングなど能動的な学びを通じて、その知識を習得します。この学びを通じて、受講生が比較政治学の基礎知識を習得し、自らの関心に応じた研究課題設定に到達することをこの授業の目的とします。 授業においては、初学者向けの比較政治学の教科書を指定します。この指定教科書の輪読と発表、それを踏まえてのレポート作成が基本的な流れになります。グループ単位での調査、および研究成果の発表も適宜課す予定です。一連の作業を通じて、国際問題に関する理解の基礎を習得するとともに、ディスカッション、プレゼンテーション、文献収集・調査など大学生に必須の基本的スキルを習得することを到達目標とします。 また、毎年海外実地研修（海外ゼミ）を計画していますが、参加は任意となります。卒業成果物（卒業論文・卒業制作）については提出を任意としますが、成果物を提出しない学生に対して、ゼミナール論文（ゼミ論文）の執筆を課します。なお、ゼミナール論文には卒業論文・卒業制作の単位を付与しません（詳細は授業内で説明予定）。		
2. 授業内容 第1回 インTRODクッション 第2回 国際問題の読み解き方①—比較政治学とは？ 第3回 国際問題の読み解き方②—国際関係論とは？ 第4回 国家について考える 第5回 民主化を考える 第6回 民主主義体制を持続させる要因は何か？ 第7回 権威主義体制はなぜ持続するのか？ 第8回 内戦はなぜ起きるのか？ 第9回 執政制度から政府の形態を考える 第10回 政党制度の重要性を知る 第11回 軍を政治学する 第12回 社会運動のパワーを考える 第13回 海外ゼミの研究構想を議論する 第14回 春学期のまとめと夏季休暇の課題説明		
3. 履修上の注意 受講生のグループワーク・発表・議論が授業の中心となるので、課題に関する調査・研究は十分に行うこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書の輪読・発表を受講生に貸すので、必ず指示された課題と準備を期日までに完了させること。 また、国際的な時事問題を多々議論するので、新聞・テレビ・インターネット・SNSなどで日常的に関連ニュースを調査してください。		
5. 教科書 久保慶一・末近浩太・高橋百合子『比較政治学の考え方』（有斐閣、2016年）その他、授業時に適宜資料紹介を行います。		
6. 参考書 特に指定しないが、授業時に適宜資料紹介を行います。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で課した課題については、採点・評価後にゼミ内で講評する。		
8. 成績評価の方法 発表や議論参加などゼミへの貢献度（70%）、レポート評価（30%）		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅡ		横田 貴之
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 比較政治学と国際関係論から世界を読む		
1. 授業の概要・到達目標 当ゼミナールでは、国際関係論・比較政治学・地域研究を学びます。研究対象は、国際関係、国際政治、国際／地域情勢、世界各国の政治経済などです。対象事例は、紛争やクーデタ、移民／難民問題、エネルギー資源問題、グローバル・テロリズム、民主化と独裁など国際政治に関連するものが中心となります。異文化文化や多文化共存など地域・文化に関するテーマを比較政治学の視点から研究することも可能です。なお、担当教員（私）の研究は、「ディシプリン（研究手法）が比較政治学＋研究地域が現代中東＝中東地域研究」です。 国際問題を理解する能力は、現代を生きる我々にとって不可欠の能力です。日本という殻に閉じこもってやり過ごせる時代は過ぎ去りました。では、国際問題について理解する力はどうやって修得すればいいのでしょうか？学生の皆さんが自分自身で、国際問題について「知り」、「考え」、「述べる」ことによってはじめて可能になります。当ゼミでは、受講生の調査・発表やアクティブラーニングなど能動的な学びを通じて、その知識を習得します。この学びを通じて、受講生が比較政治学の基礎知識を習得し、自らの関心に応じた研究課題設定に到達することをこの授業の目的とします。 授業においては、初学者向けの比較政治学の教科書を指定します。春学期（問題分析ゼミⅠ）に引き続き、この指定教科書の輪読と発表、それを踏まえてのレポート作成が基本的な流れになります。グループ単位での調査、および研究成果の発表も適宜課す予定です。一連の作業を通じて、国際問題に関する理解の基礎を習得するとともに、ディスカッション、プレゼンテーション、文献収集・調査など大学生に必須の基本的スキルを習得することを到達目標とします。 また、毎年海外実地研修（海外ゼミ）を計画していますが、参加は任意となります。卒業成果物（卒業論文・卒業制作）については提出を任意としますが、成果物を提出しない学生に対して、ゼミナール論文（ゼミ論文）の執筆を課します。なお、ゼミナール論文には卒業論文・卒業制作の単位を付与しません（詳細は授業内で説明予定）。		
2. 授業内容 第1回 インTRODクッション 第2回 夏季休暇の課題発表① 第3回 夏季休暇の課題発表② 第4回 民族集団について考える 第5回 民主化を考える 第6回 民主主義の質を分析する 第7回 新自由主義改革は何をもたらすのか？ 第8回 比較政治学の手法と着眼点の活用法 第9回 事例研究①—クーデタの比較政治学 第10回 事例研究②—民主主義の危機は続いているのか？ 第11回 学生のテーマ発表① 第12回 学生のテーマ発表② 第13回 学生のテーマ発表③ 第14回 問題分析ゼミのまとめと夏季休暇の課題説明		
3. 履修上の注意 受講生のグループワーク・発表・議論が授業の中心となるので、課題に関する調査・研究は十分に行うこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 教科書の輪読・発表を受講生に貸すので、必ず指示された課題と準備を期日までに完了させること。 また、国際的な時事問題を多々議論するので、新聞・テレビ・インターネット・SNSなどで日常的に関連ニュースを調査してください。		
5. 教科書 久保慶一・末近浩太・高橋百合子『比較政治学の考え方』（有斐閣、2016年）その他、授業時に適宜資料紹介を行います。		
6. 参考書 特に指定しないが、授業時に適宜資料紹介を行います。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業内で課した課題については、採点・評価後にゼミ内で講評する。		
8. 成績評価の方法 発表や議論参加などゼミへの貢献度（70%）、レポート評価（30%）		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅠ		横田 貴之
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 比較政治学と国際関係論から世界を読む		
1. 授業の概要・到達目標 当ゼミナールでは、国際関係論・比較政治学・地域研究を学びます。研究対象は、国際関係、国際政治、国際／地域情勢、世界各国の政治経済などです。対象事例は、紛争やクーデタ、移民／難民問題、エネルギー資源問題、グローバル・テロリズム、民主化と独裁など国際政治に関連するものが中心となります。異文化文化や多文化共存など地域・文化に関するテーマを比較政治学の視点から研究することも可能です。なお、担当教員（私）の研究は、「ディシプリン（研究手法）が比較政治学＋研究地域が現代中東＝中東地域研究」です。 国際問題を理解する能力は、現代を生きる我々にとって不可欠の能力です。日本という殻に閉じこもってやり過ごせる時代は過ぎ去りました。では、国際問題について理解する力はどうやって修得すればいいのでしょうか？学生の皆さんが自分自身で、国際問題について「知り」、「考え」、「述べる」ことによってはじめて可能になります。問題解決ゼミでは、3年次の問題分析ゼミを通じて獲得した比較政治学の研究手法を土台に、受講生が各自の関心に応じた研究テーマを明確にし、卒業成果作成に向けた学習を進めます。4年間の研究成果として卒業論文を執筆。提出することを到達目標とします。卒業成果物（卒業論文・卒業制作）については提出を任意としますが、成果物を提出しない学生に対して、ゼミナール論文（ゼミ論文）の執筆を課します。なお、ゼミナール論文には卒業論文・卒業制作の単位を付与しません（詳細は授業内で説明予定）。 授業においては、各受講生が問題分析ゼミナールにおいて設定した研究課題について、各受講生による調査・発表、受講生全員と教員による議論を中心に授業を進めます。必要に応じて、グループワーク、アクティブラーニング、外部有識者（例：研究者、メディア関係者、在京大使館員）による特別授業などを実施し、各々の研究課題に関する調査を支援します。また、毎年の海外実地研修（海外ゼミ）を計画していますが、参加は任意となります。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 受講生の研究構想発表と教員指導① 第3回 受講生の研究構想発表と教員指導② 第4回 卒業論文執筆の秘訣①—リサーチクエスションの立て方 第5回 卒業論文執筆の秘訣②—文献の重要性と先行研究レビュー 第6回 卒業論文執筆の秘訣③—したたかな論文構成 第7回 受講生の論文構想発表と教員指導① 第8回 受講生の論文構想発表と教員指導② 第9回 卒業論文の執筆計画の立て方 第10回 受講生の論文執筆計画構想発表と教員指導① 第11回 受講生の論文執筆計画構想発表と教員指導② 第12回 夏季休暇にすべき卒論作業の説明 第13回 海外ゼミの研究構想議論 第14回 春学期のまとめと夏季休暇の課題設定		
3. 履修上の注意 教員による卒論執筆の解説と受講生による研究発表が授業の中心となるので、課題に関する調査・研究は十分に行うこと。また、自分以外の履修生の発表に対して積極的に議論へ参加すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 時事問題を多々議論するので、新聞やテレビなどで日常的に国際情勢に関するニュースを調査してください。		
5. 教科書 受講生の発表が主体なので、特に指定しないが、授業時に適宜資料紹介を行います。		
6. 参考書 受講生の発表が主体なので、特に指定しないが、授業時に適宜資料紹介を行う。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ゼミ内で課した課題について、採点・評価後にゼミ授業内でフィードバックする。		
8. 成績評価の方法 ゼミでの発表（80%）、ゼミ内での議論に対する貢献度（20%）		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅡ		横田 貴之
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 比較政治学と国際関係論から世界を読む		
1. 授業の概要・到達目標 当ゼミナールでは、国際関係論・比較政治学・地域研究を学びます。研究対象は、国際関係、国際政治、国際／地域情勢、世界各国の政治経済などです。対象事例は、紛争やクーデタ、移民／難民問題、エネルギー資源問題、グローバル・テロリズム、民主化と独裁など国際政治に関連するものが中心となります。異文化文化や多文化共存など地域・文化に関するテーマを比較政治学の視点から研究することも可能です。なお、担当教員（私）の研究は、「ディシプリン（研究手法）が比較政治学＋研究地域が現代中東＝中東地域研究」です。 国際問題を理解する能力は、現代を生きる我々にとって不可欠の能力です。日本という殻に閉じこもってやり過ごせる時代は過ぎ去りました。では、国際問題について理解する力はどうやって修得すればいいのでしょうか？学生の皆さんが自分自身で、国際問題について「知り」、「考え」、「述べる」ことによってはじめて可能になります。問題解決ゼミでは、3年次の問題分析ゼミを通じて獲得した比較政治学の研究手法を土台に、受講生が各自の関心に応じた研究テーマを明確にし、卒業成果作成に向けた学習を進めます。4年間の研究成果として卒業論文を執筆。提出することを到達目標とします。卒業成果物（卒業論文・卒業制作）については提出を任意としますが、成果物を提出しない学生に対して、ゼミナール論文（ゼミ論文）の執筆を課します。なお、ゼミナール論文には卒業論文・卒業制作の単位を付与しません（詳細は授業内で説明予定）。 授業においては、各受講生が問題分析ゼミナールにおいて設定した研究課題について、各受講生による調査・発表、受講生全員と教員による議論を中心に授業を進めます。必要に応じて、グループワーク、アクティブラーニング、外部有識者（例：研究者、メディア関係者、在京大使館員）による特別授業などを実施し、各々の研究課題に関する調査を支援します。また、毎年の海外実地研修（海外ゼミ）を計画していますが、参加は任意となります。		
2. 授業内容 第1回 イントロダクション 第2回 受講生の夏季休暇の研究報告と教員指導① 第3回 受講生の夏季休暇の研究報告と教員指導② 第4回 受講生の論文途中経過発表と教員指導① 第5回 受講生による論文途中経過発表と教員指導② 第6回 卒業論文執筆の秘訣①—草稿執筆のポイント 第7回 受講生の論文草稿発表と教員指導① 第8回 受講生の論文草稿発表と教員指導② 第9回 卒業論文執筆の秘訣②—改稿のポイント 第10回 卒業論文執筆の秘訣③—最終原稿執筆のポイント 第11回 受講生の論文最終発表と教員指導① 第12回 受講生の論文最終発表と教員指導② 第13回 卒業論文最終確認 第14回 問題解決ゼミの総括		
3. 履修上の注意 教員による卒論執筆の解説と受講生による研究発表が授業の中心となるので、課題に関する調査・研究は十分に行うこと。また、自分以外の履修生の発表に対して積極的に議論へ参加すること。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 時事問題を多々議論するので、新聞やテレビなどで日常的に国際情勢に関するニュースを調査してください。		
5. 教科書 受講生の発表が主体なので、特に指定しないが、授業時に適宜資料紹介を行います。		
6. 参考書 受講生の発表が主体なので、特に指定しないが、授業時に適宜資料紹介を行う。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 ゼミ内で課した課題について、採点・評価後にゼミ授業内でフィードバックする。		
8. 成績評価の方法 ゼミでの発表（20%）、卒業成果またはゼミ論（80%）		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅠ		協本 竜太郎
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 社会心理学：数量的アプローチ		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】本ゼミでは、受講者自身が関心を持つトピックについて数量的研究を行い、卒業論文を執筆する。枠組みとなる理論やトピックを教員からいくつか紹介するが、量的研究が可能な限りにおいて、幅広いテーマの研究に取り組むことが可能である。 運営の基本方針として、受講者自身が研究者となり研究を行うリサーチライクアクティビティの形式をとる。3年次には文献の輪読やレジユメ発表を行いながら、取り組むテーマや問題意識を明確にしていくとともに、研究法や分析法についてレクチャーで学ぶ。 【到達目標】(1) 卒業研究で取り組むテーマについて基本的事項を理解できる、(2) 研究法の基礎を説明できる、(3) 基本的な統計解析を実行できる。		
2. 授業内容 第1回 春学期イントロダクション 第2回 文献輪読：自己 第3回 レクチャー：社会心理学の研究とは 第4回 文献輪読：自尊感情の理論 第5回 レクチャー：質的研究と量的研究 第6回 文献輪読：対人関係の理論 第7回 レクチャー：信頼性と妥当性 第8回 文献輪読：ファン心理とファン行動 第9回 レクチャー：尺度構成 第10回 文献輪読：身体性の問題 第11回 レクチャー：実験法 第12回 文献輪読：メディア行動 第13回 レクチャー：観察法 第14回 春学期の振り返りと総括		
3. 履修上の注意 文献輪読のテーマについては仮のものであり、受講生の興味関心に応じて変更することがある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 発表時は発表する文献のみならず、関連する文献も読んで質問に回答できるようにすること。		
5. 教科書 特になし。		
6. 参考書 授業内で適宜紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時間中に随時フィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 受講姿勢（25%）、ゼミ・研究への取り組み（25%）、プレゼンテーション（50%）		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅡ		協本 竜太郎
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 社会心理学：数量的アプローチ		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】本ゼミでは、受講者自身が関心を持つトピックについて数量的研究を行い、卒業論文を執筆する。枠組みとなる理論やトピックを教員からいくつか紹介するが、量的研究が可能な限りにおいて、幅広いテーマの研究に取り組むことが可能である。 運営の基本方針として、受講者自身が研究者となり研究を行うリサーチライクアクティビティの形式をとる。3年次には文献の輪読やレジユメ発表を行いながら、取り組むテーマや問題意識を明確にしていくとともに、研究法や分析法についてレクチャーで学ぶ。 【到達目標】(1) 卒業研究で取り組むテーマについて基本的事項を理解できる、(2) 研究法の基礎を説明できる、(3) 基本的な統計解析を実行できる。		
2. 授業内容 第1回 秋学期イントロダクション 第2回 文献輪読：公正世界理論 第3回 レクチャー：記述統計 第4回 文献輪読：システム正当化理論 第5回 レクチャー：ベイジアンモデリング 第6回 レビュー発表：これまでの発表内容の整理、関心事項絞り込みのための議論 第7回 レクチャー：分散分析 第8回 研究計画発表：研究計画の素案の提示、議論 第9回 レクチャー：重回帰分析 第10回 研究計画発表：研究計画の吟味 第11回 レクチャー：因子分析 第12回 研究計画発表：研究実施に向けた尺度等の検討 第13回 レクチャー：階層線形モデル 第14回 3年次の振り返りと総括		
3. 履修上の注意 文献輪読のテーマについては仮のものであり、受講生の興味関心に応じて変更することがある。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 発表時は発表する文献のみならず、関連する文献も読んで質問に回答できるようにすること。		
5. 教科書 特になし。		
6. 参考書 授業内で適宜紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時間中に随時フィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 受講姿勢（25%）、ゼミ・研究への取り組み（25%）、プレゼンテーション（50%）		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅠ		協本 竜太郎
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 社会心理学：数量的アプローチ		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】本ゼミでは、受講者自身が関心を持つトピックについて数量的研究を行い、卒業論文を執筆する。枠組みとなる理論やトピックを教員からいくつか紹介するが、量的研究が可能な限りにおいて、幅広いテーマの研究に取り組むことが可能である。 運営の基本方針として、受講者自身が研究者となり研究を行うリサーチャーライクアクティビティの形式をとる。4年次には3年次に吟味した計画をブラッシュアップしたうえで研究を実施し、その結果を卒業論文にまとめる。 【到達目標】(1) 人間行動を理解するための科学的な方法を実践できる、(2) 研究結果を論理的文章で説明できる、(3) 量的データを適切な方法で分析し考察できる。		
2. 授業内容 第1回 春学期イントロダクション 第2回 卒業研究計画の吟味：進捗の確認 第3回 卒業研究計画の吟味：文献レビューの再確認 第4回 卒業研究計画の吟味：情動的価値の検討 第5回 卒業研究計画の吟味：実践的価値の検討 第6回 卒業研究計画の吟味：統計モデリング 第7回 卒業研究計画の吟味：内的妥当性の検討 第8回 卒業研究計画の吟味：外的妥当性の検討 第9回 卒業研究計画の吟味：尺度の信頼性と妥当性 第10回 レクチャー：卒業論文の書き方 第11回 レクチャー：正しい引用の仕方 第12回 卒業研究計画の吟味：分析とデザインの対応 第13回 卒業研究計画の吟味：倫理的な問題の検討 第14回 卒業研究計画の吟味：実施計画の点検		
3. 履修上の注意 各回の授業内容は、受講生の進捗に応じて柔軟に変更する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 発表時は発表する文献のみならず、関連する文献も読んで質問に回答できるようにすること。		
5. 教科書 特になし。		
6. 参考書 授業内で適宜紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時間中に随時フィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 4年次：受講姿勢（20%）、ゼミ・研究への取り組み（20%）、卒業研究（60%）		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅡ		協本 竜太郎
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 社会心理学：数量的アプローチ		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】本ゼミでは、受講者自身が関心を持つトピックについて数量的研究を行い、卒業論文を執筆する。枠組みとなる理論やトピックを教員からいくつか紹介するが、量的研究が可能な限りにおいて、幅広いテーマの研究に取り組むことが可能である。 運営の基本方針として、受講者自身が研究者となり研究を行うリサーチャーライクアクティビティの形式をとる。4年次には3年次に吟味した計画をブラッシュアップしたうえで研究を実施し、その結果を卒業論文にまとめる。 【到達目標】(1) 人間行動を理解するための科学的な方法を実践できる、(2) 研究結果を論理的文章で説明できる、(3) 量的データを適切な方法で分析し考察できる。		
2. 授業内容 第1回 秋学期イントロダクションと進捗の確認 第2回 問題と目的の書き方の確認ならびにフィードバック 第3回 方法の書き方の確認ならびにフィードバック 第4回 レクチャー：データ入力と点検 第5回 レクチャー：Rによる分析1：記述統計 第6回 レクチャー：Rによる分析2：データのグラフィカル表現 第7回 レクチャー：Rstanによる分析 第8回 研究結果の報告の仕方 第9回 卒業論文中間発表 第10回 研究結果の解釈についての議論 第11回 卒業論文全体の点検、フィードバック 第12回 発表会スライドの作成 第13回 発表会スライドの確認・フィードバック 第14回 卒論発表会		
3. 履修上の注意 各回の授業内容は、受講生の進捗に応じて柔軟に変更する。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 発表時は発表する文献のみならず、関連する論文も読んで質問に回答できるようにすること。		
5. 教科書 特になし。		
6. 参考書 授業内で適宜紹介する。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 授業時間中に随時フィードバックを行う。		
8. 成績評価の方法 4年次：受講姿勢（20%）、ゼミ・研究への取り組み（20%）、卒業研究（60%）		
9. その他		

問題分析ゼミナールⅠ		和田 悟
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 東南アジアに目を向け課題の再発見から始める-情報技術とアジア		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 途上国・新興国への思い込みを捨て、現地の事情を肌で知ることから始めたい。「百聞は一見に如かず」とは頭で分かっている、そのズレがどんなものか、体験してこそわかることがある。私たちが、情報化に必然的に伴うグローバルな問題だと思こんでいたことが、実は、海外の事情と比べると日本の社会に特有なことかもしれない。「生成AI」など注目の人工知能利用の広がりのほか、これらの新しい技術の登場がどのような可能性を切り開くのか、デジタル化により強化される監視の強化など懸念される問題をどのように考えるかなどを国際比較しながら検討したい。海外事情については、公表されている様々な統計資料や文献や映像資料を題材にするほか、留学生らの話を聞いたり、交流したりしながら、それぞれの社会や、日本の社会をふり返り、起きている諸問題を考える機会になりうる。 【到達目標】 ゼミが東南アジアとの交流があることを活かし、日本と東南アジアの社会の現状について関心を深め、課題を発見し、日本との相違・日本からどのような提言が可能かなど、これから先に一歩すすめるための基礎を築きます。現地の人々との交流を通じて、公表されているデータの持つ意味やメディアで切り取られた様子と実際の様子との対比からメディアリテラシーを身につけることができます。		
2. 授業内容 第1回 インタロダクション、ゼミの進め方について、研究テーマについて 第2回 タイの大学生らとのオンライン交流 (1) 第3回 日本と東南アジアの情報化の現状と課題① 第4回 日本と東南アジアの情報化の現状と課題② 第5回 日本と東南アジアの情報化の現状と課題③ 第6回 文献講読① - 東南アジア・新興国、または、情報社会・情報技術に関する文献 第7回 文献講読② 第8回 文献講読③ 第9回 文献講読④ 第10回 文献講読⑤ 第11回 文献講読⑥ 第12回 タイの大学生らとのオンライン交流の準備 第13回 タイの大学生らとのオンライン交流 (2) 第14回 次の一歩に向けて		
3. 履修上の注意 タイをはじめとする東南アジアの学生が参加することを前提に授業を運営します。ゼミでの発言は「やさしい日本語」を心がけてください。また、タイやラオスに実際に行き現地事情を肌で感じることに意義を感じる学生に来てもらいたい。現時点では何も分からなくともかまいません。知っていると思っけていても実際には現地には大きな気づきがあるはずです。		
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 報告・講読などの担当者は、授業での議論の土台となる資料をきちんと用意すること。文献講読の際には取り扱う予定の箇所について担当以外の者も疑問点等をまとめておいてください。 その他、新聞・テレビなどのニュース報道を、タイ・ラオスを中心に新興国の事情に関心をもってついチェックしておいてください。		
5. 教科書 東南アジア事情や情報技術の現状や課題などに関して入手しやすい文献を授業のなかで決めてとりくみます。この他、メンバーの関心、準備状況に応じて選定します。		
6. 参考書 伊藤亜聖『デジタル化する新興国』2020年 中央公論新社 (中公新書) その他、各自の研究テーマに応じて指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 映像資料の視聴、オンライン交流のふり返りなどの機会にリアクションペーパーの提出を求めることがあるが、これらについては、翌週授業の中で取り上げる。 各自の研究テーマ・関心についても、発表の機会を設け、授業内でアドバイスを行う。		
8. 成績評価の方法 発表 (50%)、授業への参加・貢献の度合い (50%) 後者には、例えば、留学生との積極的な交流などの観点も含む。		
9. その他 履修者と相談の上、タイまたはラオスでの海外合宿を行うことを検討します。詳細は対面の個別説明会で尋ねてください。		

問題分析ゼミナールⅡ		和田 悟
2 単位	3 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 東南アジアに目を向け課題の再発見から始める-情報技術とアジア		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 途上国・新興国への思い込みを捨て、現地の事情を肌で知ることから始めたい。「百聞は一見に如かず」とは頭で分かっている、そのズレがどんなものか、体験してこそわかることがある。私たちが、情報化に必然的に伴うグローバルな問題だと思こんでいたことが、実は、海外の事情と比べると日本の社会に特有なことかもしれない。「生成AI」など注目の人工知能利用の広がりのほか、これらの新しい技術の登場がどのような可能性を切り開くのか、デジタル化により強化される監視の強化など懸念される問題をどのように考えるかなどを国際比較しながら検討したい。海外事情については、公表されている様々な統計資料や文献や映像資料を題材にするほか、留学生らの話を聞いたり、交流したりしながら、それぞれの社会や、日本の社会をふり返り、起きている諸問題を考える機会になりうる。 【到達目標】 ゼミが東南アジアとの交流があることを活かし、日本と東南アジアの社会の現状について関心を深め、春学期の課題発見に基づき検討を深める。現地の人々との交流を通じて、公表されているデータの持つ意味やメディアで切り取られた様子と実際の様子との対比など、データにもとづく比較分析が行えるようになる。		
2. 授業内容 第1回 合宿の振り返り①、または、先行研究についての報告① 第2回 合宿の振り返り②、または、先行研究についての報告② 第3回 合宿の振り返り③、または、先行研究についての報告③ 第4回 文献講読① 第5回 文献講読② 第6回 文献講読③ 第7回 文献講読④ 第8回 文献講読⑤ 第9回 文献講読⑥ 第10回 文献講読⑦ 第11回 発表① 第12回 発表② 第13回 発表③ 第14回 総括		
3. 履修上の注意 春学期のアドバイスに従い、各自の関心あるテーマについて基本的な文献を調べておきましょう。あるいは、夏休み中に関心が変わった学生は、その事柄についてできる限り文献などを調べておいてください。		
4. 準備学習 (予習・復習等) の内容 報告・講読などの担当者は、授業での議論の土台となる資料をきちんと用意すること。文献講読の際には取り扱う予定の箇所について担当以外の者も疑問点等をまとめておいてください。 その他、新聞・テレビなどのニュース報道を、タイ・ラオスを中心に新興国の事情に関心をもってついチェックしておいてください。		
5. 教科書 メンバーの関心、準備状況に応じて、授業の中で決めます。		
6. 参考書 各自の研究テーマに応じて指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 映像資料の視聴、短期留学生との交流のふり返りなどの機会にリアクションペーパーの提出を求めることがあるが、これらについては、翌週授業の中で取り上げる。 各自の研究テーマ・関心についても、発表の機会を設け、授業内でアドバイスを行う。		
8. 成績評価の方法 発表50%、授業への参加・貢献の度合い (50%) 後者には留学生との交流、留学生へのサポートの観点も含まれます。		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅠ		和田 悟
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 東南アジアに目を向け課題の再発見から始める-情報技術とアジア		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 情報技術を社会の様々な課題の解決にどう活かすかは、社会科学的な観点が必要であるし、その社会のニーズを的確把握するためのコミュニケーション能力が不可欠である。問題分析ゼミナールを通じて学んだ事柄を深め、各自の設定したテーマについて検討を深める。この際、海外の留学生との交流機会を積極的に活かし、価値観や考え方の相違について考える。 【到達目標】 各自の設定したテーマに基づき、各国事情に関する情報を的確に収集し、考察する力を養う。その際、適切な異文化理解に基づき、異なる背景を持つ人々とも一緒に課題に解決に取り組み、解決策の提言（プログラムの作成も含む）ができるようになることを目指す。そのための基本的な知識とコミュニケーション能力の習得を図る。		
2. 授業内容 第1回 インTRODクダクシヨ ン 研究テーマについて① 第2回 研究テーマについて② 第3回 共通テキストに基づくディスカッション① 第4回 共通テキストに基づくディスカッション② 第5回 共通テキストに基づくディスカッション③ 第6回 共通テキストに基づくディスカッション④ 第7回 共通テキストに基づくディスカッション⑤ 第8回 アセアンと日本との関係について概説 第9回 アセアンの学生との交流で学ぶ (1) アセアンと日本の関係 第10回 アセアンの学生との交流で学ぶ (2) タイ・ラオスと日本との関係 第11回 アセアンの学生との交流で学ぶ (3) 第12回 研究テーマ中間発表① 第13回 研究テーマ中間発表② 第14回 研究テーマ中間発表③		
3. 履修上の注意 就職活動の時期には柔軟に対応できる日程を考えるが、報告・連絡等は欠かさず行うこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 発表のサイクルにむけて、毎回の授業の説明を参考に発表の準備を進めてください。		
5. 教科書 メンバーの関心、準備状況に応じて、授業の中で決めます。		
6. 参考書 各自の研究テーマに応じて指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 映像資料の視聴、短期留学生との交流のふり返りなどの機会にリアクションペーパーの提出を求めることがあるが、これらについては、翌週授業の中で取り上げる。 各自の研究テーマ・関心についても、発表の機会を設け、授業内でアドバイスをを行う。		
8. 成績評価の方法 4年次は、授業への参加の度合い（50％）期末のレポート（50％）		
9. その他		

問題解決ゼミナールⅡ		和田 悟
2 単位	4 年次	科目ナンバー (IC)IND312J
◆ 研究テーマ 東南アジアに目を向け課題の再発見から始める-情報技術とアジア		
1. 授業の概要・到達目標 【授業の概要】 情報技術を社会の様々な課題の解決にどう活かすかは、社会科学的な観点が必要であるし、その社会のニーズを的確把握するためのコミュニケーション能力が不可欠である。問題分析ゼミナールを通じて学んだ事柄を深め、各自の設定したテーマについて検討を深める。この際、海外の留学生との交流機会を積極的に活かし、価値観や考え方の相違について考える。 【到達目標】 各自の設定したテーマに基づき、各国事情に関する情報を的確に収集し、考察する力を養う。その際、適切な異文化理解に基づき、異なる背景を持つ人々とも一緒に課題に解決に取り組み、解決策の提言（プログラムの作成も含む）ができるようになることを目指す。そのための基本的な知識とコミュニケーション能力の習得を図る。		
2. 授業内容 第1回 進捗報告 第2回 研究テーマ中間発表① 第3回 研究テーマ中間発表② 第4回 研究テーマ中間発表③ 第5回 共通テーマについて 第6回 共通テキストに基づくディスカッション① 第7回 共通テキストに基づくディスカッション② 第8回 共通テキストに基づくディスカッション③ 第9回 共通テキストに基づくディスカッション④ 第10回 共通テキストに基づくディスカッション⑤ 第11回 研究テーマ最終発表① 第12回 研究テーマ最終発表② 第13回 研究テーマ最終発表③ 第14回 総括		
3. 履修上の注意 就職活動の時期には柔軟に対応できる日程を考えるが、報告・連絡等は欠かさず行うこと。		
4. 準備学習（予習・復習等）の内容 発表のサイクルにむけて、毎回の授業の説明を参考に発表の準備を進めてください。		
5. 教科書 メンバーの関心、準備状況に応じて、授業の中で決めます。		
6. 参考書 各自の研究テーマに応じて指示します。		
7. 課題に対するフィードバックの方法 映像資料の視聴、短期留学生との交流のふり返りなどの機会にリアクションペーパーの提出を求めることがあるが、これらについては、翌週授業の中で取り上げる。 各自の研究テーマ・関心についても、発表の機会を設け、授業内でアドバイスをを行う。		
8. 成績評価の方法 4年次は、授業への参加の度合い（50％）期末のレポート（50％）		
9. その他		

「卒業論文・卒業制作に求めること」 (学部版)

【卒業論文とは】

卒業論文とは、本学部の学問・研究の集大成といえる。それは、テーマ設定、先行研究整理、データ収集・分析、そして論理的な文章執筆などを必須とする、総合的な知の結集体となる。また、研究論文である以上、オリジナリティーが認められなければならない。

卒業論文という成果に対して単位が付与されるわけであり、ゼミでの練磨が求められる。本学部は、学際的かつ多様な専門分野から成り立っているが、体系化された学問にはそれぞれ独自の метод論がある。卒論を執筆するには、それぞれの分野の метод論を理解し、指導教員からのアドバイスをふまえ、そこから、独自に調査・研究に取り組まなければならない。

【卒業制作とは】

卒業制作とは、「卒業論文」と同様、本学部における研究の集大成である。ただし、卒業論文が主に文字によって成果をまとめるのに対し、卒業制作は多様な方法で成果を創造・表現することが求められる。

卒業制作においては、下記のいずれかの成果物の提出によって単位が付与される。成果物の具体的な作成方法や要件について、指導教員のアドバイスを受けて取り組むこと。

- ① 「プロジェクト研究成果物」：自ら設定したテーマについて、発案・準備・実行・評価の一連の流れを実施し、そのプロセスと成果をまとめた報告書や動画など。
- ② 「作品・制作物」：自ら設定したテーマについて研究した成果を、言葉だけによらず音・身体・映像などのメディアを用いて創造・表現した作品あるいは制作物。

◆卒業論文・卒業制作 共通の必須事項

- ① 「卒業論文・卒業制作の単位付与基準（ゼミナール別）」を熟読し、成果物（卒業論文・卒業制作）を執筆・作成すること。
- ② 卒業論文・卒業制作の作成に際して、指導教員からアドバイスを受け「卒業論文・卒業制作指導記録表」に記載すること。この「記録表」を成果物とともに提出しなければならない。

◆卒業論文・卒業制作 共通の注意事項

「剽窃」行為は、厳重注意の上、不合格となる。指導教員の指示に従い、出典を所定の方法で明示すること。

以上は、卒業研究を行うルールと心構えである。研究とは楽しいものであるということ、卒業論文・卒業制作を完成させるという知的行為の過程で体現してもらいたい。

ゼミナール名	成果物（卒業論文・卒業制作）の単位付与基準	成果物（卒業論文・卒業制作）の提出
今村哲也 ゼミナール	<p>このゼミでは、卒業研究（【卒業論文】または【卒業制作】）について単位を付与する。原則として単著のみ認めるが、卒業制作については、例外を認める場合があるので、注意事項を参照すること。</p> <p>【卒業論文】 書式： ・ 字数は1万5千字から1万8千字（図表・引用文献リストを含む）。 ・ 詳細はOh-ol Meijiの資料にあげる執筆要領にしたがうこと 要件： ① 本学部の学修の集大成として相応しい研究課題であること ② 研究課題に対して、体系的・論理的に検討を行い、結論を述べていること ③ 先行研究に関する調査を踏まえたものであること ④ 分析に基づく何らかの主張やメッセージ性があること ⑤ 注の形式や引用文献リストなど論文の体裁が整っていること</p> <p>【卒業制作】 書式： ・ プロジェクト成果物の場合、報告書を8千字程度（図表・引用文献リストを除く）で作成して提出すること。 ・ 作品・制作物の場合、それ自体を保存して提出するとともに、内容を説明するのに必要十分な添付文書を作成すること。 ・ 詳細はOh-ol Meijiの資料にあげる執筆要領にしたがうこと 要件： ① 本学部の学修の集大成として相応しい研究テーマであること ② テーマに沿って制作され、表現行為がされていること ③ 類似の成果物を調査し、その成果を踏まえたものであること ④ 既存の成果物とは異なる何らかの主張やメッセージ性があること ⑤ 報告書、添付文書については、注の形式や引用文献リストなど、文書としての体裁が整っていること。</p> <p>注意事項： (1) 卒業研究のうち、【卒業論文】は単著のみ認める（共同執筆論文は、卒業研究としては認めない）。例外として、【卒業制作】に限り、一連のプロジェクトの「全部」について、他者と共同する意思の下、実際に共同して作業をしたとみなすことができる場合、「共同制作」の卒業研究として認める。ただし、事前に相談の上、ゼミ指導教員が、共同で行うことの必要性和許容性を判断した上で、承認することを条件とする。「共同制作」の場合、最終的には各自、同一の内容の成果物を、各人がそれぞれ提出しなければならない。その際、共同制作者の氏名と各人の担当した作業上の役割および執筆における分担内容を報告書または添付文書に明記すること。 (2) 単なる「研究協力」として、卒業研究に関する作業の「一部」（例えばデータの収集、分析）を他者と共同で行うことも認めるが、研究協力者の氏名および研究協力を行った作業内容を卒業論文内に明記すること。単なる研究協力の場合、卒業研究は主たる作業を行った者の単著の扱いとする。</p>	必須
江下雅之 ゼミナール	<p>当ゼミナールでは、リサーチ結果をとりまとめた単著の研究調査報告書を卒業制作として単位付与の対象とする。卒業制作に取り組むかどうかは受講者の任意の判断による。選択しない場合、あるいは途中で放棄する場合であっても、問題解決ゼミナールの単位付与および成績評価に影響しない。</p> <p>書式 ・ 8,000字以上（写真・図表・文献リストを除く） ・ 詳細はOh-ol Meijiの資料にあげた執筆要項に従うこと。 要件 ・ 論文形式に限らず市場の分析や予測など、十分な現状分析を踏まえた上で合理的な考察を実施していること。 ・ 統計データ、官公庁の報告書、新聞記事等の公開情報を十分に調べた上で現状分析を詳細に行うこと。 ・ 結論の独創性は求めないが、自分自身のリサーチを通じた独自のデータを作成すること。</p> <p>注意事項 ・ 3年次の問題分析ゼミナールIIのリサーチ演習を通じて卒業制作の内容およびスケジュール等を説明する。</p>	任意
小田光康 ゼミナール	<p>このゼミでは海外大学のジャーナリズム・メディア教育研究に関する卒業論文に対して単位を付与する。 「卒業論文」の書式及び要件 書式：1万2千字から2万字（図表・注・文献リストを含む）。詳細はゼミ中に指導する。 要件：研究テーマに関する新規性、網羅性、論理性を兼ね備えた学術論文であること。</p>	必須

ゼミナール名	成果物（卒業論文・卒業制作）の単位付与基準	成果物（卒業論文・卒業制作）の提出
川島高峰ゼミナール	<p>川島ゼミナールでは、「卒業論文」もしくは「卒業制作」を希望する学生に対して、以下の基準を満たしたもののについては、単位を付与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 取り扱うテーマは3年次のゼミの主題「日本国家論もしくは日本社会論、日本人論」、あるいは、これと関連するか、ここから学際的に発展した主題。政治系の主題だから政治系でなければならない、ということでは全くない（政治主義のゼミではない）。 2. 次の二つの目的の双方、もしくは片方を明確化・明文化していること。双方が望ましい。 <ol style="list-style-type: none"> A) 日本や人間社会の発展への寄与。 B) 自己の形成に意義ある表現行為で、必ずしも社会との関わりが明確化されてなくても、その未来への発展に寄与するか、その本質を捉えようとしている。 3. 「卒業論文」の書式および要件は、情コミ・ジャーナルで規定された書式及び要件に従うものとする。なお、文字数は「和文の場合本文18,000字以内、英文の場合本文10,000ワード以内」と規定されている。 4. 「卒業制作」とは、論文という形式には拠らない他の表現媒体による研究報告のことである。 5. 「映像」の場合、情コミ・ジャーナルで規定された「作成の手引き」に従うこと。 6. 「卒業制作」は次の内容を記した「取組解説書」（8000文字以上、写真・図表等は文字数に含めません）を添付しなければならない。 <ol style="list-style-type: none"> A) 表現媒体の説明 なぜ「論文」ではない表現媒体が必要なのか、その理由とその媒体についての説明。 B) 表現内容の説明 コンテンツ内容のテキスト化である。 C) 制作過程の説明 時系列的に制作の過程と活動を説明し、協力・支援を頂いた人・機関・施設等について明記すること。 7. 「卒業論文」、「卒業制作」の双方はともに次の要件を満たしていること <ol style="list-style-type: none"> A) 先行研究・事例を調べ、今日に至る経緯の概観と代表例について明記すること。 B) 制作物の解説 制作の動機・目的・意図・意義など。どのような問題意識を、何故、誰に対して表現したのか。自分にとってどのような意味を持つのか。 C) 集団による取組を、共著とする場合、参加者の分担と主たる取組者を明確化した説明を明記すること。 D) 集団による取組を、単著とする場合、全参加者の合意を得ること。また成果物の内容は、集団による取組そのものを説明する部分とそれ以外の部分に分けられ、分量的に前者が全体の1/5以下の概説に止め、後者の部分は、これに対する自身の独自の解説や見解と集団による取組主題に端を発したより学際的な、あるいは関連する分野の内容であること。また、集団による取組の参加者全員の氏名を、その説明で明記すること。 	任意
清原聖子ゼミナール	<p>当ゼミナールでは、大学院進学希望者などには個人研究として卒業論文に取り組むことを推奨する。卒業論文に対する単位付与を希望する場合には、下記の分量、書式、要件をすべて満たした現代アメリカ政治に関する卒業論文を提出する必要がある。以下がその基準である。</p> <p>分量は20,000字程度（図表・注・文献リストを含む） 書式、詳細は アメリカ学会のHPに掲載されている学会誌『アメリカ研究』の執筆要項に準じること。</p> <p>要件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人研究であること。・現代アメリカ政治に関する先行研究を十分にリサーチしていること。 ・資料として、英文資料を少なくとも1本取り入れること。 ・研究目的・研究の意義が明確であること。 ・RQが示され、論理的に妥当性のある理論展開がなされていること。 ・少なくとも3回担当教員に進捗状況を報告した上で、最終研究発表会で発表し、担当教員以外の参加者からもフィードバックを得ること。そのフィードバックが反映された完成論文を提出すること。 	任意
高馬京子ゼミナール	<p>当ゼミナールでは、単著による論文に対して単位を付与する。</p> <p>取り扱うテーマは（デジタル・マス）メディアにおけるファッションとジェンダー表象にかかわるものとする。基本的には言説分析、カルチュラルスタディーズ、記号論、ジェンダー論の視点から論じられているファッションスタディーズの研究に依拠し分析を行う。</p> <p>「卒論」の書式および要件 執筆は一人もしくはグループで行う。</p> <p>書式・12,000～20,000字程度（図表・注・文献リストを含む） ・詳細は Oh-ol Meiji の資料にあげる予定の「論文執筆要項（高馬ゼミ）」に従うこと。</p> <p>要件・先行研究を十分にリサーチしていること。 ・論理的に妥当性のある理論展開がなされていること。 ・ゼミ応募の際に卒論執筆を「単著」か「グループ執筆」を目指すかを明記すること。</p>	任意

ゼミナール名	成果物（卒業論文・卒業制作）の単位付与基準	成果物（卒業論文・卒業制作）の提出
後藤晶 ゼミナール	<p>当ゼミナールでは、原則として単著による論文に対して単位を付与する。 ただし、場合によっては共著による論文執筆や卒業制作も認めるので、教員と相談すること。 取り扱うテーマは行動経済学に関わるものであり、調査・実験にもとづく定量的な研究を行うことが望ましいが、必ずしも定量的な研究に制限するものではない。</p> <p>「卒業論文」の書式および要件 書式 ・12,000～20,000字程度（図表・注・文献リストを含む） 要件 ・先行研究（論文）を十分に調査すること。 ・文章が正しく書かれており、論理的に妥当性を持った内容であること。 ・自身の問題意識に対して、十分に答えられたと考えられる論文を書き上げること。</p> <p>注意事項 ・卒業論文は「他者に読まれる」という事実を前提として執筆しましょう。 ・自身の研究が、社会や学問に対してどのように貢献するのか意識しながら論文を執筆しましょう。 ・4年次春学期末には卒業論文のアウトラインの提出を求めるので、少しずつ着実に研究を進めましょう。 ・なお、成果物の提出は「任意」としているが、基本的には提出することが前提です。</p>	任意
小林秀行 ゼミナール	<p>当ゼミナールは履修者全員に対して単著論文の執筆を課しているが、これを成果物（卒業論文・卒業制作）とし、単位付与を希望するものについては下記をその条件とする。なお、取り扱う領域は「災害社会学」を基本とし、関連領域についても指導教員との相談の上で認めることがある。</p> <p>成果物提出の前提となる課題（履修者共通） ① 各学期において規定回数以上の中間報告の実施。 ② 3年生秋学期課題の「研究計画書」および4年生春学期課題の「要旨・目次の仮組み」の提出。</p> <p>成果物の書式（履修者共通） ① A4・横書き・20,000字程度（図表等を含む）とする。 ② MS明朝10ptを基本フォントとする。 ③ その他の詳細は、講義内で示す執筆要領に準拠する。</p> <p>成果物の要件（単位付与を希望するもの） ① 参考文献として少なくとも専門書20点以上が挙げられていること。 ② 表題・キーワード・要旨・本文に示される主題が一致し、全体を通して論旨が首尾一貫していること。 ③ 自らの設定した仮説に対して、結論が明確に取りまとめられていること</p>	任意
清水晶紀 ゼミナール	<p>当ゼミナールでは、以下の書式・要件を充足する単著論文に対して単位を付与する。なお、「環境」「災害」「地域」「行政」「法」のいずれかに関係していれば、どのような研究テーマを選んでも構わない。</p> <p>【書式】 ・15,000～20,000字程度。 ・文献の引用方法については、法律編集者懇話会「法律文献等の出典の表示方法」に拠ること。 ・その他に関する書式の詳細については、ゼミナール内で案内する。</p> <p>【要件】 ・先行研究を十分に調査していること。 ・論理展開が合理的であること。 ・なんらかの新規性、独自性を有していること。</p>	任意
鈴木健 ゼミナール	<p>本ゼミナールでは、単著による卒業論文に対して単位を付与する。卒業論文を提出するか、ゼミ論文にするかは、各参加者の任意とする。なお、取り扱うテーマは、コミュニケーション批評であること。具体的には、メディア批評、カルチュラル・スタディーズ、社会批評の3分野の中から選択すること。</p> <p>「卒論」の書式と要件 ・12,000～18,000字程度（図表・注・文献リストを含む） ・詳細はOh-o! Meijiの資料にあげる予定の「論文執筆要項（鈴木健ゼミ）」に従うこと。 ・先行研究を十分に踏まえていること。 ・妥当性のある批判的研究方法が当てはめられていること。 ・独創的なもの、あるいは自分なりの見解を示すよう努めることが求められる。</p>	任意

ゼミナール名	成果物（卒業論文・卒業制作）の単位付与基準	成果物（卒業論文・卒業制作）の提出
鈴木健人ゼミナール	<p>本ゼミナールでは、単著による卒業論文に対して単位を付与する。卒業論文を提出するか、従来通りのゼミ論文にするかは、参加者の任意とする。なお、取り扱うテーマは、広い意味で国際社会に関するものであれば良い。政治学的なアプローチ、社会学的、経済学的、文化論的アプローチでも構わない。また学際的で総合的なアプローチも歓迎する。</p> <p>「卒論」の書式および要件 書式 ・12,000～20,000字程度（図表・注・文献リストを含む） ・詳細はOh-ol Meijiの資料にあげる予定の「論文執筆要項（鈴木健人ゼミ）」に従うこと。</p> <p>要件 ・先行研究を十分にリサーチしていること。 ・論理的に妥当性のある理論展開がなされていること。 ・学生として可能な限り独創的なものを書くように心がけること。独創的な論文を書くことが難しい場合には、最低限自分なりの見解を論理的に示すこと。</p>	任意
鈴木雅博ゼミナール	<p>本ゼミナールでは、単著による論文に対して単位を付与する。なお、研究テーマは「教育」に関するものとする。</p> <p>卒業論文の書式および要件 【書式】 ・12,000～20,000字程度 【要件】 ・研究目的が明確であり、妥当な結論が明示されている。 ・先行研究を十分に参照し、引用部分の明記が正確である。 ・新規性・独自性を有している。</p>	任意
須田努ゼミナール	<p>須田ゼミでは、単著による論文に対して2単位を付与する。なお、取り扱うテーマは、16世紀から20世紀の日本を対象として、 歴史学の方法論に依拠したものであるならば、自由である。</p> <p>卒業論文の要件 別添「卒業論文・卒業制作に求めること」（学部版）の基準に従うこと。</p> <p>卒論の書式 12,000から20,000字程度（図表・注・文献リストを含む）。 詳細は、Oh-ol Meijiの資料にあげた、「論文執筆要項（須田ゼミ）」に従うこと。</p>	必須
関口裕昭ゼミナール	<p>当ゼミナールでは、単著による卒業論文に対して単位を付与する。扱うテーマは、文学、美術、音楽、演劇、歴史、哲学、映画、漫画など、広く人文科学の諸分野とする。上記のテーマに入るかどうか、微妙な場合は、早めに担当教員と相談すること。なお、文学作品（小説、戯曲、詩など）の創作も認める場合があるは、その場合も早めにその旨申し出ること。</p> <p>「卒論」の書式及び要件 書式 ・12000字以上（必須）、20000字以内を目安とする。上限は特に設けないが、どんなに長くても40000字以内とする。図・表・注などもこれに含める。 ・詳細は、Oh-ol Meijiのクラスウェブに掲げた「論文執筆要領」を参照のこと。</p> <p>要件 ・原稿用紙の書式などを守る。簡条書きは認めない。ネットやメールで氾濫している誤った書き方をまねしないこと。段落ごとに、1字下げなど基本的な書式を遵守すること。詳細は「論文執筆要領」を参照。 ・当然のことであるが、コピーや無断引用を禁じる。先行研究を十分踏まえたうえで、参考にした文献名は注に明記すること。</p>	必須
大黒岳彦ゼミナール	<p>本ゼミナールでは、二年間の学習の成果として卒業研究（卒業論文）の制作を原則として課し、ゼミナールの単位以外に二単位を付与する。単位付与の条件は以下を参照。</p> <p>書式 ・20000字以上（註を含み、図表や文献表は覗く）。 ・詳細は授業中に指示する。</p>	必須
高橋華生子ゼミナール	<p>本ゼミナールのテーマに関連する内容で執筆された単著の卒業論文に対して、所定の単位を付与する。</p> <p>論文の字数は、図表および注を含めて12,000字から20,000字程度を目安とし、文献リストは字数に含めない。書式に関しては、ゼミ専用配布する「論文執筆の手ほどき」に基づき、授業内で詳細に説明する。</p> <p>英語での執筆も受け付けるが、その場合は事前に必ず相談すること。なお、論文としての体裁が整っていないものについては、評価の対象としない。</p>	任意

ゼミナール名	成果物（卒業論文・卒業制作）の単位付与基準	成果物（卒業論文・卒業制作）の提出
竹中克久ゼミナール	<p>当ゼミナールでは、単著による論文に対して単位を付与する。なお、取り扱うテーマは組織や社会にかかわるものとする。基本的には社会学を中心としたアプローチから説明を試みること。</p> <p>「卒論」の書式および要件</p> <p>書式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12,000～20,000字程度（図表・注・文献リストを含む） ・詳細はOh-ol Meijiの資料にupされる「論文執筆要項（竹中ゼミ）」に従うこと。 <p>要件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先行研究を十分にリサーチしていること。 ・論理的に妥当性のある理論展開がなされていること。 ・過度な独創性は求めないが、自分なりの見解を示していること。 <p>（指導教員にとっては、大学生に卒論は必須であるべきだと考えている。もちろん、執筆に対する指導も行う。しかし、やむを得ず途中で脱落する場合、それをもってゼミナールから排除するものではない。）</p>	必須
田中洋美ゼミナール	<p>当ゼミナールのテーマに関するリサーチに基づく研究論文（単著）に対して「卒業論文」として単位を付与する。</p> <p>書式：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図表、注、文献リストを含め、12,000字～20,000字程度 ・日本社会学会『社会学評論スタイルガイド』（https://jss-sociology.org/bulletin/guide/）を参照のこと。 <p>要件：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先行研究のレビューが十分行われており、問題設定が明確であること。 ・適切な分析枠組み・方法を用いて、論理的に妥当な議論が展開されていること。 ・論文として体裁が整っていること（引用方法、書誌情報などの表記方法。詳細は上記スタイルガイド参照）。 	必須
内藤まりこゼミナール	<p>当ゼミナールでは、単著による卒業論文に対して単位を付与する。なお、卒業論文とは自らが選んだ言語表現に関して、ゼミで学習した批評理論を用いて分析を行い、結論及び結論を踏まえた考察を記した論述文を意味する。</p> <p>書式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・40,000字以上（図表・注・文献リストを含む） ・WordもしくはPDFファイル <p>要件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生が書いた卒業論文集を读了していること。 ・先行研究を十分に精査していること。 ・研究対象に対して十分な分析がなされていること。 ・ゼミの2年間で学習した批評理論を用いて分析が行われていること。 ・論理的に妥当性のある理論展開がなされていること。 ・結論に基づく考察が示されていること。 ・引用や書誌情報の表記の仕方に誤りが無いこと。 	必須
中川雄大ゼミナール	<p>当ゼミナールでは、都市や空間に関する社会現象を分析した卒業論文を単位付与の対象とする。</p> <p>書式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・30,000字以上（文献リストを含む） ・書式については、基本的に社会学評論スタイルガイドに倣うこととする。詳細については、授業等で周知する。 <p>要件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論文が問い（問題意識）、先行研究のレビュー、研究対象の絞り込み、分析枠組の構築、仮説の設定、実証分析、結論等の要素から構成されていること。 ・理論研究、フィールドワーク、歴史分析などの手法は問わないが、自身の調査にもとづいたオリジナルな分析がなされていること。 	必須
中里裕美ゼミナール	<p>当ゼミナールでは、単著による論文に対して単位を付与する。なお、取り扱うテーマは社会ネットワークに関することを中心に、広く社会的事象に関わるものとする。</p> <p>書式：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10,000～18,000文字程度（図表・注・参考文献リスト等を含む） ・詳細は、Oh-ol Meijiの資料にあげる予定の「論文執筆要項（中里ゼミ）」に従うこと。 <p>要件：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究目的・研究意義が明確であること。 ・先行研究を十分に参照し、参考文献・引用文献の記述が適切であること。 ・文献資料や社会調査データ（量的・質的を問わない）を適切に分析し、そこから得られた知見を自らの言葉でまとめたものであること。 	必須
根橋玲子ゼミナール	<p>本ゼミナールでは、単著による論文に対して単位を付与する。研究テーマは、多文化共生や異文化間コミュニケーションなどゼミで学んでいる内容に関連するものとする。書式はAPAとする。字数は英語・日本語ともにA4で20枚程度（英語約10,000語、日本語約20,000字；アブストラクト、図、表、引用文献など全てを含む）。詳細は、Oh-ol Meijiの資料にあげた「論文執筆要領（根橋ゼミ）」に従うこと。</p>	任意

ゼミナール名	成果物（卒業論文・卒業制作）の単位付与基準	成果物（卒業論文・卒業制作）の提出
波照間永子 ゼミナール	<p>当ゼミナールでは、理論と実践の両面から、「現代社会における芸術（アート）の課題」について研究することを目的とする。問題分析ゼミ（3年次）では、個人研究の方法を学び、作品を制作・公開する。問題解決ゼミ（4年次）では個人研究を踏まえ、A「卒業論文」もしくは、B「作品」と「卒業制作試論」のいずれかを選択し、卒業研究を完成させる。要約すると以下の（1）～（3）を実施することが単位付与の要件である。なお、A「卒業論文」を選択した者でも、希望すれば「作品」を制作することは可能である。</p> <p>(1) 3年次：個人研究および「作品」制作と公開 (2) 3年次：上記（1）の活動報告書の作成・提出（共同執筆） (3) 4年次：卒業研究 A /Bいずれかを選択 A 卒業論文 B 卒業制作（「作品」と「卒業制作試論」）</p> <p>卒業研究の書式 A 卒業論文 8,000字～12,000字 B 卒業制作「卒業制作試論」 6,000字程度</p> <p>・「作品」の提出方法を含む書式等の詳細は、Oh-ol Meiji の資料にあげる執筆要項に従うこと。 ・先行研究および先行作品を整理し、方法論を明確に示しつつ自身の論文/作品の特性を記すこと。</p> <p>(補説) 制作試論とは ・「作品」を客観的に振り返り、核となる素材・構成・アイデアを言語化する。 ・「作品」を創造する際に遭遇した問題に向き合い、それを解決したプロセスを記録する。</p>	
日置貴之 ゼミナール	<p>当ゼミナールでは、芸術・文化を分析対象とした、単著による卒業論文（批評的性格の強いものも認める）に対して単位を与える。</p> <p>【要件】 ・分量は15,000字以上。図表・文献一覧等を除く（注は含む）。 ・適切な問題設定を行なった上で、先行研究を適宜参照しながら、自身の考えを論理的・客観的に示すことができていること。 ・継続的に教員からの指導を受け、またゼミナールにおいて他の受講者との意見交換・議論等をおこなった上で論文を執筆すること。</p> <p>【注意事項】 ・書式や提出日程等の詳細については、執筆要領を配布するので、参照すること。</p>	必須
増野亜子 ゼミナール	<p>当ゼミナールでは、(a) 自身の研究結果をとりまとめた単著の論文（卒業論文）、または (b) 創作作品（卒業制作）及び自身の研究と作品の関係、制作過程、制作手法についてまとめた卒業制作報告書のいずれかの成果物の提出に対し、単位付与の対象とする。</p> <p>基本的にすべてのゼミ生は卒業論文・卒業制作のいずれかの完成を目指して研究に取り組むことを前提に授業を実施するが、最終的に成果物を提出しない場合も、問題解決ゼミナールの単位付与および成績評価には影響しない。</p> <p>書式 a) 卒業論文 12,000～20,000字（写真・図表・文献リスト・脚注を含める） b) 卒業制作 創作作品（動画または音源で提出）及び8,000字の卒業制作報告書</p> <p>要件 ・abともに学生自身の調査研究に基づく単著の成果物であること。 ・授業時間中の中間報告やレビュー等のプロセスを経て作成されていること。成果物のみ提出は単位として認めない。 ・論文・報告書ともに論理的に展開しており、明晰な文章で書かれていること。 ・先行研究を十分かつ適切に参照していること。 ・提出書式や体裁については別途指示する</p>	任意

ゼミナール名	成果物（卒業論文・卒業制作）の単位付与基準	成果物（卒業論文・卒業制作）の提出
宮本真也 ゼミナール	<p>当ゼミナールでは、個人が執筆した論文に対して単位を付与する。内容については、社会、コミュニティにおける問題を、社会理論的な観点から検討し、問題の解決を示すようなものが望ましい。社会学、社会哲学を中心とした人文・社会科学の理論に基づいたパースペクティブからの研究を期待する。</p> <p>書式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12000から20000字程度（注と参考文献リストを含む） ・理想的には日本社会学会の『社会学評論スタイルガイド』（https://jss-sociology.org/bulletin/guide/）にしたがうこと。 <p>要件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先行研究の十分かつ適切な把握。 ・事象、事例についての客観的観察と理解。 ・事象、事例を適切な概念を用いて説明し、一般化できているかどうか。 ・筆者にオリジナルななんらかの解決や答えの方向性を示せているかどうか。 ・卒業論文を執筆しない場合でも、ゼミへの参加は当然ながら認められる。その場合は8000字程度の「卒業レポート」を4年の終了時まで完成し、提出することを目標とする。 ・卒業論文、卒業レポートのいずれを執筆するにしても、不正を疑われてないように注意すること。詳細については、ゼミ内で指導する。 	任意
山内勇 ゼミナール	<p>書式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・15,000字～20,000字程度 ・図表を含めてA4で20枚程度 <p>要件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単独で執筆された論文であること。 ・先行研究に基づき、オリジナルの仮説を設定していること。 ・データを用いて仮説を検証していること。 ・分析の枠組み・方法が適切であること。 ・論証が適切であること。 ・指導教員のコメントに対応し、分析内容が指導教員の求める水準に達していること。 <p>注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文の執筆は指導教員とよく相談して進めること。 ・基本的には、指導教員のコメントにきちんと対応していれば、求める水準には達するはずである。 ・求める水準に関する具体的なイメージについては、過去の卒業論文等を提示することでイメージの共有を図る。 	任意
横田貴之 ゼミナール	<p>このゼミナールでは、次の要件を満たす卒業論文（卒論）に対して単位を付与する。履修者の研究は、国際関係論、比較政治学、地域研究が中心となるが、紛争やクーデタ、移民／難民問題、エネルギー資源問題、グローバル・テロリズムなど国際問題に関するテーマを研究することも可能である。</p> <p>「卒業論文」について</p> <p>書式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・字数は12,000～18,000字（注、参考文献、図表なども含む）。 ・原則として、「日本中東学会年報」原稿執筆要領に準拠する。 <p>要件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先行研究批判を十分に行った上で、論文の目的・意義を明確に示すこと。 ・当ゼミナールでの研究成果が十分に反映されていること。 <p>注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・このゼミナールでは、成果物（卒業論文・卒業制作）を提出しない学生に対して、ゼミナール論文（ゼミ論文）の執筆を課す。なお、ゼミナール論文には卒業論文・卒業制作の単位を付与しない。詳細は授業内で説明する。 	任意
脇本竜太郎 ゼミナール	<p>本ゼミナールでは、実験もしくは量的調査を用いた社会心理学の研究論文に対して、単位を付与する。なお、単位付与の対象となる論文は、以下の要件を全て満たしている必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8000字以上（図表、引用文献リストを除く）。 ・書式が日本心理学会の『執筆・投稿の手びき』に従っている。 ・先行研究を十分にレビューし、適切に引用している。 ・仮説、検証方法と議論が論理的に一貫している。 	必須